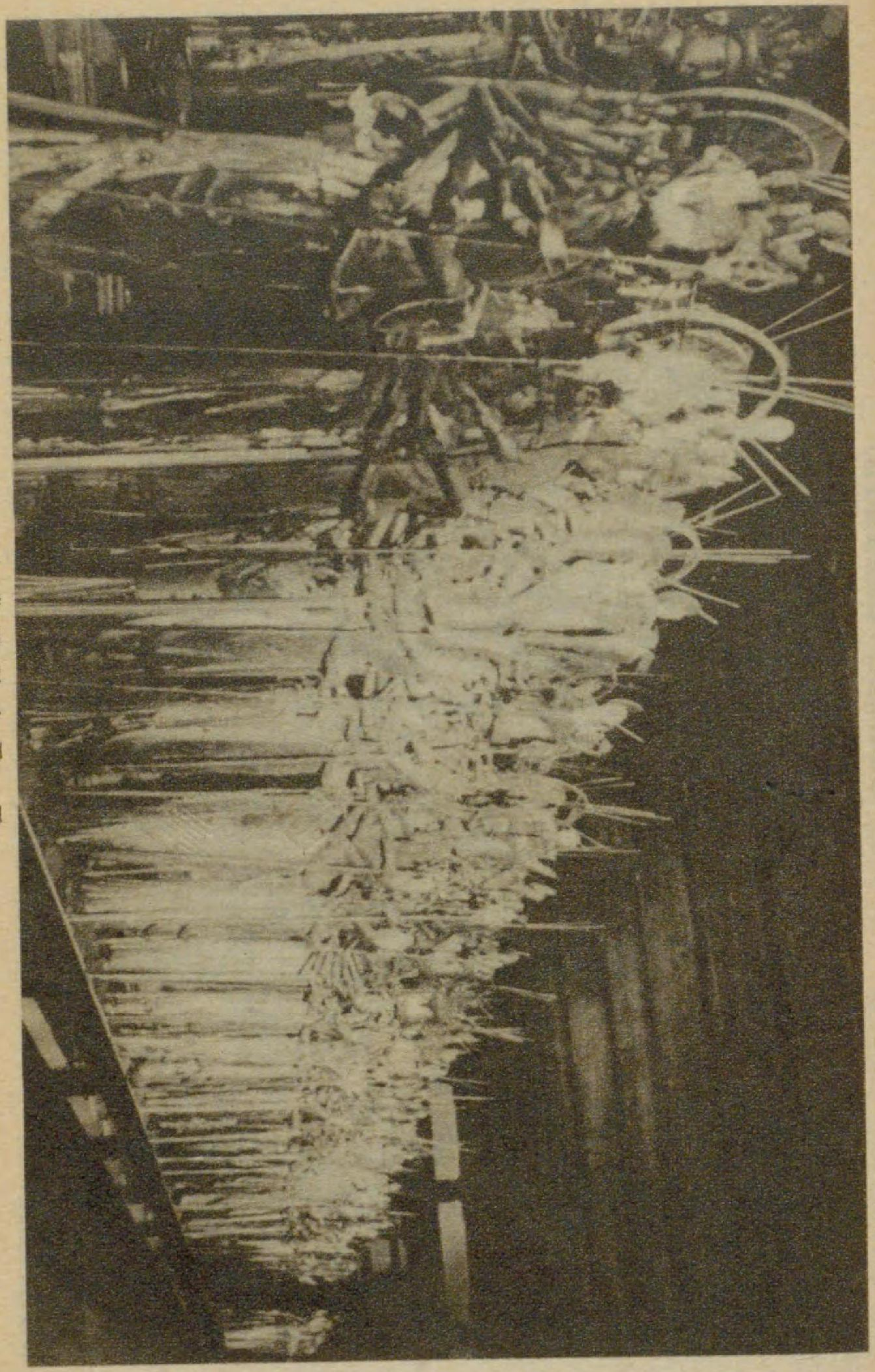


内堂間三十三　三一

一四　養源院杉戸繪（恩賜京都博物館）

一五　六波羅密寺傳運慶像（恩賜京都博物館）

一六　靈雲院元信筆山水圖（恩賜京都博物館）

一七　妙心寺友松筆三酸圖屏風（恩賜京都博物館）

一八　大德寺牧溪筆猿（恩賜京都博物館）

一九　勸修寺刺繡釋迦說法圖（恩賜京都博物館）

二〇　妙法院二十八部衆像（恩賜京都博物館）

二一　知恩寺顏輝筆鐵枴圖（恩賜京都博物館）

二二　神護寺傳隆信筆源賴朝像（恩賜京都博物館）

二三　建仁寺宗達筆風神屏風（恩賜京都博物館）

智積院襖繪　四二

京都市　妙法院出陳

これは三十三間堂千手觀音の眷屬二十八部衆の内の八體で、運慶の作をその後湛慶が修理したことになつて居る。何れも木彫で全身に截金彩色を施した寫生風に富んだ鎌倉時代の傑作で、この室の偉觀である。

一五智如來坐像〔國寳〕　京都市　安祥寺出陳　五　軀

五智如來と云ふのは大日、阿閦、寶生、彌陀、釋迦の五佛である。何れも木造、平安時代の作で、これも二十八部衆の諸像と相對し、頗る光輝を放つて居る。

一運慶湛慶坐像〔國寳〕　京都市　六波羅密寺出陳　二　軀

木造、各自作の像と傳へ、鎌倉時代の寫生風に富んだ優秀な肖像彫刻である。

一僧形坐像〔國寳〕　京都市　六波羅密寺出陳　一　軀

木造、平清盛の像と傳へ、これも頗る寫生風な個性の表現に富んだ鎌倉時代の作である。

一佛　頭〔國寳〕　奈良縣　唐招提寺出陳　一　個

木心乾漆天平時代の作である。甚しく破損して居るがその為め却つて乾漆を施した手法がよく判り、研究者の好資料である。

第十六室　表玄關正面の室で彫刻の大物が陳列されて居る。

一阿彌陀如來坐像〔國寳〕　京都市　萬壽寺出陳　一　軀

彌陀の定印を結んだ定朝式の巨大な木彫佛で藤原末期の作。

一金剛力士立像〔國寳〕　京都市　萬壽寺出陳　二　軀

木造、鎌倉時代の優秀な作である。

一倶生神坐像〔國寳〕　京都府　寶積寺出陳　一　軀

木造彩色、鎌倉時代の作である。

一閻黑童子半跏像〔國寳〕　京都府　寶積寺出陳　一　軀

木造彩色、鎌倉時代の作である。

第九室より第十五室に至る各室は主として繪畫の陳列場に當てられて居るが、時々陳列替をなす外、臨時

特別展覽會場にも當てられる。從つて殆ど全部撤回される場合もある。こゝにはこれ等各室の陳列繪畫を日本畫と支那畫に二大別し、日本畫はその主なるものを更に各時代に分類列記して說明を加へて置く。

日本畫

奈良時代

一過去現在因果經〔國寶〕 京都市 上品蓮臺寺出陳 一卷

一同 上〔國寶〕 京都府 報恩院出陳 一卷

兩卷とも黃麻紙で下段に經文を墨書し、その上段に經意を彩畫で描いた天平時代の作である。天平時代のものではあるが、畫法は極めて幼稚で、彩色にも專ら原色を用ゐて居るが、支那六朝時代の古風を傳へた頗る高雅な作である。

平安時代

一眞言七祖像〔國寶〕 京都市 教王護國寺出陳 七幅

絹本著色、眞言の七祖を等身大に描いたものである。七祖の中金剛智、善無畏、不空金剛、一行、慧果の五祖は唐の李眞の筆で、龍猛、龍智の二祖は空海の筆に成り、名號も行狀文もすべて空海の筆と傳へて居る。畫法は何れも一種の鐵線描とも云ふべき肥瘦なき線を以て自由に人體を描寫して居る。平安朝初期に於ける唐畫の影響もその日本化を物語る貴重な遺品である。

藤原時代

一釋迦金棺出現圖〔國寶〕 京都府 長法寺出陳 一幅

絹本著色、大涅槃に入つた釋尊がその母摩耶夫人のため再び金棺より身を起して法を說き人天ともに歡喜せる光景を描いたものである。構圖雄大描線は強く力があり、截金彩色の極めて豐麗なもので、藤原時代佛畫の傑作である。

一不動明王二童子像〔國寶〕 京都市 青蓮院出陳 一幅

絹本著色、高野の赤不動、三井の黃不動と共に名高く、この不動は青身で劍索を執つて岩上に坐し二童子を從へて居る。身の青色は炎々ともえ上る迦樓羅焰の赤色と相映じ頗る悽愴の氣を漂はして居るが、細部には藤原時代の優麗にして纖細な趣致が溢つて居る。

一仁王經曼荼羅〔國寶〕 京都市 醍醐寺出陳 一幅

絹本著色、仁王般若道場念誦儀軌に說く所を圖示したものである。寺では息災の曼荼羅と稱し、醍醐僧正定海の筆と傳へ、藤原末期の作である。

一閻魔天像〔國寶〕 京都市 觀智院出陳 一幅

絹本著色、寺傳に會理僧都の作と云ふも藤原時代後期の作で朱線の輪廓美しく、精巧な截金文樣と青綠の華文を有し、優美鮮麗を極めて居る。

一孔雀明王像〔國寶〕 京都市 安樂壽院出陳 一幅

絹本著色、藤原時代の特色を示した作で衣には優美な華文を畫き、截金を置き或は銀泥を以て彩色を施し、小品ではあるが纖細な當代の趣味を代表して居る。

一平家奉納法華經口繪〔國寶〕三十三卷の內十卷 廣島縣 嚴島神社出陳

紙本著色、法華經二十八卷の外に附隨の諸經と願文一卷が添へられて居る。願文は平淸盛が認めたもので、末に長寬二年九月とあり、始には仁安元年十一月十八日とある。即ち、一は發願の年で他は滿願の年である。また經卷は平家一族間で各一、二卷づゝ分擔して製作せられたものである。各卷その裝飾を異にして居るが、華美を極めたもの多く平家一門の榮華の程が偲ばれる。その華美を盡したものになると料紙を染めて各種の色の斑文を作り、或は種々の繪を描き、その上に金銀、綠青を以て經文の字を書いたものもある。殊に欄外の天地は最も意匠を凝して裝飾して居る。見返は多く總銀地にして各種の色彩美しく大和繪の山水、人物または蘆手繪などを描き、その中には獨立した畫繪として優れたものも少くない。畫題は或は經文と關係し或は無關係であるが、貴族の生活を寫したものが美しい。畫風は大和繪に屬し人物の描寫はいはゆる引目勾鼻式である。

鎌倉時代

一源賴朝及平重盛畫像〔國寶〕 京都市 神護寺出陳 二幅

絹本著色、藤原隆信の筆と傳へ、本邦肖像畫中の巨擘である。畫法は極細線で顏を描き、墨で袍を塗り、色彩は太刀と平緒に金と朱靑を僅か點ずるに過ぎず、手法は寧ろ簡素であるが、氣品の高い鎌倉時代の作である。

一山水圖六曲屛風〔國寶〕　一雙

京都市　神護寺出陳

密教灌頂の際に用ゐる山水屛風である。その圖は藤原時代の貴族の家居、狩獵等を寫したもので、極彩色を用ゐて頗る精密に描いた鎌倉初期の大和繪である。

一華嚴緣起〔國寶〕　六卷

京都市　高山寺出陳

紙本著色、頗る巧みな繪で活動的趣致に富んで居る。縱横自在の描線を主とし彩色は簡單を旨として居る。

一矢田地藏緣起〔國寶〕　二卷

京都市　矢田寺出陳

紙本著色、鎌倉中期以後の作で、彩色が特によく保存されて居るのが珍しい。

一一遍上人繪傳〔國寶〕　十二卷

京都市　歡喜光寺出陳

絹本著色、一遍上人一代の事蹟を畫いたもので卷末に「正安元年已亥八月二十三日、西方行人聖誠記之畢、畫圖法眼圓伊外題三品經尹卿筆云々」とある。畫材には山水自然の景多く、その筆致は大體に於いて大和繪流であるが、往々新來の漢畫法を攝取して自由に驅使して居る。筆者圓伊の名はこの繪卷によつてのみその名を不朽に傳へ、他に何等傳記の徴すべきものがない。

一法然上人繪傳〔國寶〕　四十八卷

京都市　知恩院出陳

紙本著色、法然上人源空の繪傳である。筆者を土佐吉光と傳へて居るが、數人の筆になつた事は明で、初めの二三卷が殊に優れて居る。現存繪卷中最も浩瀚なもので、また後の大和繪の畫風を一定せしものとして注意されて居る。

一山越阿彌陀及地獄極樂圖三曲屛風〔國寶〕　三枚

京都市　金戒光明寺出陳

絹本著色、三枚一組の屛風仕立で、中央の屛風は三枚折、左右は二枚折の屛風で高さ各々三尺四寸八分。中央の屛風には阿彌陀三尊が綠滴たゝる嶺峰中より半身を現した尊容を描き、左右の屛風には地獄極樂及び往生の諸相を現して居る。三尊は金色に輝き、衣には細密な截金彩色が施され、構圖は頗る說明的で、鎌倉時代に描かれた山越阿彌陀像の代表的遺作である。

室町時代

一五百羅漢圖〔國寶〕　四十五幅

京都市　東福寺出陳

絹本著色、東福寺の僧明兆の筆である。一幅に十羅漢づゝ五十幅を畫いたものであるが、今四十五幅を殘して居る。圖樣は全く宋畫に基いたものである。

一瓢鮎圖〔國寶〕　一幅

京都市　退藏院出陳

紙本著色、將軍義滿が僧如拙をして描かしめたもので詩僧三十餘名の題語がある。畫はいはゆる宋元墨畫式に描かれ、彩色には僅かに淡黄色が用ゐられて居るのみである。

一樓閣山水圖〔國寶〕　一幅

京都市　金地院出陳

元信の印があり元信の筆と信ぜられるものである。墨色を主とし淡彩を雜へ、筆致頗る剛健にしてよく馬遠、夏珪の正しい骨法を示して居る。

一花鳥圖〔國寶〕　八幅

京都市　大仙院出陳

紙本著色、大德寺中の大仙院の襖張附繪であつたが、掛幅に改裝されたものである、室町時代漢畫家の筆になつたもので元信の筆と傳へて名高い。この他相阿彌の筆と傳ふる山水圖二十幅と、元信の弟之信の筆と傳ふる四季耕作圖八幅も同じく大仙院の襖繪を掛幅に改裝して當館に出陳されて居る。

一山水花鳥圖〔國寶〕　四十幅の内十六幅

京都市　靈雲院出陳

紙本墨畫、元信筆、もと妙心寺中靈雲院の書院を飾つた襖繪を掛幅に改めたもので技巧頗る變化に富み、元信の傑作として知られて居る。

一融通念佛緣起〔國寶〕　二卷

京都市　禪林寺出陳

紙本著色、藤原時代の末、大原の良忍が唱へた融通念佛の緣起を描いたもので、土佐光信の筆と傳へて居る。

桃山時代

一豐國祭圖六曲屛風〔國寶〕　一雙

京都市　豐國神社出陳

紙本著色、狩野內膳重鄕筆、慶長九年八月秀吉の七回忌に當り豐國大明神で執行された臨時祭の光景を描いたものである。大和繪風の頗る細密な繪で、人物集團の狀を描ける所など特に巧みである。

一調馬圖六曲屛風〔國寶〕　一雙

京都市　醍醐寺出陳

紙本著色、頗る細密な寫生風の風俗畫である。

一花卉圖六曲屛風〔國寶〕　一雙

一三酸及寒山拾得圖屛風 〔國寶〕 京都市 妙心寺出陳 一雙

兩屛風とも紙本著色、海北友松の代表的作品で、いはゆる桃山藝術の長所を發揮して居る。

江戸時代

一風神雷神圖二曲屛風 〔國寶〕 京都市 建仁寺出陳 一雙

紙本著色、野村宗達筆、金地に太い墨線と濃厚な岩繪具（いはゑのぐ）とを以て大膽に描いたもので、前代の桃山藝術にも見ない豐麗な裝飾畫である。

一柏鷹蘆鷺圖六曲屛風 〔國寶〕 京都市 大德寺出陳 一雙

紙本墨畫、曾我二直庵の代表作である。

支那繪

一瀑布圖 〔國寶〕 京都市 智積院出陳 一幅

絹本墨畫、古くから唐の王維の筆と傳へて居るが、宋元の間のものとして知られて居る。

一十六羅漢像 〔國寶〕 京都市 清涼寺出陳 十六幅

絹本著色、僧奝然が宋から將來したものと傳へて居るが、北宋の末若しくは南宋の初めのものと見られて居る。

一五百羅漢像 〔國寶〕 京都市 大德寺出陳 八十二幅の中二十幅

絹本著色、南宋の周季常、林庭珪が淳熙五年に描いたもので、羅漢畫として古今の大作で、多數の構圖にそれ〴〵變化を見せ人物の描寫も自由に委曲を盡して居る。

一十六羅漢像 〔國寶〕 京都市 高臺寺出陳 十六幅の內八幅

絹本著色、泉涌寺の俊芿が建曆元年に宋より歸朝の際將來せるものと傳ふ。畫は院畫系に屬し、類品中屈指のものである。

一十六羅漢像 〔國寶〕 京都市 相國寺出陳 十六幅

絹本著色、陸信忠筆、南宋末の作で畫法は從來の羅漢畫と趣を異にし寫實的で、羅漢は普通人の如く表現せられ、畫院の風が一轉して「町繪（まちゑ）」とならんとする傾向を示して居る。

一淨土五祖像 〔國寶〕 京都市 二尊院出陳 一幅

絹本著色、僧重源が宋より請來せしものと傳ふる南宋畫である。

一不空三藏像 〔國寶〕 京都市 高山寺出陳 一幅

絹本著色、畫風は寫實的にして裝飾趣味の勝つたものであるが、氣品高く筆法も確かで、宋元人物畫の偉彩である。

一釋迦文殊普賢像 〔國寶〕 京都市 東福寺出陳 三幅

絹本著色、古くから吳道子の筆と稱して居るが、疑もなく南宋時代のもので、顏面を精密に描きながら衣紋に至つては剛健な屈曲の多い描法を用ゐて居る。

一普賢菩薩像 〔國寶〕 京都市 妙心寺出陳 一幅

絹本著色、馬麟の筆と傳へる南宋畫である。

一二祖調心圖 〔國寶〕 京都市 正法寺出陳 二幅

紙本墨畫、石恪の落欵があるがその眞蹟については疑を存して居る。その描法は水墨の減筆によつた折蘆描とも云ふべき粗大な筆で大體は石恪の樣式を傳へ、支那繪畫史硏究上貴重な作品である。

一觀音猿鶴圖 〔國寶〕 京都市 大德寺出陳 三幅

絹本墨畫、牧溪筆、畫法は大體淡墨で仕立てられ、濃淡の對照甚しからずその筆致極めて柔かく、天然の景物に從つて自在に形を寫し、その畫趣たるや人をして自然の實相に反省せしむるものがあり、東洋畫壇に於ける名品として知られて居る。

一蝦蟇鐵栱圖 〔國寶〕 京都市 知恩寺出陳 二幅

絹本著色、顏輝筆、畫法は人體を寫すことに於いて極めて寫實的で一々細筆を以て描き、肉體には暈翳をさへ施しながら、衣帶を畫くに至つては一轉して太い線を用ゐ、支那道釋人物畫中有數の名畫である。顏輝の作と傳ふる作は我が國に無數にあるが、眞筆疑なきものはこの一點あるのみである。

一山水圖 〔國寶〕 京都市 金地院出陳 二幅

絹本著色、高然暉の筆と傳へ、構圖の雄大な支那山水畫でいはゆる米點（べいてん）を用ゐる手法には、後世南畫の發達を豫想せしむるものがあり、元朝初期の一名品である。

一釋迦說法圖 〔國寶〕 京都市 勸修寺出陳 一鋪

これは刺繡であるが、唐朝佛畫の樣式を見るべきもので支那大陸の製作たるは明かである。

★【豐國神社】〔別格官幣社〕　市電七條大和大路下車恩賜京都博物館の北隣にあり、豐臣秀吉を祀つて居る。秀吉は慶長三年八月十八日伏見城に薨じたが、當時喪を秘して本社の後方阿彌陀峯に密葬され、翌四年社殿成つてその靈をこゝに祀つたのである。德川氏これを悦ばず、遂に破壞して荒廢するに任した。今の社殿は明治の初年に再興されたもので、同六年別格官幣社に列せられた。神紋は桐。例祭九月十八日。

攝社貞照神社には秀吉の夫人北政所淺野禰々を祀つてある。

唐門〔國寶〕　伏見城の遺構で明治初年に南禪寺金地院から移建された。四脚の唐門で屋根は入母屋造、前後に唐破風を附し、重厚な檜皮葺に成つて居る。豪放な彫刻があり、隨所に華麗な彩色を加へたあとが殘つて居る。殊に正面には巨大な蟇股を置き、中に五三の桐を一つ大きく現はし、その周圍に雄大な唐草の透彫を添へて居る。また中央本柱の上に架せられた冠木上には、蟇股の左右に松竹の丸彫を嵌裝して更に豪壯の氣を增して居る。この彫刻の前に鶴の丸彫が天井の梴から釣り下つて居るのはやゝ兒戲に類し、建築物の裝飾としてはもとより感心の出來ないものである。然し全體としてこの門は豪壯の氣に滿ち、結構雄大、よく桃山時代の特色を現したこの種唐門の白眉たるを失はないのみではなく、秀吉の氣風を偲ぶべき遺構として尊いものである。尙境內には寶物殿があり、豐公關係の文書器物その他のものが百餘點陳列されて居るが、平常は閉鎖されて居る。

豐公廟　妙法院の東、博物館の裏門から直に急峻な五百級の石段を登り切つた阿彌陀峯の頂上にある。豐臣氏滅亡後永く荒廢に歸して居たが、明治三十年秀吉の三百年忌に當り大いに修築を行ひ、巨大な五輪塔が建てられた。こゝはまた京都市街展望の好地である。

【大佛殿(方廣寺)】〔天台宗〕　豐國神社の北に隣接して居る。豐臣秀吉が天正十四年に奈良東大寺の大佛に擬して創建したもので、慶長元年大地震の爲破壞した儘、再建成らずして秀吉は薨じたが、德川家康は秀賴と淀君に勸めてこれを再興させた。慶長十七年春佛像殿堂完成し、十九年四月梵鐘を鑄造したが、いはゆる「國家安康」の問題を起し、豐臣氏の滅亡を招くに至つたのは有名な話である。今この鐘は豐國神社北門前の鐘樓にかゝつて居る。その後寛文二年の地震に遭つて佛殿は倒れ、大佛は寛永通寶に改鑄された。現に安置する半身の大佛は、天保十四年に尾張の人の寄附したもので稚氣愛すべきものがある。その背後に陳列せる遺物には豐臣家の哀史を想ひ起さしむるものがある。

【耳塚】　市電七條大和大路下車、豐國神社前にある。塚の高さ約三間、上に高さ二丈餘の五輪の大石塔を置いてある。文祿、征韓の役、我が軍が朝鮮で敵の鼻を切取り、これを鹽漬にして秀吉に獻じたのをこゝに埋めたものだと云ふ。世人これを耳塚と稱して居る。

【智積院】〔新義眞言宗智山派總本山〕　市電東山七條下車、大佛東瓦町にある。當院はもと豐臣秀吉がその子棄丸の菩提のために建てた祥雲寺の後身と傳へられて居る。その後一時廢絕して居たが、德川氏の世となり新義眞言宗の本山として、紀州根來の智積院の名を移して再興されたものである。當院の襖畫は京洛寺院の數多き障屛畫中に於いても壯麗を以て聞えて居る。庭園もまた見るべきものがある。

襖及壁貼付繪〔國寶〕　畫は大書院と宸殿內各室に亘つて描かれ、その筆者を狩野永德或は山樂と傳へ、何れも金地に松柏櫻楓等の巨幹を中心として、四季の草花を隙間なく描きつめて巧妙に畫面の統一を作り、絢爛目を奪ふばかりなる彩色を施した桃山時代の代表的裝飾畫である。特に大書院二の間櫻楓圖は墨線を骨子とし、これを助くるに高き盛上彩色を以てし、飽までも力強き印象を與へると共に、一方に於いては萬朶の花にときまぜて柳の枝のしだるゝ風情、自ら楚々として人を動かすものあり、豪華の裡にも優美の情緒を寄せたところに、日本趣味の特性が現れて居る。

寶物には左記のものがある。

一松草花圖四曲屛風〔國寶〕　一雙
一松梅圖二曲屛風〔國寶〕　一雙

金地著色畫、もと襖畫の一部であつて、殊に松に草花の圖は二の間櫻楓圖にも劣らざるもので、恐らく同筆と思はれる。

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一孔雀明王像〔國寶〕絹本著色　一幅
一瀧圖〔國寶〕絹本著色　一幅
一金剛住〔國寶〕紙本墨書、張卽之筆　一幅

【妙法院】〔天台宗〕市電東山七條下車、恩賜京都博物館の裏にある。近世まで世々法親王が住職となられた天台宗の名刹で、有名な古建築に大書院、玄關、庫裡がある。

大書院〔國寶〕五間六面、單層入母屋造柿葺で、元和五年東福門院入內の時造營の舊殿を賜はつたものと稱して居る。軒には疎棰を配し、柱は細い面取の方柱を建て、その他舟肘木、舞良戸、明障子など何れも瀟洒な風格を存して居る。襖壁の繪は狩野松榮及び永德の筆と稱し、金地に極彩色の華麗な花卉などが描かれて居る。要するに桃山より江戸時代に至る書院造の好標本である。庭園は積翠園と云つて有名である。

玄關〔國寶〕大書院と渡廊で連つて居る。七間四面、單層入母屋造、柿葺で江戸初期の建造である。正面左右に後世附加したと思はれる大小二つの唐破風屋根が突き出て居る。主屋の方は內部數室に分れ、疊敷で、構造簡明にして書院風の一佳作たるを失はない。

庫裡〔國寶〕北門を入ると突當りにある。十一間十二面、妻入の大建築で、棟に煙出を造り、軒下に唐破風屋根の入口がある。この建築は一種の臺所で、入口の蟇股、妻の懸魚、虹梁等に桃山式の手法を現して居るが、この外に一切裝飾はない。軒廻りも頗る簡單で、內部は小屋組を露出したまゝで、梁貫が縱橫に架り、豪放雄大の觀がある。

龍華藏　コンクリート土藏風の陳列館で、主として豐公の遺物と稱するものが陳列されて居るが、その中には葡國ゴア副總督から豐臣秀吉に贈つた羊皮に書かれた書翰〔國寶〕がある。

【西大谷】市電五條坂下車、東山通五條下ルにある。眞宗本派の祖廟で、もと吉水にあつたのを、慶長八年知恩院造營のとき、德川家康の計ひで親鸞上人の遺骨を東西に分けて東、西大谷の別が始つた。皎月池に架した眼鏡橋を經て門を入れば本堂があり、後堂の黑戸の御所は舊大宮御所から移築したものである。

【梅田雲濱墓】市電東大路五條下車、東山區五條坂安祥院にある。幕末の志士雲濱の妻信子の墓に、雲濱の遺髮を合葬したものだと云ふ。

【清閑寺】〔眞言宗智山派〕東山を越えて山科へ出る滑石越の山道の北側、清水山の南側中腹にある。背後の山中に六條天皇及び高倉天皇の御陵がある。

【鳥部山（鳥邊野）】西大谷から清水寺へ拔ける道の墓地がそれで、松籟颯々谷に臨み山に面した景勝の境域である。平安朝の頃からの有名な墓地で、そこの本壽寺內には清正公祠及び淨瑠璃で名高いお俊傳兵衞の墓があり、更にその東妙見宮横の小高い處には石田梅巖墓、またその東に淺見絅齋の墓がある。

★【淸水寺】〔法相宗〕市電東山松原または五條坂下車淸水坂上にある。當寺は大同年中長岡京の紫宸殿を賜つて坂上田村麻呂がこれを寺としたものと傳へられて居る。平安朝以後觀音の靈場として名高く、西國三十三箇所第十六番の札所として、今に多くの參詣者をあつめて居る。淸水燒を賣る店の軒を竝べて居る淸水坂を登り詰めると、朱塗の高い仁王門に達する。門を入ると鐘樓、西門、三重塔婆、經堂、田村堂、本堂、釋迦堂、阿彌陀堂、奧の院等が景勝の地を占めて散在して居る。

鐘樓〔國寶〕仁王門を入つて左手にある。慶長十二年の建立にかゝり、桁行一間、梁間二間、單層、屋根切妻造、本瓦葺の建築で、手法雄健、繪樣彫刻等皆よく桃山時代の豪華な特質を現して居る。

西門〔國寶〕仁王門の後に高く石段の上に建つて居る。鐘樓と同じく慶長十二年の建築、三間一戸の八脚門で、正面に一間の向拜を有し、背面に軒唐破風を附け、昇勾欄等を備へ、八脚門としては頗る珍しい意匠

を施して居る。

本堂〔國寶〕寛永十年德川家光によつて再建されたもので、その樣式は懸崖造に屬し、本宇は崖の上に建つて居る。九間七面、屋根は四注造でその左右に裳階を附け、前方に雨翼を出し、悉く檜皮葺になつて居る。前方より左右にかけて舞臺があり、擬寶珠高欄を繞らし懸崖に掛り、下に長柱を列植し、貫でこれを固め、頗る奇觀を呈すると共に、複雜な屋根は各方面より見て形狀高低大小を異にし、優雅多趣の意匠甚だ巧にして、自然の景色とよく調和せる江戸初期の優秀な復古的建築である。內陣は後方須彌壇を作り、三個の廚子を置き、中央に十一面觀音像、左に將軍地藏像、右に毘沙門天の立像を安置して居る。禮堂は無數の繪馬が懸つて居るので名高く、その中には國寶の末吉船や角の倉船の繪馬も懸つて居る。

地主神社　本堂の背後にあつて地主權現卽ち大國主命、素戔嗚尊、櫛名田姫を祀つてある。謠曲熊野に讀み込んである。

音羽瀧　本堂の東側、釋迦堂及び阿彌陀堂との間から百數十階の石段を降りた所、懸崖の中腹にある奧の院の直下にある。瀧は三箇の筧から落ち、その前に垢離堂がある。この瀧の西方の谷間には楓樹極めて多く新高雄の名を以て紅葉、新綠の勝地として知られて居る。

成就院　地主神の西北谷を隔てゝある。淸水寺の住坊で、その庭園は相阿彌の作、小堀遠州、松永貞德の補修せるものと傳へて居る。池の設計は甚だ巧みで、島を築き橋を架し、遠近の山林を背景に取り入れて庭を廣く見せて居る。その誰が袖の手洗鉢は形の奇古を以て有名である。當院の住職月照上人は幕末に天下の志士にくみして討幕を圖つた人で、今門前に彼の碑が弟信海上人及び西鄕南洲の碑と竝んで立つて居る。

【六波羅密寺】〔新義眞言宗〕市電東山松原下車、轆轤町にある。西國三十三箇所第十七番の札所、昔から巡禮者の盛に參詣する寺で、頗る廣大な規模を有した寺であつたが、現存の古建築は唯一棟あるのみである。こ

の地は平氏の一族が隆盛を極めた時代には、その壯大な邸宅軒を並べ、平淸盛の邸宅もこの附近にあつた。次いで北條氏はこゝに探題を置いた。

本堂〔國寶〕桁行七間、梁間五間、向拜三間單層、屋根四注造、本瓦葺の建築で、最初のものは壽永二年に燒け、その後貞治年間に再建したものと云ふ。また豐臣秀吉が大佛殿建立の時には、餘材を以て修理を加へたと傳へて居る。天井は組入天井で極彩色を施し、周圍一間通りを丹塗の化粧屋根裏として居る。

寶物には左記のものがある。

一十一面觀音像〔國寶〕　一軀
木造、高さ八尺餘の巨像で藤原時代の作である。
一四天王立像〔國寶〕　四軀
木造、筋骨逞しく古致に富んだ佳作で、持國天は鎌倉時代の補作、その他は藤原時代の作と思はれる。
一地藏菩薩立像〔國寶〕　一軀
木造、食堂安置藤原末期の作で彩色に切金が混用されて居る。
一吉祥天立像〔國寶〕　木造　一軀
一空也上人立像〔國寶〕　木造　一軀
一閻魔王坐像〔國寶〕　木造　一軀
一四天王立像〔國寶〕　木造　四軀
內二軀恩賜京都博物館出陳
一地藏菩薩坐像〔國寶〕　木造　一軀
東京帝室博物館出陳
一運慶湛慶坐像〔國寶〕　木造　傳各自作　二軀
恩賜京都博物館出陳
一僧形坐像〔國寶〕　木造　傳平淸盛像　一軀

★【建仁寺】〔臨濟宗建仁寺派大本山〕市電四條大橋下車、建仁寺通町にある。

榮西禪師が支那から歸つて、建仁二年に創建した寺で、本邦禪宗の發祥地として有名である。人家稠密の間にあつて幾度か火災に罹り、往時の偉觀は無いが、壯大な佛堂を有し、鎌倉時代の勅使門、室町時代の方丈など、昔を偲ぶべきものが少くない。本寺に安國寺惠慶の首塚、大龍院址に赤松圓心の墓、正傳院に武野紹鷗、織田有樂の墓がある。

勅使門〔國寶〕鎌倉時代の建築で俗に矢の門とも稱して居る。四脚門で屋根切妻造棧瓦葺の建築で、そ

の構造様式は純然たる唐様に屬し、六波羅第より移建したものと傳へて居る。

佛殿　勅使門の次に三門があり、その奧にある。七間六面、重層、入母屋造、本瓦葺、江戸時代寶暦年間の建築である。

方丈〔國寶〕　佛殿の北にある。もと室町時代に足利尊氏が建立した安藝國安國寺の方丈であつたが、元祿年間東福寺に移され、後更にこゝに移したものと傳へて居る。桁行十五間、梁間十一間、單層の大字で室町時代方丈建築の遺構である。前面と側面に幅廣き廻緣を設け、内部各室は疊敷で、その仕切の襖には優秀な繪畫が描かれて居る。

襖畫〔國寶〕　襖畫の畫題によつて、竹林七賢の間、花鳥の間、琴棋書畫の間、雲龍の間などに分たれ、その筆者を海北友松と傳へて居る。七賢の圖の如きは友松式の袋人物を以て描かれ、巨大な水墨の筆が縱橫に揮はれて居る。琴棋書畫の圖は構圖特に謹嚴で、これのみに淡彩が施されて居る。また雲龍に至つては彼に見る特意の筆致が窺はれる。

寶物には左記のものがある。

一風神雷神像〔國寶〕　金地著色、傳宗達筆　二曲屛風一雙
一十六羅漢像〔國寶〕　絹本著色　十六幅
以上何れも恩賜京都博物館出陳

【禪居庵襖繪】〔國寶〕　禪居庵は建仁寺の塔頭で、建仁寺勅使門の傍にある。襖繪は奧の書院の襖に描かれ、海北友松の筆と云ふ。奧室には襖四面を一畫面として淡く金粉を散らした紙本地に水墨で巨松を描き、枝上に二羽の鳥がとまつて居る。入口の室には南側の四面に梅樹を描き、北側の四面には梅樹に竹を淡く添へて居る。何れも筆力遒勁、水墨の濃淡流麗にして友松の筆として特色あるものである。

【珍皇寺】〔臨濟宗建仁寺派〕　市電東山松原下車、建仁寺の南隣にある。古の愛宕寺の後身で、境内からは奈良朝の瓦を出土する。本尊は秘佛の丈六藥師如來坐像〔國寶〕ですぐれた弘仁佛である。本堂の東に鐘樓がありその鐘を迎鐘と云ふ。また本堂前を俗に六道の辻と云ひ、石造地藏が多く並び、盂蘭盆會の前兩日には、諸人群集して迎鐘を撞いて精靈を迎へる。

【八坂の塔（法觀寺）】〔國寶〕　市電、東山松原下車、八坂上町にある。法觀寺の創建は天武天皇の御代で、伽藍は鎌倉時代の古圖によれば四天王寺式の配置を有して居たが、諸堂は早く廢滅に歸し、今は五重塔婆一基を殘すのみである。この五重塔婆は天武天皇六年に創立されたものであるが、今のは永享十二年の再建で、元和四年更に大修理の加へられたものである。高さ四〇米、純然たる和樣の復古的なもので木割太く、形態整備して頗る落付を見せ、東寺の五重塔婆と共に京都を飾る美建築である。内陣四方には大日、驛迦、阿閦、寶生の像を安置し、周圍の扉には天部の像が描かれて居る。

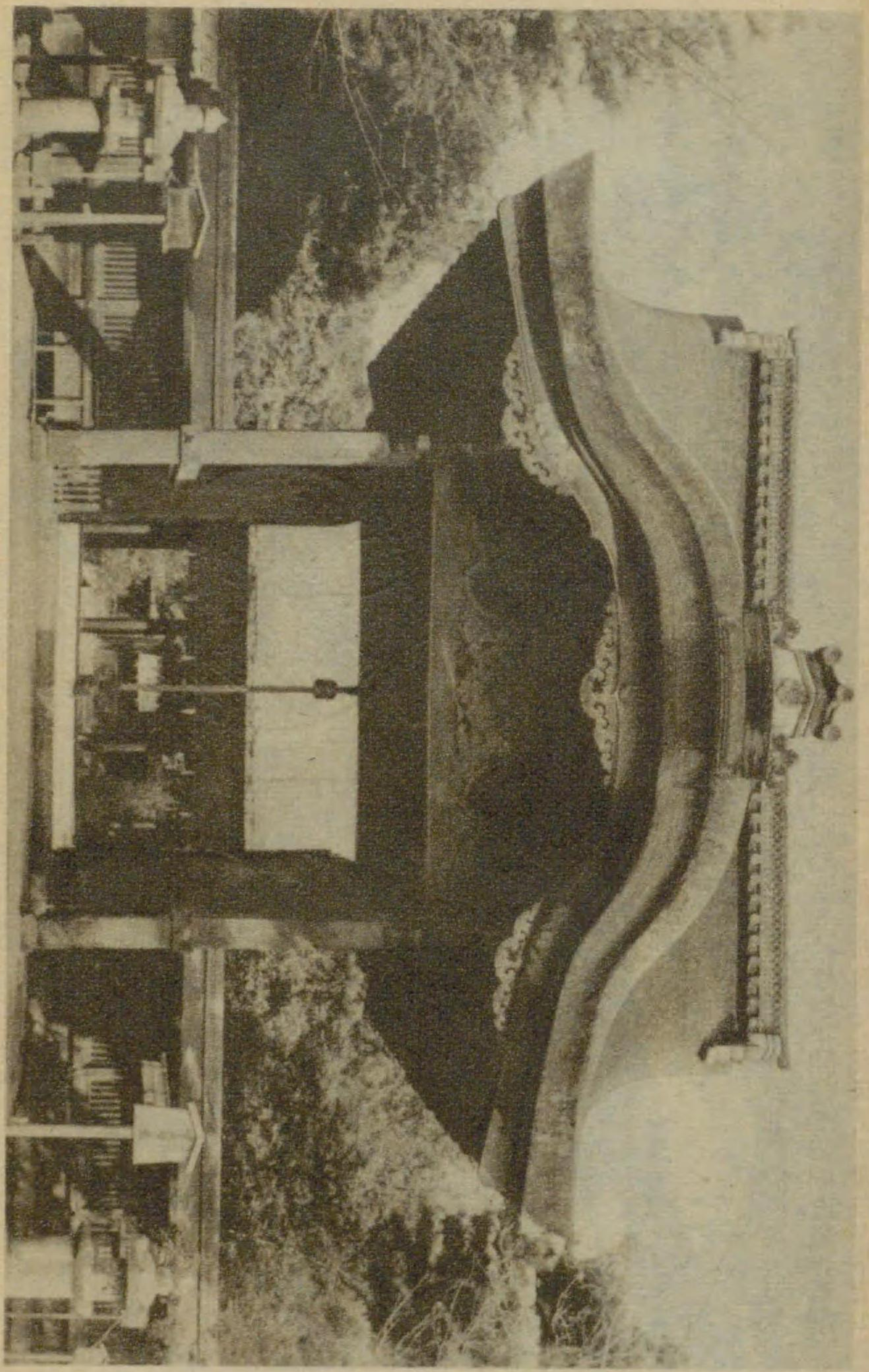
寶物には左記のものがある。

一八坂塔繪圖〔國寶〕　紙本著色　一幅
一法觀寺伽藍圖〔鎌倉時代〕　紙本著色　一卷

【高臺寺】〔臨濟宗〕　市電安井北門通下車、東山鷲峰山の麓、景勝の地にある。古の八坂の雲居寺の址で今なほ平安時代の瓦を出土する。寺は慶長十年豐臣秀吉の夫人高臺院が秀吉の冥福を祈るために創建したものである。德川氏の豐臣氏を滅すや、高臺院の歡心を買はんため、財力を惜まず經營せしめたから、堂宇は頗る壯麗を極め人目を驚かしたが、數度火災に罹り、當時の建築物は開山堂と靈屋を殘して居るのみである。

開山堂〔國寶〕　老樹苔石愛すべき庭園〔指定史蹟・名勝〕内にあり、方丈から廊下が通じて居る。三間五面、單層入母屋本瓦葺、周圍の火頭窓、棧唐戸、軒の桝組など何れも唐樣であるが、全體として和樣の氣分が漂うて居る。内部は天井桝組、頭貫、虹梁等、至るところ極彩色で草花文樣、天人などを描き、絢爛たる桃山式特徴を現し、中央には開山三江和尙の像を安置して居る。

靈屋〔國寶〕　開山堂から臥龍廊を登つて行くと樹林の中にある。桁行四間梁間三間、單層屋根は寶形造、



豐國神社唐門　五二

柿葺、開山堂と同じく慶長十年の建築である。柱は朱塗或は黑塗となし、その他隨所に彩色を施し、金具をちりばめ、當初は華麗眼も眩む許りであつたことがよく偲ばれる。內陣は一段高く、後方に厨子の間を設け、須彌壇を造つて居る。壇上中央の厨子には隨求菩薩の像、向つて右の厨子には豐臣秀吉の坐像、左には北政所の坐像を安置して居る。須彌壇の柱は黑塗で虛空に樂器の飛行せる有樣を蒔繪となし、その他須彌壇、木階及び厨子の扉に施した菊花、紅葉、菊桐などの蒔繪文樣は、桃山工藝美術の粹であつて、高臺寺蒔繪と稱して名高い。

表門〔國寶〕　桁行三間、梁間一間の藥醫門で、加藤淸正によつて伏見城から移されたものと傳へて居る。規模雄大、我が國第一流の桃山式大藥醫門である。

寶物には左記のものがある。

一十六羅漢像〔國寶〕　絹本著色　十六幅
傳貫休筆、八幅宛京都奈良兩博物館出陳
一蒔繪調度類〔國寶〕　十四種
恩賜京都博物館に出陳
一豐臣秀吉消息〔國寶〕　二通
一通宛京都及び奈良博物館出陳
一豐臣秀吉像〔國寶〕　絹本著色　一幅

【靈山護國神社】　市電市バス護國神社前下車、高臺寺東南方の山で、もと靈鷲山正法寺と稱する寺院のあつた所で、維新の殉難志士の墳墓が多く存するを以て有名である。卽ち嘉永、安政以後國事に殉じた人々を祀れる招魂場及び木戸孝允墓をはじめ、附近には久坂玄瑞、坂本龍馬、中岡愼太郞、吉村寅太郞、藤本鐵石、玉松操、梁川星巖等殉難志士の墓碑がある　今神社を建て、靈山護國神社と云ふ。倚墓のやゝ下方には木戸公神道碑がある。木戸孝允は長州藩士、松菊と號し、明治維新の大業に力を盡した元勳である。明治十年薨じ、從一位を贈られた。

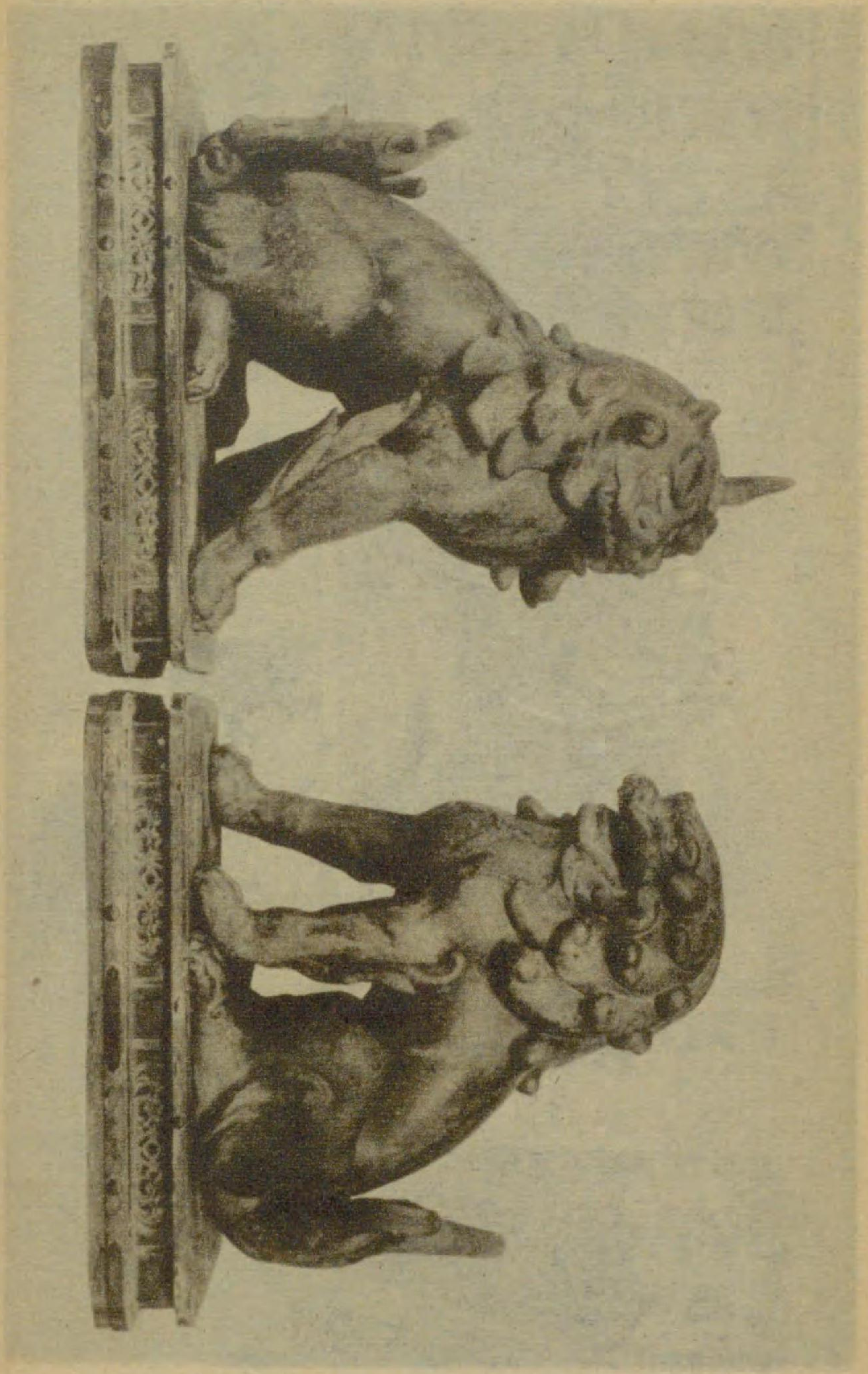
【正法寺】〔時宗〕　市電安井北門前の東七〇〇米、東山區靈山町にあり、延曆年間最澄歸朝直後の草創であると云ふ。當寺に五輪石、板碑及び釋迦涅槃像がある。五

二六　清　水　寺

二七　高臺寺蒔繪

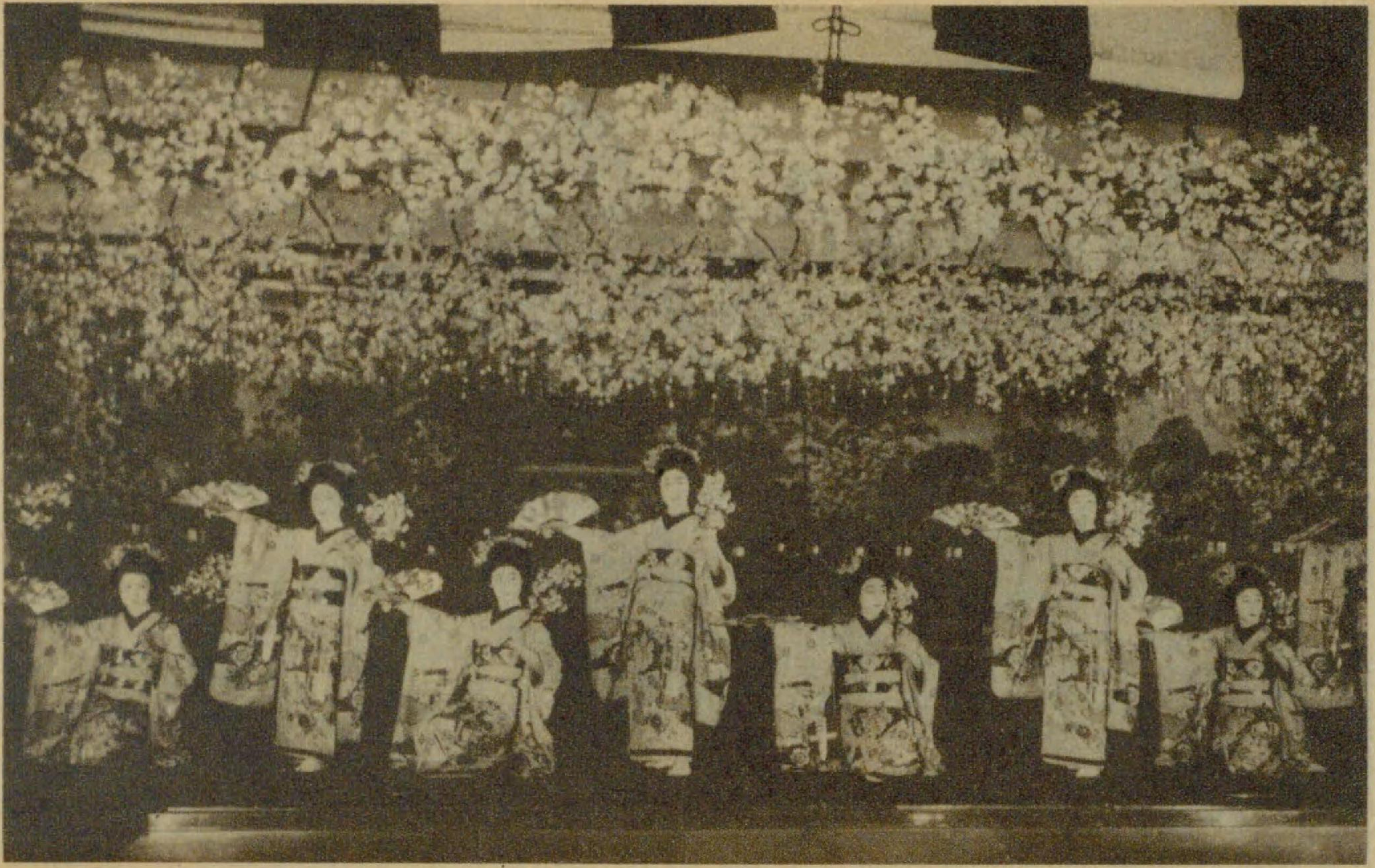
二八　圓山公園枝垂櫻

二九　八坂神社表門

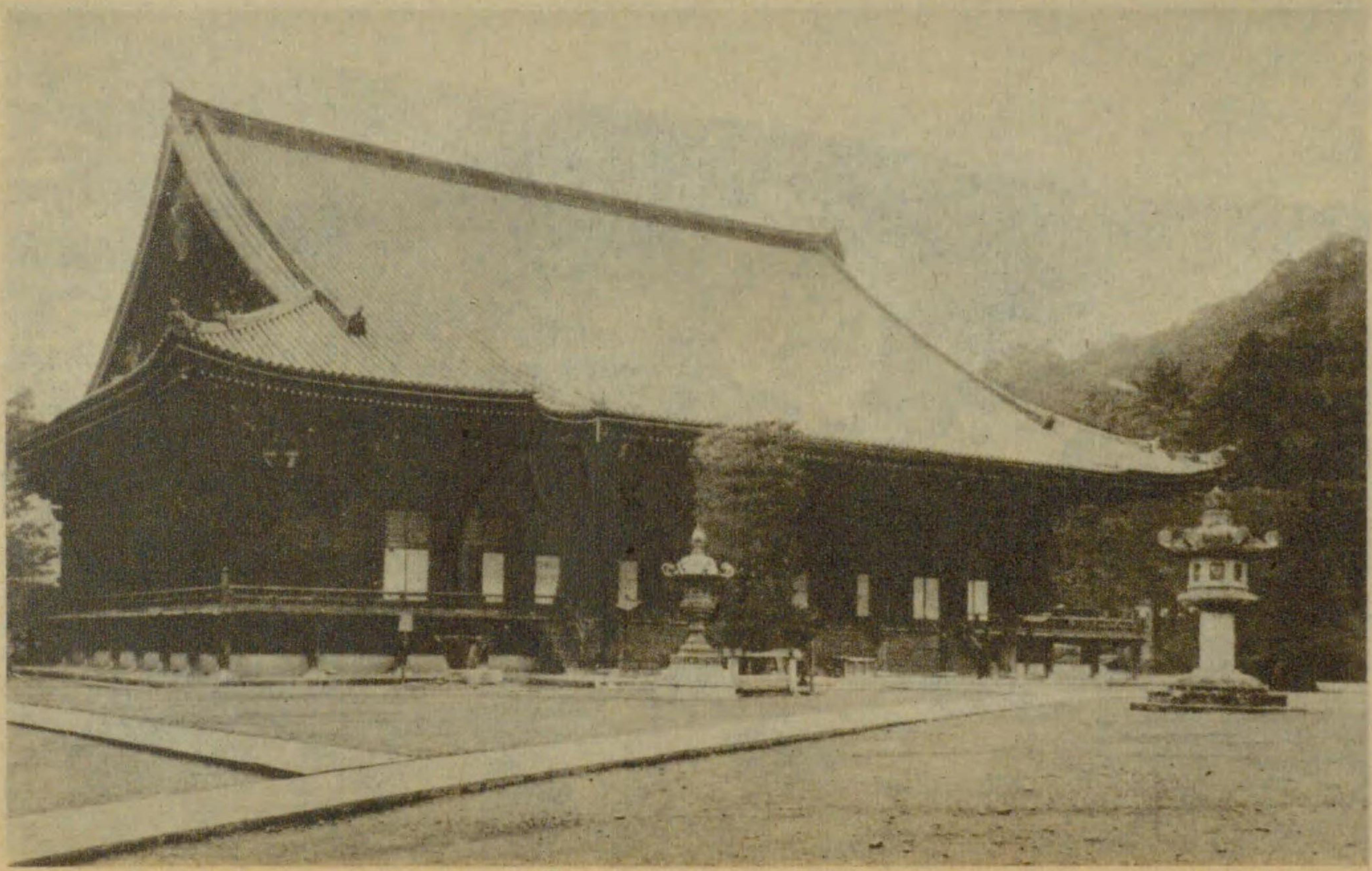


三〇 八坂神社狛犬

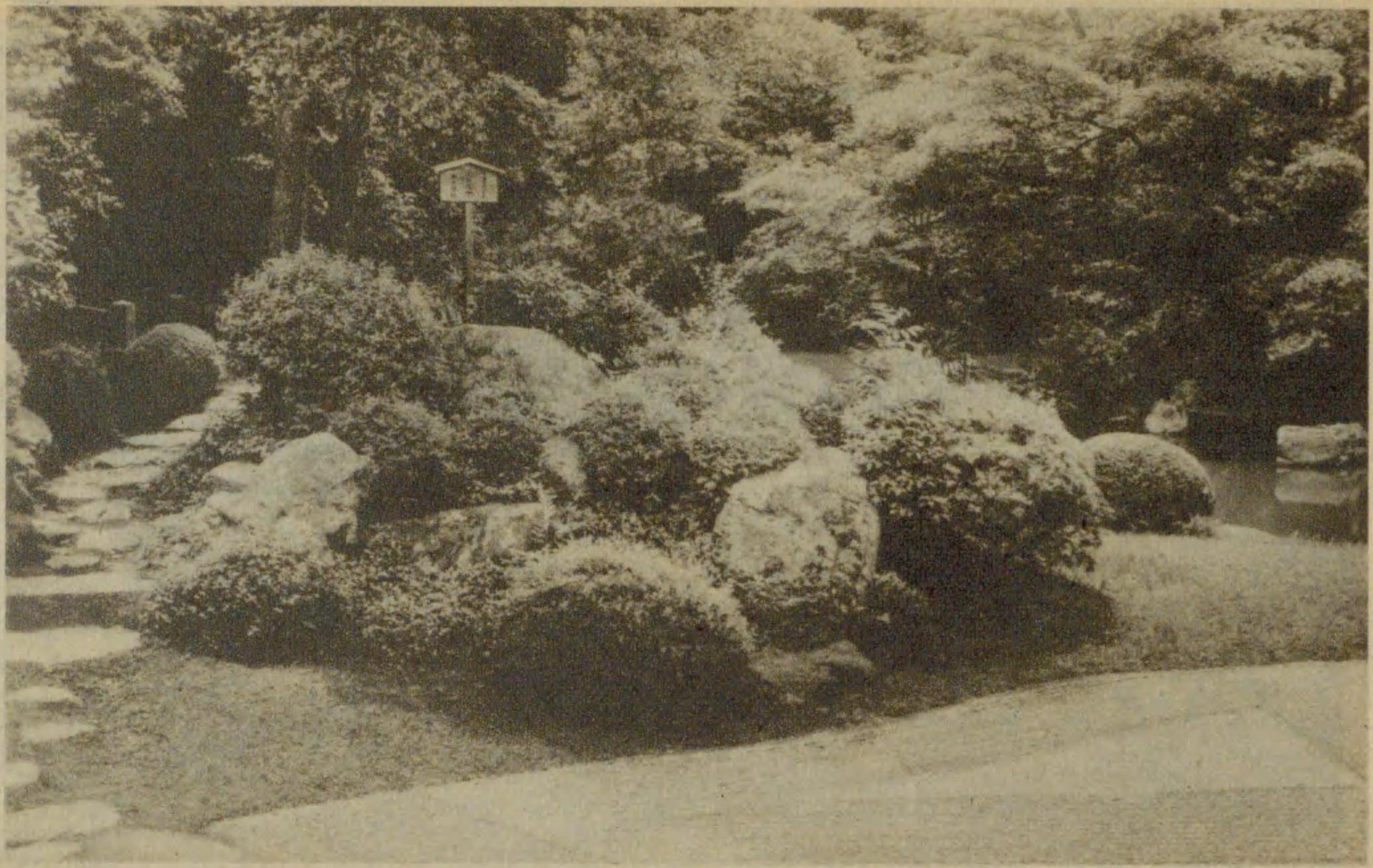
三一 祇園鉾



三二　都踊

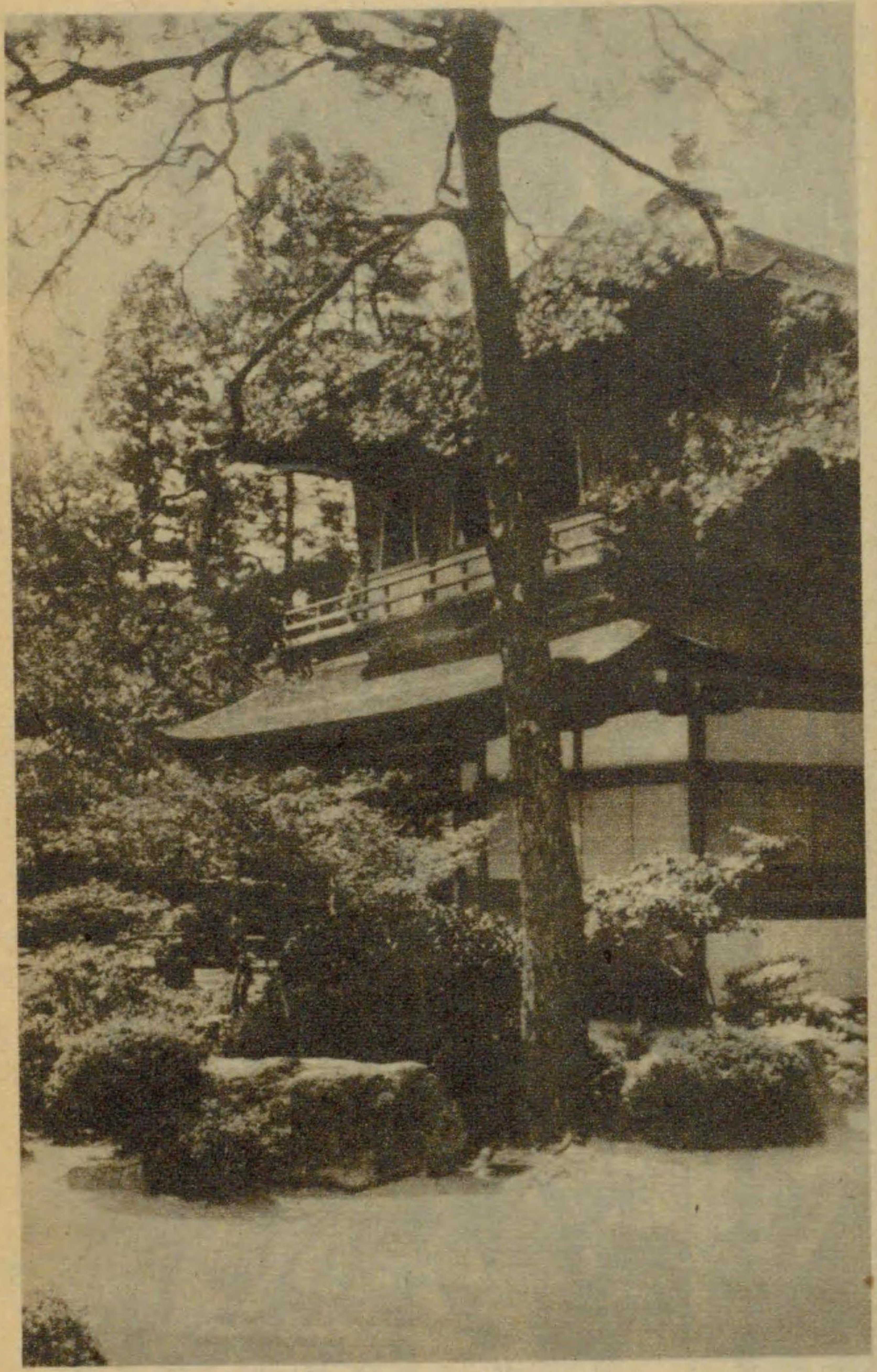


三三　知恩院御影堂

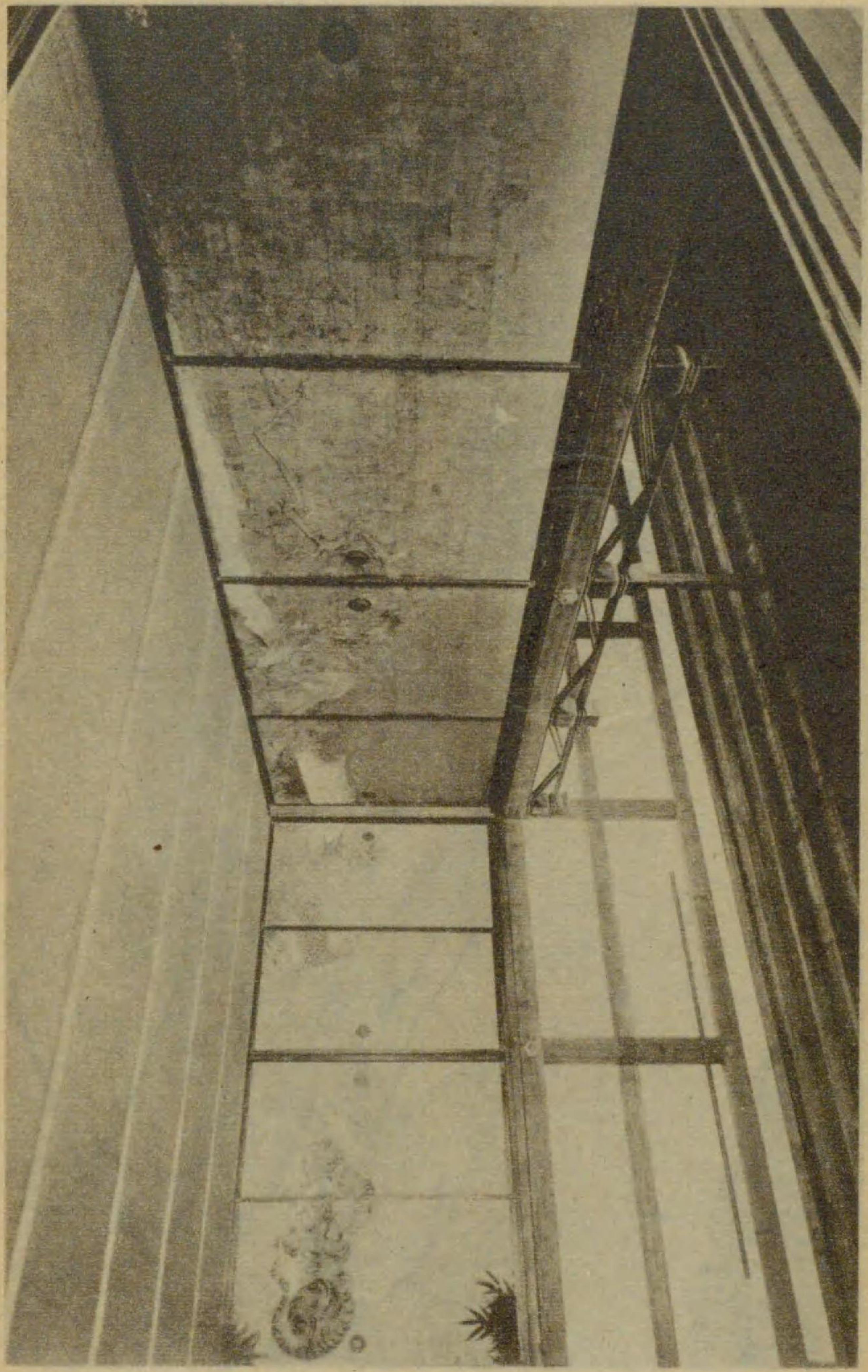


 知恩院庭園

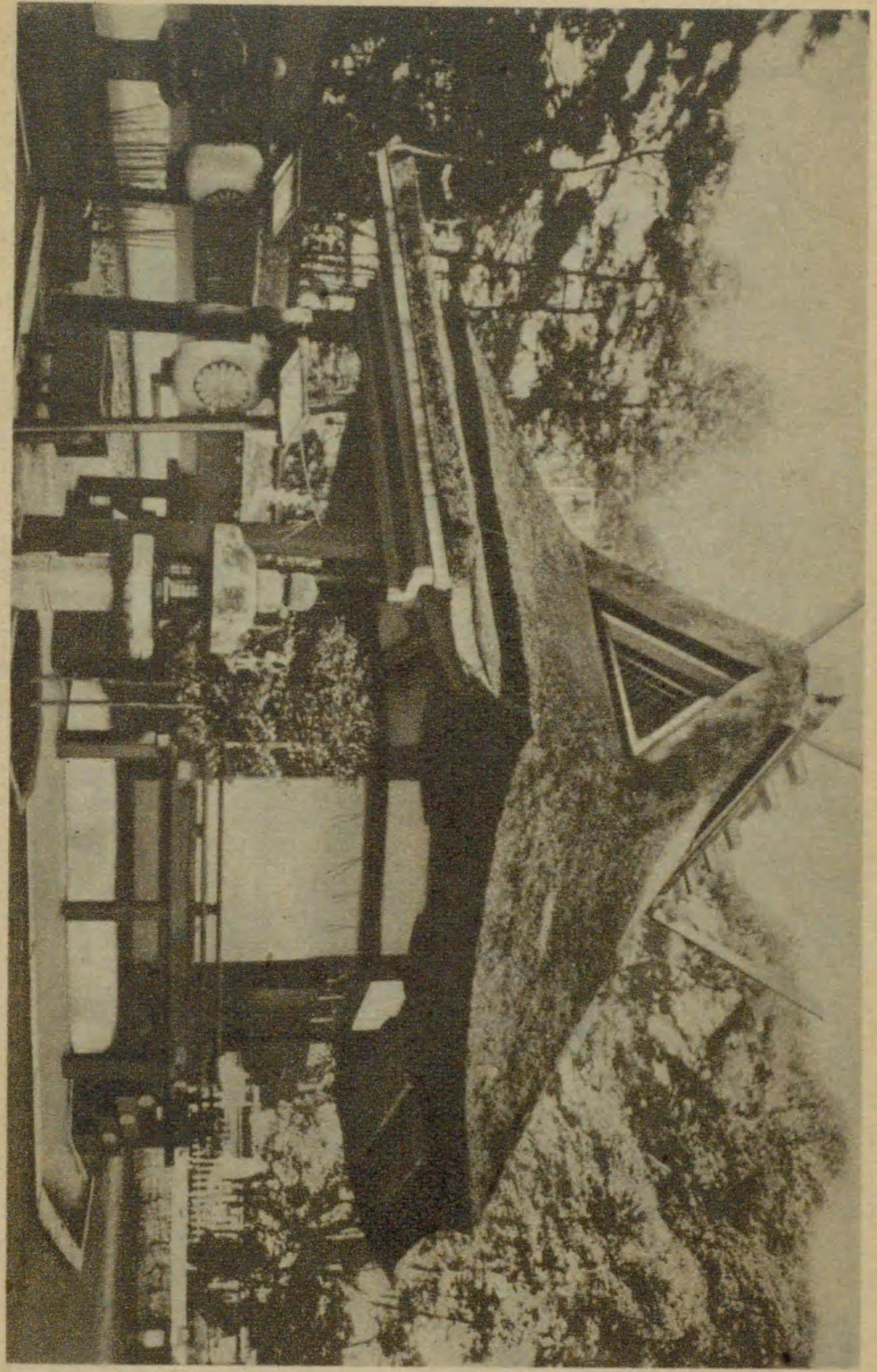
 平安神宮



三七 銀閣



三六 南禪寺虎の間



吉田神社大元宮　八三

輪石は高さ五尺五寸、一邊の長さ八寸五分の珍しい五輪塔で、文保二年六月日の刻銘がある。板碑は山州名跡誌に國阿塔と記された有名なもので、高さ三尺七寸、幅一尺二寸、厚さ一寸の綠泥片岩で國阿上人　應永十二年乙酉九月十一日 歳九十二 往生子剋　光明遍照十方世界　念佛衆生　攝取不捨の銘がある。涅槃像は等身の皆金色で、表現は彈力性を缺くが、その巨大な臥像が珍しい。

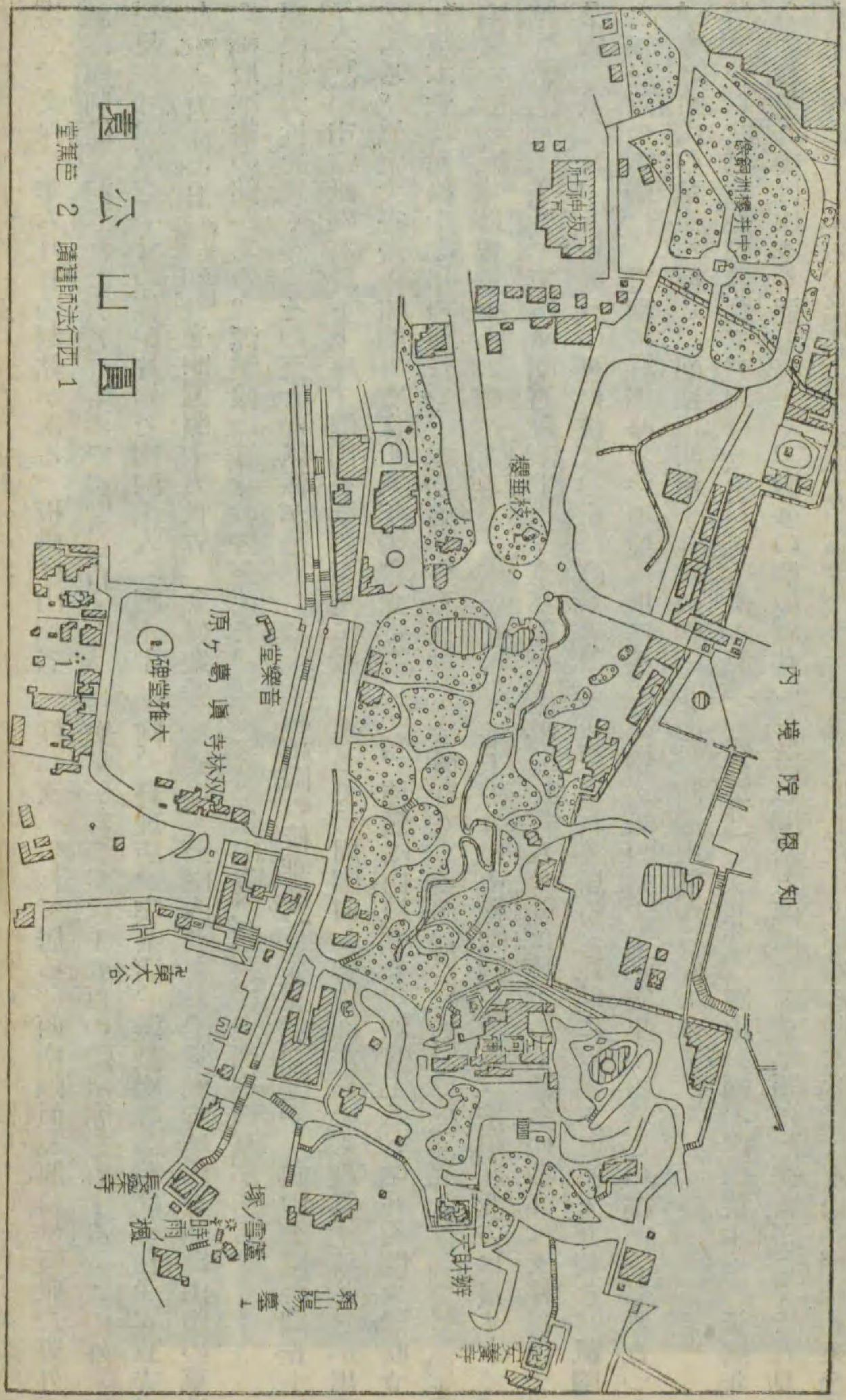
【東大谷】　市電祇園石段下下車、圓山公園の東南に接してある。眞宗大谷派の祖廟で寬文十八年の創立である。現本堂は元祿十七年の造營で、本堂前から東へ進み石段を登つた處に親鸞上人の廟がある。

【圓山公園】〔指定名勝〕市電祇園石段下下車、京都第一の公園と云はれ、八坂神社の東に位し、南は高臺寺、北は知恩院の廣濶にして而も綠樹亭々たる境內地に接し、東は東山の翠峯を擁し、面積は明治十九年公園となつてから次第に擴張されて、現今九、七六〇アールを算する。林泉の美は四季を通じてよく、數多の櫻樹は花時夜景が殊によいから、夜櫻を賞する士女が雲集する。

名高い枝垂櫻は中央の小高い圓丘上にあり、幾多の支柱に支へられて居る。西南隅眞葛原には優雅な野外音樂堂があつて、千五百の聽衆席を有する。この外、四阿、料理店、喫茶店、遊戲場等が設けられ、安養寺、長樂寺も公園內にあり、長樂寺境內東北部山腹の墓地には、賴山陽、賴三樹三郎等の墓がある。

【祇園の枝垂櫻】〔指定天然記念物〕　圓山公園の圓丘上にあつて、周圍何れの方面からでも觀賞することが出來る。種類は白枝垂で、四月七八日頃花を開き、咲立ては微紅であるが、後には眞白になる。幹の高さ一〇米、地上一米半の幹圍約三米八、技張は北方に最もよく、根元から八米餘に達する。數多の技條は支柱に依つて支へられて居る。花期には樹下で篝火を焚き、祇園の夜櫻と云つて士女が雲集する。この櫻が著名になつたのは明治中期からだと云ふ。

【雙林寺】〔天台宗〕　圓山公園の南に接する。延曆年中最澄の開基と傳へ、天正年間には秀吉がこゝで花見の遊を催したことがある。本堂には木造の藥師如來坐像



「國寶」を安置して居る。本堂の傍に平康頼、西行、頓阿の墓が竝んであり、寺の南入口に近く西行庵がある。茅葺の雅致ある小庵で、壇上の厨子に西行、頓阿の二木像を安置して居る。庭内の西行櫻の下で毎年四月十五日に花供養が行はれる。

また庵の西隣に芭蕉堂があり、こゝで十一月十一日芭蕉忌が修せられる。尙堂の北に池野大雅の碑がある。

【將軍塚】 圓山公園長樂寺東方の山上にある。桓武天皇平安奠都の時、王城鎭護のため、勅して長さ八尺の武將の像を造り、甲冑を着せ、弓箭刀仗を帶ばせて、西向に埋めさせられたと云ふ。爾來天下に變亂が起らうとする毎に、この塚が鳴動して前兆を示すと云ふ。世に坂上田村麻呂の墓と誤信するものがある。

★【八坂神社】「官幣大社」 市電祇園石段下下車、境内は圓山公園に隣接し、祇園町の北側にある。當社は祇園社、牛頭天王また武塔天神とも云つたが、明治元年改めて八坂神社と稱した。貞觀年中播磨の廣峯から移し祀つたと傳へ、素盞嗚命、稻田比賣命、八柱御子神が祀られて居る。藤原時代既に二十二社の一に加へられて朝廷の尊崇厚く、特に疫疾流行の事があれば奉幣せられ、その後武家の崇敬も厚く屢々その寄進を受けた。神紋は窠。例祭六月十五日。七月十七日から同二十四日に至る間には有名な祇園祭が催される。

現在社殿の主なるものは本殿、拜殿、南樓門、西樓門等であるが、西樓門を除き何れも江戸時代の建築である。

西樓門「國寶」 元來は脇門であるが、交通上の便利から現今はこの門より參拜するものが多い。卽ち四條通の東端、祇園石段下で電車を降ると、高い石段の上に優美な丹塗の樓門が建つて居るのがそれである。三間一戸、屋根は切妻造本瓦葺、構造形式は室町時代に屬し、形狀のよく整つた建築である。左右の袖は大正年間に新しく補つたものである。

本殿「國寶」 承應三年に四代將軍德川家綱が古式によつて再建したのである。桁行七間、梁間六間、單層

屋根は入母屋造、檜皮葺であるが、左右及び背面の廂は別に檜皮葺の廂屋根を出し更に前面と後面に中央三間の向拜を附して居る。平面及び立面共に特殊の形狀を有し、祇園造と稱されれて居る。古傳によるともとの本殿は紫宸殿を模したと稱し、或は攝政藤原基經の邸宅を模したとも云ふが、兎に角神社建築に宮殿建築の俤を遺した特殊の建築である。柱、枅組、棰等は内外共すべて朱塗、正面向拜の蟇股には中央には龍、左右には獅子と虎の丸彫極彩色の彫刻を加へ、手挾には菊と牡丹極彩色の華麗な彫刻がある。

末社蛭子社社殿〔國寶〕　西樓門と本殿の中間にある小社で、一間社流造の左右及び後面の三面に廂を附した珍奇な形式を有する。正保年間の建築で、本殿と共に祇園造の部類に屬すべき神社建築である。

石鳥居〔國寶〕　正面南樓門の前方にあり、その形式は明神鳥居に屬し、正保三年に建立されたもので、柱間約八米、高さ約九米半、笠石兩端の反も美しく、權衡を得て安定の姿を有し、現存せる我が國石鳥居中最大なるものと云ふ。

寶物には左記のものがある。

一狛　犬〔國寶〕　一對
木造で麻布を張り、漆箔彩色の精巧な作である。社傳には運慶の作、頼朝の寄進と云つて居るが、鎌倉時代の寫實風を存する優秀な作で、本殿内中陣の左右に置かれて居る。

一祇園社繪圖〔國寶〕　一幅
紙本著色、隆圓筆、紙背に元德三年辛未十二月云々とある。鎌倉末期に於ける當社の狀態を徵すべき資料である。

一鷄圖　衝立仕立　圓山應擧筆　一基

一祇園社務家日記〔國寶〕　七冊
紙本墨書、恩賜京都博物館出陳

【祇園祭】〔七月十七日から二十四日まで〕　八坂神社の祭ではあるが、京洛を擧げての一大祭として名高い。先づ七月十日に御輿洗の儀と云ふのを行ひ、十六日夜は宵山とて賑ふ。祭の當日十七日は午前中鉾六本、山棚十三基の行列、午後神幸式があり、何れも古例に倣ひ盛觀を極める。二十四日には前記と同一祭式にて午前中九基の山棚行列があり、午後神輿還幸がある。兩日巡幸する鉾六本、山棚二十二本は何れも裝飾の方法に定式があり、十一日頃から組立てゝ各擔當の町内に立ててある。

この祭は貞觀年間に疫病流行の際疫神の退散を祈る爲め、祇園の神輿を神泉苑に奉じ、鉾を立てゝ疫神を祀りしに始まつたと云ふ。後大嘗會の標の山などに倣ひ、作山を曳き渡す事も始まり、次第に趣向をこらし、今日見る如き華麗なる山車を各町から出すやうになつた。山車には山と鉾の二種ある。その山鉾の行列は十七日には午前九時頃四條東洞院に集合し、年々抽籤によつて定められた順序によつて、祇園囃を奏し乍ら四條通を東へ、寺町通を南へ、松原通を西へ、東洞院に巡行する。同日午后四時頃からは神幸祭が執行され、神輿三基が四條寺町東の御旅所へ安置される。二十四日には先の祭と同樣午前九時頃三條烏丸に集り、三條通を東へ、寺町通を南へ、四條通を西へ、四條烏丸で解散する。當日もこの巡行の後、神輿の還幸式を執行して祭を終る。山鉾に懸けられる織物は精巧華麗なもので、オランダあたりから輸入されたいはゆる古渡のゴブラン織などもある。昔は上皇、后宮の御覽あり、聖上は紫宸殿に御して御覽ありしことあり、また攝關大臣及び將軍は、棧敷を構へてこれを見物したものである。

【仲源寺（目疾地藏）】〔淨土宗〕　市電四條大橋下車、四條通大和大路東にある。天平十三年の建立と傳へ、本尊は目疾地藏と稱し、一切の眼病平癒に效ありと信ぜられて居る。また一に雨止地藏とも云ふ。寺寶中に木造の千手觀音坐像〔國寶〕を藏して居る。

【南座】　市電四條大橋下車、東山區四條通にある。創立は元和年間で既に三百十數年を經、七つの櫓と呼んだ當時の劇場中唯この座のみが殘つて、日本最古の劇場たる誇を有つて居るのである。現在の建物は昭和四年の建築に成り、敷地面積二〇アール、建坪延七〇アール、地階とも全六層、櫓を有する破風造、鐵骨鐵筋コンクリート建築で、舞臺は間口約一九米、奥行約一五米、高さ約七米、廻り舞臺は大廻り直徑約一三米、

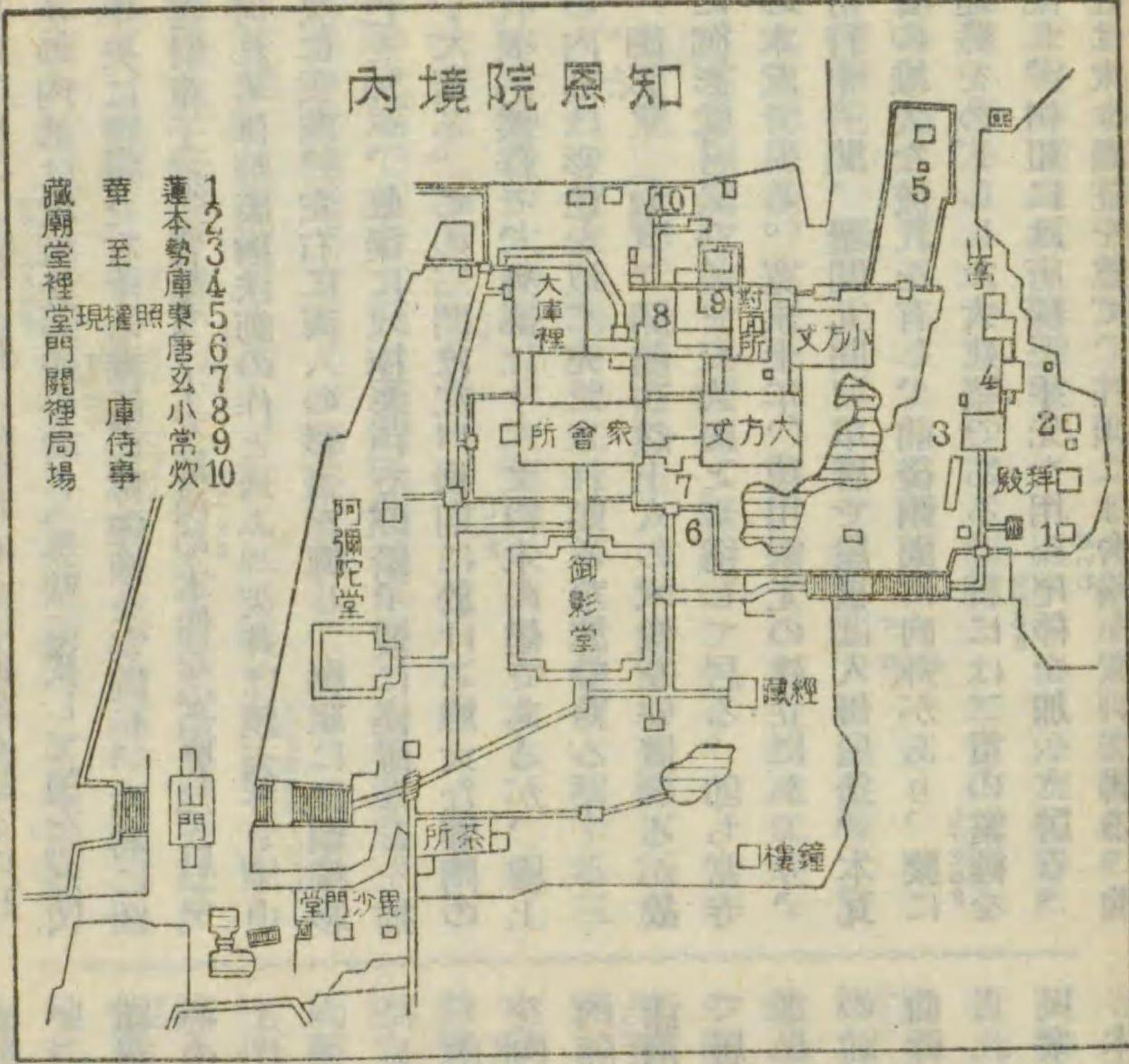
小廻り直徑一〇米、花道は長さ約一八米、幅一三〇糎、觀覽席は一二三階定員千六百十二人である。松竹の營業に屬し、十二月の顏見世狂言には東西の名優を集めて上演することゝなつて居る。

【都踊】（歌舞練場）市電四條大橋下車、祇園新地花見小路の歌舞練場に於いて、毎年四月一日から月末まで催される舞踊で、京都名物の隨一とされて居る。明治五年京都で博覽會が開かれた時、万亭の主人杉浦氏が舞踊の師匠達と謀りて、新に一種の踊を工夫させ、その年の三月假に林下町松の家席で興行したのが起原で、その翌六年には花見小路に歌舞練場を建て「都踊」と稱して興行したが大いに世上の好評を博し、爾來年年に進歩し發展して今日の盛況を見ることゝなつたのである。今の建物は檜造りの純日本式二階造で、舞臺、觀覽席、點茶席、待合席、樂屋等總建坪四三アールに及んで居る。

舞臺の構造裝置等は劇場と殆ど異なるところなく、その背景裝飾畫景は、年々新作せらるゝ踊の歌曲に因んで作られる。登場人員は地方十一人、囃方十人、踊子三十二人を一隊とし、七隊三百六十四人、七日毎に交代することゝなつて居る。踊子は華やかな揃の衣裳を著、一様の彩扇を手にし、歌曲につれてヨウイヤサと唱へながら、兩花道から練り出して舞臺に上つて舞ふ。いづれも祇園新地の若い歌妓で、歌の音色と舞の手振と背景の畫景と相俟つて、觀者を心氣恍惚の境に牽き入れる。

特等觀覽客の爲には別に點茶席の設あり、そこに案內して薄茶を點じて侑めることゝなつて居る。

★【知恩院】〔淨土宗總本山〕市電古門前下車、東山三十六峯の一、華頂山の麓にあり、東山第一の巨刹、僧源空（法然上人、圓光大師、明照大師の追謚あり）によつて開かれた寺である。上人は初め密教を學び、圓頓戒を受けたが、後支那唐代善導大師の編述にかゝる觀經疏によつて我が淨土宗を開き、藤原時代の末葉、承安年中東山の吉水に草庵を營み、盛に淨土宗を唱へた。當時關白藤原兼實のために淨土門を說き、「選擇本願念



佛集」を草して彼に授けた。本書は今日尙淨土門の寶典として重んぜられて居る、爾來當寺は淨土宗の總本山として今日に及んで居る。本宗に屬する僧侶は一萬六千餘名、信徒は二百八十八萬餘を算すと云ふ。

現在の寺域諸堂は德川氏の歸依によつて始めて整備したもので、三門、御影堂、大方丈、小方丈、經藏、阿彌陀堂、勢至堂、唐門、集會堂、鐘樓等を具備し規模宏壯を極めて居る。

三門〔國寶〕新門より入り廣き馬場を過ぎ、高き石段を登り詰めた所に高く聳え立つて居る。この三門は元和五年に德川秀忠の建立にかゝり、五間三戸の樓門、入母屋造、本瓦葺、兩袖に山廊を有する大建築で、江戸初期に於ける最大なる樓門である。柱は上部に粽を有する雄大な圓柱で、石製礎盤の上に建つて居る。桝組は唐樣で下層は二手先詰組、上層は三手先詰組を用ゐ、軒は下層二重繁棰、上層二重扇棰を使

用して居る。上層は腰に高欄を有する廻縁をめぐらし、その內部は拭板敷の床を有し、奧壁に接して壇を設け、中央に寶冠を有する華嚴の釋迦像を安置し、左右には善財童子、須達長者、十六羅漢の木像を安置して居る。何れも佛師康猶法師の作と云ふ。天井は鏡天井で、中央に雲龍、左右に天人の彩畫を施し、桝組には繧繝彩色を加へ、虹梁には極彩色で麒麟、波に怪獸などを描いて居る。この三門は江戸初期に於ける雄大な寺門の代表的傑作で、外部はすべて白木の儘であるが、樓上の內部は彩色を以て充たされ頗る華麗である。

御影堂〔國寶〕　開祖法然上人の木像を安置せるが故に御影堂と云ひ、また大殿とも稱して居る。卽ち當寺の本堂である。寛永十年、德川家光の建立にかゝり、桁行十一間、梁間九間、單層で屋根は入母屋造、本瓦葺の雄大な流れを有し、前後兩面に向拜があり、腰に廻縁をめぐらした大建築である。軒には二重の繁棰を配し、桝組には唐樣三手先を用ゐ尾棰を加へて居る。柱は太き圓柱を建て、柱頭には台輪を置いて居る。前面の向拜は桁行五間、桝組は出三斗を用ゐ、方柱を建て、桝組の中間には蟇股を置き、手挾には雲龍、天人、蓮華等の雄大な彫刻を施し、後面の向拜は桁行三間、その手挾には菊、牡丹、楓、鳳凰などの彫刻がある。これ等の彫刻はその作孰れも優秀であるが、彩色は無い。尙左右の破風內にある牡丹の彫刻はその規模雄大にして、桃山式豪華な氣分を現して居る。

內部は正面三間通りを外陣となし、後方十一間六面を內陣とし、內外兩陣は上蔀戸を以て仕切られて居る。內陣の中央四間四面を內々陣となし、後方の四天柱は漆箔を貼し、內に宮殿を置き、法然上人の像を安置して居る。宮殿は屋根を除き殆ど全部漆箔を施して莊嚴されて居る。宮殿の前面には案上に三具足を置き、その前に禮盤があり、更にその前には曲祿がある。この曲祿は僧侶が參詣の諸人に向ひ說法する時の用に供せられるものである。要するに本堂は江戸初期に於ける民衆的佛殿の代表的遺構である。

本堂正面東南部の軒裏には知恩院の時雨の傘と稱するものがある。雄與上人がこの傘に南無阿彌陀佛の六字を書いて白狐（濡髮童子）に與へ、白狐は人間界に化生し得ることゝなつたので、報謝として當山に遺し留めた防火の咒であると云ふ俗說がある。

阿彌陀堂　御影堂の西にあり、五間六面、重層、屋根は入母屋造、本瓦葺で、明治四十三年の建立にかゝり、本尊阿彌陀像を安置して居る。

集會堂　御影堂の後方にあり、御影堂から廊下が通じて居る。寛永年間の建立で、俗に千疊敷と稱する三百六十疊敷の大建築で、大集會の道場である。

大方丈〔國寶〕　集會堂の東方に連つて居る。寛永十年の建築で桁行九間、梁間六間、單層、入母屋造、檜皮葺の大建築、玄關、步廊が附屬して居る。正面中央の軒端には唐破風を造り、軒には二重の疎棰を配して居る。軒廻りはいづれも舟肘木を冠せる面取方柱を立て、周圍には簀子緣、廣緣がある。內部は表裏二區に別かれ、更に各區が四室になつて居る。各室の仕切には主として襖を立てゝ居る。中央正面を佛間とし、その東に上段の間、中段の間、下段の間がある。上段の間は構造最も精緻にして頗る華麗である。天井は二重折上げ小組格天井、奧壁に接して大床がある。床の西脇には違棚、袋棚等を設け、違棚の右横前には帳臺飾がある。床の壁には金粉地に李白觀瀑の圖が描かれ襖及び帳臺には山水が描かれて居る。中段の間は上段の間より一段低く、天井は折上げ格天井で襖には山水、支那人物等が描かれて居る。下段の間の襖には山水人物、鶴に乘れる仙女、秋草などが描かれて居る。上段、中段の間の繪は狩野尙信の筆と傳へ、下段の間の繪は狩野信政の筆と稱して居る。中央の佛間には阿彌陀佛の立像及び天皇、后妃、法親王の尊牌三十七基、德川氏歷代の靈牌十三基を安置して居る。佛前の間は疊五十四疊を敷く大廣間で、襖には金地に大なる松と鶴を描き鶴の間と稱し、筆者を狩野尙信と傳へて居る。裏側に廻ると宮樣得度の間がある。襖及び床の壁には金地に梅、竹を描き、その構圖、色彩に尙桃山式の特徵を殘して居る。

庭園は大方丈と小方丈の間にあり、小堀遠州の作と傳へ、東山の麓を利用して作庭した遠州好みの右廻り廻遊式庭園で、二つの池泉を中心に石組の妙と刈込の美を併せ用ゐて居る。

小方丈〔國寶〕 大方丈の東北に南面して立ち、大方丈とは歩廊を以て連つて居る。これも寛永十年の建築、五間五面、單層、屋根入母屋造檜皮葺の書院造で、その構造は大方丈によく似て居る。即ち外廻りには板引戸と明障子とを併用し、更に廣縁と各室との仕切には舞良戸を用ゐて居る。内部は六室に別れ、壁、襖には主として水墨の山水を描いて裝飾して居る爲め、大方丈に比べると、その内部が瀟洒輕妙の感に富んで居る。要するに大方丈、小方丈は何れも江戸時代初期に於ける完備せる方丈建築の代表的遺構である。

唐門〔國寶〕 本堂の後方東寄りにある。寛永十年の建築、四脚の唐門で、屋根は入母屋造、檜皮葺、前後に唐破風がある。梁上には大瓶束を立て、蟇股を置き、桝組は三斗を用ゐ、親柱は圓柱、脚柱は角柱である。尚蟇股内と大瓶束左右の笈形にも優美な彫刻がある。

經藏〔國寶〕 御影堂の東南、高き石壇の上に建つて居る。元和五年の建築、方五間、重層、尾根は寶形造本瓦葺である。上層は三間三面二重の扇棰を配し、下層は唐様出三斗を組んで居る。内外の仕切には正面及び左右兩側面共に中央一間に棧唐戸、兩脇の間には火燈窓、後面は中央一間を棧唐戸となし、兩脇の柱間は板壁になつて居る。内部は石敷で、天井、小壁などには伽陵頻迦、麒麟、花卉などの彩畫を以て華麗な裝飾を施し、中央に輪藏を置き、宋版の一切經五千六百餘卷を納めて居る。輪藏の正面には傅大士の像、四隅には經典守護の爲に安置された四天王の立像がある。

大鐘 經藏南方の山腹にある鐘樓にかゝつて居る。寛永十三年靈巖上人の鑄造にかゝり、高さ一丈八尺、徑九尺、厚さ九寸五分、重量一萬八千貫ありと云ふ。

勢至堂〔國寶〕 本地堂とも云ひ、御影堂の東方華頂山の中腹にある。室町時代の建造物である。七間四方、單層、入母屋造本瓦葺である。軒には二重の疎棰を配し、舟肘木を冠した方柱を立てゝ居る。内部は中央三間四面を内陣となし、正面左右兩側各々二間通り、後面一間通を外陣となし、内陣の後方に須彌壇があり勢至菩薩の像を安置して居る。

圓光大師靈廟 勢至堂の東方崖上にあり、圓光大師は當山の開祖である。

この外納骨堂、華頂會館、信徒宿泊所、大小庫裡などが境内各所に散在して居る。

寶物には左記のものがある。

一法然上人繪傳〔國寶〕 四十八卷

紙本著色 傳土佐吉光筆、詞書は伏見天皇外七筆

法然上人の繪傳は國寶となれるものだけでも少くない、この繪傳は伏見天皇、後伏見天皇の勅願により土佐吉光に畫かしめられたとの傳から勅修御傳と稱し、最も著名なものである。四十八卷の内四十二卷迄は上人の託胎から小倉山建塔に至る事項を敍述し、第四十三卷以下は門弟の事蹟を敍して居る。繪は四十八卷中二百三十七段あつて、各段の繪は數人の筆者によつて鎌倉末期に描かれたものと思はれるが、何れも濃厚な著色を施して居る。足利時代に於ける土佐畫風の先驅をなすものである。殊にこの繪卷物は章段が極めて多いため、種々の光景が描き出され、或は俗里の風俗を現し、或は僧侶の生活を描き、頗る變化に富んで居る。從つて風俗史或は建築史等の參考となる點が少くない。

一法然上人繪傳〔國寶〕 一卷

紙本著色 奥に「黒谷上人繪 釋弘願」の奥書がある。

この繪卷は室町時代初期に出來た法然繪傳の一異本の殘缺で、詞、繪各十三段を存して居る。四十八卷傳に比して描寫の頗る自由素朴なものである。

一阿彌陀二十五菩薩來迎圖〔國寶〕 一幅

絹本著色、普通に早來迎とも云はれ、聖衆の駕する白雲は畫面の左上から嵯峨たる峯巒をかすめて右下へ對角線の方向をとつて殆ど逆落しに天降り來る勢を現した來迎圖で、如何にも急速切迫した情景を現して居る。聖衆は肉身も衣裳も金色で莊嚴せられ、衣には七寶文卍字文雷文等の截金文樣を施して居る。背景には爛漫たる櫻花と松の綠に彩られた山容を現し、鎌倉時代に於ける彌陀來迎の信仰をよく現して居る。

恩賜京都博物館出陳

一觀經曼荼羅〔國寶〕 絹本著色 足利時代 一幅

一阿彌陀經曼荼羅〔國寶〕 絹本著色 足利時代 一幅

右二種共に當麻曼荼羅の模寫である。

一紅玻璃阿彌陀像〔國寶〕絹本著色　鎌倉時代　一幅
　名は紅玻璃阿彌陀とあるが、儀軌に依らず、普通の朱衣金紋右肩偏袒定印の金剛界の彌陀で、周圍に種子が書いてある。彩色鮮麗宋畫の影響を受けた鎌倉時代の作品である。
一三　尊　佛〔國寶〕　金銅押出佛　奈良時代　二面
　唐招提寺、法隆寺等のものと同樣のものである。
一地藏菩薩像〔國寶〕絹本著色　東京帝室博物館出陳　一幅
一毘沙門天像〔國寶〕絹本著色　鎌倉時代　一幅
　繪畫として遺品の少ない毘沙門曼荼羅である。
一天平年間寫經生日記〔國寶〕紙本墨書　奈良帝室博物館出陳　一巻
一大唐三藏玄弉法師表啓〔國寶〕　一巻
　紙本墨書、玄弉の表啓を載錄した希覯の古抄本で、彼の事蹟を徵すべき確實な資料である。尙紙背には天平神護元年東大寺僧興顯の奧書のある華嚴八會剛目章が書いてある。この書もまた稀世の珍本であるが、表啓は更に書寫年代の上るもので、古抄本として尊重すべきものである。
一上宮聖德法王帝說〔國寶〕紙本墨書　奈良帝室博物館出陳　一巻
一蓮　華　圖〔國寶〕絹本著色　二幅
一牡　丹　圖〔國寶〕絹本著色　恩賜京都博物館出陳　一幅
一桃李園金谷園圖〔國寶〕絹本著色　同　上　二幅

【市設無料休憩所】　知恩院三門前にある。木造平家建の瀟洒な建物で、約二百人を收容し、湯茶の設備がある。團體客の休憩や中食には便利である。

【青蓮院】〔天台宗〕　市電古門前下車、粟田口町、知恩院の北隣にある。青蓮院は俗に粟田御所ともまた青蓮院宮とも云ふ。天養元年行玄大僧正の開基で、昔は寺域廣大、勢盛であつた。第三世慈鎭和尚は和歌で聞え、伏見天皇の皇子入道尊圓親王は書道に於いて御家流の源をなせる青蓮院派を開かれた。殿舍は近代のものであるが、宸殿の濱松の間の襖、壁貼付繪十七面は國寶に指定されて居る。その筆者を住吉具慶と傳へ、或は狩野壽石敦信の作ならんと云ふ說もある。頗る閑雅な桃山風の金碧畫である。この外同じく宸殿内の帝鑑の間、杉戶などにも障壁畫の見るべきものが少くない。
　當院の庭園もまた京都名園の一に數へられて居る。
　寶物には左記のものがある。
一後光嚴天皇宸筆御消息〔國寶〕紙本墨書　一幅
一光格天皇宸筆大灌頂光明眞言〔國寶〕　一巻
　紺紙金泥、巻末に次の文がある。

　文化十次癸酉歳十二月廿二日
　　大日本國天皇兼仁合掌敬白
一不動明王二童子像〔國寶〕絹本著色　恩賜京都博物館出陳　一幅
一普　賢　延　命　像〔國寶〕絹本著色　同　上　一幅

【檀王法林寺】〔淨土宗〕　市電東山三條下車、三條大橋の東にあり、栴檀王院と稱し、元龜三年袋中上人の再興である。袋中は朝鮮、琉球に弘法した傚僧で、本寺に琉球王尙寧の題贊のある袋中像がある。寺寶に七知經（天平六年寫經司門部王の奧書あり）一巻〔國寶〕がある

【寂光寺】〔法華宗〕　市電仁王門下車、仁王門通新高倉東にある。當山第二世日海は塔頭本因坊に居り、烏鷺の名手で、初代本因坊算砂と云はれた。本因坊の住職は織田、豐臣、德川三氏に扶助され、四代道策の時から江戶に常住することゝなり、その名跡は今日も存して居る。

【本妙寺】〔日蓮宗〕　市電、市バス東山仁王門下車、境内に吉田忠左衞門、その子澤右衞門、弟貝賀彌左衞門の三義士、並に貝賀の妻おさんの四名を合葬した墓や義士寶物館及び京都義士會がある。

【粟田神社】　市電平安神宮前下車、南へ半粁、粟田口町にある。素盞嗚命、大國主命を祭神とし、十月十五日の例祭には劍鉾十二本を樹てゝ壯觀である。

【岡崎公園】　市電東山二條または平安神宮前下車、岡崎町にある。往昔院政時代に建立された大伽藍六勝寺（法勝寺、尊勝寺、成勝寺、延勝寺、最勝寺、圓勝寺の六寺、何れも勝の字を帶びて居るから云ふ）のあつた所で、明治三十七年公園地に指定、大正三年平安神宮の境内地の一部を編入し、現在面積約八六アールである。大禮記念京都美術館、公會堂、府立圖書館、記念動物園、商品陳列館等を有し、東北の一角約三四アールの平坦地は運動場となり、野球、庭球等を行ふに適する。

【記念動物園】　岡崎公園の東南部にある。大正天皇が未だ東宮であらせられた時、御成婚御慶事記念として設置したもので、明治三十六年四月一日開園した。園内には櫻樹、楓樹があり、噴水があり、花時、夏期には夜間も縱覽を許して居る。

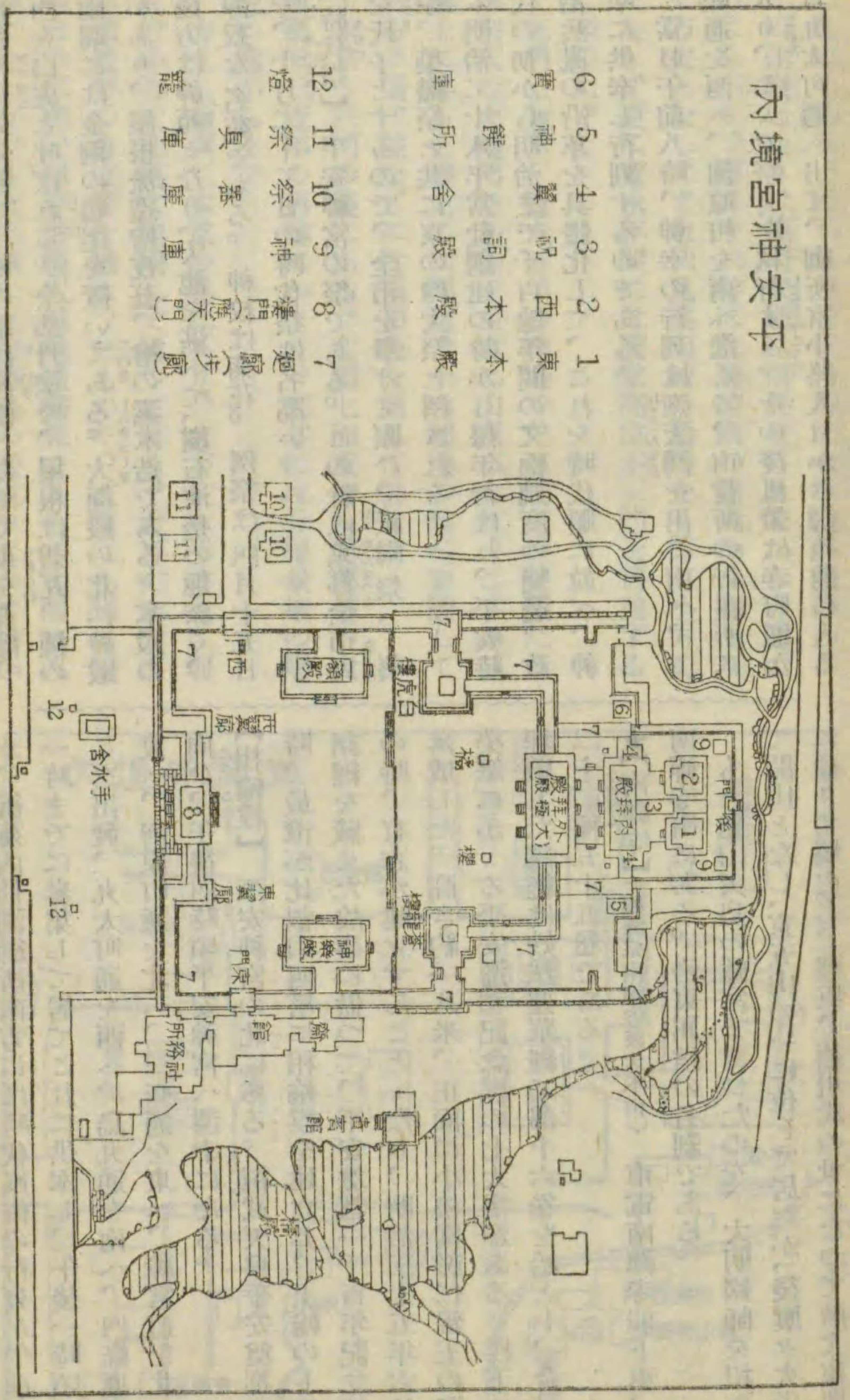
【府立圖書館】　岡崎公園の西南部にある。明治初年に設けられた集書院の後身で、明治四十二年落成開館式を擧げた。三層の煉瓦造で、藏書十萬册を超え、江戸日記、記錄、古文書、古版畫等もある。本館入口の東南に吉田松陰詩碑、北に織物、製陶等に改良を加へたドイツ人ワグネルの記功碑がある。

【公會堂】　岡崎公園の西南にある。大正天皇御卽位式の時の大饗宴場の建物を京都市に下賜されたので、公會堂を建設することゝなり、大正六年六月竣工したのであるが、先年風害によつて大損傷を受けたので取壞ち、更に壯麗豪華なる大公會堂を建設すべく計畫中である。

【大日本武德會本部】　市電熊野神社前下車、平安神宮の西隣にある。桓武天皇が大内裏に武德殿を設けて大いに武藝を奬勵されたことを追念し、明治二十八年に有志が相謀つて武德會を設立し、私に武德殿と呼ばれる演技場を建設した。構内に武者溜、弓術道場、武道專門學校もある。毎年五月四日から約一週間平安神宮で武德祭を施行し、同時に全國の武術家を武德殿に會して、各種の武技を演じて神靈を慰め且つ斯道を奬勵する。武德會の支部は全國に數十箇所ある。

★【平安神宮】〔官幣大社〕　市電平安神宮前下車、岡崎公園の北に接する。明治二十八年京都市にて平安奠都一千一百年祭を擧ぐるに際して、桓武天皇の宏謨を追慕し、天皇を祭神としてこの神社を創建したものである。昔大内裡の造營に當り、天皇が最も宸念をとめられた大極殿と應天門とを二分の一に模造して、夫々拜殿、神門に充てゝ居る。今般更に孝明天皇を新に合祀し奉ることゝなり、孝明天皇御本殿、並に桓武天皇御本殿と共に、境内各神社の御造營工事を行ひ、昭和十五年十月十九日盛大なる御遷座御鎭座祭が擧行せられた。

應天門を入ると約七〇米で龍尾壇に達する。東西八〇米餘、朱欄を設け左右の石階から昇降される。南庭を隔てゝ大極殿がある。その構造は宸殿造で、桁行三〇米あり、殿の兩方は歩廊で長さ各二〇米、更に南に



折れて二五米延び、その端は高樓となつて東を蒼龍、西を白虎と呼ばれる。全部丹塗で、屋根は碧瓦、棟の兩端には金銅の鴟尾を置いてある。大極殿の北に神殿があり、屋根流造檜皮葺、檜の素木造である。本殿の後方は神苑となり、大池を湛へて、樹石清楚の趣深く、靜寂な名苑である。神紋は菊花。例祭は四月十五日で、十月二十二日の時代祭は名高い。

【時代祭】平安神宮の祭である。この社は京都全市民を氏子とするので、全市を擧げて賑ひ、祇園祭、葵祭、染織祭と共に京の四大祭と稱される。

明治二十八年當社創建の時から毎年行はれ、平安時代の初から明治まで千百餘年間の文物制度の變遷、政治兵亂の沿革を具體化して、これを時代順に竝べ、神幸に供奉し行列するのである。

當日午前八時、神幸の行列は應天門を出て南へ、二條通を西へ、河原町を南へ進んで、市役所の行在所に入り、こゝで祭典を執行する。その後鳳輦は寺町通から丸太町通へ出て、御所富小路入口から御苑内に入るが、御苑內仙洞御所南方には時代風俗の行列が午前十一時までに參集して居てこれに供奉し、午後一時頃こゝを出發、丸太町通を西へ、烏丸通を南へ、四條通を東へ、河原町通を北へ、三條通を東へ、神宮道を北へ向ひ、午後四時頃平安神宮へ還幸になる。

【相輪樘】平安神宮の北にある。桓武天皇平安奠都の時、最澄が比叡山西塔に相輪樘を建立し、上輪の下に諸經を藏めた故事に倣つて、平安奠都一千百年記念祭の時、有志が建立することゝなり、明治三十五年六月落成した。高さ約一八米、正面に小松宮彰仁親王の御染筆にかゝる平安遷都記念樘の七大字がある。樘下に埋藏した諸經は妙法蓮華經二部十六巻を始とし、合計二十二種五十五巻である。

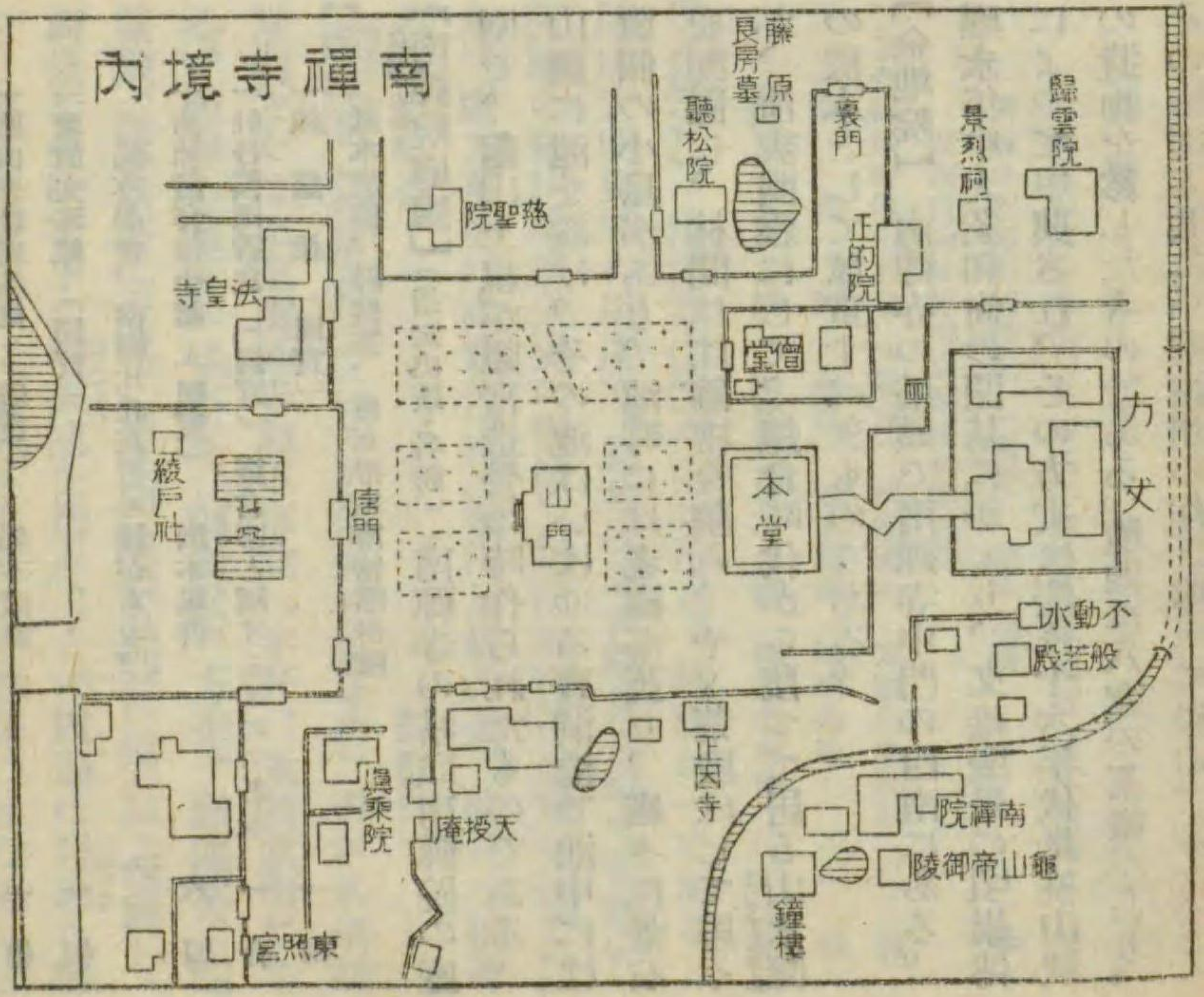
★【南禪寺】〔臨濟宗南禪寺派大本山〕 市電南禪寺前下車、南禪寺町にある。洛東屈指の名刹である。

もと龜山天皇の離宮であつたのを、大明國師を招きて開山となし、京五山の一に位して居たが、後屢々火災に罹りて燒亡し、豐臣、德川氏の世になつて漸次復興したのである。卽ち江戸時代の初め金地院の崇傳がこの住職となり、德川家康に信任せられてから寺運大いにあがり、慶長十六年には清涼殿の舊建物を賜はりて方丈となし、また伏見桃山城の舊殿をも得て小方丈となし、更に寛永年間には藤堂高虎が三門を再建するに至つた。

三門〔國寶〕寛永五年の建築で、五間三戸純然たる禪宗式の大樓門である。左右に山廊があり、こゝから樓上に昇ると樓上には釋迦、十六羅漢の像が安置してある。梁、柱などには極彩色を施して居る。

本堂 三門の後にある。七間七面重層入母屋造の大建築で、近年の再建にかゝり、天井には今尾景年の蟠龍の繪がある。

方丈〔國寶〕本堂の奧にあり、大方丈と小方丈に別れ、小方丈は奧に接續して建つて居る。大方丈は天正年間造營の清涼殿を賜はつたもので、正面は九間、側面は十二間、單層屋根入母屋造柿葺である。內部は八室に分かれ、各室の襖には狩野派の畫家によつて描か



れた極彩色の繪があり、その畫題によつて麝香の間、二十四孝の間、鶴の間、鳴瀧の間、柳の間などの稱がある。

小方丈は一名虎の間とも云ひ、六室に別れ、その三室の襖には金地に竹林群虎の圖があり、國寶に指定されて居る。筆者は寺傳によりて狩野探幽と稱して居る。筆力雄健にして生動の氣に溢れ、金色と緑青の對照に極めて豪華な桃山式裝飾美を現して居る。

寶物には左記のものがある。

一大明國師像〔國寶〕　一幅
　絹本著色、平田和尙の贊がある、大明國師は南禪寺の開祖である。
一南院國師像〔國寶〕　一幅
　紙本著色、慶長十六年の作、南禪寺の二世で後陽成天皇の贊がある。
一釋迦十六善神像〔國寶〕　一幅
　絹本著色、大和繪風のもので截金が使つてある。鎌倉時代。
一佛涅槃圖〔國寶〕絹本著色、室町時代　一幅
一江山漁舟圖〔國寶〕絹本墨畫、蔣三松筆　一幅
一藥山李翶問答圖〔國寶〕絹本淡彩　一幅
一聖僧文珠像〔國寶〕　一幅
　絹本墨畫、南禪比丘正澄の贊がある。
一淸涼殿拜領由緒〔國寶〕紙本墨書　六幅
一牡丹模樣香盒〔國寶〕鎌倉彫と稱するものである　一合
一達磨像〔國寶〕　一幅
　紙本墨畫、祥啓筆、東京帝室博物館出陳

【南禪院庭園】〔指定史蹟・名勝〕南禪寺の塔頭南禪院の庭園で、龜山上皇が離宮造營の時作られたものである。山麓に池を設け、その池はいはゆる曹洞池で池中には數個の小島があり、池畔には老樹が茂り、處々に景石を配置し、林間には鐘樓を望み、やゝ荒廢はして居るが、淸爽幽雅にして、鎌倉時代から殘つて居る山水園の標本として尊重すべきものである。

【金地院】南禪寺の塔頭で南禪寺中門の西南にある。應永年中大業和尙の開基にかゝり、文祿慶長の頃崇傳によつて中興され、その方丈は慶長十六年伏見桃山城の遺物を移したものである。境內に八窓の茶室があり、その庭園と共に小堀遠州の作と傳へて居る。

方丈〔國寶〕桁行十一間、梁間七間、單層、屋根は入母屋造杮葺で、棟高く、屋根の流れ急にして外觀の頗る豪壯な建築である。柱は方柱を建て前面及び左側面には廣緣があり、廣緣と落緣との界には敷居を設け明障子を建てゝ居る。內部は禪宗の方丈に通有な形式で上中下の三區に分れて居る。中區の奥に佛壇がある。各室の襖障子には金地に極彩色の華麗な裝飾畫が描かれて居る。狩野派畫家の描いたもので桃山式氣分の溢れた佳作にして狩野元信、探幽、尙信、雪信等の筆と傳へて居る。

尙庭園の後の丘上には東照宮がある。金地院の管理に屬し、社殿の形式は權現造で拜殿は黑塗、本殿は朱塗、枡組には極彩色を施せる江戸時代の建築である。

寶物には左記のものがある。

一林道春及五山衆試文稿〔國寶〕六曲屛風　一雙
　紙本墨書、慶長十九年
一濃比須般國への返書案〔國寶〕　一幅
　紙本墨書、崇傳筆
一本光國師日記〔國寶〕紙本墨書　四十六册
一異國日記〔國寶〕紙本墨書　二册
一異國渡海御朱印帳、異國近年御書草案〔國寶〕紙本墨書　一册
一異國日記御記錄雜記〔國寶〕紙本墨書　一册
　左記寶物は恩賜京都博物館出陳
一秋景雪景山水圖〔國寶〕絹本著色　傳徽宗皇帝筆　二幅
一山水圖〔國寶〕紙本墨畫　傳明兆筆　一幅
一山水圖〔國寶〕絹本墨畫　傳高然暉筆　二幅

【天授庵】南禪寺山門の南に位し、塔頭の一である。開山大明國師の塔所で、林泉は淸爽幽雅を以て名高い。所藏の細川幽齋夫妻の畫像二幅は國寶に指定されて居る。南方墓地に幽齋夫妻、梁川星巖夫妻、横井小楠等の墓がある。

【禪林寺（永觀堂）】〔淨土宗西山禪林派總本山〕市バス永觀堂前または市電南禪寺前下車北へ半粁、永觀堂町にある。現存の堂宇には本堂、御影堂、方丈、釋迦堂、瑞紫殿、講堂等がある。堂は山腹の高地に位して西面し、淸泉を受けて下に辨天池を造り、その周邊に岩垣と稱する楓樹が多い。紅葉の名所として錦繡の秋の美しさ

が知られて居る。

寶物には左記のものがある。

一藥師如來像〔國寶〕 絹本著色 鎌倉時代 一幅
一釋迦十六善神像〔國寶〕 絹本著色 室町時代 一幅
一阿彌陀如來二十五菩薩來迎圖〔國寶〕 絹本金彩 一幅
一當麻曼荼羅緣起〔國寶〕 一卷
　紙本墨書 弘長二年十一月廿日證惠の奥書あり
一二十五菩薩來迎圖繪扉（善導大師厨子扉） 十二枚
　左記寶物は恩賜京都博物館出陳
一山越阿彌陀如來圖〔國寶〕 絹本著色 傳惠心僧都筆 一幅
一釋迦三尊像〔國寶〕 紙本淡彩 元信筆 一幅
一融通念佛緣起〔國寶〕 紙本著色 傳光信筆 二卷
一釋迦十大弟子像〔國寶〕 絹本著色 傳張思恭筆 三幅
一佛涅槃圖〔國寶〕 紙本著色 傳惠心僧都筆 一幅
一波濤圖〔國寶〕 紙本墨畫 十二幅
一十界圖〔國寶〕 絹本著色 二幅
　左記寶物は東京帝室博物館出陳
一十六羅漢〔國寶〕 絹本著色 十六幅
一來迎阿彌陀如來像〔國寶〕 絹本著色 一幅
一蓮花模樣磬〔國寶〕 銅造 一面

【若王子神社】 市電岡崎東天王町下車東へ半粁、永觀堂の北に隣接して居る。もと永觀堂の鎭守で、國常立尊、伊弉諾尊、伊弉冉尊、天照大神を祭神とし、天照大神の別號に若一王子の稱あるに因んで社號とした と傳へて居る。寛正中足利義政はこゝに花見の宴を催した事があり、現今も花木水石の幽趣に富み、背に控へる山丘には楓樹多く、秋季紅葉の勝區となる。また山中には瀑布數多懸り、夏季散策者が多い。

【如意ケ岳】 東山の首峰で銀閣寺の東に聳え、中腹上に大文字送り火を點ずるから、俗に大文字山と云ふ。海拔四六六米。往古山上にあつた如意寺は樓門の瀧一名如意瀧の傍に當ると云ふ。この瀧の北の谷は談合谷と呼ばれ、俊寛僧都の山莊のあつた所で、その址は二段の平地をなし、畑跡の如きものが見える。この山莊は平家討滅の密謀が凝された所である。談合谷へは鹿ケ谷町靈鑑寺の南にある小徑から入るがよい。

【大文字送火】 盂蘭盆會の行事でもと七月十六日に行つたが、今は八月十六日に改めた。傳說によると、往

昔この山麓にあつた淨土寺が火災に罹つた時、その本尊阿彌陀如來がこの峰頭に飛び上つて大光明を放つたから、爾後盂蘭盆會の精靈送火をなす毎に、この光明に象つて山上に火を點ずることゝなり、いつしか更に大の文字に更めたと云ふ。今存する大字は足利義政が相國寺の僧横川景三に託して復舊させたものだと云ふ。大の文字を現はすには、山の西北部に點々七十五箇所の孔即ち火床を穿ち、その距離を約三米半とし、約八〇糎の材を井桁に組んで火床に置き、午後八時頃、一齊に發火するので、火焔灼赫字畫整然として現れ、一大奇觀である。長さは第一畫が七三米、第二畫が一四六米、第三畫が一二四米ある。この域内は芝山として樹木を生育せしめない。

この大文字に倣ひ、その後左記京都の山々に左大文字（金閣寺の東北大北山）、鳥居（上嵯峨水尾山）、妙法（松ケ崎大黑天）、船形（西賀茂）などが、同夜相前後して點火される樣になつた。

【安樂寺】〔淨土宗〕 市電岡崎東天王町下車、鹿ケ谷にある。こゝの住僧で法然の弟子である住蓮房、安樂房の二僧は念佛聲明の名人で、後鳥羽上皇の宮人松蟲、鈴蟲は、その讃聲を聞いて發心して尼となつた。承元二年上皇は二僧を近江馬淵に斬らしめ、法然を土佐に配流し給うた。本堂には阿彌陀三尊の外、左脇壇に松蟲、鈴蟲の像及び法然像がある。

北の門側には住蓮、安樂の五輪石塔、また本堂前東の綠林中には松蟲、鈴蟲の五輪石塔がある。

【法然院】〔淨土宗〕 市電銀閣寺道下車、鹿ケ谷御所ノ段町、閑雅幽邃の地にある。當院は法然上人（源空）の舊址であるが、延寶年間知恩院の心阿上人がこれを再興したもので、その建築は後西天皇の皇女誠子內親王の御座所を、內親王薨去の翌年貞享元年に移したものであると云ふ。

襖壁貼附繪〔國寶〕方丈の貼附繪で、筆者を狩野永德と傳へて居るが、何れも金地に極彩色を施したもので時代はもつと降り桃山風の華麗な裝飾畫である。上の間には桐、竹若しくは松を描き、次の間には槇、海棠

を描いて居る。別に屛風に仕立てられた松の圖も國寶になつて居る。

★【銀閣寺(慈照寺)】〔臨濟宗〕 市電銀閣寺道下車、淨土寺町にある。この地は文明十二年足利八代將軍義政が隱退して、義滿の北山山莊に倣ひ別莊を營んだ所である。義政は風流韻事を事とし、點茶、品香、挿花などの宗祖と仰がれて居る程の風流將軍として知られた人で、北山の金閣に倣つて銀閣を建てたが、その竣成を見ずして薨じたのである。當時既に十二棟の殿舍と廣大な林泉が出來上り、義政は豪奢を極め、政治を他所に書畫骨董、名器珍寶を愛し、弘くこれを蒐めて只管風流韻事に耽つたのであつた。これがためいはゆる東山時代美術の盛期を現出し、我が國文化史上に顯著な影響を與へたのである。

この別莊は義政の死後その遺命によつて、義政の法名慈照院殿の名をとつて佛寺となし、夢窓國師を開山に推したのである。

當寺も屢々兵火に罹つたが、幸にして當初の銀閣と東求堂及びその林泉を殘して居る。

總門、中門を入ると左に庫裡があり、寶物拜觀の受付がある。拜觀の順序は佛堂、東求堂、茶の湯の間、弄清亭、銀閣の順となり、各堂內には寶物が陳列されて居る。

銀閣〔國寶〕文明十五年の建造にかゝり、四間三面、上下二層より成り、屋根は寶形造柿葺である。初層を心空殿、上層を潮音閣と稱し、金閣に倣つて上層全部に銀箔を押さんとしたが完成しなかつたと云ふ。

上層は方三間、棧唐戶、火燈窓を用ゐ、四方に緣をめぐらし、組勾欄があり、內に觀音像が安置されて居る。構造、裝飾、細部の手法、總て優雅淸淡、佛寺と邸宅の折衷建築で、金閣と竝んで東山時代を代表する貴重な標本である。

東求堂〔國寶〕林泉を挾んで銀閣と相對し、もと義政の持佛堂であつた。桁行前面五間、後面四間、梁間三間、單層、屋根は入母屋造柿葺である。全體に木割細く面取の方柱を建て、舟肘木を用ゐ、間仕切には舞良

戶、腰高障子を立てた瀟洒な住宅風の建築である。正面の室には義政の木像を祀つて居る。室町時代肖像彫刻の佳作である。この中に同仁齋と呼ぶ四疊半の茶室がある。義政の創意にかゝり、最初の茶室と傳へて居る。附書院、違棚を設け、天井は猿頰天井となし腰高障子を立て、室の中央に爐が設けてある。

庭園〔指定史蹟・名勝〕 相阿彌の作と傳へて居る。銀閣から見てもまた東求堂から見ても表裏なく、四方正面の庭であつて、池の中央に架せられた橋によつて統一された氣韻の高い庭である。向月臺、銀沙灘と稱する奇拔な大盛砂がある。

【眞正極樂寺(眞如堂)】〔淨土宗〕 市電岡崎東天王町下車、淨土寺町にある。當寺は藤原時代永觀年中戒算上人の開基であるが、後甚しく荒廢し、元祿年間に至つて漸く再建され、今日に至つて居る。

本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は、藤原末期の優秀な木造彫刻である。また寺寶の眞如堂緣起、普賢菩薩像は絹本著色の繪畫にして國寶に指定され、恩賜京都博物館に出陳中である。

【金戒光明寺】〔淨土宗〕 市電岡崎御坊前下車、岡崎黑谷にある。法然上人が比叡山を出でて草創した最初の寺と傳へられて居る。淨土宗の興隆と共に朝廷の歸依も厚く、淨土宗の大寺として黑谷の名を以て著はれた。現存の堂宇は何れも新しく、寺寶には國寶となれる有名な山越阿彌陀像、地獄極樂圖を描いた小屛風があるが、鎌倉時代の優秀な作で、恩賜京都博物館に出陳中である。

尙境內に熊谷堂があり、熊谷直實が剃髮の後、居住した處と傳へ、傍にある五輪塔二基は、熊谷直實、平敦盛の供養塔である。また文殊堂の杜には山崎闇齋の墓、東南には橘南谿の墓がある。

【聖護院】〔天台宗〕 市電錦林校前下車、聖護院中町にある。當院は智證大師の開基であるが、中世以降は代代法親王が住持され、明治維新までは聖護院宮と云はれ、江戶時代には修驗道の道場として名高く、本山派の山伏を支配して居た。

寶物には左記のものがある。

一不動明王立像〔國寶〕　二軀

木造、體軀肥滿矮小にして緻密な彩色を施した藤原末期の作である。

一智證大師坐像〔國寶〕　一軀

木造、康永二年八月佛師良成作にして、園城寺の智證大師像（御骨大師）を模造せしめたものである。その像背の一部分を長方形に刳り取り、その中に圓珍（智證大師）入唐求法目錄、大師自筆如意輪心中心眞言觀及び自己の願文の三文書を竹筒に收めて籠め置かれて居た。像は模造ではあるが、藤原末期の作風を存する室町初期肖像彫刻の優作である。これ等胎内から發見された三文書も國寶に指定されて居る。

一光格天皇宸筆神變大菩薩徽號勅書〔國寶〕　一幅

紙本墨書

一後陽成天皇宸筆御消息〔國寶〕　一幅

【聖護院舊假皇居】〔指定史蹟〕聖護院現在の建物は延寶年間烏丸通今出川の地からこゝに移された際、造營されたものである。天明八年正月三十日内裏炎上の際、光格天皇は當所に御避難あらせられ、寛政二年十一月二十二日まで假皇居となし給うた。また安政元年四月六日内裏炎上の際も、孝明天皇は皇子祐宮（明治天皇）と共に難を避け給ひ、同月十五日まで御駐蹕あらせられたところである。

【陽成天皇神樂岡東御陵】　市電熊野神社前の東北一粁半、淨土寺町眞如堂にある。小圓墳で外圍八角形を成して居る。第五十七代の天皇で、元慶元年、清和天皇の後を承けて卽位し給うたが、御病のため在位八年にして太上天皇となられ、天曆三年御壽八十二を以て崩ぜられた。

【宗忠神社】　市電東一條下車、吉田町神樂岡にあり、社殿二宇竝び建つて、北には天照大神、南には黑住教祖黑住宗忠を祀つてある。宗忠は備前御津郡今宮の鎭守今村宮の祠官で、文化十一年神道の一派黑住教を創めた。

【吉田神社】〔官幣中社〕　市電東一條下車、吉田町神樂岡の丘腹にある。當社の創建は淸和天皇の貞觀年中、藤原山蔭が春日神社の四神を勸請し、帝都守護の神として崇めたに始まり、建御賀豆智命、伊波比主命、天之子八根命、比賣神の四神が祀られて居る。文明年間に神職吉田兼俱が唯一神道を唱道して、大いに朝野の尊信をあつめ、吉田流神道の總家となつた。

現存の本殿は慶安年間再建の春日造で、丘腹に四社竝び立つて居る。本殿から二〇〇米程上に有名な齋場所がある。

齋場所大元宮〔國寶〕慶長六年の建築である。八角圓堂で屋根を檜皮葺となせる一種の唯一神明造で、伊勢大神宮を始めとし全國八百萬神が奉祀されて居る。棟に千木、勝男木を竝べ、もとは棟の中央に金銅の寶珠露盤を上げ、極めて珍奇な意匠を施したもので、神佛習合陰陽五行の諸說を參酌した當時の神道家の理想をそのまゝ建築に實現したものである。尙この社殿の後には神祇官八神殿の跡がある。

吉田山の大半は當社の神苑で、松柏鬱蒼として翠色滴るばかり、初夏は躑躅、晩秋は紅葉に彩られ、殊に洛北の眺望が廣い。

神紋は下藤丸、巴。例祭は四月十八日、節分の夜は參詣者群集し、齋場で厄除けの神符を乞ふ者が多い。

【京都帝國大學】　市電東一條下車、吉田町にある。本大學は明治三十年六月設立された官立綜合大學で、大正十二年以來法學、醫學、工學、文學、理學、經濟學、農學の七學部がある。

尊攘堂は大學附屬圖書館の南方にあり、子爵品川彌二郎がその師吉田松陰の遺志を繼いで、京都に尊攘堂を建てゝ蒐集して居た明治維新前後の資料を所藏する所である。

【京都帝大文學部陳列館】　國史學、地理學、美學、考古學研究の資料が蒐集されて居るが、その中最も注目すべきものは考古學の標本である。その種類二千二百餘、總數一萬二千餘點に達し、我が國に於ける考古學的博物館として學界に重きをなして居る。常時一般には公開されて居ない。蒐集品は三部に分かれ、第一部には內地と朝鮮から發見された石器時代、金石併用時代、原史時代、歷史時代の遺物が蒐められて居り、第二部には支那で發見された先史時代から唐に至る各時代の

遺物が蒐められて居る。第三部は諸外國發見の遺物で、舊新石器時代及び古代埃及希臘の研究資料が蒐つて居るが埃及の遺物は特に重きをなして居る。

【東方文化學院京都研究所】 市電銀閣寺道下車、北白川小倉町にある。昭和五年十一月の竣工にかゝり、鐵筋コンクリート白堊塗の歐洲中世寺院式に倣つた平屋建の建築である。これは學界の諸權威によりて計畫された支那を中心とする東方文化の研究並にその普及を目的とする同學院の京都研究所で、二十餘の研究室の外、講演室及び四階建の書庫、閲覽室を有し、研究の傍ら研究報告書並に東方學報の刊行等を行つて居る。

【知恩寺(百萬遍)】〔淨土宗〕 市電百萬遍下車、田中門前町にある。慈覺大師の草創でもとは今出川にあり、釋迦堂と呼ばれて居た。後醍醐天皇の御宇に惡疫が流行した時、僧空圓が念佛百萬遍を唱へて祈願し、病の終熄を見たので、百萬遍の號を賜つたと云ふ。境内に鳥居元忠、朝山日乘、土佐光起等の墓がある。

寶物には左記のものがある。

一佛涅槃圖〔國寶〕 絹本著色 一幅
一淨土曼荼羅圖〔國寶〕 絹本著色 一幅

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一蝦蟇鐵枴圖〔國寶〕 絹本著色 顏輝筆 二幅
一善導大師像〔國寶〕 絹本著色 一幅
一千體阿彌陀像〔國寶〕 絹本著色 一面

【白河】 白河は河名であつたが、今は地名にも用ゐられる。川は比叡山の南にある志賀越の山中村に發源し、如意ケ岳の溪水を容れ、白川の聚落に出で、南に轉じて南禪寺の西に至り、右折して疏水運河に入るが昔は更に南下したもので、鴨川の東一帶の地を白河と云ひ、西の洛中と相對して京、白河と並稱した。白河の流れに沿うて近江に出る道は白河越で、これから分岐して比叡山に達する白河道は、中古山法師が日吉の神輿を奉じて、朝廷に嗷訴するため屢々通行した所である。市電百萬遍下車、東行すると凡そ三〇〇米で白川の地域に入り、更に進めばこゝに產する白川石卽ち花崗岩を利用する石工の家が多く見られる。

三、叡山、鞍馬方面

【石川丈山墓】〔指定史蹟〕 叡山電車一乘寺の東一粁半、一乘寺松原町、舞樂寺山の山頂にある。扁平な自然石に「石聘君六六山人墓誌銘」と題し、寛文十二年六月の建設、文は丈山が生前野間三竹に囑して撰せしめたものである。墓碑の臺石、敷石、石階等現存し、石階の傍に門人平岩仙桂墓がある。丈山は詩仙堂に隱棲しこの地をトして生前こゝに壽壙を築いた。寛文十二年五月詩仙堂に於いて歿し、こゝに葬られた。歲九十。

【詩仙堂】〔指定史蹟〕 叡山電車一乘寺の東一粁半、一乘寺小谷町にあり、石川丈山隱棲の山莊である。白砂を敷き詰めた庭の中央に瓦葺、平屋建小樓屋を附屬した建物で、玄關、佛間、讀書の間、客間、詩仙の間等あり。詩仙の間は略々完全に當時の遺構を存し、室は四疊半敷、天井はアンペラに丸竹の竿縁天井で、四方の長押上の小壁に漢、晉、唐、宋三十六詩仙の圖像を嵌裝し、何れも狩野探幽の筆に成り、各々丈山の題賛がある。室の東側に床の間、違棚、押入あり、北側はもと壁で、前庭に向つて扇形の窓を開いて居た。今一枚嵌込の襖となつて、木製扇形に獅子に草花の透彫の窓の遺構を陳列して居るのがそれである。西側は襖で玄關次の長五疊の間に通じ、南側に明障子を立て緣側を隔てゝ庭に面して居る。緣端に擬寶珠を附した勾欄あり、また長五疊の間から緣側に出づる杉戸には蘇武の像が描かれて居る。長五疊の間の上層に中二階あり、その上層は嘯月樓と名付けられる三疊半の小室で、化粧屋根裏、四方に窓を開き眺望に適する。庭は一隅に飛泉を懸け小塔あり、瀟洒たる趣を有して居る。丈山は三河の人はじめ德川家康に仕へ大阪役に從つたが、先驅けして黜けられてから京師に屛居し、藤原惺窩の門に遊んだ。寛永十三年こゝに堂を建てゝ隱棲し、我が國の三十六歌仙に擬して支那詩仙の圖像を室內に揭げて詩仙堂と號し風月を樂しんだ。のち享保年中に靈元上皇こゝに御幸あらせられ、爾來洛北の名勝として世に聞ゆるに至つた。現時の建物は詩仙堂を

除く外は、皆後世の改築若しくは增築を經たものであるが、詩仙の間はよく寛永頃の一般住宅建築の遺構を傳へ、他の諸堂にも舊材、舊建具の用ゐらるゝものがある。丈山遺愛の陳眉公琴、竹如意、殘月硯、探幽筆丈山壽像畫幅等あり、丈山自作にかゝる扁額は表門、中門　嘯月樓等に揭げられた外凡そ十面で、これ等の遺品は每年五月二十三日の丈山忌に陳列する。

【曼殊院】〔天台宗〕　叡山電車修學院の東一粁、修學院竹の內にある。天曆年中北野天神の別當職たりしことがあり、文明年中から法親王の住持となり、竹の內門跡と呼ばれて居た。寺域閑寂人寰を絕つて居る。東に向つて四脚門を入るとやがて大書院に達する。この書院には十雪の間、瀧の間の二室があり、小書院は入込の間、黃昏の間、富士の間より成り、襖畫は狩野探幽の筆と傳へて居る。小書院の背後に八窓茶席があり、大書院の林泉と共に小堀遠州の意匠に成つたものと傳へて居る。寺寶多く、中に左記のものがある。

一後醍醐天皇宸筆御消息〔國寶〕七通　紙本墨書　一巻
一源氏物語〔國寶〕紙本墨書　三冊
　蓬生、薄雲、關屋の各卷で畊雲山人明魏の奥書がある
一後奈良天皇宸筆般若心經〔國寶〕紺紙金泥　一巻
一後土御門天皇 後柏原天皇 御歌卷物〔國寶〕紙本墨書　一巻
一古今集〔國寶〕色紙墨書　一巻
一猿圖〔國寶〕絹本著色　一幅
　附武田信玄書狀〔七月十九日附〕一通
一黃不動尊像〔國寶〕絹本著色　一幅

【修學院離宮】　叡山電車修學院の東約八〇〇米。拜觀には特別の許可が必要である。

承應年間德川家綱が後水尾上皇のために造營した離宮で、もと修學院の御山莊或は御茶屋と申して居たが明治十七年離宮となつた。總面積八萬四千坪、上、中、下の三つに分れ、三苑相通じて鼎足の形をなして居る。上の離宮最も廣くしてその位置もまた最も高く、雲母坂の丘阜に據りて前に松ケ崎の諸山を控へ、後に比叡の峻峰を負ひ、西南京都の市街を隔てゝ嵐山山脈、生駒山脈が望まれる。

下離宮　離宮の正門を入りて右折し中門を入つた處

書院の壽月觀と數寄屋の藏六庵があり、共に後水尾上皇御染筆の額がかゝつて居る。池邊にある袖形の石燈籠が林泉の景趣に風趣を添へて居る。

中離宮　もとの林丘寺の境內で下離宮の南にあり、石階を登りて右折し、御成門を入りて進めば樂只軒に至る。庭園は上手に低い瀧を造り、さゝやかな流に配するに植込、飛石、石橋、織部燈籠を以てし、水景を見せずして流の音を聞かすところに妙趣がある。

上離宮　中央に浴龍池と稱する心字池があり、配するに隣雲亭、窮邃軒、洗詩臺の建物を以てし、池中に島を築き千歲橋によつて繫がれて居る。雄瀧、雌瀧、千貫松、紅葉谷等の勝あり、四時風趣に富んで居る。

【林丘寺】〔臨濟宗天龍寺派〕　叡山電車修學院の東一粁、離宮中の茶屋の南にある。本尊は聖觀音像で鎌倉時代の優秀なものである。境內の望嵐亭からは昔は京洛內外を一眸に集め、殊に花時の嵐山を遠望するによかつたのでこの名があつたが、今は諸木繁り、堂の移建のため見えなくなつた。庭內に檜垣塔と云ふ三重塔がある、京都第一の美しい石塔として知られて居る。

寶物には左記のものがある。

一林丘寺御手鑑　附御手鑑目錄〔國寶〕紙本墨書　一冊

【赤山禪院】　叡山電車修學院の東北一粁、離宮の北隣にある。俗說に商賈保護の神と稱し、神の懸寄即ち借錢回收の信仰によつて尊信されて居る。

【蓮華寺】〔天台宗〕　叡山電車三宅八幡の東北半粁、上高野にある。寺寶の紙本墨畫山王靈驗記二巻〔國寶〕は室町時代の作で、寛文三年狩野探幽の跋があり、恩賜京都博物館に出陳中である。

庭園また見るべく、就中その奇古な形の石燈籠は、古來蓮華寺形の燈籠として、茶人の間に愛翫されて居る。

【八瀨遊園地】　叡山電車八瀨下車、高野川岸の地を占め、溫泉、プール、龍王ケ瀧、スケート場、テニスコート、花壇、飲食店等の設備がある、遊園の北隅にある小橋西塔橋を渡ると、比叡山登山ケーブル線の起點

である。

【比叡山】 京都市の東北に聳え、京都府、滋賀縣に跨る名山である。山體の大部分は古生層から成り、山頂に近い南半の山側には粗粒質黑雲母花崗岩を迸發し、將門岩は粘板質砂岩の變化したものである。最高峯は四明ケ岳（海拔八四八米）と云ひ、東は飛驒山脈、西は金剛山脈を望むことが出來る。山の東側は古杉老松蓊鬱として居るが、西側は近年植林を始めたに過ぎない。

京都方面からの登山路は三條ある。白川道は京都から北白川を經、山中越の坂路と分れて無動寺に至るもの、雲母坂道は雲母坂の峻嶮を攀ぢて直ちに四明ケ岳下に達するもの、走出道は八瀨村字走出から西塔黑谷の青龍寺に至るものである。しかし大正十五年十二月から叡山電氣鐵道が開通したから、徒歩登攀するものは極めて少くなつた。叡山鐵道の平坦線は出町柳、八瀨間、登山ケーブルカーは西塔橋、四明ケ岳間、空中ケーブルカーは高祖谷、延暦寺間である。

比叡山は平安朝の初期延暦寺が創建され、爾來法燈大いに輝き、山中寺觀僧房が多く、東塔、西塔、無動寺、横川の四區に分けられる。（延暦寺記事大津驛參照。）

【比叡山鳥類蕃殖地】〔指定天然記念物〕 京都府から滋賀縣に跨り、京都府に屬する部分を主とする。こゝに蕃殖する鳥類はきじ、やまどり、きじばと、あをばと、くわくこう、ほとゝぎす、つゝどり、あかせうびん、よたか、あまつばめ、あかげら、あをげら、きせきれい、せぐろせきれい、ひよどり、さんくわうてう、こさめ、ひたき、きびたき、おほるり、とらつぐみ、まみじろ、こまどり、うぐひす、やぶさめ、めぼそ、せんだいむしくひ、きくいただき、つばめ、こしあかつばめ、さんせうくい、もず、ごじうがら、しじうがら、やまがら、ひがら、えなが、かけす、めじろきばしり、まひわ、おほかはらひわ、ほゝじろ、その他鷹、鷲及び梟類數種である。

【三千院】〔天台宗〕 叡山電車八瀨の北五粁、愛宕郡大原村にあり、途中大原村役場まで自動車の便がある。

この地は叡山の北麓にあつて、昔は堂塔櫛比して天台佛教の一根據地であつたが、當時の古建築の今日遺つて居るのは三千院あるのみである。當院は貞觀年中僧承雲の開創、堀川天皇の頃から世々皇族相承の制となり、後醍醐天皇の朝には大塔宮御入寺あり、明治維新の際には梨本宮も居らせられたことがある。

本堂〔國寶〕往生極樂院と稱し、三間四面、單層、入母屋造、杮葺、妻入の建築で、寛和元年の建立とされて居る。外部は向拜をはじめ概ね後世のものに變つて居るが、内部は多く當初のまゝである。殊に天井は珍しい舟底形で、その板には二十五菩薩の彩畫が殘つて居る。須彌壇は甚だ低く、勾欄をめぐらし、螺鈿模樣が施されて居る。樣式は古いが壇そのものは近年作られたものである。

阿彌陀三尊坐像〔國寶〕本堂に安置されて居る。本尊の前に相竝んで坐つて居るのは觀音勢至二菩薩の像である。觀音の兩手に紫金の蓮臺を捧げ、勢至は合掌をなし、ともに日本式の正坐をした形相である。二菩薩の後に控へた本尊阿彌陀佛は上品下生の手相を示しつつ趺坐して居る。かくて組合はされた三尊一座の形相は藤原時代盛に信仰された彌陀の來迎を現したものである。その樣式は豐滿な肉取りに一種優麗な趣致を存し、よく藤原時代の特徴を示し、彫刻として來迎形の最古の遺品たるを失はない。

尙書院には慈覺大師の作と傳ふる木造の不動明王立像〔國寶〕がある。

【後鳥羽天皇大原御陵】 三千院境内の北部にある。御陵は石柵を繞らした裡に十三重の御石塔があるが、もとは法華堂であつて、大原法華堂御陵とも呼んで居る。後鳥羽天皇は第八十二代、承久の變後隱岐國刈田鄕に遷らせ給ひ、居給ふと十九年延應元年二月崩ぜられ御火葬の後仁治二年二月御骨を法華堂に納め奉つた。

【順德天皇大原御陵】 後鳥羽天皇御陵と同所で、承久の變後佐渡に遷らせ給ひ、仁治三年九月、同國眞野山の御配所に崩ぜられ、御骨は御火葬の後法華堂に納め奉つた。御陵は今十三重の御石塔婆である。

【勝林寺】 三千院の北五〇米、藤原時代の鐘を有し、

また弘安五年の銘ある石造寶篋印塔を有して居る。境内には鎌倉初期の美しい石造三重塔及び阿彌陀石佛像がある。

【來迎院】〔天台宗〕 三千院の東北半粁にあり、大原聲明の根據地で慈覺大師が支那の天台山を移して堂塔を建てた故地に、融通念佛の始組良忍が嘉保元年本院を興したのである。今はいたくさびれて居るが、本堂には藥師、阿彌陀、釋迦の木彫坐像を安置して居る。何れも國寶で藤原時代の典型的佳作である。

尙當寺には傳教大師度緣一巻〔國寶〕を藏して居るが恩賜京都博物館に出陳中である。

【寂光院】〔天台宗〕 三千院の西一粁、大原村草生にあり、山の狹間の奥、數十の石階を上つて達せられる丘腹にある。建禮門院平德子の御僑居の遺跡で、今も尙當時の遺址を留めるものとして訪ぬる人が多い。本堂の東に林泉があり、南に書院がある。近年の新築で現代畫家の筆に成る襖畫を有し、小規模ではあるが幽邃瀟洒の仙境である。境内落葉樹多く紅葉の名所とされて居る。境内の東隣に建禮門院の御陵がある。

【三宅八幡宮】 鞍馬電車八幡前下車、左京區上高野三宅町にある。世俗小兒諸病の平癒に效驗ありと信ぜられ參詣者が多い。附近にこの宮の勸請者で小野妹子の子小野毛人の墓がある。慶長年間これを發掘して石棺、墓誌銘を得た。この墓誌銘〔國寶〕は今崇道神社に藏し、恩賜京都博物館に出陳されて居る。

【實相院】〔天台宗寺門派〕 鞍馬電車岩倉の北一粁岩倉にあり、淨基の草創で、現堂宇は享保五年皇居の故殿を賜つたものである。由來門跡の住寺であつたから本堂、方丈共に幽雅で、この附近での一名勝中心地となつて居る。寺寶の中假名文字遺一册〔國寶〕は後陽成天皇の宸翰である。

實相院に屬する大雲寺の鐘樓は後水尾天皇の建立になり、その鐘〔國寶〕は銅造で內側に天安二年八月の左文銘がある。文德天皇の皇后染殿の寄進と傳へて居る。

實相院の近くに岩倉具視幽居址がある。

【岩倉具視幽棲舊宅】〔指定史蹟〕 鞍馬電車岩倉の北約一粁、岩倉門前町にある。明治維新の功臣岩倉具視が文久二年朝議の軋轢によつて勅勘を蒙り、朝廷を退いて薙髮隱居し、慶應三年勅免の令の出た日まで蟄居した處で、平屋建二棟から成り、一棟は大工藤吉の居宅を購ひしもの、他の一棟は幽棲中に增築した處で、能く舊規を存し、庭前には具視の瘞髮碑がある。具視は幕末混亂の時に際し、勅勘を蒙ると雖も、よく時局救匡の大志を捨てず、この地に隱棲の間に西鄕隆盛、大久保利通、木戸孝允等の志士と密に謀議して、維新回天の大業を翼賛し奉つたのは人の知る所である。

【心光院】〔淨土宗〕 鞍馬電車岩倉下車、愛宕郡岩倉村岩倉にある。寺寶に阿彌陀如來及兩脇侍坐像〔國寶〕三軀がある。阿彌陀像は高さ五尺六寸、脇侍は各々三尺五寸五分で、三體共寄木造であり、漆箔は後世の修補である。中尊は優麗穩雅な藤原末期の樣式を示して居るが、脇侍は頗る入念な技巧で鎌倉末期の特色を顯著に示して居る。

【栗栖野瓦窯址】〔指定史蹟〕 鞍馬電車木野下車、愛宕郡岩倉村幡枝にあり、平安朝に於いて大內裡を始め、諸院、宮屋、社寺等の用瓦を製した栗栖野瓦屋の遺址である。數箇所に散在する窯址のうち、城山丘陵に存するものに舊規の最もよく遺つて居るのを見るべく、矩形の瓦床、炕道並に火床より成つた平窯の瓦床には入窯されたまゝで搬出されなかつた製瓦の殘存して居るのも發見せられた。この窯址及び附近から出土した古瓦は鐙瓦、字瓦、平瓦、鬼瓦、鴟尾瓦、磚瓦の類に及び「栗」「木工」の窯印あるものあり、大極殿等の宮殿に用ゐられた碧瓦も發見せられた。

【貴船神社】〔官幣中社〕 鞍馬電車貴船口の北三粁、貴船村貴船山の中腹にあり、自動車の便がある。高龗神を祭神とし、歷朝炎旱霖雨には必ず當社に奉幣祈禱あらせられた。その祈晴には白馬を、祈雨には黑馬を獻ずるのが例であつたが、後世祈晴には更に赤馬を獻じた。拜殿楣上には狩野探幽畫尊澄親王書の三十六歌仙の板額が揭げてある。本殿の北約三〇〇米に龍王瀧があり外に山中には龗、不動、鼓の三瀑がある。社域老松古

杉蓊鬱として夏尚暑さを知らぬ幽邃境である。神紋三頭三巴。例祭六月一日。

【鞍馬寺】〔天台宗〕　鞍馬電車鞍馬下車、登路約一粁、鞍馬山の中腹にある。

延暦年間藤原伊勢人が堂宇を創建して毘沙門天を勸請したのに始まり、京師の北方にあるので王城の鎭護を意味し、朝野の崇敬深く、堂塔壯觀を極めたが、屢屢火災に遭ひ、現存の堂宇は明治年間の再建である。仁王門から阿彌陀堂を經て本堂に至る間には九折坂があり、本堂に近く多寶塔、觀音堂、藥師堂等がある。六月二十日の蓮華會は俗に竹切と云ひ、よく人口に膾炙され、參詣者が多い。

毘沙門天像〔國寶〕　奥の院不動堂に安置されて居る。一に鎭守夜叉毘沙門と稱し、藤原時代の優秀な作である。

銅燈籠〔國寶〕本堂の前にあるもので正嘉年間の銘あり、屋蓋の蕨手と火舍とは銅製で、その他は元祿時代の補足である。火舍には鑄出しの毘沙門天その他の佛像を現し、鎌倉時代の古雅な燈籠である。

寶物には左記のものがある。

一鞍馬寺文書〔國寶〕　紙本墨書　一卷
　建長三年十月廿三日將軍頼嗣願文
　延元元年六月廿三日新田義貞書狀
　八月十三日名和長年書狀外八通
一聖觀音立像〔國寶〕　木造　定慶作　恩賜京都博物館出陳　一軀
一黑漆劍〔國寶〕　寺傳坂上田村麻呂佩劍　一口
一劍〔國寶〕　無銘　拵三鈷柄漆鞘劍　一口
　以上劍二口は東京遊就館出陳
一鞍馬寺經塚遺物〔國寶〕
　經塚は淸原信俊が保安元年九月十一日に供養したものである。昭和六年の春發掘せられ、藥師如來坐像、聖觀音立像、經筒その他百七八十點の伴出物があつた。
一鞍馬寺經塚石寶塔〔國寶〕　一基

【由岐社拜殿】〔國寶〕鞍馬寺の入口仁王門の北にある。由岐社は天慶三年宮城北方の鎭護として建立されたものであるが、現在は慶長十五年に再建されたこの拜殿のみを殘して居る。その形式はいはゆる通り拜殿にして舞臺造をなし、その構造手法等に頗る見るべきものがある。社前の狛犬一對は石造で、今國寶となつて居る。十月二十二日の夜行はれる鞍馬の奇祭火祭は當社の祭である。

【鞍馬山】　京都北方の名山で、海拔六二〇米、頂上を大嶽峯と云ひ、老樹が繁茂して居る。山中に鞍馬寺があつて、古來修業者の登山するものが多い。

鞍馬寺本堂の西北約一粁にある僧正谷は　源牛若丸が天狗から劍擊の法を習うた所と傳へられ、山中の一靈場となつて居る。この邊一帶深山幽谷、老樹鬱蒼晝尚暗く、冷風膚に迫る仙境である。

【峯定寺】〔天台宗寺門派〕　鞍馬電車鞍馬驛の北一六粁、愛宕郡花脊村原地新田にある。

寺傳によると本寺は久壽元年僧觀空が鳥羽天皇の叡旨を奉じて創建し、千手觀音を奉安したのが始めで、平　淸盛もまた建物を寄附したと云ふ。この地は僻遠の山中にあるので中古いたく衰へ、今日は本堂、供水所、仁王門等の古建築を殘して居るのみである。

仁王門〔國寶〕三間一戸の八脚門で、貞和六年定智が堂宇を修理した時の遺物である。

本堂及供水所〔國寶〕本堂桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、杮葺で、供水所は方一間、單層、板葺である。この兩建築は貞和頃の再建で手法美はしく、特に廚子と須彌壇の裝飾が優れて居る。

十一面千手觀音坐像〔國寶〕創建當時の靈像である。佛體は素木のまゝで、衣には精細な切金文樣を一面に施したもので、その面相衣紋の作法或は切金文樣など何れも藤原時代の豐麗な趣致を存して居る。

寶物には左記のものがある。

一不動明王及二童子立像〔國寶〕　木造　三軀
一毘沙門天立像〔國寶〕　木造　一軀
一釋迦如來立像〔國寶〕　木造　一軀
　以上三點とも恩賜京都博物館出陳

【福田寺】〔曹洞宗〕　鞍馬電車鞍馬の北約六粁、愛宕郡花脊村別所にある。寺寶に花脊別所經塚群出土品〔國寶〕

を有する。經塚は礎石を以て築かれた丸塚で、その中央の小石室に遺物が納められて居たのである。これ等多數の出土品は仁平年中在銘品と略々大差のない時代のものと思はれる。

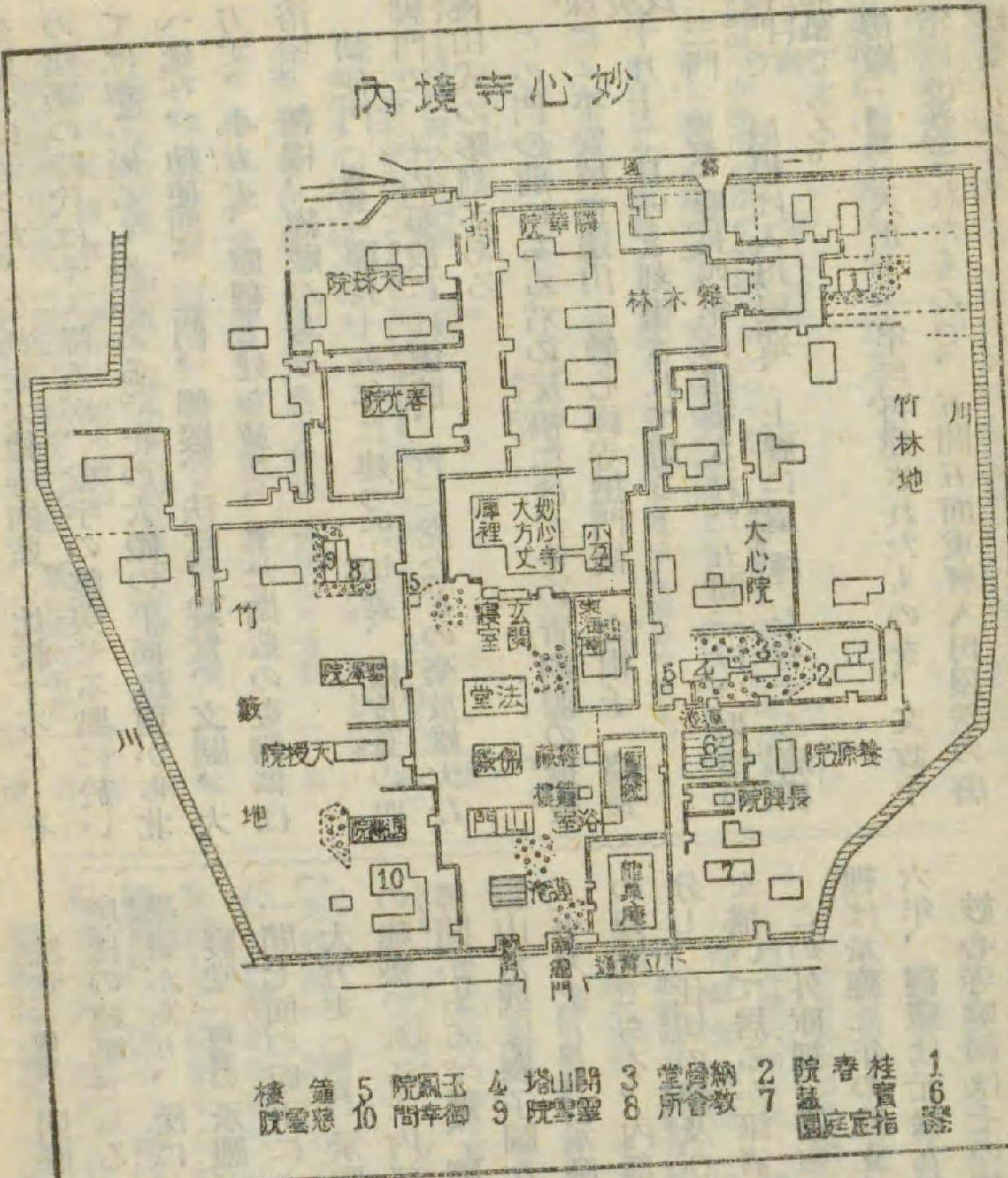
四、嵐山、三尾、愛宕方面

【等持院】〔臨濟宗天龍寺派〕　嵐山電車等持院の北半粁、等持院北町にある。興國年間足利尊氏が夢窓國師を開山として建立した寺で足利氏の廟所である。佛殿の東の影堂には尊氏以下足利歷世の木像を列べてある。寺寶の等持院繪圖〔國寶〕一幅は紙本淡彩で、恩賜京都博物館に出陳中である。尊氏の墓は高さ一米半餘の寶篋印塔で、碑面に等持院殿贈大相國一品仁山大居士　延文三戊戌年四月二十九日と刻んである。

【衣笠山】　等持院の後山で、絹笠山、蓋山とも云ひ、絹掛山の名もある。山姿豐に迫らざるものがある。

【龍安寺庭園】〔指定史蹟・名勝〕　嵐山電車龍安寺の北約一粁、花園龍安寺の方丈に附屬せる庭園で、衣笠山西南山腹の臺地にある。龍安寺は文治の頃藤原實能の別業であつたが、後文明五年細川勝元これを譲り受け、日峯を請じて建立したものである。文明年中勝元こゝに住し今方丈のある位置は當時書院のあつた所と傳へられて居る。寬政年中火災に罹り堂宇悉く燒失、現存のものはその後の再建である。

この庭園は勝元在住當時に建造されたもので、相阿彌の作と傳へ、堂宇火災の際にも變異を受けなかつたと稱して居る。庭園の形狀は長方形をなし、東西約三一米、南北約一五米、南前より西に亙り高さ約二米の低い築地塀が取り廻され、正面塀の外に松林がある。庭面は全體に白砂を敷き砂上には十五個の石が散在的に置かれて居る。園內は砂と岩石の外に一本の樹木も無いが、遠望の外景を領する點に於いて特殊の風致を呈し、頗る氣品の高いものがある。この庭に對して虎子渡の稱がある。それは細川勝元を後漢の劉昆に比してその德を頌し、石を虎に擬し、砂を河に擬し、親虎が仔虎を率ゐて河を渡る有様を現したものと云ふ。



龍安寺の塔頭大珠院址に眞田幸村の墓があり、五輪の石塔婆を建て法號を刻してある。

★【妙心寺】〔臨濟宗妙心寺派大本山〕　嵐山電車妙心寺の東南約半粁、花園妙心寺町にある。

この地は初め淸原左大臣の別業で、その後花園上皇が離宮となし、上皇退位の後深く禪宗に歸依し給ひ、捨てゝ寺とせられたが、關山國師を開山としたものである。後、應仁の兵燹に全山の伽藍は悉く失はれたが、その後また次第に再建が企てられ、江戸時代に至つて舊觀に復し、堂々たる禪宗伽藍の好典型

を見るに至つた。これを大德寺伽藍と比較すると、その建築の時代はやゝ降るが、堂宇の整美せる點に於いては寧ろ優るものがある。その大體の平面は南から北へ延び、勅使門、三門、佛殿、法堂、寢堂、玄關、大方丈、小方丈、庫裡と建ち竝び、また伽藍の東側には浴室、鐘樓、經藏がある。

勅使門〔國寶〕慶長十五年に建つた切妻、檜皮葺の四脚門で、その蟇股には雲龍、竹に虎などの豪放雄大な桃山式の彫刻がある。

この門の前にある石の反橋には、その靑銅製の擬寶珠に「平安城正法山　妙心禪寺揔門橋　金帽子　慶長庚戌十月十二日」と刻書されて居る。

三門〔國寶〕慶長四年に建築された五間三戶、朱塗の樓門で　屋根は入母屋造、上層に扇棰を有する唐樣建築である。

佛殿〔國寶〕天正十一年に再建されたものを、文政十一年に改造されたもので、五間五面重層入母屋造の唐樣建築である。

法堂〔國寶〕明曆二年に建つた七間六面重層入母屋造唐樣の建築である。堂內の天井には所謂八方睨の龍の墨畫があり、傍に「探幽法眼守信筆」の墨書がある。

寢堂〔國寶〕承應三年の建築、方三間單層の建築で、一間七面の廊下によつて法堂と連絡して居る。

大方丈〔國寶〕承應三年の建立、單層入母屋造、柿葺の建築である。內部は總て疊敷で六室に分れ、中央に佛間がある。襖、障子の繪には狩野探幽、同益信の墨畫山水或は獅子圖などがある。

小方丈〔國寶〕承應三年の建立、單層入母屋造、柿葺の建築である。內部は總疊敷で室を表裏各々三室に區分し、仕切の襖及び壁の貼付繪は主として墨畫の山水を描いて居るが筆者は詳かでない。

この外庫裡、浴室、鐘樓、經藏は何れも國寶で、庫裡は承應三年の建立、浴室は明曆二年、鐘樓は寬永十六年、經藏は元祿九年の建築である。

妙心寺庭園はその塔頭玉鳳院、靈雲院、退藏院、桂春院の庭園及び東海庵書院庭園と共に名勝・史蹟とし

て指定されて居る。また大法院墓地には佐久間象山の墓がある。

寶物には左記のものがある。

一銅　　鐘〔國寶〕　一口

寺務所の西の鐘樓にかゝつて居る。內面に「戊戌年四月十三日」云々の銘がある。狩谷掖齊の說によると、戊戌年は文武二年に當り本邦最古の古鐘で、考古學上貴重な遺品である。

一琴棋書畫六曲屛風〔國寶〕　一雙

紙本著色、「友松筆」の落欵があり、友松の作として確なものである。

一龍虎圖六曲屛風〔國寶〕　一雙

紙本著色。これも友松の筆と傳へて居るが、その門弟の筆であらうと云ふ說がある。

一虛 堂 和 尙 像〔國寶〕　絹本著色　寶祐戊午自贊　一幅

一大 應 國 師 像〔國寶〕　絹本著色　贊あり　一幅

一大 燈 國 師 像〔國寶〕　絹本著色　元德二年自贊　一幅

一花園天皇御像〔國寶〕　絹本著色後花園天皇宸筆御贊一幅

一十 六 羅 漢 像〔國寶〕　絹本著色　十六幅

一倶利迦羅龍守刀〔國寶〕　中身銘尙宗　豐臣棄丸所用一口

一小 形 武 器〔國寶〕　三　種

甲二領　冑一頭　鞁一脊　豐臣棄丸所用

一桃園天皇關山國師徵號勅書〔國寶〕　一幅

紙本墨書　寶曆六年十月二十日

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一三酸及寒山拾得圖六曲屛風〔國寶〕紙本著色　友松筆　一雙

一花卉圖六曲屛風〔國寶〕　紙本著色　友松筆　一雙

一普 賢 菩 薩 像〔國寶〕　絹本墨書　一幅

一中達磨左右豐干布袋圖〔國寶〕　三幅

紙本墨書　中文禮左右廣聞贊

一嚴子陵及虎溪三笑圖二曲屛風〔國寶〕　一雙

紙本著色　友松筆　奈良帝室博物館出陳

一呂望及商山四皓圖六曲屛風〔國寶〕　一雙

紙本著色　友松筆　東京帝室博物館出陳

【玉鳳院】妙心寺の塔頭で境內東方にあり、花園法皇がその離宮を捨てゝ妙心寺と成し給うた時、別に一院を創して幽栖せられた所で、花園天皇法衣の尊像が安置されて居る。庭園また見るべく、鐘は慶長の年號を有するが、極めて古式のものである。

開山堂〔國寶〕玉鳳院に附屬し、無相大師の像が安置

されて居る。この建物は應仁の兵火を免かれた室町初期のもので、三間四面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺の唐様建築である。

四脚門〔國寶〕應永十六年に皇居の御門を賜つたものと云ふ。慶長十五年移して開山堂の前門となした際、大修繕を加へたものと見え、桃山時代の意匠が認められる。

【靈雲院書院】〔國寶〕妙心寺の塔頭靈雲院の書院でその境内にある。寺傳に後奈良天皇御幸の間と稱し、室町末期書院造の構造様式を有する稀有の遺構である。

【天球院本堂及襖繪】〔國寶〕妙心寺の塔頭天球院の本堂で、妙心寺の裏門を入つた所にある。寺傳によると池田信輝の第三女天球院殿のために、寛永七年から十二年の間に於いて池田光政の創立したものである。桁行七間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、棧瓦葺、江戸時代方丈造の一標本で、特に玄關の肘木、大瓶束、拳鼻、金具などは、よく當時の手法を現したもので推賞に値する。

内部の襖と杉戸の圖は狩野山樂の筆と傳へて有名である。襖三十二面、戸襖二十四面には竹に虎、梅に禽鳥、籬に草花などの圖を描いたもので、金地に陽春の景を美しく現はした桃山式華麗な裝飾畫であるが、豪奢の極致を盡したものとは異なり、寧ろ簡素の小景を巧に擴大して色彩の絢爛と情趣の優婉とを現して居る。この外杉戸十六枚にも雪中梅、牡丹、盆栽などの圖を描き、その著彩も清新にして頗る優雅である。

【春光院南蠻寺銅鐘】〔國寶〕妙心寺の塔頭、春光院の本堂にある、高さ二尺三分、口徑一尺四寸五分、耶蘇教會の徽章と、西暦一五七七年（天正五年）の鑄出銘がある。徽章は周圍に光波を現した太陽形の中央にイエスの略字 IHS、その上には十字架、またその下には三本の釘を現して十字架にかけられた耶蘇を表象して居る。耶蘇教は天文年間耶蘇會創立者の一人であつたフランシスコ・ザビエルに依つて始めて我が國へ傳へられ、その後間もなく多數の信者を生じ、山口、豐後の府内等に教會堂の建設を見るに至り、京都では天正四年に南蠻寺が落成した。即ちこの銅鐘は耶蘇教が禁制される前、京都に於いて盛であつた當時の遺物である。

【法金剛院】〔律宗〕妙心寺の西にあり、承和年中清原夏野がその山莊を佛寺とし、双丘寺と稱したのがこの寺の基因で、大治五年待賢門院の中興と傳へられる。

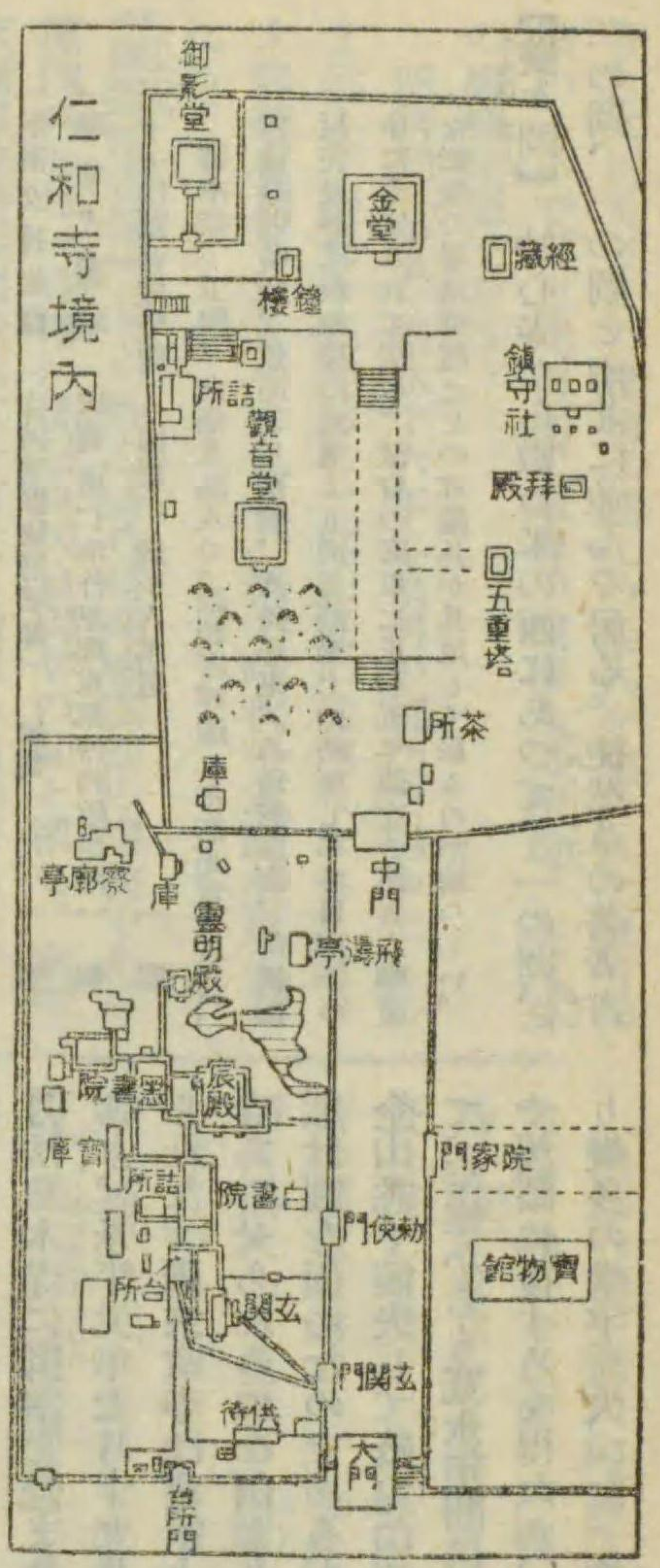
寶物には左記のものがある。

- 一阿彌陀如來坐像　〔國寶〕木造　藤原時代　一軀
- 一地藏菩薩坐像　〔國寶〕木造　一軀
- 一僧形文殊坐像　（寺傳賓頭盧尊者像）〔國寶〕　一軀
- 一蓮華式香爐　〔國寶〕傳仁清作恩賜京都博物館出陳　一個
- 一十一面觀音像坐像　〔國寶〕厨子入木造　一軀

寄木造、玉眼、白毫水晶入で、銅製唐草透し舟形光背を負ひ、六邊葺蓮華座、敷茄子、華盤、八角形束、八角形請座、胡桃形反花及び三段框座の九重より成る臺座上に趺坐して春日厨子の中に奉安されて居る。像身の底板に正和五年造立の銘ある纎麗な影像で瓔珞華鬘などの莊嚴具が具足して居るのが珍らしい。

【雙ケ岡】妙心寺から數百米の西にあつて、一の岡、二の岡、三の岡と南北に並んで居る。徒然草の著者吉田兼好はその岡の西麓に住んで居た。頂上に清原夏野の墓がある。滿山翠松繁り、古來和歌に詠ぜられたことが多い。

★【仁和寺】〔眞言宗御室派本山〕〔指定史蹟〕嵐山電車北野線御室下車御室にある。仁和寺はもと御室御所と稱し、今尙俗に御室と云ひ、宇多天皇が皇考光孝天皇の御爲に御創建遊ばされた寺で、仁和四年八月に竣工し、勅によつて大内山仁和寺の寺號を賜はつた。天皇御讓位後二年昌泰二年十月この寺で落飾し給ひ、延喜四年三月法皇本寺に御室を營ませ給ひ、爾後仙洞として御座あり、承平元年七月十九日この地に於いて崩御あらせられた。爾來當寺は皇室との關係深く、法親王の御入寺あらせられるのを例とし、朝野の尊信篤く、堂塔伽藍壯觀を極めたのであるが、應仁、文明兩度の兵火に全山悉く燒失して終つた。德川氏これを見て再建を企て、皇室からも寛永年間に紫宸殿と清涼殿を賜はり、やや舊觀に復するを得たが、明治二十五年また火災に罹り幾多の堂宇を失つた。境内は今仁和寺御所址として



指定史蹟となつて居る。

現存主要の建物は仁王門、本堂、御影堂、五重塔婆などである。

仁王門〔國寶〕五間三戸の樓門で、屋根は入母屋造本瓦葺、木割の雄大な圓柱を建て、枡組には和樣を用ゐた寛永年間の優秀な建築である。

本堂〔國寶〕仁王門を入つて正面にあり、天正紫宸殿の遺構である。七間五面、單層、屋根は入母屋造、本瓦葺で、前面に向拜を有し、佛寺式に改められて居るが、廻縁と云ひ、勾欄と云ひ、或は蔀戸と云ひ、すべて輕快優美で、よく寢殿風宮室の風格を存して居る。

御影堂〔國寶〕本堂の西にあり、本堂と共に賜はつた天正清涼殿の遺構である。方五間、屋根寶形造、檜皮葺、正面に向拜があり外部はすべて方柱を建て、舟肘木を用ゐ、頗る輕快の趣致を存し、桃山式住宅建築の餘風を示して居る。

五重塔婆〔國寶〕方三間朱塗の五層塔婆で、寛永十四年徳川氏の建つる所である。

寶物館　境内にあり、校倉式のコンクリート建築で國寶その他寺寶の主なるものが陳列されて居る。その主要なるものを次に列擧する。

一五　鈷　鈴〔國寶〕　銅造　一箇

一九　頭　龍　鈴〔國寶〕　銅造　一箇

一五　鈷　杵〔國寶〕　銅造　一箇

一三　鈷　鈴〔國寶〕　銅造　一箇

一聖　德　太　子　像〔國寶〕　一幅

絹本著色、宋畫風の描線を用ゐ、胡粉と金泥の盛上げを多く施した鮮麗なるもので、繪畫としての太子像の典型的な作品である。

一寶　珠　筥〔國寶〕　唐草蒔繪　一箇

一御　室　相　承　記〔國寶〕　紙本墨書（六卷の内）　一卷

一孔　雀　明　王　像〔國寶〕　絹本著色　傳張思恭筆　一幅

一聖敎入蒔繪箱〔國寶〕　傳僧空海將來　一箇

一尊勝陀羅尼梵字經〔國寶〕　絹本墨書　傳不空三藏筆一帖

一聖敎三十帖册子〔國寶〕　七册

紙本墨書、弘法大師筆外數筆、三十册の內。

一多　聞　天　立　像〔國寶〕　木造　一軀

彩色像で藤原時代の佳作である。

一愛染明王坐像〔國寶〕　木造　一軀

彫法精美、八角形の厨子に納められて居る。

一阿彌陀如來及兩脇侍像〔國寶〕　木造　三軀

仁和寺創建の際の本尊であつたが、本堂再建の時脇壇に安置して、別に今の本尊を新たに造つたものであると云ふ。平安時代。

一吉　祥　天　立　像〔國寶〕　木造　藤原初期の作　一軀

一聖　德　太　子　坐　像〔國寶〕　木造　一軀

玉眼嵌入の像で、肉身金泥、緋衣極彩色。鎌倉時代末期の作である。

一文　殊　菩　薩　坐　像〔國寶〕　木造　一軀

もと眞乘院の本尊で鎌倉時代の作。

一承久三年四年日次記〔國寶〕　紙本墨書殘闕　一帖

一後嵯峨天皇宸翰〔國寶〕　紙本墨書　一卷

一消　息〔國寶〕　一卷

紙本墨書、高野御室消息一通、華藏院宮法印消息一通、返事案二通合せて一卷として居る。

一別　尊　雜　記〔國寶〕　五十七卷

紙本墨書、一に要尊雜記と云ひ、高野常喜院心覺の撰述にかかり、密教に關する行法圖像を結集したものである。

【御室櫻】〔指定名勝〕御室仁和寺の境內の臺地に列植され、中門を入つて左方に多く見られる。一列約十五株、總計二百餘株ある。何れも灌木狀をなし根元からも數多の枝を生じ、樹高三米內外、地上一米半の所に花を開く。品種は概ね里櫻で、車返、有明、普賢象、鬱金

櫻及び種々の香櫻があり、花も大きく重瓣で濃艷な姿を現はす。

【了德寺】〔眞宗大谷派〕 嵐山電車北野線御室下車、鳴瀧宇多野谷にあり、一名を大根焚寺と云ふ。建長四年親鸞上人當寺に留錫した時、信者等が大根を煮て饗應したと傳へられ、附近に大根畑と云ふ地名がある。十二月九日、十日大根焚の行事が行はれる。

【常樂院】〔眞言宗御室派〕 市バス鳴瀧本町下車、鳴瀧本町にある。寺寶の釋迦如來立像〔國寶〕は寄木造で、高さ三尺二寸、朱衣に丸紋を置く。嵯峨清凉寺釋迦像の模造であり、鎌倉時代の作と見られる。

【五智山石佛群】 市バス鳴瀧本町下車、嵐山電車御室下車、鳴瀧にある。五智山はもと仁和寺の別院蓮華峰寺があつたところである。寶永十八年江戸の人樋口平太夫が單稱法師を請じて造顯した十六軀の大石佛群がある。前方に胎藏界の大日如來を中心とする丈六の五智如來を、後方に地藏菩薩を中心とする觀世音菩薩等を列べ、洛南深草の石峰寺の大石佛群とともに、本市石佛群の雙璧である。

【地藏堂】 省營自動車京鶴線御經阪下車、梅ヶ畑檜社町にある。本尊の地藏菩薩立像〔國寶〕は高さ三尺四分、一木造、その石肌を脫いで居るのは地藏像には稀に見る形相であり、平安朝初期の作風である。

★【高雄神護寺】〔古義眞言宗〕 省營自動車京鶴線山城高雄下車、右京區梅ヶ畑高尾町、高雄山景勝の地にある。神護寺は和氣淸麿の創建にかゝり、もと河內國にあつたのを天長元年この地に移し、弘法大師もこゝに住したことがあると傳へて居る。その後年久しく頹廢して居たが、壽永元年に至り文覺上人がこれを再興して頗る隆盛に赴いた。現存諸堂中最古の建造物は大師堂で、藤原時代の建造にかゝり、本堂、五大堂、山門は何れも江戶時代の再建である。

大師堂〔國寶〕 納凉房と稱し、仁安三年の建立で、後豐臣秀吉が改築したと云ふ。桁行左側四間右側五間、梁間三間、單層入母屋柿葺、屋根の勾配緩く、軒に反を有し、その形態頗る優美である。柱は面取の方柱を

建て、舟肘木を用ゐ、柱間には蔀戶唐戶を用ゐ、建立當時の形式を多分に傳へ、寢殿造の風を遺存して居る。その內陣には板彫の弘法大師像が安置されて居る。その像は右に五鈷、左に珠數を執つて禮盤上に坐した普通の姿であるが、これを板面に半肉彫とし彩色したのは珍らしい。これは正安四年佛師法眼定善が土佐金剛頂寺のものを模作したものに、法眼圓順が彩色を加へたと傳へて居るが、今の金剛頂寺のものとは別である。

本堂 近年再建されたもので、本尊藥師三尊〔國寶〕は平安時代の傑作である。

五大堂 三間三面入母屋造の建築で、藥師如來、毘沙門天等の諸像が安置されて居る。藥師の像は高さ約二尺、乾漆佛で說法の印を結んだ平安初期の優秀な作である。

多寶塔 近年建立されたもので、五大虛空藏菩薩〔國寶〕が安置されて居る。五大虛空藏菩薩は五軀とも木造の坐像で、高さ約三尺、胡粉彩色を施し、女性的美貌をそなへた平安時代の優秀な作である。

銅鐘〔國寶〕 境內の鐘樓にかゝつて居る。高さ四尺九寸二分、口徑二尺五分、古來三絕の鐘と稱し、我が國梵鐘中最も著名なものゝ一で、左の鑄出銘がある。それによると貞觀十七年和氣彝範が志我部海繼に命じて鑄造せしめたものである。またその銘文は菅原是善の作にかゝり、それを書いたのが藤原敏行である。かくの如く詩文に筆蹟に當時第一流名家の手を煩はして居るので名高い。

銘

愛當之山神護之寺　三寶既備六度無虧
唯所有梵鐘形小音　窄故禪林寺少僧都
眞紹和尙始發弘願　有心改鑄鎔範未成
衣裓早化檀越少納　言從五位上和氣朝
臣彝範悼和尙之遺　志尋先祖之舊蹤以
貞觀十七秊八月廿　三日雇冶工志我部
海繼以銅一千五百　斤令鑄成焉恐年代
久遠後人不知仍聊　記於鐘側右少辨橘
朝臣廣相之詞也
銘一首八韻

傳音在器　證果惟因　兩祖初業　厥孫聿遵　宿昔三尺
今日千斤　體有寛窄　功無舊新　山聲萬籟　谷響由旬
聞宜覺夢　扣卽歸眞　慈周世界　感及非人　雕琢勝趣
蒙叟當仁

參議正四位下勘
解由長官兼式部
大輔播磨權守菅
原朝臣是善銘
圖書頭從五位下
藤原朝臣敏行書

鐘樓の北方約三〇〇米に和氣清麿の墓がある。

高雄山はまた紅葉で名高く、わけても本堂の奥なる地藏院から見た景色は當山第一と云はれ、清瀧川を深く見下した溪谷の紅葉美は眞に見事である。寶物には左記のものがある。

一毘沙門天立像〔國寶〕　一軀

木造彩色、頗る華かな甲冑武者の姿を備へた藤原末期の精巧なる佳作で、方丈內に安置されて居る。

一神護寺繪圖〔國寶〕　寛喜二年、紙本墨書　一鋪
一高山寺繪圖〔國寶〕　寛喜二年、紙本墨書　一鋪
一寺領繪圖〔國寶〕　紙本墨書　四鋪

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一十二天像〔國寶〕　絹本著色　十二幅
一山水圖六曲屏風〔國寶〕　絹本著色　一雙
一源頼朝外三人肖像〔國寶〕　絹本著色　傳藤原隆信筆　四幅
一兩界曼荼羅圖〔國寶〕　紫綾金銀泥繪　傳弘法大師筆　二幅
一足利義持像〔國寶〕　絹本著色　應永廿一季怡雲和尚贊　一幅
一二荒山碑文〔國寶〕　紙本墨書　傳弘法大師筆　一巻
一文覺四十五箇條起請文〔國寶〕　紙本墨書、中山忠親筆、後白河天皇宸筆御跋　一巻
一文覺上人書狀案〔國寶〕　紙本墨書　一巻
一神護寺略記〔國寶〕　紙本墨書　一巻
一灌頂歴名〔國寶〕　紙本墨書　弘法大師筆　一巻

【槇尾西明寺】〔臨濟宗大覺寺派〕高雄神護寺の東北一粁にある。天長九年空海の弟子智泉の開基で、現堂宇は天祿十二年の再建である。境內幽邃寂靜、三尾の一として紅葉の名所である。

【栂尾高山寺】〔眞言宗御室派〕槇尾西明寺の北東約半粁、省營自動車京鶴線栂の尾下車、梅畑高尾町清瀧川に臨める景勝の地にあり、高尾、槇尾と共に三尾と稱し、紅葉の勝地として、世に知られて居る。

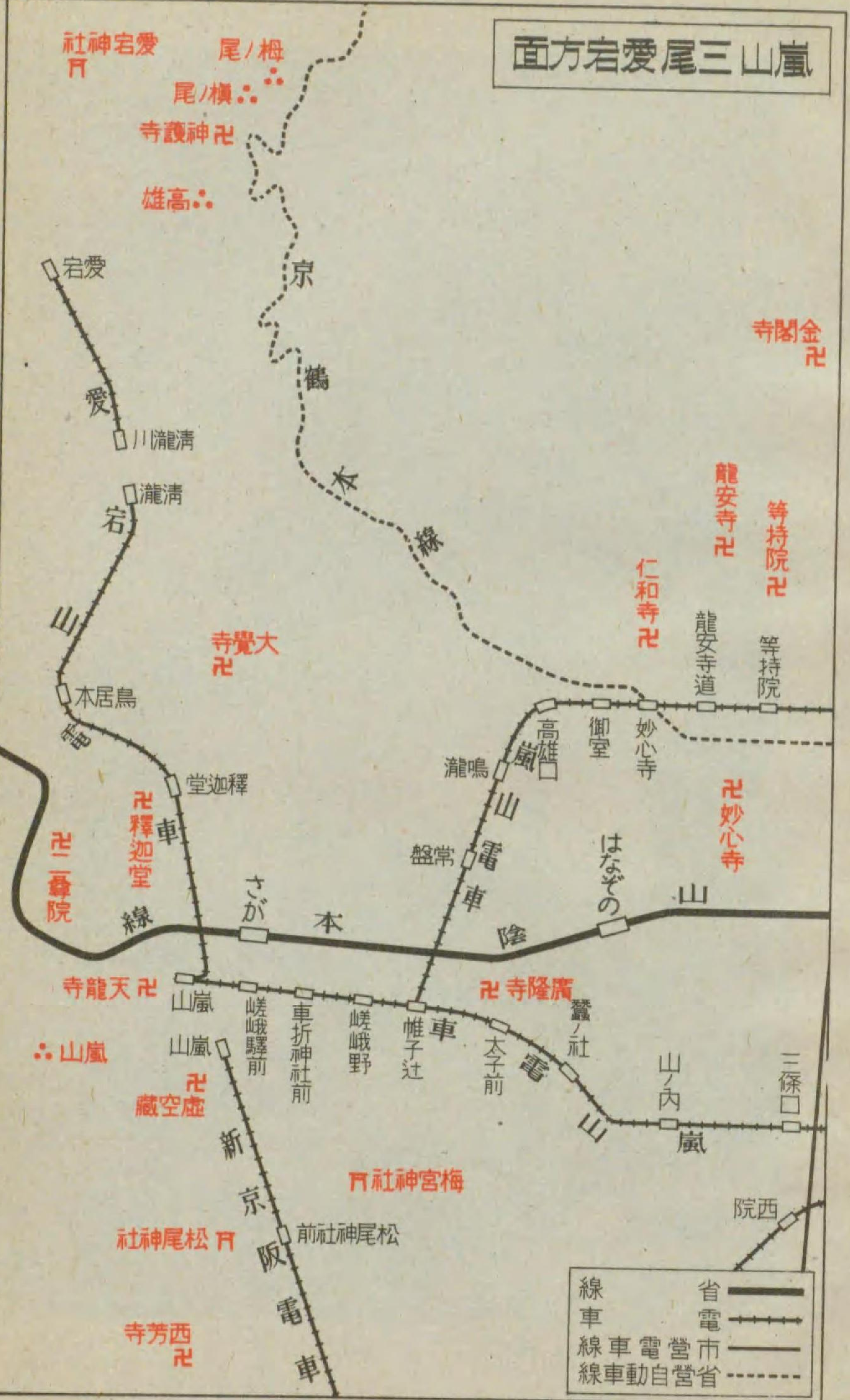
當寺は、はじめ天台宗に屬して居たが、建永年間明惠上人が再興して華嚴修業の道場となし、堂塔を修築し、高山寺と改めて以來世に顯るゝに至つた、現在古建築には鎌倉時代の石水院あるのみである。

五所堂〔國寶〕もと賀茂にあつた後鳥羽天皇の御學問所石水院を貞應三年に御下賜になつたものと云ふ。堂は桁行五間、梁間右側三間左側四間、單層屋根は入母屋造柿葺である。正面に一間の向拜を附し、周圍に廻緣をめぐらし、柱は何れも方柱にして大面をとり、軒廻りは何れも舟肘木を用ゐ、蟇股の形狀も頗る優美で鎌倉時代の風格を存して居る。內部は寢殿造の形式で、中央三間一面を身舍とし、周圍一間通を廂の間となし、身舍は左右二室に別れて居る。天井は合掌形をなせる板天井で甚だ珍らしい。全體としてはよく鎌倉初期寢殿造の形式を存する貴重な遺構である。

★寶物には左記のものがあるが何れも恩賜京都博物館出陳中である。

一獸　畫〔國寶〕　傳鳥羽僧正筆、紙本水墨　四巻
一將軍塚繪巻〔國寶〕　傳鳥羽僧正筆、紙本水墨　一巻
一不空三藏像〔國寶〕　絹本著色　一幅
一佛眼佛母像〔國寶〕　明惠上人贊　絹本著色　一幅
一華嚴緣起〔國寶〕　紙本著色　六巻
一菩薩像〔國寶〕　寺傳彌勒菩薩像　絹本著色　一幅
一文殊菩薩像〔國寶〕　絹本著色　一軀
一藥師如來坐像〔國寶〕　乾漆　一幅
一冥報記〔國寶〕　唐の唐臨撰　紙本墨書　三巻
一玉篇〔國寶〕　紙背に明惠上人の書畫あり　紙本墨書　一巻
一篆隸萬象名義〔國寶〕　紙本墨書　六册
一彌勒上生經〔國寶〕　石川年足筆　紙本墨書　一巻

【天塚古墳】　嵐山電車蠶の社の西南半粁、太秦松本町にある。田圃中に南面して橫はる前方後圓墳で、長徑八〇米、封土二段に築成せられ、もと湟があり、また埴輪を繞らした痕跡がある。前方部の幅著しく廣く、石室は後圓部の西側に入口を開き、なほ別に中央くびれ部に南西面して別の石室がある。何れも橫穴式で今共に內部に稻荷を祀つて居る。明治二十年頃發掘せら



れ、鏡、玉類、馬具等を出した。

★【廣隆寺】〔眞言宗御室派〕嵐山電車太子前下車、太秦蜂ヶ岡にある。

當寺は推古天皇の三十年秦川勝が聖德太子の御菩提を弔ふ爲に創建し、新羅、任那の二國が獻じた佛像を安置したものと傳へられて居る。今樓門の前に塔の心礎を有し、もと法隆寺式の伽藍配置を有した、弘仁、久安年間に再度炎上し、その後保元年間に藤原信頼が再建に着手し、永萬元年に落成した。現在の講堂はもと金堂であつたもので、この外に建長三年の建築にかゝる桂宮院本堂があるが、太子堂、仁王門は江戸時代の建築である。

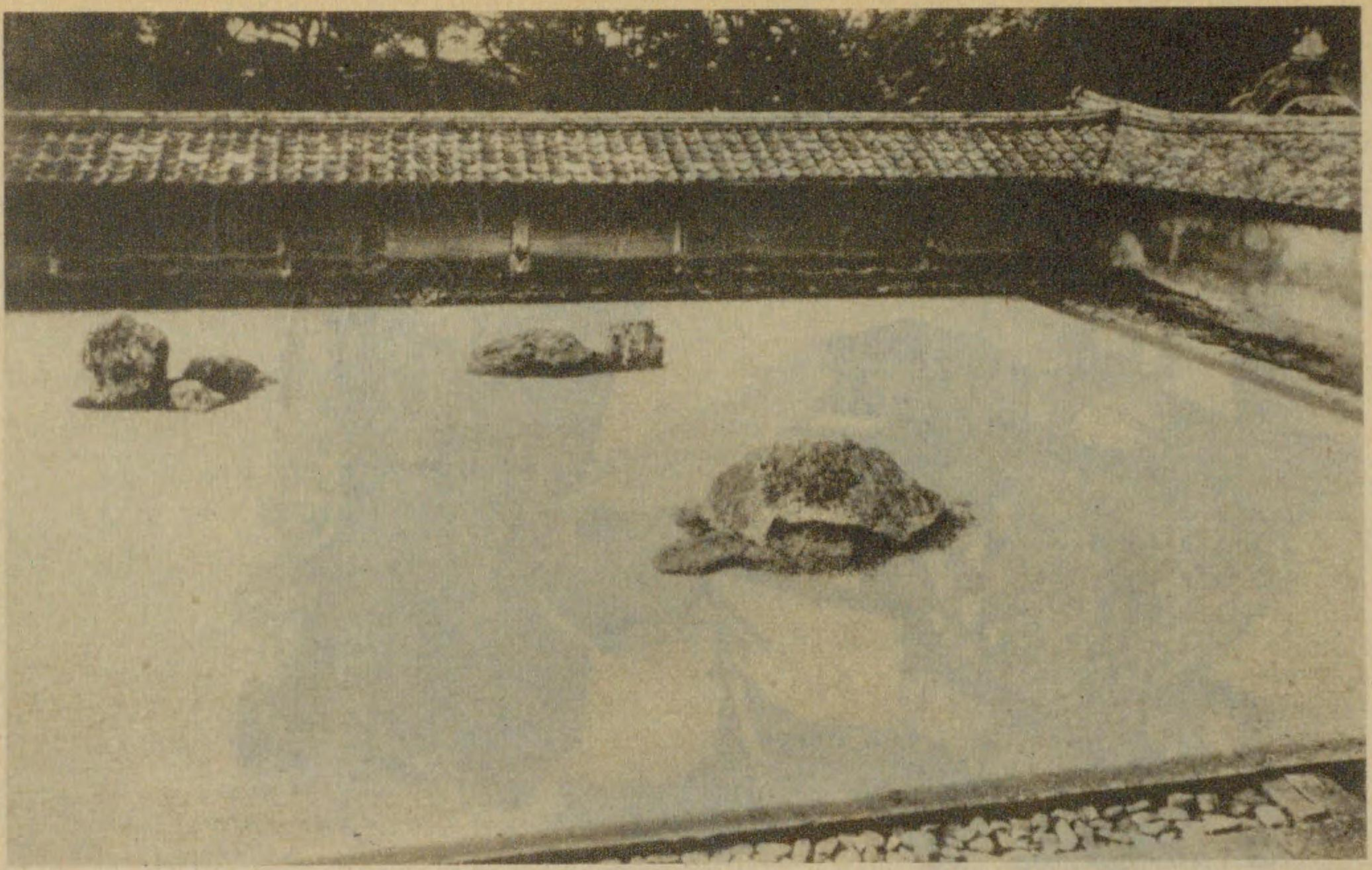
講堂〔國寶〕永祿の修補で五間四面、單層屋根四注造、本瓦葺朱塗の建築で、棰は二重、枡組は和樣出組を用ゐ、中備に高い斗束を配し、內部は二重虹梁を架し、天井は化粧屋根裏となし、何れもよく藤原時代の手法を傳へて居る、床は漆喰叩きで、中央須彌壇上には本尊阿彌陀如來坐像、その左右に地藏菩薩と虛空藏菩薩の坐像が安置されて居る。何れも木造、平安時代の優秀な作で國寶に指定されて居る。この外堂內西北隅に千手觀音像〔國寶〕がある。平安朝初期の巨像で高さ約九尺に達して居る。また東北隅には不空羂索觀音立像〔國寶〕がある。平安初期の作風を存する巨大な像で高さ一丈餘に及んで居る。

上宮王院　太子堂とも稱し、講堂の後方にあり、聖德太子半跏像〔國寶〕が安置されて居る。堂は享保年間の再建にかゝり、外陣は宸殿風の建築である。

桂宮院本堂〔國寶〕奧の院とも稱し、太子堂の西方に離れて建つて居る。桂宮院は聖德太子の創建と傳へて居るが、この堂は鎌倉時代に建築された八角圓堂である。單層檜皮葺で頂上に寶珠を載せて居る。八注の屋根はその勾配極めてゆるく、軒に反ありて、優美輕快なる形狀を保つて居る。組物は三斗を用ゐ四面に出入口を開き板扉を設けて居る。

堂內には聖德太子像の外、傳百濟國貢獻の如意輪觀音半跏像〔國寶〕、塑像の彌勒菩薩坐像〔國寶〕、木造

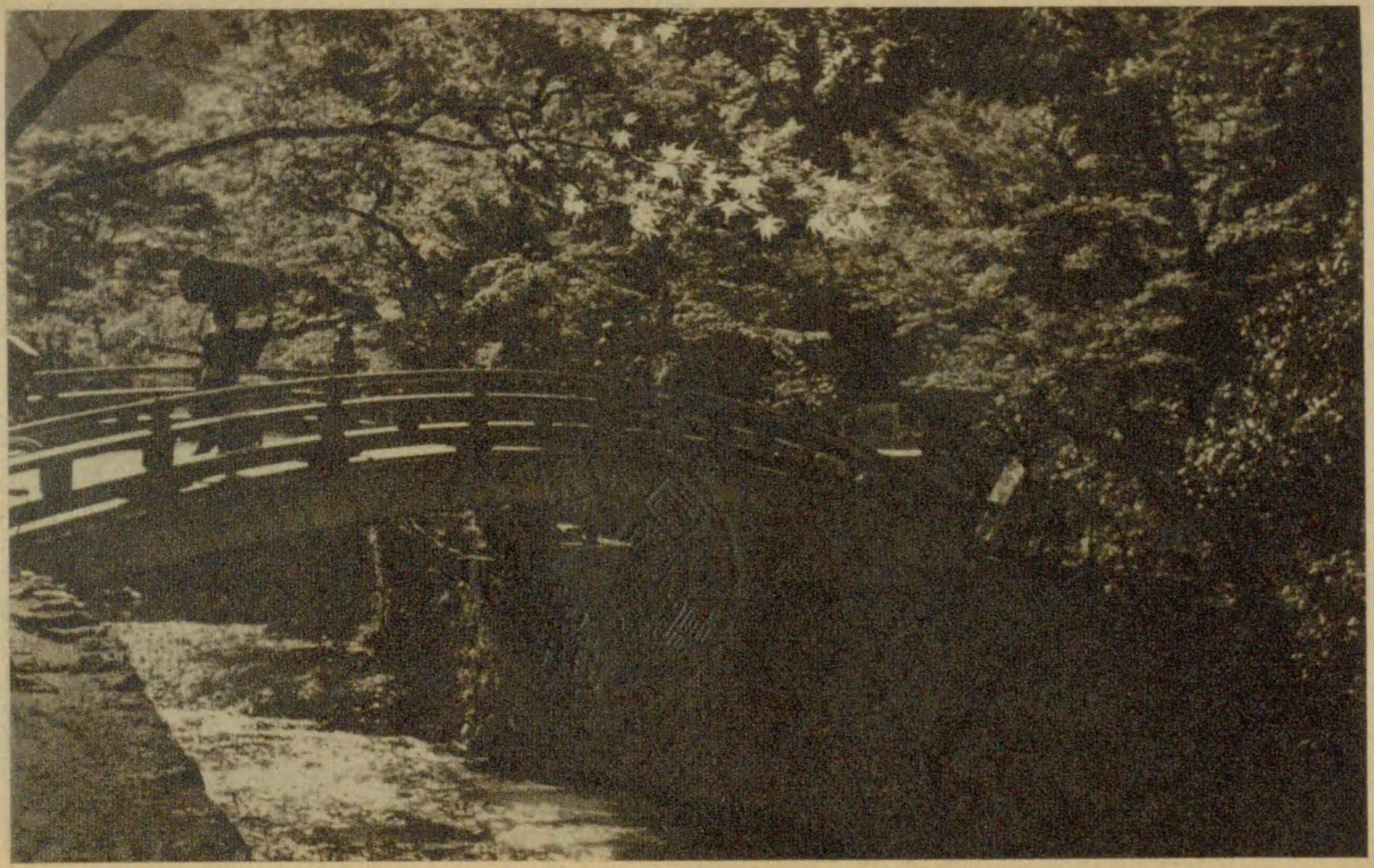
三九　大原女



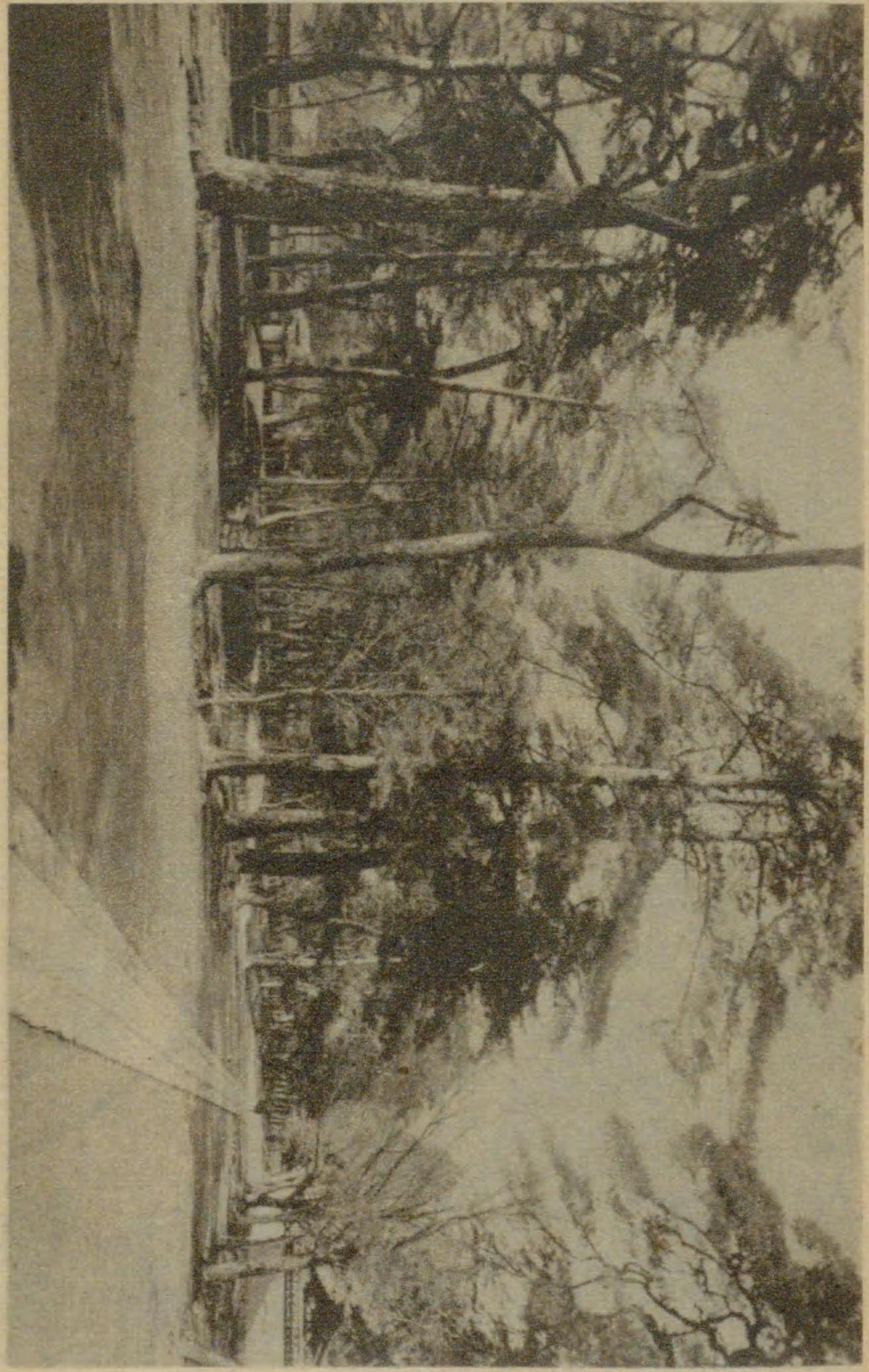
四〇　龍安寺庭園

四一　妙心寺天球院襖繪

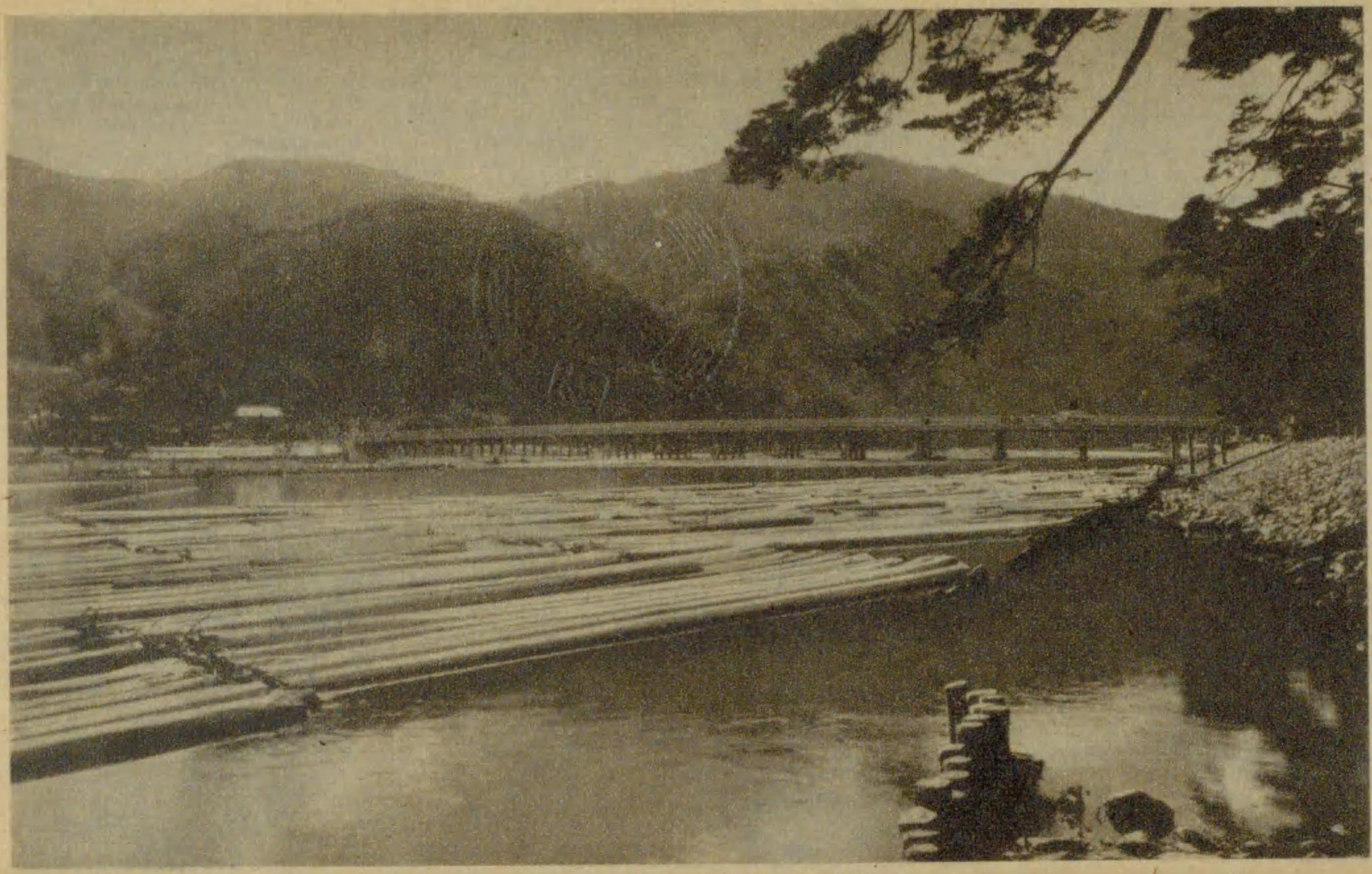
四二　仁和寺の櫻


四三　高雄の紅葉

四四　廣隆寺如意輪觀音像



天龍寺境内　四五



四六　渡月橋

四七　嵐山

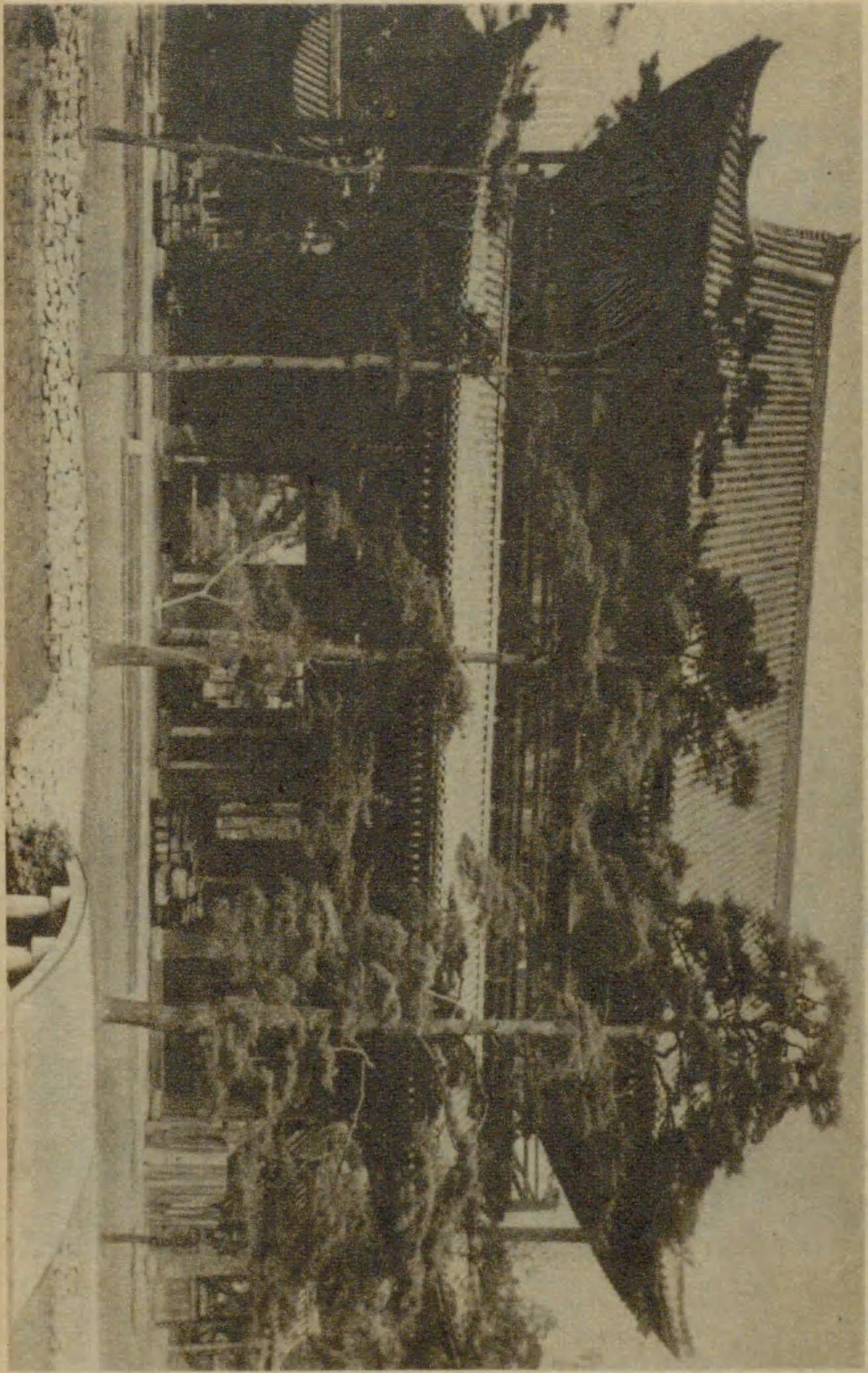
四八　松尾神社男神像

四九　西芳寺湘南亭

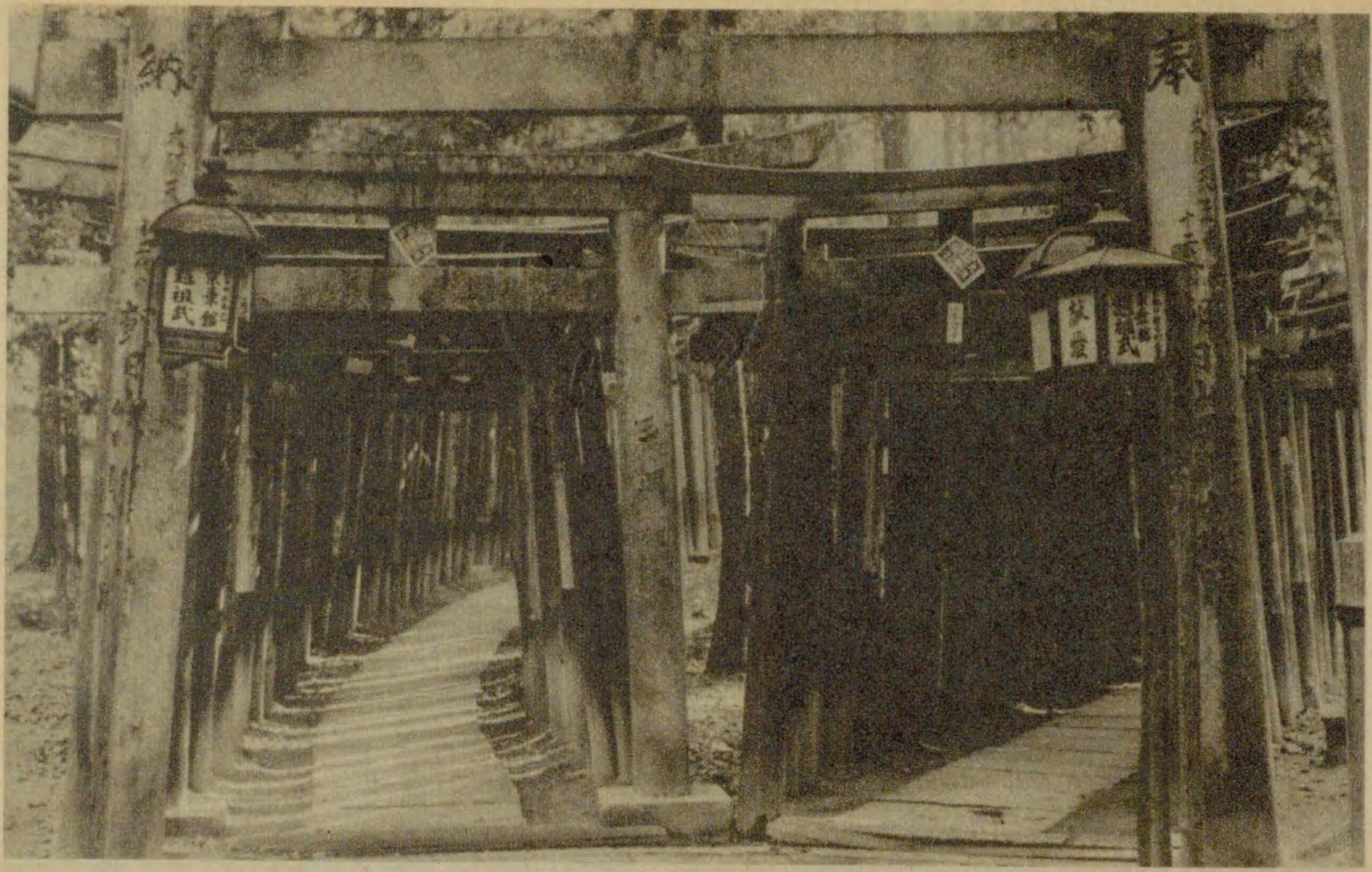
五〇　清涼寺釋迦像

五一　大覺寺襖繪

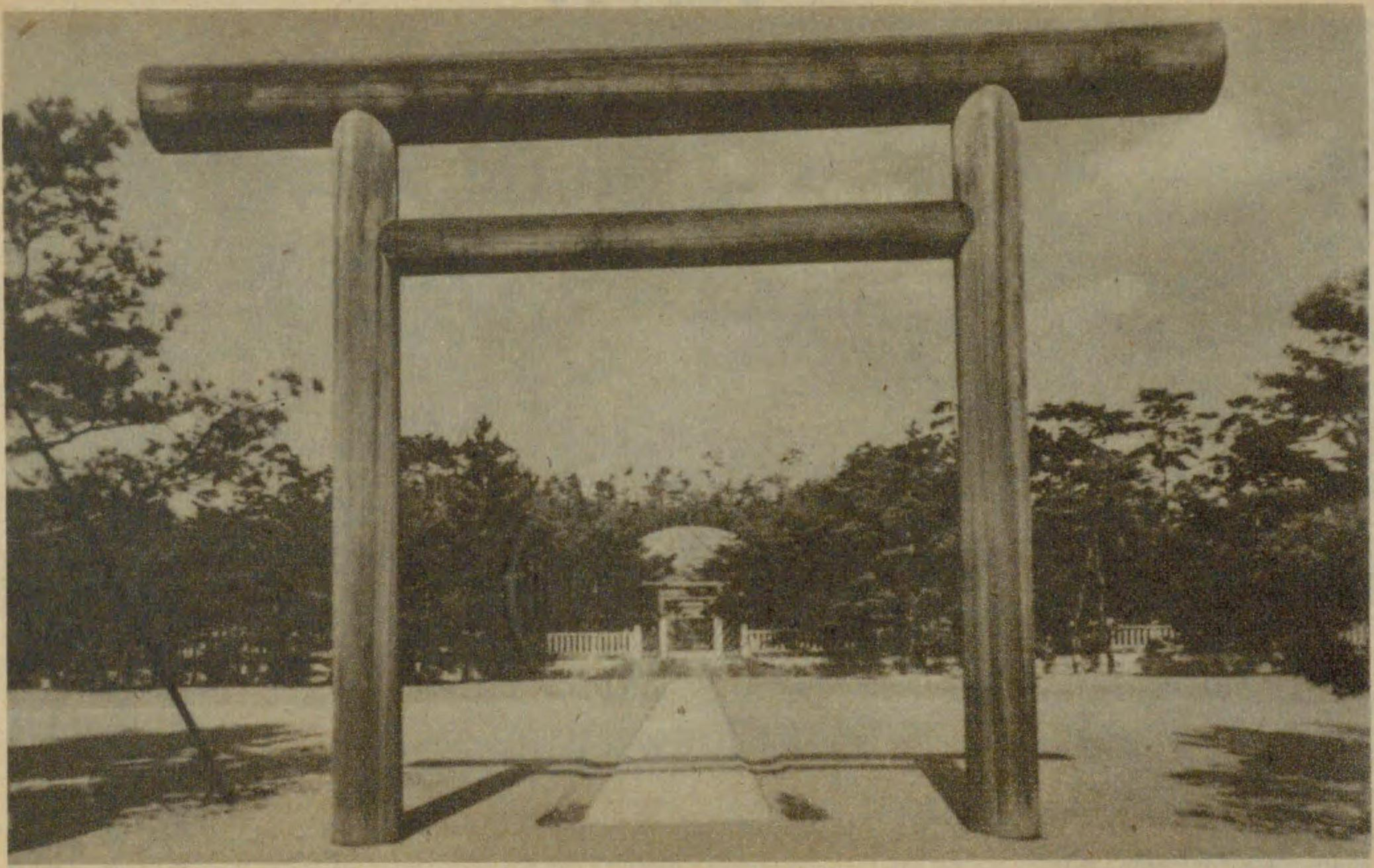
三五　東福寺明兆筆聖一國師像



三六　東福寺三門

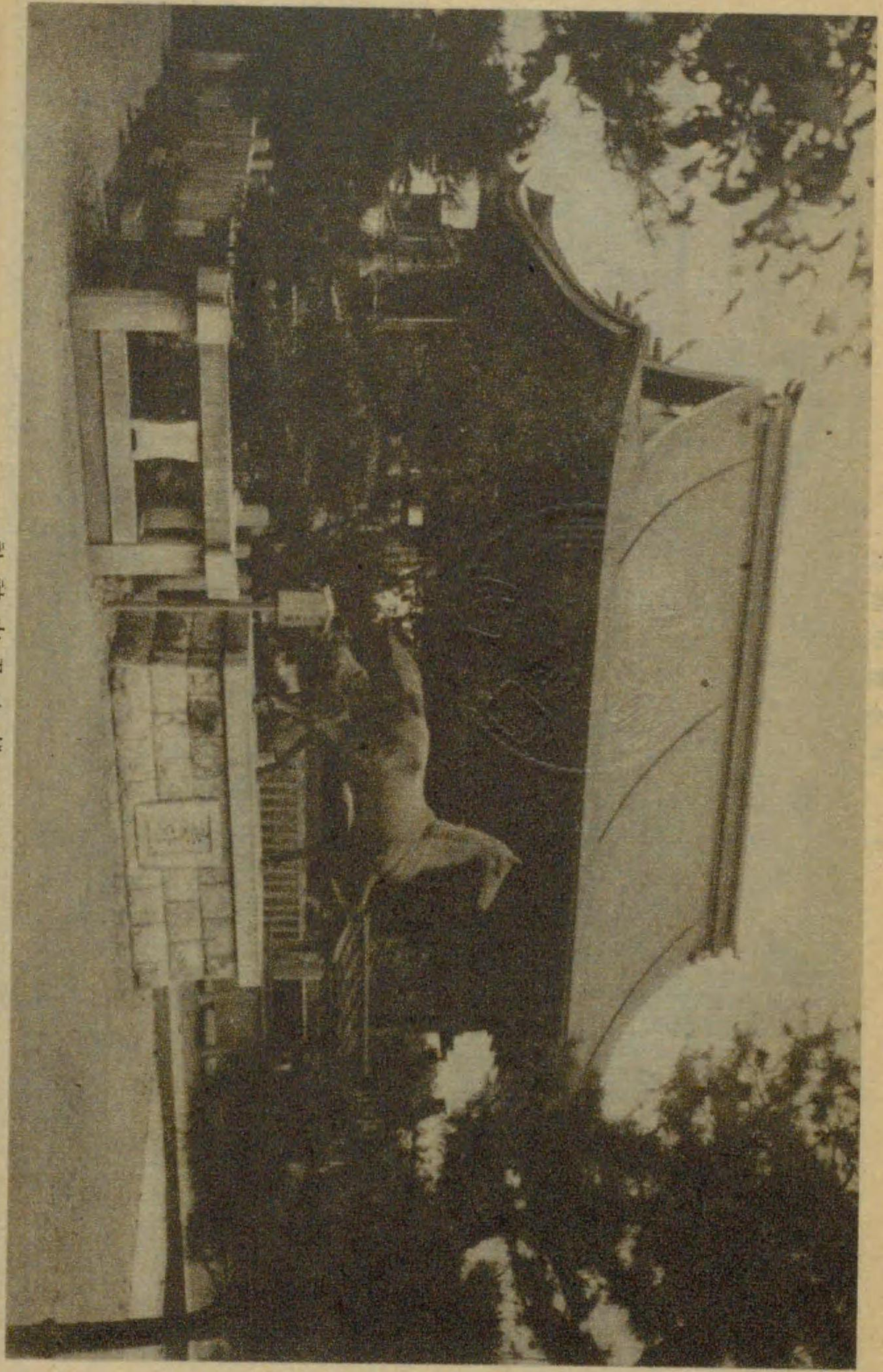


五四　稲荷神社千本鳥居

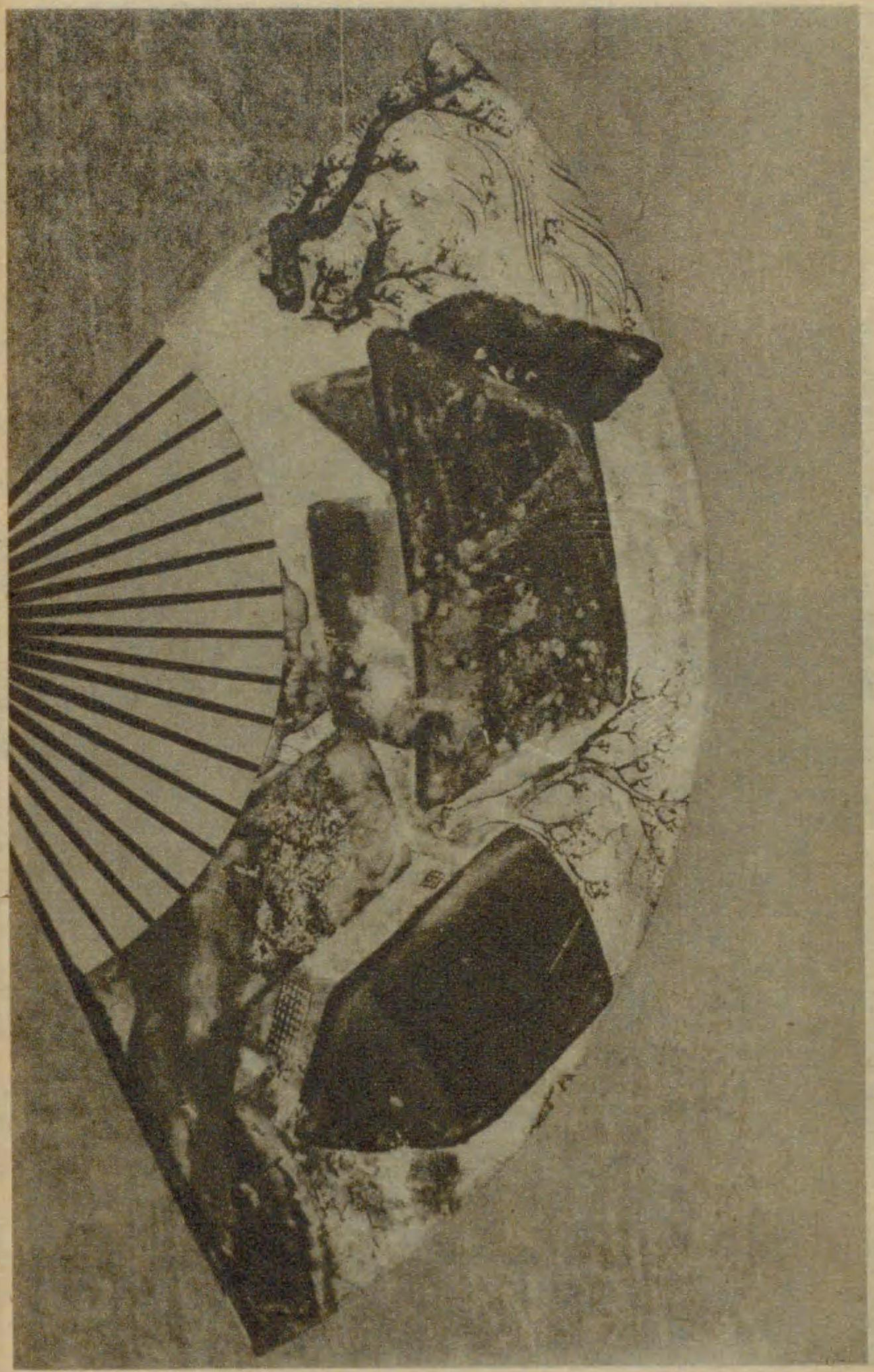


五五　伏見桃山御陵

五七　醍醐三寶院

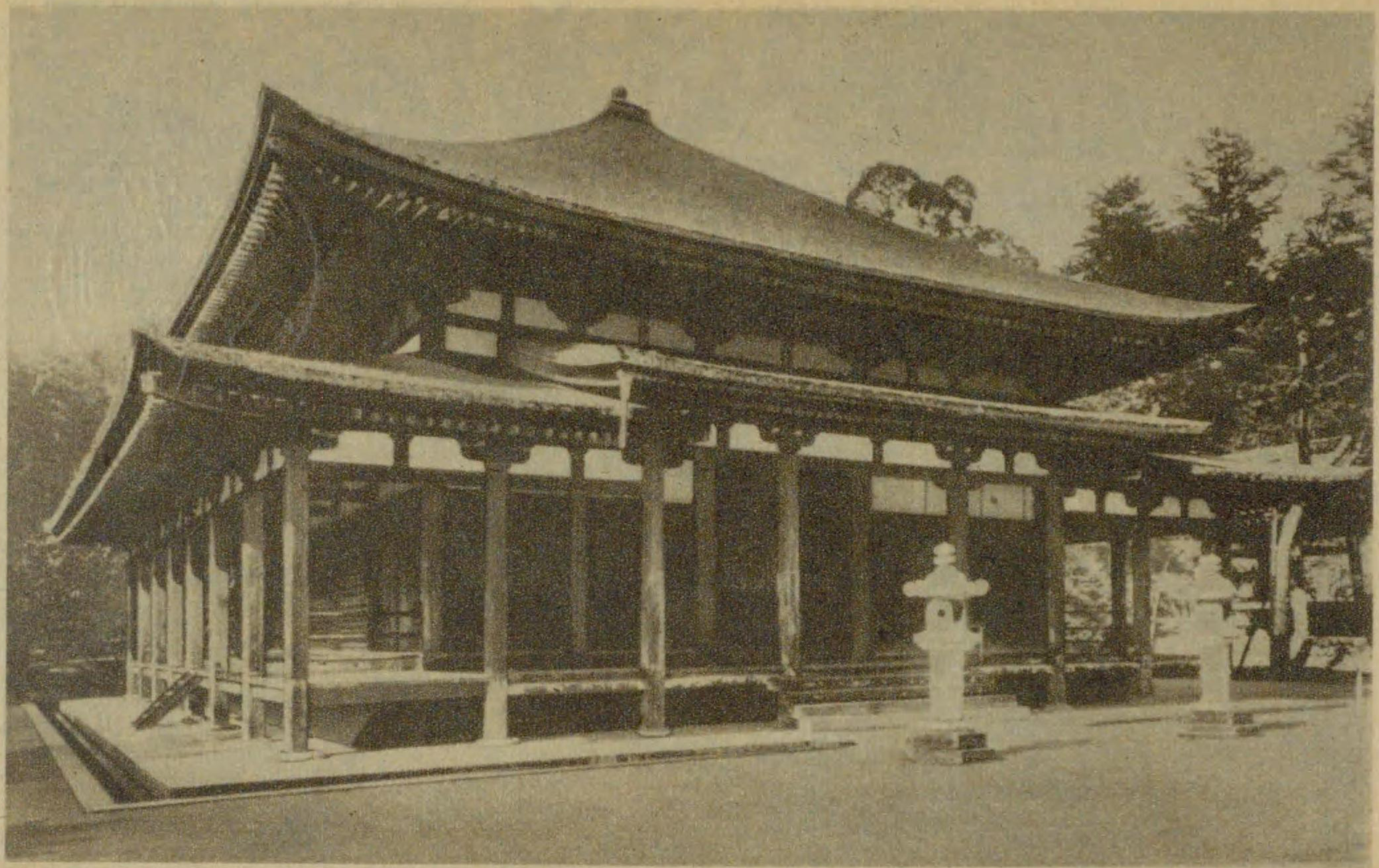


六五　桃山乃木神社

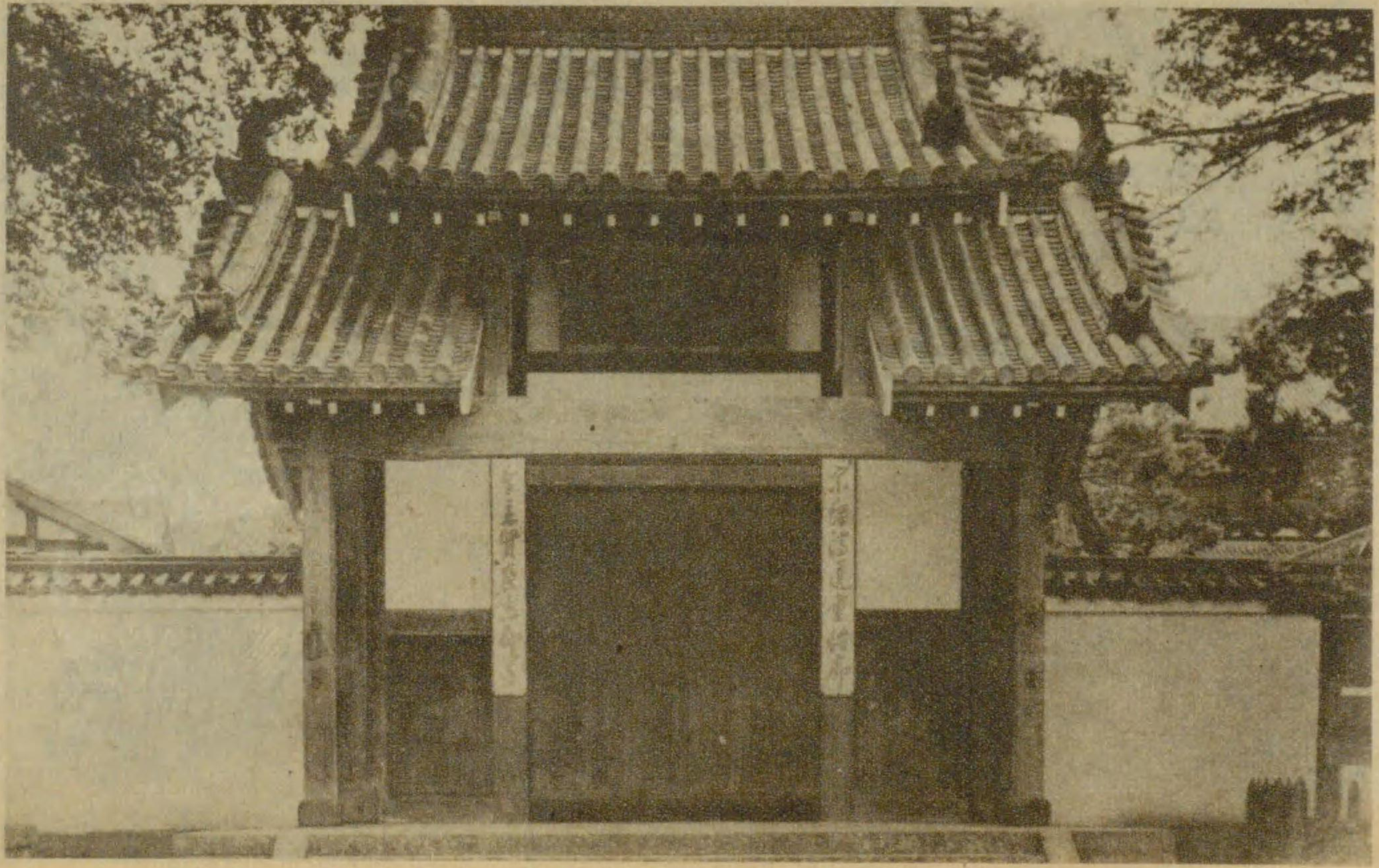


五八　三寶院宗達筆扇面散貼屏風の一部

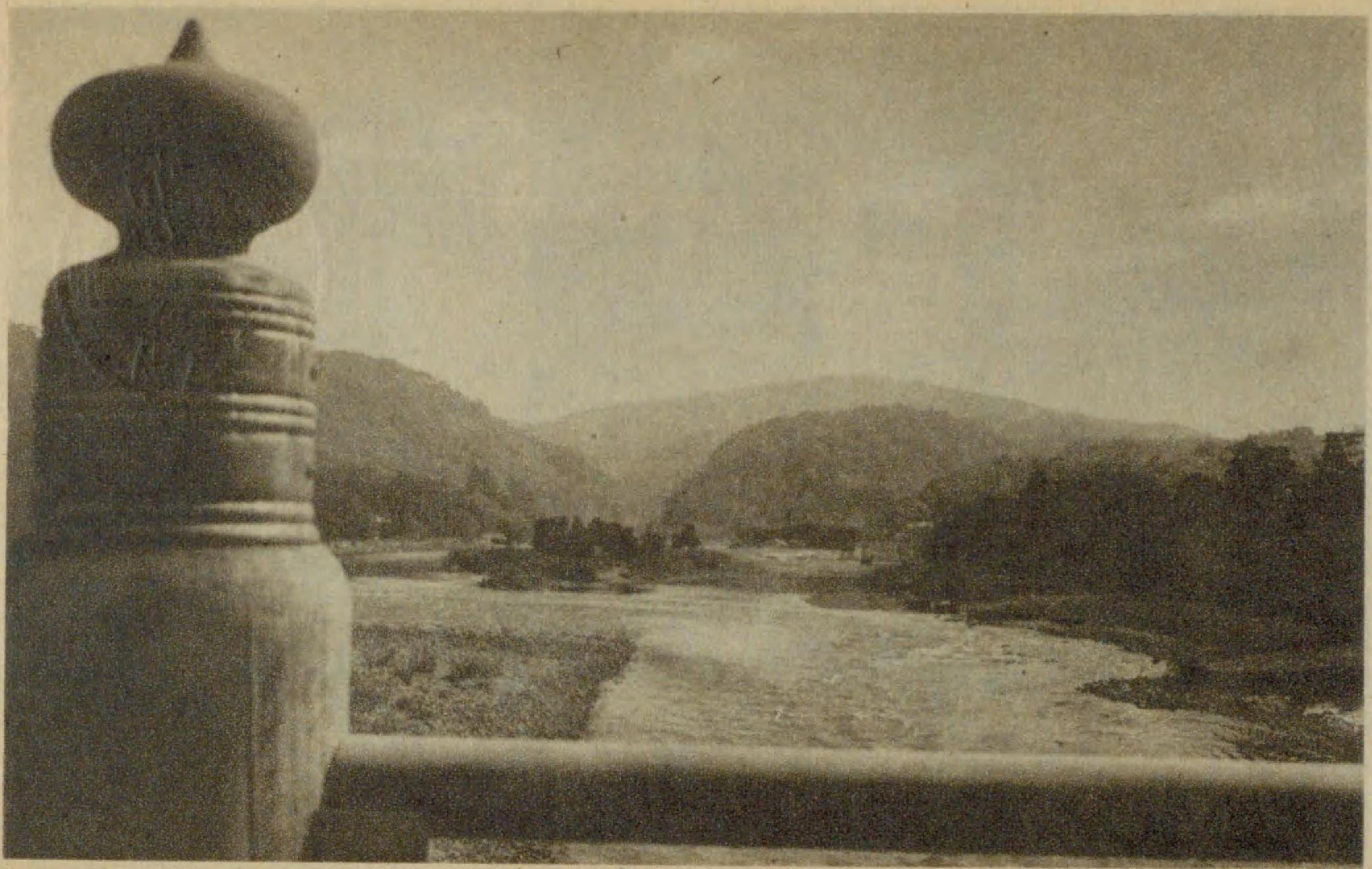
五九　醍醐寺五重塔婆



六〇 法界寺阿彌陀堂

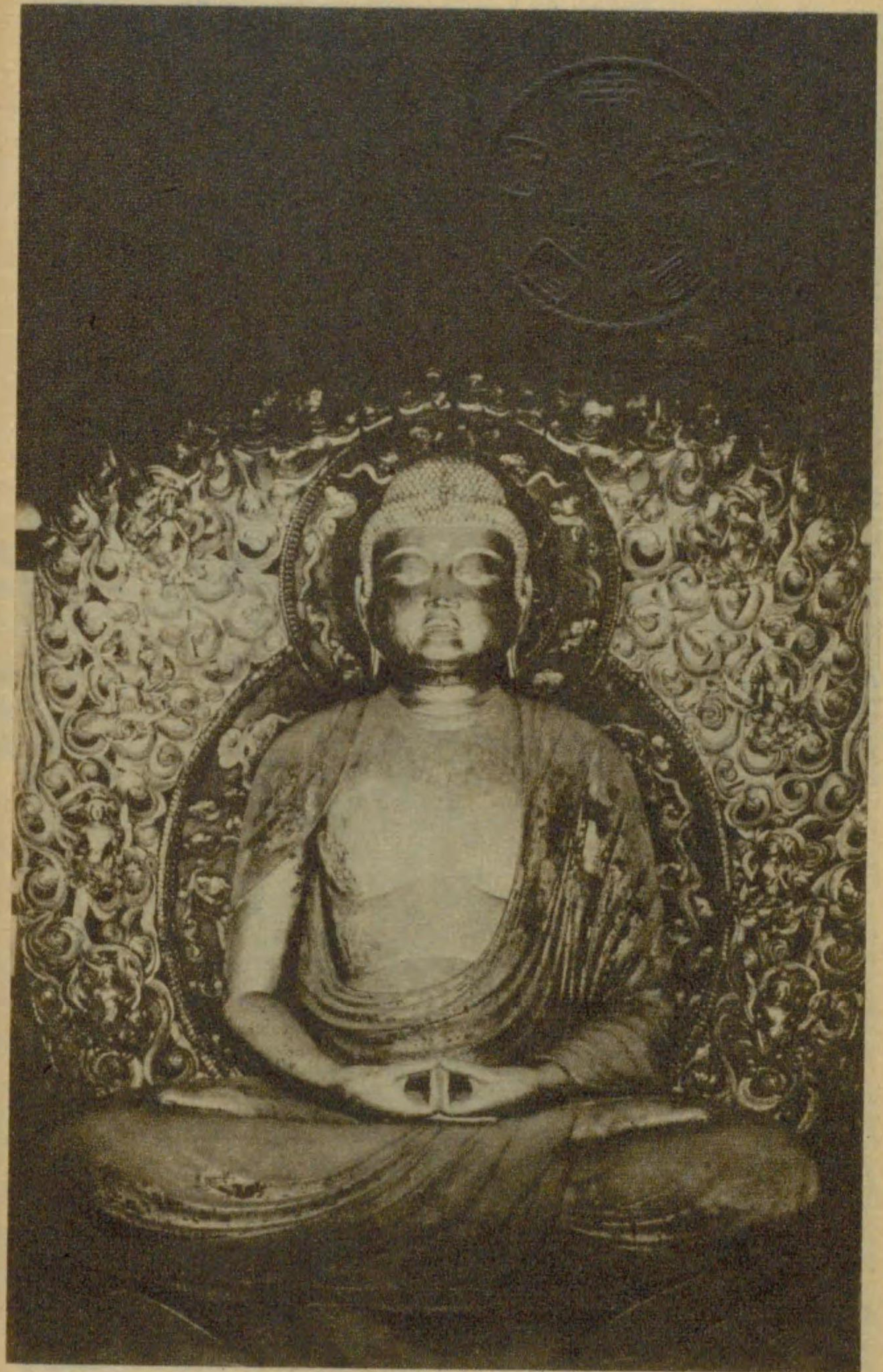


六一 萬福寺山門

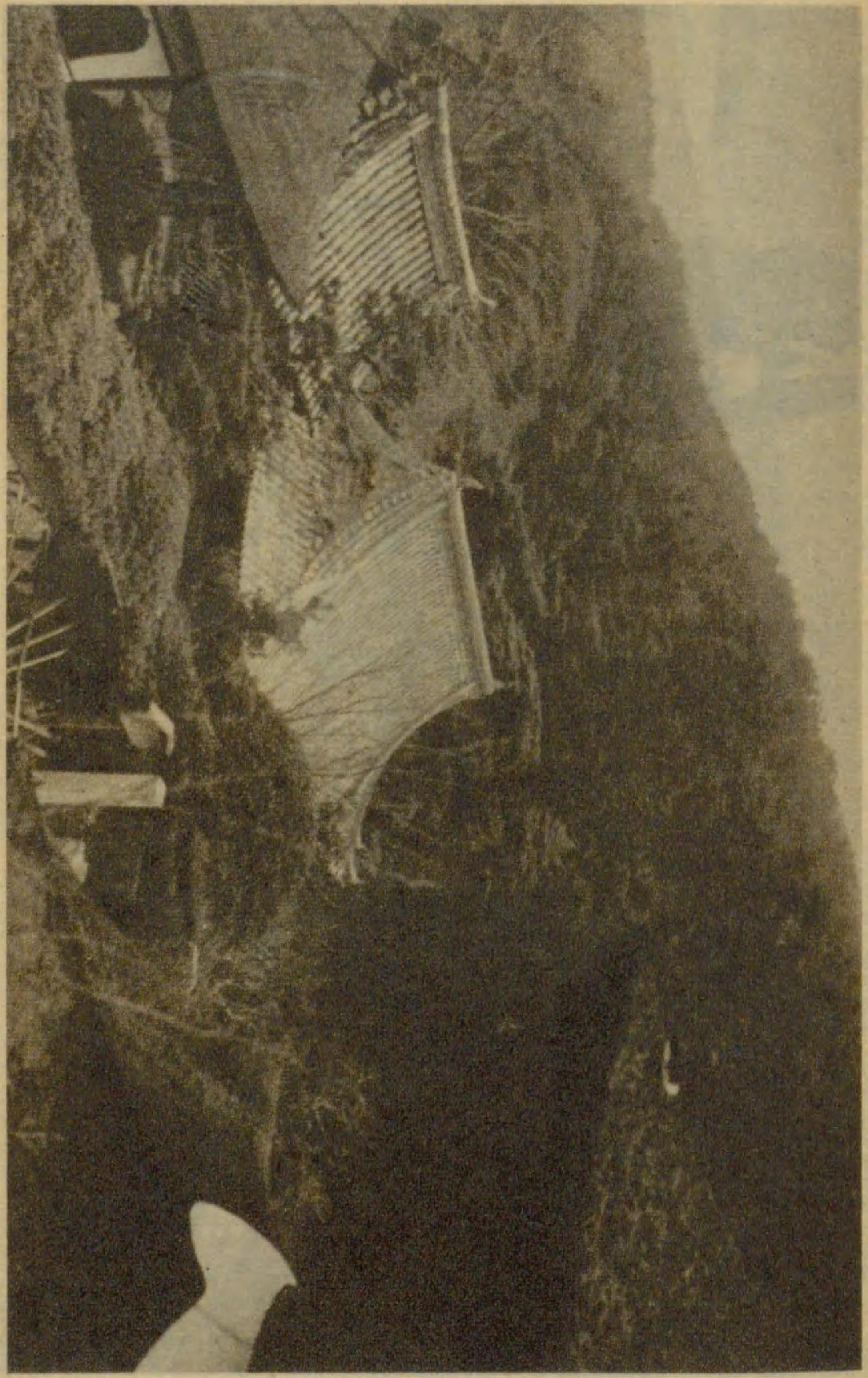


六二　宇治橋の展望

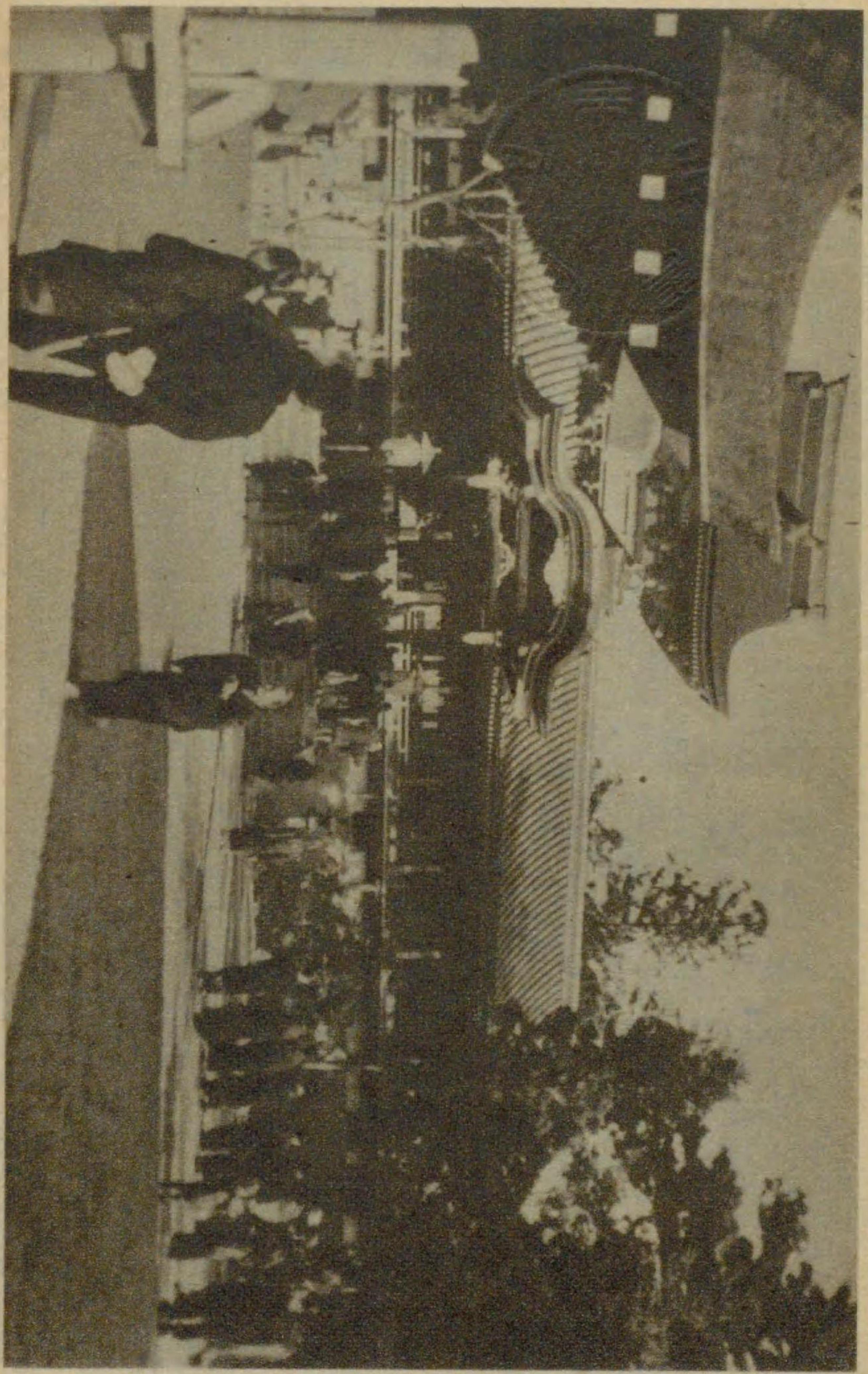
六三　平等院鳳凰堂



六四　鳳凰堂阿彌陀像



六五　善峯寺



石清水八幡宮　六六

の阿彌陀如來立像〔國寶〕も安置されて居る。

靈寶殿（れいはうでん）　太子堂の後方にあり、大正十二年聖德太子一千三百年遠忌記念のために建てられたもので、左記の寺寶が陳列されて居る。

一毘沙門天立像〔國寶〕　一軀

木造、もとは彩色があつたが、今は殆ど剝落して唇と眼球の輪廓に朱色を存するのみである。平安時代の佳作である。

一十二神將立像〔國寶〕　木造彩色　藤原時代　十二軀

一佛　頭〔國寶〕　一個

木造彩色、藤原時代巨像の頭部で、胴の內部に寬弘の年號があると云ふ。

一十二天像〔國寶〕　絹本著色　鎌倉初期　十二幅

一鐵　鐘〔國寶〕　一口

銘「奉施入藥師佛建保五年七月　日秦末時」

一能惠法師繪詞〔國寶〕　一卷

紙本著色、詞傳寂蓮法師、畫土佐行長、東大寺（とうだい）の僧能惠が地獄（ぢごく）に行き、閻魔王に般若經を授けたと云ふ傳說を描いたものである。その描線は肥瘦を持ち活達自由、鎌倉時代土佐派の佳作である。

一四王天立像〔國寶〕　四軀

木造彩色、藤原時代、寺傳に定朝の弟子長勢の作と云ふ。

一聖觀音立像〔國寶〕　一軀

木造彩色、平安時代

一大日如來坐像〔國寶〕　一軀

木造漆箔、體軀細長く藤原末期の作と思はれる。

一吉祥天立像〔國寶〕　一軀

木造彩色、金箔、寶相華文など殘存、平安時代

一日光月光菩薩立像〔國寶〕　木造漆箔、藤原末期　二軀

一彌勒菩薩坐像〔國寶〕　一軀

塑造、平安朝初期の作と思はれるが天平の雄偉な相貌を存して居る。

一地藏菩薩立像〔國寶〕　一軀

木造、世に埋木地藏と稱するもので、平安時代の遒勁な作である。

一男神坐像〔國寶〕　木造、傳秦川勝像、藤原時代一軀

一女神坐像〔國寶〕　木造、藤原時代　一軀

一彌勒菩薩半跏像〔國寶〕　一軀

木造漆箔、寺傳に聖德太子の作と稱する有名な像で、その樣式は大和の中宮寺本尊、朝鮮總督府博物館の彌勒像と酷似せる推古時代の傑作である。

一彌勒菩薩像〔國寶〕　一軀

木造漆箔、百濟國から貢獻されたものと傳へて居るが、時代はやゝ降り、白鳳時代に近づいた頃の作と思はれるもので、その技巧は推古時代よりも更に進んで隋唐の優麗さが加つて居る。

一吉祥天立像〔國寶〕　二軀

木造彩色、平安時代の作で、一方の像には朱色、模樣が殘存して居る。

一大日如來坐像〔國寶〕　一軀

木造漆箔、藤原時代の作で漆箔が大部分殘存して居る。

一不動明王坐像〔國寶〕　一軀

木造、平安時代の遒勁な作である。

一五髻文殊菩薩坐像〔國寶〕　一軀

木造、面貌の雄大なる割合に身體のやゝ繊弱な像で、藤原時代の作である。膝裏に文安二年修復の銘がある。

【太秦の牛祭】 十月十二日の夜廣隆寺で行はれ、古來京都の年中行事として有名である。慈覺大師入唐の歸途、順風を摩吒羅神に祈り、歸朝の後叡山西麓に祀つたのを後世廣隆寺に移した。牛祭は卽ち摩吒羅神の祭禮であると云ふ。當夜は參詣人雜沓し店肆、見せ物等境内を埋めて頗る賑ふ。世に「見るも阿呆、見ぬも阿呆」と云はれて居る。

【西光寺】〔淨土宗〕 嵐山電車太子前下車、右京區太秦多藪町にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、高さ三尺一寸四分、一木造、その略々左右均勢をなした形相、衣文等は、端然とした尊容を保ち、藤原初期の作と思はれる。

【車折神社】 嵐山電車車折の南に接し、嵯峨町にある。清原賴業を祭神とし、境内廣く春は櫻、秋は紅葉に粧はれる。每年五月十四日に大堰川にて舟遊祭が行はれる、これは古の三船御遊の風を復興したもので、京都に於ける主なる行事の一となつた。

【遍照寺】〔眞言宗御室派〕 嵐山電車車折下車、北へ一粁、嵯峨池裏遍照寺山麓、廣澤池の南方にあり、永祿元年圓融天皇の敕願により寛朝の創建、眞言宗廣澤派の與隆地である。本尊は木造の十一面觀音立像〔國寶〕で、外に木造の不動明王坐像〔國寶〕を藏して居る。

【廣澤池】 嵐山電車帷子の辻の西北近くにある。宇多天皇の孫寛朝僧正の開鑿されたもので、周囘凡そ一粁北は遍照寺山に限られ、南は長堤に護られ、西北隅に觀音島がある。池は古來觀月の名所であるが、近年堤上に櫻樹が植ゑられ、花時の景趣がよい。

【天龍寺】〔臨濟宗天龍寺派大本山〕 山陰線本線嵯峨驛の西六〇〇米、嵐山電車嵐山下車、嵯峨にある。

本寺は夢窓國師が足利尊氏に請うて後醍醐天皇の冥福を祈るために創建したもので、寺域は後龜山上皇、後嵯峨上皇の仙宮のあつた所である。應仁の兵火に會ひ、その後また屢々火災に罹り、堂宇悉く燒失したが、明治年間に法堂、本殿、方丈等再建され、やゝ舊觀を復するに至つた。當寺に足利義滿の墓がある。

庭園〔指定史蹟・名勝〕 天龍寺創建の時に築造されたもので、大體に於いて尙その原形を存して居る。前庭と内庭に別れ、前庭は總門前の廣場と、總門を入りて本堂所在の臺地、唐門の下に至る地區で、その範を支那寺院園地の態形にとつたものである。内庭は自然型の泉水園で、その主要部は方丈の背後に當つて居る。龜山を取り入れ、その脚下にある池は創設當時の曹源池で、山脚に倚つて瀧を懸け、北岸に近く小島を置き橋を渡し、東岸に出島を延べ、南方には小岬を出し、池中には數個の浮石が立てられて居る。尙庭は北方書院より茶室集瑞軒の前にまで續いて置石配樹が見られる。山は下方に椎、樫が高く立ち、上方には松樹繁茂し、池面に映じて清邃優雅の氣分を生じ、室町初期に作造された山水園として名高い。

寶物には左記のものがある。

一夢窓國師像〔國寶〕 絹本著色　比丘德濟贊　一幅
一夢窓國師像〔國寶〕 絹本著色　曆應庚辰仲秋自贊　一幅
一清涼法眼禪師像〔國寶〕 絹本著色　一幅
一雲門大師像〔國寶〕 絹本著色　一幅
一釋迦如來坐像〔國寶〕 木像　一軀
一遮那院御領繪圖〔國寶〕 紙本墨書　一鋪
一往古諸卿館地之繪圖〔國寶〕 紙本墨書　一鋪
一應永鈞命繪圖〔國寶〕 紙本墨書　一鋪
一觀世音菩薩像〔國寶〕 絹本著色　一幅
　東京帝室博物館出陳

【臨川寺】〔天龍寺塔頭〕 渡月橋の東一〇〇米にある。初め

は龜山法皇の離宮の一部で川端殿と稱した。後禪刹として夢窓國師を開祖とし、大堰川に臨めるに因み寺號を臨川とした。本堂には本尊彌陀佛が安置してある。

【鹿王院】〔天龍寺塔頭〕 臨川寺の東にあり、康暦年中足利義滿の草創、舊時は禪林京都十刹の一である。

寶物には左記のものがある。

一釋迦三尊及三十祖像〔國寶〕　七幅
絹本著色　明兆筆、周麗の賛あり。釋迦三聲倒を中幅に左右各三幅に三十祖を畫いた特異の構圖である。

一夢窓國師像〔國寶〕　二幅
絹本著色、一つは至德丙寅仲夏妙佐の賛あり、一つは圓覺比丘東陵永璵の賛がある。

一出山釋迦像〔國寶〕　絹本著色　一幅

一蘭石圖〔國寶〕　紙本墨書　梵芳筆自賛あり　一幅

一後醍醐天皇宸翰御消息〔國寶〕　紙本墨書　一幅

一鹿王院文書〔國寶〕　一卷
紙本墨書　光嚴院光明院宸翰御消息外二通

一金剛院文書〔國寶〕　一卷
紙本墨書　崇光院宸翰御消息外七通　恩賜京都博物館出陳

【小督塚】 嵐山電車嵐山の西南渡月橋から大堰川の左岸を五〇米餘西方に進み、約二〇米北に入つた畠の中にある。高倉院の寵妃小督の局が平清盛を恐れて嵯峨野に隱栖したと云ふ物語に因んで、後世附會したものであらう。

【嵐山公園(龜山公園)】 渡月橋の西大堰川を隔てゝ嵐山の北に位し、面積約三、〇〇〇アール、中央松林の開潤地に角倉了以の銅像がある。附近に遊戲具を設備して、運動の便に供してある。

最近渡月橋下流の桂川河川敷を利用して、運動場、花園、その他の近代的設備を具へた嵐山東公園が開設せられ、風光明媚の境嵐山に更に一段の美觀を與へて居る。

★【嵐山】〔指定史蹟・名勝〕 山陰本線嵯峨驛の西八〇〇米、嵐山電車嵐山、京阪電車嵐山下車。海拔三七五米に過ぎないが、その名は高く世に聞え、北麓を流れる大堰川と相俟つて、自然美の優秀なので知られて居る。古來紅葉の名所として歌はれて居たが、龜山院の時、吉野山の名種を移植せられてから、山中到る所に櫻樹を見、花の名所ともなつた。紅葉も花も欝蒼たる翠松と反映して景趣が殊に深い。この山の森林は風致國有保安林で、その面積五九ヘクタール餘である。

山中に戸難瀨瀧、大悲閣、夢窓國師の座禪岩、香西又六古城址等がある。

戸難瀨瀧は嵐山の北麓、櫟谷の西にあつて、一條の溪流が岩石を傳はつて落下し、大堰川に落つる。古はこの大堰川を戸難瀨と云つた。

【大悲閣】 渡月橋から戸難瀨瀧の畔を經て、西半粁にある。芭蕉の句「花の山二町上れば大悲閣」を刻せる碑のある所から、石逕を登ること約二〇〇米。閣は千光寺(黃檗宗)と云ひ、本尊は千手觀音で、脇壇に角倉了以の木像がある。了以は慶長十年大堰川の岩石を除去して、丹波の保津村から舟筏を通ぜしめた水利家で、閣前に林羅山の撰文にかゝる石碑がある。閣上からの眺望は甚だよく、遠く京洛の街衢を望み、近く山下に紺碧の流潭が瞰下される。

【嵐山鑛泉】 嵐山の北麓、保津の清流に枕みて龜山の翠微と相對する景勝の地にあり、渡月橋畔から遊船の便がある。無色透明の炭酸冷泉で加熱して居る。胃腸病、神經衰弱、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館嵐峽館。

【法輪寺(嵯峨虛空藏)】〔眞言宗御室派〕 渡月橋の南の高處にあり、和銅六年元明天皇の勅願により行基の開創したものと傳へ、伊勢朝熊、會津柳井津のものと並稱して三虛空藏と稱せられる。現堂宇は明治十七年の再建である。境内は嵐山の東麓に接し、楓櫻が多く眺望がよい。櫻花の盛りには十三詣りと稱し、京洛の士女盛裝して參詣するもの陸續として絕えない。寺寶中に持國天立像、多聞天立像を藏して居る。何れも鎌倉時代の作である。

【松尾神社】〔官幣大社〕 市バス及び京阪電車嵐山線松尾神社前下車、松尾町山麓景勝の地にある。大寶元年秦都理の創建で、大山咋神、市杵島姬命が祀られて居る。延暦年中京都の守護神とされ、古來朝野の尊信厚く、

寛弘元年の行幸以來歷朝松尾行幸は數度に及んで居る。民間特に造酒の神と稱して釀造家の報賽頗る多く、境内に酒造家の獻燈が少くない。本殿は檜皮葺で三間社流造、天文十九年の建築である。今寶物になつて居る男女の神像三軀〔國寶〕は恩賜京都博物館に出陳されて居るが、我が國神像彫刻の遺品中最古のものに屬し、平安時代の作である。

四月の神幸祭、五月の還幸祭は古來葵祭と稱へ、洛西第一の祭事とされ、神殿その他に葵を飾り、供奉のものもまた葵を飾ること賀茂祭に似て居り、神輿の桂川渡御を拜するため參詣者が雲集する。また七月に行はるゝ御田植祭は、山城に於ける最古風の祭禮である。神紋は二葉葵。

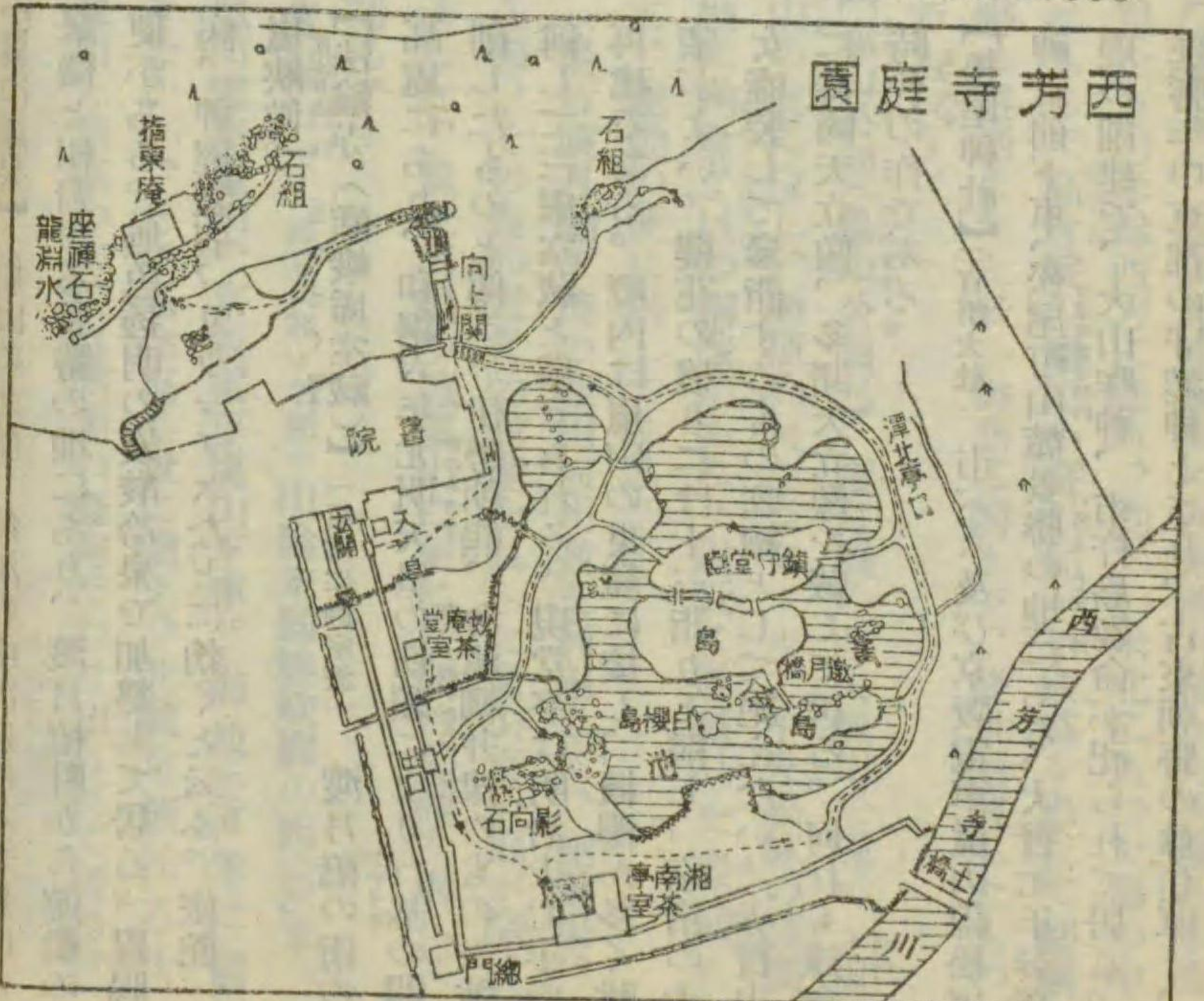
【月讀神社】 松尾神社の攝社で南二〇〇米餘にあり、その創祀は松尾神社より古いと傳へ、瘡瘡の神として知られて居る。

★【西芳寺(苔寺)】〔臨濟宗天龍寺派〕 松尾神社の南方約一粁半、松尾町嵐山の南方松の尾谷の溪間、西芳寺川の水流に沿ひ、北に嵐山、松尾續きの岡巒を擁した幽邃な境地にある。

當寺は天平三年行基菩薩の開基と傳へられ、弘仁年間高岳親王こゝに御落飾あり、また最明寺時頼も寄寓したと云はれて居る。後荒廢して、延元年間夢窓國師によつて中興された。その後屢々火災にかゝり、今日堂宇の見るべきものは遺つて居ないが、庭園とその内にある茶亭が名高い。

庭園〔指定史蹟・名勝〕 延元四年夢窓國師が當寺の住持となり、堂宇の再興と併せてこの林泉を築造して以來名高くなつた。今地割を見るに溪間の靜境に黃金池を設け池中に島三つを築き、丘地には岩を疊み石を敷き、樹林豐にして地には鮮かな麗はしい苔が一面に敷かれ、その間を苑路によつて廻遊し得るやうになつて居る。實に幽邃閑寂の境で室町初期に作られた名園を偲ぶべきものである。

湘南亭〔國寶〕 庭内の池邊にあり、慶長年間に建てられた桃山時代の茶室である。その平面は、待合、廊下



本家と相續いて矩形をなし、本家の一端には舞臺を造つて居る。舞臺の構造は頗る珍奇で、その天井は土で塗り固められて居る。茶室は淸楚な竿緣天井、吊棚、附書院、窓、水屋などの意匠の勝れたもの多く、且つ全體として非常に明い感じを出して居る。尙この茶室は維新の際岩倉具視が難を避けて潛伏して居た遺蹟としても知られて居る。

【長福寺】〔臨濟宗南禪寺派〕 京阪電車嵐山線松尾神社前の東半粁、梅津にあり、天安四年尼眞理の開基で天台宗であつたが、その後月林和尙來住して以來禪刹となつた。花園法皇は月林に歸依して數次こゝに臨幸された。

寶物には左記のものがある。

一花園天皇御像〔國寶〕 紙本着色 僧豪信筆 一幅
法衣の御像で傍に曆應元年の宸贊がある。
一月林道皎禪師送行文〔國寶〕 一幅
花園天皇の宸翰である。
一佛涅槃圖〔國寶〕 絹本著色 一幅
裏面に貞和二年の墨書銘あり。

一長福寺縁起　〔國寶〕　紙本墨書　一卷

【梅宮神社】〔官幣中社〕　市バス梅宮神社前下車、京阪電車では嵐山線松尾神社前の東一粁、梅津にあり、祭神は酒解神、大若子神、小若子神、酒解子神である。社傳に嵯峨天皇の皇后橘嘉智子は皇儲の無いのを憂ひて當宮に祈り、皇子を擧げ給うたと云ひ、同皇后は御臨產の時當宮の白砂を御褥の下に敷きたまひしとて、世俗今尚產月に至つて社頭の白砂を襟帶に佩ぶる遺風がある。神紋は橘。例祭四月三日。

【野宮神社】　嵯峨驛の西半粁、嵯峨町にあり、祭神は天照皇大神。悠記主基の兩宮あり、黑木の鳥居小芝墻など古風に則つてある。伊勢神宮に立たせ給ふ內親王がこゝで三年間潔齋し給うた所である。

【落柿舍】　野宮の北半粁にある。蕉門十哲の一人向井去來の遺栖で、庭は荒れ果て、柿の木一本、古松二、三本を存し「柿ぬしや木ずゑは近きあらしやま　去來」と刻せる碑がある。尚去來の墓は約五〇米北方の竹林中にある。

【常寂光寺多寶塔婆】〔國寶〕嵯峨驛の西北約一粁、嵯峨町小倉山の中腹にある。三間二層の塔婆で、眺望のよい寺背の山腹に建つて居る。建立時代は詳かでないが、その樣式手法を見ると桃山時代に屬するもののやうである。形態よく整ひ、蟇股、拳鼻その他細部の技工が最も卓絶して居る。

【二尊院】〔天台宗〕　嵯峨驛の西北約一粁、また愛宕電車釋迦堂の西半粁、嵯峨町小倉山の麓にある。寺傳によると承和八年僧慈覺が嵯峨天皇の勅を奉じて創建したもので、本殿に本尊として釋迦阿彌陀の二尊を安置せしため、二尊院の名が起つたと云ふ。兩像とも鎌倉末期の安阿彌風のもので國寶に指定されて居る。境內には鎌倉時代の優れた石塔三基があり、中二基の十三重塔と寶篋印塔は重要美術品に指定されて居る。また境內に三條西實隆、同公條墓、角倉了以父子墓、伊藤仁齋、同東涯墓等がある。

寶物には左記のものがある。

一三條西公條像　〔國寶〕　賛あり　絹本著色　一幅

一十王像　〔國寶〕　絹本著色　十幅

奈良帝室博物館出陳

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一三條西實隆像　〔國寶〕　賛あり　絹本著色　一幅

一淨土五祖像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一釋迦三尊像　〔國寶〕　絹本著色　三幅

進士王錫云々の銘あり

【小倉山】　隱椋山とも書き、二尊院の上の山を云ふが往昔は附近一帶を云つた。紅葉の名所として古來知れて居る。

【厭離庵】　二尊院から清凉寺に至る道の半ばから北へ竹林に入つた所にある。京極黃門藤原定家の閑居した小倉山莊の址である。こゝは中世久しく荒廢して居たが、近年厭離庵を再建して禪尼が護つて居る。庵北の一小墳を定家墓と云ふ。

【清凉寺】（釋迦堂）〔淨土宗〕　嵯峨驛の西北一粁、または愛宕山電鐵釋迦堂下車、嵯峨町にある。この地はもと嵯峨天皇の離宮の一部で、皇子源融が山莊を營み、棲霞觀と名づけ、後これを佛寺として棲霞寺と稱した。その後南都東大寺の僧奝然が、永延元年宋より釋迦像を將來し、こゝに精舍を建てゝ安置せんとしたが果さずして遷化した。弟子盛算その遺志を繼いでこれを果し、五臺山清凉寺と號したのである。境內には平安時代の建立になる石塔があり、檀林皇后の御塔として有名である。また源融の墓と傳へる鎌倉時代の寶篋印塔があり、寶塔と地藏菩薩の二面石も立つて居る。尚奝然の墓は寺の東北に遺存して居る。

釋迦如來立像〔國寶〕本堂安置の本尊にして奝然の將來と稱し、一にまた三國傳來とも稱する有名な木彫の釋迦像である。その形式は從來我が國では見なかつた異相で、清凉寺式と稱されて居る。この像が一度我が國へ傳へられてから模造するもの多く、その分布は近畿は勿論東北地方にも及び、その時代は藤原末から鎌倉のものが少くない。尚本尊の傍には十大弟子立像〔國寶〕が安置されて居る。鎌倉時代の木彫である。

寶物には左記のものがある。

一地藏菩薩立像　〔國寶〕　木造　一軀

一釋迦堂緣起〔國寶〕傳元信筆　紙本著色　六卷
一融通念佛緣起〔國寶〕傳土佐行秀外五名筆　紙本著色　二卷
一十六羅漢像〔國寶〕絹本著色　十六幅
恩賜京都博物館出陳

【棲霞寺】〔清涼寺塔頭〕　清涼寺境內の一隅の阿彌陀堂がそれである。この堂の本尊阿彌陀三尊像は木造漆箔、寺寶の兜跋毘沙門天立像一軀と共に國寶である。

【小楠公首塚】　清涼寺山門の西一〇〇米、藪林中に石玉垣を繞らした高さ二米の鎌倉時代の五輪塔がある。塔身の四方に搗き彫りの立派な梵字を存し、稱して楠木正行の首塚と云ふ。

★【大覺寺】〔眞言宗大覺寺派本山〕〔指定史蹟〕嵯峨驛の北八〇〇米、愛宕電車釋迦堂下車東北へ半粁、嵯峨町にある。

この地はもと嵯峨院と云ひ、嵯峨天皇の離宮で、御讓位後仙洞御所となつた所であるが、貞觀十八年淳和院太后の思召によつて離宮を改めて佛寺となし、淳和天皇第二の皇子恒寂法親王を開祖とし寺號を大覺寺と稱した。その後代々法親王を以て相承あらせられた。德治三年八月後宇多法皇御移徙あり仙洞御所と定め給ひ、元亨元年四月更に金堂その他を御建立あつた。正中元年六月廿五日法皇こゝで崩ぜられ、後醍醐天皇また元亨元年五月こゝに行幸あり、元德二年再び行幸御入壇受戒あらせられた。その後元中九年閏十月二日後龜山天皇南山から京都に還御大覺寺に入御し給ひ、同五日神器を後小松天皇に讓り給うた後はまたこゝを仙洞御所となし給うた。境內は今大覺寺御所址として史蹟に指定せられて居る。

現存諸堂の主なるものには御影堂、心經奉安殿、本堂、客殿、宸殿等があり、客殿は桃山時代、宸殿は江戸初期の建築であるが、その他は何れもその後のもので、殿舍の拜觀を許して居る。寺の附近に老女村岡の墓がある直指庵がある。

客殿〔國寶〕對面所或は正宸殿とも稱し、桁行前面七間、後面八間、梁間四間、單層入母屋造、檜皮葺、桃山時代の大建築である。內部は總て疊敷で御冠の間、紅葉の間、竹の間、雪の間、鷹の間、山水の間等に別れ、その室內裝飾は桃山時代の華麗高雅な趣味をよく發揮して居る。殊に御冠の間は最も見るべきもので、狩野元信筆と稱する遠山山水を描ける貼付繪があり、また古風な帳臺飾がある。その框に施された桐、竹、鳳凰の蒔繪は嵯峨蒔繪と稱して名高く、その作優秀にして、時代は桃山より古く室町時代の作と思はれる。

宸殿〔國寶〕寺傳には延寶年間後水尾上皇の御下賜と稱して居る。九間五面、單層、屋根入母屋造、棧瓦葺の建築で、その樣式から見ると、江戸初期寬永頃の建造と思はれる。內部の裝飾は客殿と同樣桃山風の豪華なもので、殊に中央の廣間の襖には金地に大なる牡丹を極彩色で描き、筆者を山樂と傳へて居る。その他柳松の間、紅梅の間等にも金地に濃彩の襖繪があり、また裏側の探幽の筆と傳ふる襖繪には、竹と鶴が水墨で描かれて居り、何れも壯麗高雅賞すべきものである。

每年五月一日の愛宕祭には、古來愛宕神社の神輿をこの宸殿前に据ゑて僧侶の讀經が催される。

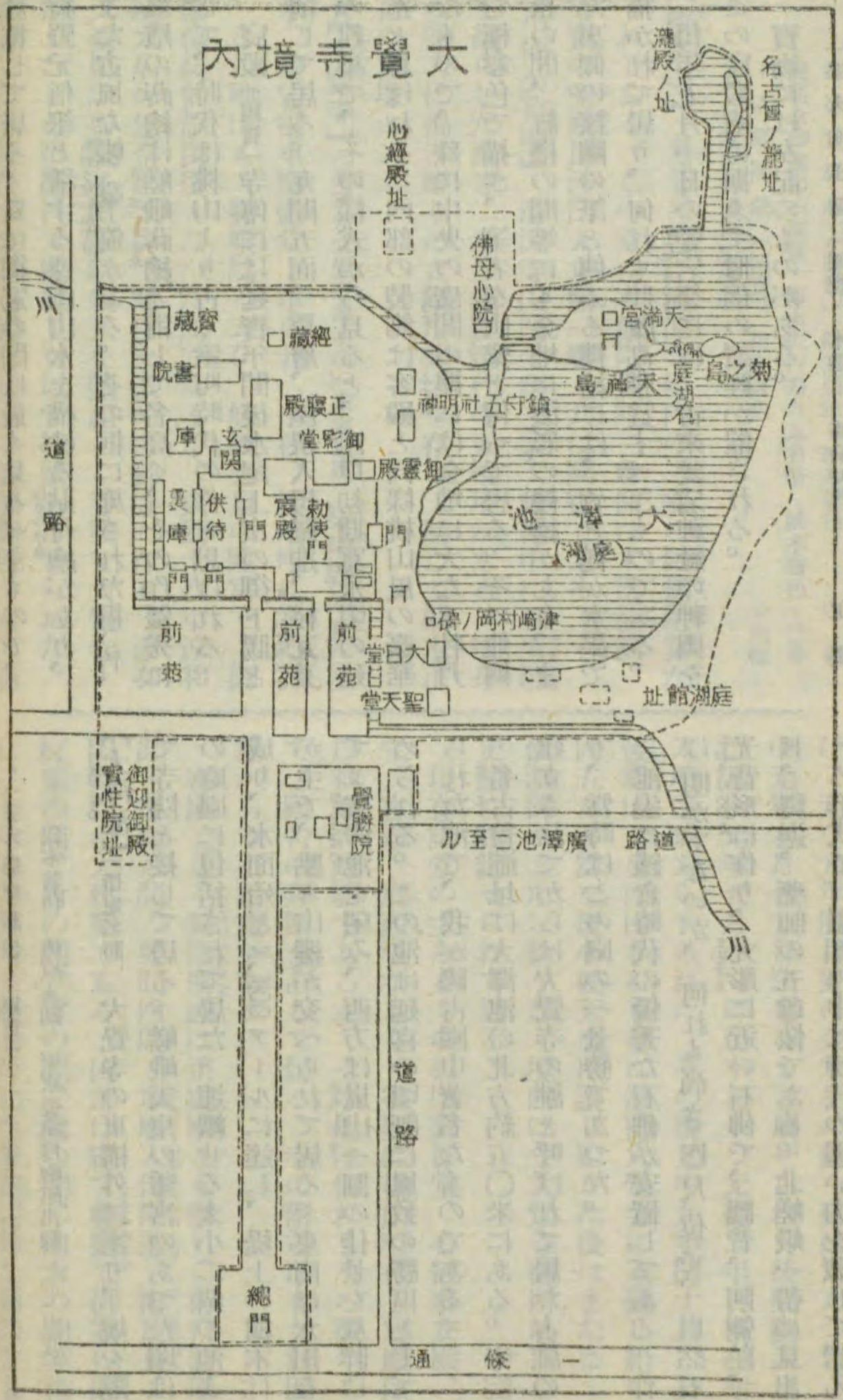
寶物には左記のものがある。

一五大明王像〔國寶〕木造　鎌倉時代　五軀
一五大虛空藏像〔國寶〕絹本著色　藤原末期　東京帝室博物館出陳　一幅

【大澤池】〔指定名勝〕大覺寺の東構外にあり、塀を隔てて寺院と接して居る。嵯峨天皇の離宮のあつた頃はその庭園に包括されて居た。連續せる大小二個の池より成り、水面殆ど三、三〇〇アールに達し、堤上の樹木は松が主で、點々山櫻が交へられて居る。東南は水田を隔てゝ廣澤池を望み、西方は嵐山一圓の佳景を双眸に收められる。この池は延喜の頃既に風致の勝區として知られた池で、我が國古園中著名なものである。

名古曾瀧址は大澤池の北方約五〇米にある。寺院の建立されてからは大覺寺の瀧と呼ばれて居た古瀧の址で、當時はこの園の一景勝であつた。

池邊に鎌倉時代の優秀な石佛が安置してある。作者は明かでないが、何れも高さ四尺位で、自然石を光背形に作り、丸彫に近い石佛で、觀音、阿彌陀、大日、釋迦、藥師の五尊像である。北嵯峨一帶に見出される形式で、溫顏の中に時代の強い力を藏して居る。



との外室町時代の寶篋印塔碑がある。高さ三尺、幅一尺九寸、花崗岩の自然石を四注造の龕に作り、中に二基の寶篋印塔を薄肉彫にしたものである。

【直指庵】〔淨土宗〕 愛宕電車釋迦堂下車、右京區嵯峨北ノ段町にある。孟宗藪に圍まれた小庵で、近衞家の老女村岡が安政の大獄後居住した所である。村岡は深く國事を憂ひ、勤王の志が厚かつた。明治六年八月歿しこゝに葬られた。嵐山龜山公園にその銅像が建てゝある。

【愛宕念佛寺】〔淨土宗〕 愛宕電車鳥居本下車、嵯峨鳥井本にある。當寺は近年まで京都市內右京區弓前町にあつたが、市區改正の際當所に移轉したものである。

本堂〔國寶〕五間四面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺鎌倉時代の和樣建築で、舟肘木を用ゐ、構造簡單で古致がある。堂內に安置する極彩色玉眼入の千觀內供坐像〔國寶〕は肖像彫刻中の傑作で、鎌倉時代のものである。

【清瀧川】 小野山中に發源し、中河內村を經て、高雄山、愛宕山の麓を廻り、遂に大堰川に注ぐ。水勢激しく奇巖突起し、景觀が良い。愛宕電車清瀧附近渡猿橋兩畔には旗亭多く、夏秋の頃特に觀賞の人が多い。との川は中河內と栂尾との間に於いて菩提瀧をなし、高さ一五〇米、幅二米に及ぶ。

【愛宕山】 山城丹波の國境に聳え、愛太子山、阿當護山に作り、朝日岳とも呼ばれ、海拔九二四米で峯頭を白雲山と云ふ。愛宕電車清瀧驛から川を渡れば、清瀧川驛から山上の愛宕驛まではケーブルの便があり、愛宕驛附近眺望の勝地を占めて愛宕山ホテルがある。

愛宕神社は愛宕驛から北約一粁、本社には伊弉冉命外四柱、若宮には迦俱槌命外二柱を祀り、火伏の神として崇敬せられて居る。神社の近く海拔九〇〇米の處にスキー場があり、雪質も良く、斜面も緩急の變化に富んで居るので、京阪神のスキーヤーに喜ばれて居る。

【月輪寺】〔天台宗〕 愛宕電車清瀧の西北一粁、愛宕山の山腹にあり、天應元年慶俊の創建であると云ふ。その後空也上人も登山修禪し、月輪關白藤原兼實も當地

の幽邃を愛して閑居した。本堂の傍の祖師堂にはこの二者の像を安置して居る。境內は周圍に峰巒重疊し、松杉蓊鬱として櫻樹も多い。幽邃閑靜で仙域の趣があり、附近に龍女水、空也瀧、寒蟬瀧がある。

寶物には左記のものがある。

一空也上人立像〔國寶〕祖師堂安置　木造　鎌倉時代　一軀
一九條兼實坐像〔國寶〕木造　一軀
一聖觀音立像〔國寶〕木造　恩賜京都博物館出陳　一軀
一十一面觀音立像〔國寶〕木造　一軀
一千手觀音立像〔國寶〕木造　一軀
一善哉及龍王立像〔國寶〕木造　二軀

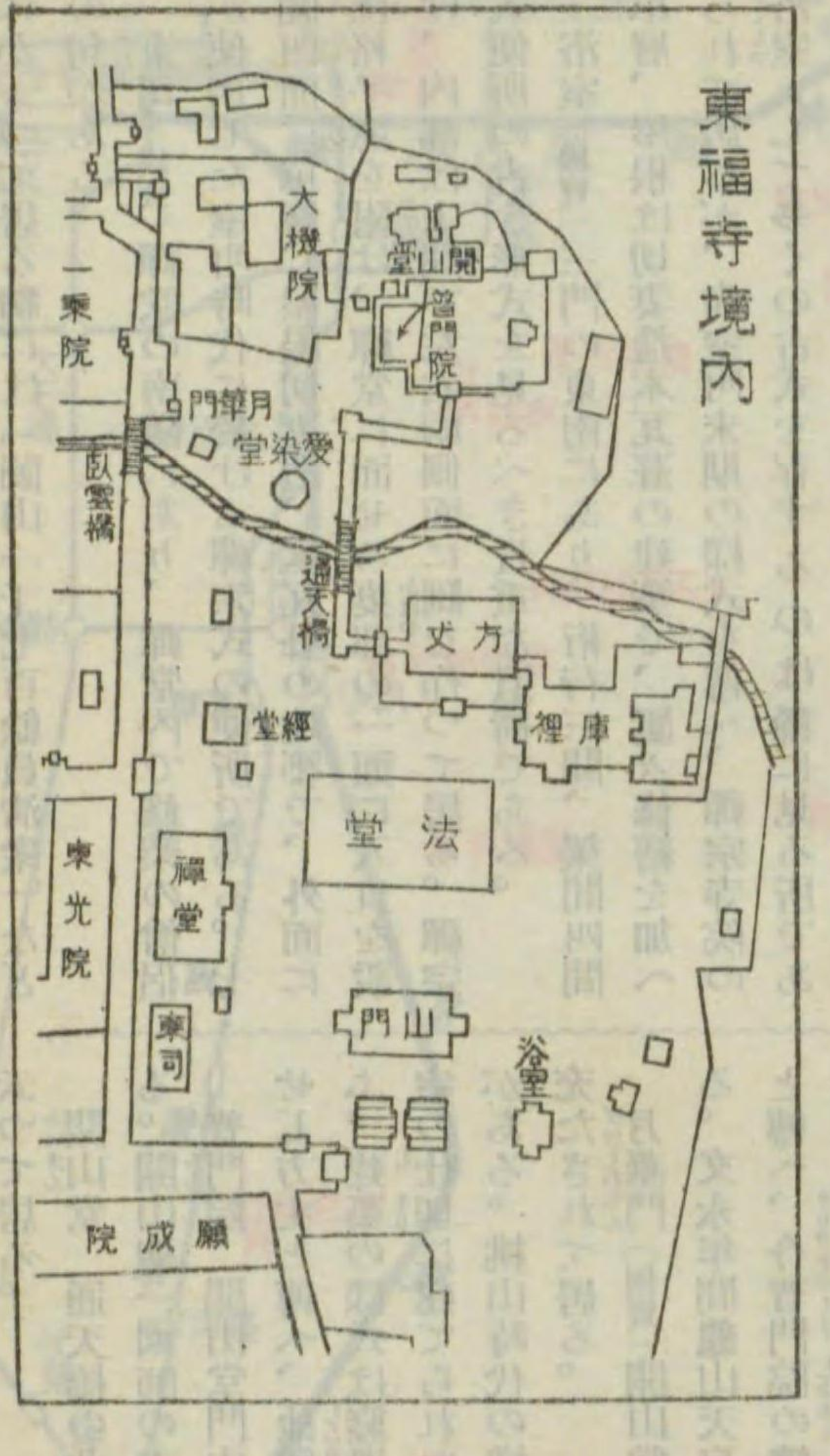
五、稻荷、桃山方面

★【東福寺】〔臨濟宗東福寺派大本山〕京阪、市營電車東福寺下車、市バス二の橋下車、東山の山麓、勝景の地に廣大な境內を占め、伏見街道に面して北門及び南總門がある。もと延喜初年に藤原忠平の創立した法性寺の址で、平安時代中期の瓦を夥しく出土する。

當寺は延應元年前關白九條道家の創建にかゝり、聖一國師を請じて開山となし、建長七年六月落慶供養を行つた。爾來禪宗の大道場として京都五山の一に居り、代々武家の擁護を得て明治に至り今日に及び、京都に於ける最も著名な佛寺の一であろ。明治十四年佛殿、法堂、方丈を燒失し、現に再建の途中にあるが、三門、東司、選佛堂の大建築及び月下門の古建築は燒失を免かれ、今尙遺存して居る。

三門〔國寶〕南總門を入ると思遠池の北に高く聳え立つ五間三戶の樓門である。兩端に山廊があり、規模壯大權衡のよく整つた建築で、禪宗寺院三門中最古のものである。その樣式は唐樣であるが桝組に挿肘木を用ゐて天竺樣を混じ、軒にも扇椺を用ゐずして普通の二重椺を用ゐ、禪刹手法の常套を脫して全體の調和を得て居る。しかし上層の勾欄は禪宗建築に固有なる逆蓮頭、擬蓮等の手法を用ゐて居る。上層の內部は中央は鏡天井、その周圍は化粧屋根裏となつて居る。桝

組には繧繝彩色を施し、柱、虹梁、長押などには浪に龍、若くは飛龍の彩畫を施して華麗を極め、元末明初に於ける禪宗建築裝飾の特徵を現して居る。後壁に接して壇があり、その中央には寶冠を戴ける華嚴の釋迦像を安置し、左右に十六羅漢の木像を安置して居る。



上層正面妙雲閣の額は足利義持の筆であり、內部の裝飾も應永頃の手法を存し、建築もまた室町時代の樣式に屬して居る。

禪堂（選佛堂）〔國寶〕再建中の本堂の西側にある。桁行、梁間六間、重層、屋根切妻造本瓦葺の大建築で貞和二年の再建である。建築の樣式は唐樣に屬し、上層屋根の前面中央部は前方に向つてその一部を突出し恰も向拜の如き形式を現し、正面の入口を作つて居る。下層前面には唐戶、火燈窓を附け、軒下は立涌形の明り窓を作つて居る。內部は化粧屋根裏を現し、床はすべて土間で瓦敷となし、中央に白木造の須彌壇を設け、釋迦の立像を安置して居る。こゝは多數の僧侶が禪道の修業をなす所で、柱

にかゝつて居る聯には「闔山一千七百餘員清衆」などの句がある。

東司〔國寶〕禪堂の南隣にあり、禪堂內で修業の僧侶が使用した室町時代に於ける禪宗式の便所である。七間四面、單層、屋根切妻造、本瓦葺の建築で、外面には格子窓を附け、禪堂に面せる妻部の一面に入口を設け、內部は土間で左右兩側面に厠を作つて居る。禪宗式便所の古き形式を見るべき貴重な遺構である。

浴室〔國寶〕三門の東南にあり、桁行三間、梁間四間單層、屋根は切妻造本瓦葺の建築で、屢々修繕を加へられて居るが、尙室町末期の樣式を傳へ、禪宗寺院の浴室として多くの古式を存するのは稀に見る所である。

通天橋　禪堂から經藏の前を經て開山堂に至る途中洗玉澗と稱する溪流に架せられた木橋である。兩岸に楓樹多く紅葉の名所として名高い。この橋は普明國師が開山堂に往來し易からしめんがために設けたものであると云ふ。この橋の下流にまた一橋あり、臥雲橋と云つて居る。

開山堂　通天橋の北端から直ちに丘陵を登つて達する。開山聖一國師の木像を安置して居る。

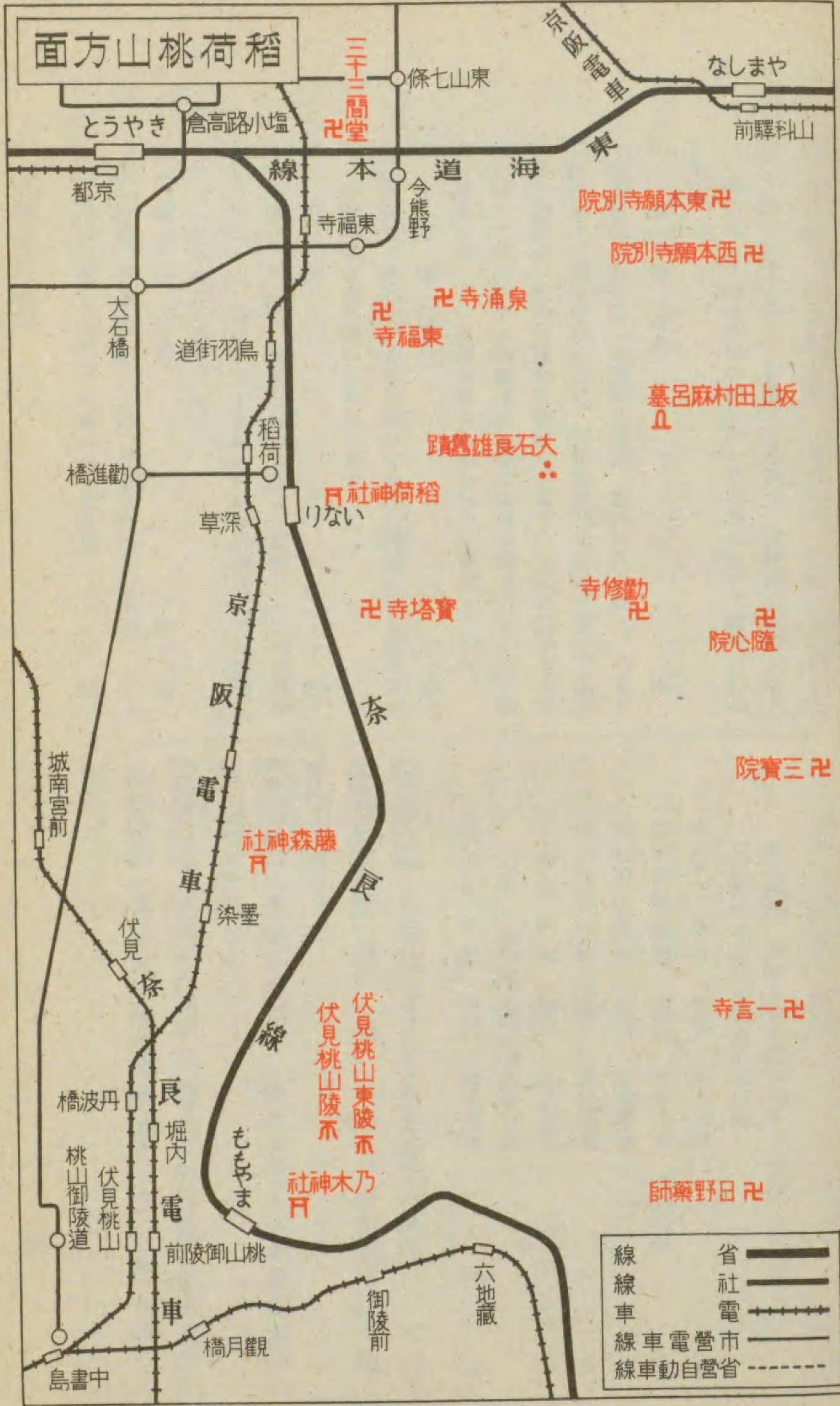
普門院　開山堂門內の西側にあり、開山國師の常住せし方丈と傳へ、他所よりこゝへ移建されたものと云ふ。建築の樣式は寢殿造に屬し、內部は三室に別れ各室の仕切に建てられた襖には、金地に極彩色の貼附繪がある。桃山時代の樣式を傳へた華麗な裝飾畫を以て充たされて居る。

月華門〔國寶〕開山堂の前を西へ下るとこの門に達する。文永年間龜山天皇の御所の月華門を賜はつたものと傳へ、今普門院の總門として西面して建つて居る。屋根は切妻造、朱塗の四脚門である。小建築であるが、蟇股その他の細部に雄健な手法を存する鎌倉時代の建築である。

寶物には左記のものがある。

一　無準師範像〔國寶〕　一幅

絹本著色、無準は東福寺の開山聖一國師が入宋の際師事した



支那五山の隨一たる杭州の徑山萬壽山の名僧で、上に嘉熙二年の自賛がある。圖は南宋寫實派の特色を現し、面貌法衣等の描線に、淡き陰影を施し、色調は平明淡泊、南宋禪林の趣味によつて製作された禪林名僧の朗らかな面影を描寫せる優秀な作品である。

一聖一國師像〔國寶〕　一幅

紙本著色、明兆筆、筆致頗る謹嚴、線の打込み強く、力ある運筆によつて輪廓を組み上げ、明快な彩色を施して居る。筆者明兆は東福寺の殿司を勤めた畫僧で、當寺にはこの他多くの遺作を傳へて居るが、この像は彼が特に妙技を揮つたもので、宋元の畫風を學んで一生面を開いた彼の特色を發揮して居る。

一四十祖像〔國寶〕　四十幅

紙本著色、明兆筆、達磨大師から天柱县禪師に至る臨濟宗の四十祖師の半身像を描いたものである。

一涅槃像　一幅

絹本著色、明兆筆、涅槃像中最も大なる巨幅にして明兆五十七歳の作である。毎年三月十五日の涅槃會の前後三日間禪堂にかけて一般の禮拜を許して居る。

一五百羅漢圖〔國寶〕　四十五幅

絹本著色、明兆筆、中二十幅　恩賜京都博物館出陳

一達磨蝦蟇鐵拐像〔國寶〕　紙本淡彩　明兆筆　三幅

一支那禪刹圖式〔國寶〕　紙本墨書　傳大宋諸山圖　一卷

一參天台五臺山記〔國寶〕　五冊

紙本墨書、卷第五に承安元年八月書寫の奥書がある。

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一釋迦三尊像〔國寶〕　絹本著色　三幅

一東福寺伽藍圖〔國寶〕　紙本淡彩　傳雪舟筆　一幅

一聖一國師度牒〔國寶〕　紙本墨書　二幅

一聖一國師戒牒〔國寶〕　紙本墨書　二幅

一無準行狀記〔國寶〕　紙本墨書　五幅

左記の一點は東京帝室博物館出陳

一維摩居士像〔國寶〕　紙本墨畫　一幅

【同聚院（どうしふ）】月華門の外にある東福寺の塔頭で、木造不動明王の坐像〔國寶〕を藏して居る。平安朝時代の雄大な作である。

【永明院（えいみやう）】東福寺塔頭で、絹本著色の明兆筆圓鑑禪師像〔國寶〕を藏して居る。

【海藏院（かいざう）】東福寺塔頭で、康永二年自賛の絹本著色虎關和尚像〔國寶〕及び楞伽禪師私記一卷〔國寶〕を藏して居る。

【靈源院】 東福寺塔頭で、絹本著色在先和尙像（明兆筆在先自贊）、松山集二册、北越吟一册、海藏和尙記念錄一册を藏し何れも國寶である。

【退耕庵】 東福寺塔頭で、絹本著色性海和尙像（康曆元年自贊）、永明智覺壽禪師垂戒（性海筆）二幅、聖一國師忌齊幹緣疏（性海筆）を藏して居り、何れも國寶となつて居る。

【靈雲院】 東福寺塔頭で、應永二十七年自贊の絹本著色岐陽和尙像〔國寶〕を藏して居る。

【桂昌院】 東福寺塔頭で、自贊の絹本著色双峯國師像〔國寶〕を藏して居る。

【願成寺】 東福寺塔頭で、正安三年自贊の絹本著色佛通禪師像〔國寶〕一幅を藏して居る。

【仲恭天皇九條御陵】 市營、京阪電車東福寺の東南一粁、深草町福稻にある。東福寺三門の東南三〇〇米。東福寺山陵と云ふ。第八十五代の天皇で順德天皇第四皇子、文曆元年五月九條院に崩ぜられた。明治三年仲恭天皇と諡した。

【藤原俊成墓及明兆墓】 東福寺の南方にある塔頭南明院の墓地內、南明院開山業仲禪尼墓の左右にある。その向つて左側にある五輪塔が俊成の墓である。明兆の墓は右側にあり、開山の墓と同じく扁平なる自然石が置いてある。俊成は鎌倉時代の歌人で、後白河天皇の詔によりて千載和歌集を撰み、文治二年成りて上つた。後鳥羽天皇、土御門天皇に仕へ元久元年歲九十一で薨じた。明兆は東福寺の僧で世に兆殿司と云ひ、宋の李龍眠を學び、自から一派をなした室町時代の著名な畫僧である。永享三年歲八十を以て寂した。

【法性寺】〔淨土宗西山禪林派〕 市營、京阪電車東福寺下車伏見街道三の橋南東福寺北門の近くにあり、本尊は木造の廿七面千手觀音立像〔國寶〕で藤原時代の作である。千手觀音の廿七面は日本では珍らしい。

【泉涌寺】〔眞言宗泉涌寺派大本山〕 市電泉涌寺道の東南約一粁、奈良線稻荷驛からは一粁六、東山區今熊野泉山にある。四條天皇以降御歷代の御香華所で、本堂、釋迦堂、觀音堂、舍利殿、開山堂、靈明殿等の諸堂がある。

寶物には左記のものがある。

一俊芿附法狀〔國寶〕 紙本墨書 一幅
嘉祿三年二月廿三日

一中御門天皇宸筆正法國師加號勅書〔國寶〕 一幅
紙本墨書 享保十一年二月八日

一俊芿泉涌寺勸緣疏〔國寶〕 一卷
彩牋墨書 承久元年十月 日

一太刀〔國寶〕 拵絲卷太刀 一口
銘大和則長 東京遊就館出陳

【戒光寺】（泉山丈六釋迦堂）〔泉涌寺塔頭〕 安貞二年僧曇照が勅命によつて創立したもので、國寶の木造釋迦像がある。玉眼入、肉身金泥、纒衣極彩色、右手を擧げ左手を下げた立像で、その兩手は爪を長く伸ばし、面貌衣帶などにも宋畫の影響が見える。鎌倉末期の作。

【月輪御陵及後月輪御陵】 泉涌寺の東南隅にある。月輪御陵は靈明殿の後方高き塀をめぐらした裡にあり、第八十七代四條天皇、第百八代後水尾天皇以下 明正天皇、後光明天皇、後西天皇、靈元天皇、東山天皇、中御門天皇、櫻町天皇、桃園天皇、後櫻町天皇、後桃園天皇に至る十二天皇の御陵で、何れも九重の御石塔を建てゝ山陵に擬したものである。この他陽光院太上天皇、中宮、皇太后等の諸陵墓もあり また後土御門天皇、後柏原天皇、後奈良天皇、正親町天皇、後陽成天皇の御灰塚等がある。後月輪御陵は月輪御陵の南の一劃で、第百十九代光格天皇、第百二十代仁孝天皇の御陵で、共に九重の御石塔である。他に六皇妃、三親王の御墓がある。

【孝明天皇後月輪東山御陵】 月輪十二御陵の東100米、三段に石垣を廻らした裡にある。直徑約四七米高さ約七米の圓墳で、頂上に大なる自然石を据ゑ奉る、御陵域には掘立の石柵を廻らし、御門は塀重門である。北方に後月輪東北御陵あり、英照皇太后の御陵で制式は略々東山御陵と同じである。孝明天皇は第百二十一代の天皇で、明治天皇の御父に當られ、弘化三年正月御踐祚、御在位十六年、慶應二年十二月崩御せられた。御壽三十六。天皇英資聰明、內憂外患の時に

あつて思を内治外交に濺ぎ給ひ、王室中興の基を開かせられた。

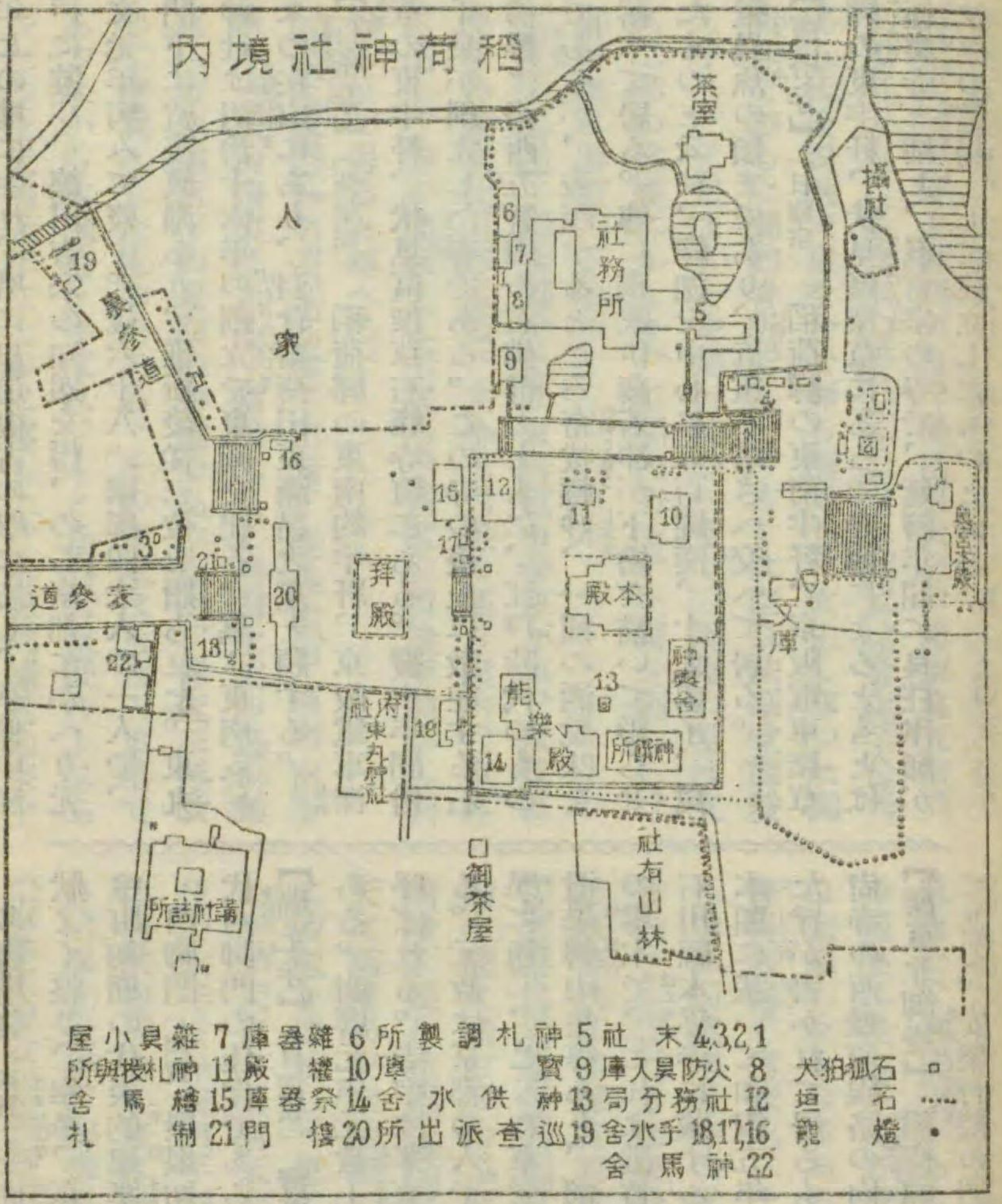
★【稲荷神社】〔官幣大社〕奈良線稲荷驛の東約三〇〇米、市電、市バス、京阪電車稲荷下車、伏見深草、伏見街道の南端東側にあり、食稲魂神を祀る。和銅年間には稲荷山の山嶺三ヶ峯に祀られて居たが、後世今の地に移された。延喜の制に於いて名神大社に列し、また二十二社の一に編入せられ、屢々行幸あり、古來朝野の信仰厚く、今尚盛にして常に參詣者が絶えない。例祭は四月九日であるが、私祭は四月の二の午の日に御幸式、五月一の卯の日に還幸式を行ふので「俗にうま〳〵とお出かけ、うか〳〵とお歸り」と云ふ。二月の初午祭は特に賑ふ。神紋は東稲。

本殿〔國寶〕伏見街道から朱塗の大鳥居を入ると、石段の上に朱塗の樓門があり、その奥に拜殿と本殿が立つて居る。五間社流造の建築で、前面に唐破風造の向拜を突き出して居る。本殿は明應三年の建築で、向拜は元祿年間に補つたものと云ふ。屋根は檜皮葺で流れ頗る緩く、構造様式は室町時代の末期を代表し、その美麗なる蟇股は室町桃山兩期の過渡期の作風を示して居る。

權殿　本殿の向つて左にあり、五間三面流造、檜皮葺の建築である。

神苑　本殿の背後から東に上ると、上中下三の峯が竝んで居るので三ヶ峯と稱され、山中七箇所に神跡があり、俗に御山巡りと稱して巡拜するものが多い。この神跡を遙拜するため、命婦谷卽ち本殿の後方に御供所があり、俗に奥の院と稱して居る。全山各所に多數の赤い鳥居があるが、本殿の後方から命婦谷に通ずる所には鳥居が隧道を成し、俗に千本鳥居と稱して名高い。山上に達すると伏見桃山から淀八幡一帶の眺望が好い。

御茶屋〔國寶〕本殿の前、石段の右手にある門構の中にある。門を入ると左側に「後水尾院恩賜之書院」と刻まれた石標がある。もと仙洞御所内にあつた御茶屋で、後水尾天皇が當社の神職羽倉延次に賜つたものと傳へて居る。大正七八年修築を加へた際、多少原狀を變更せる個所もあるが、書院造を加味せる茶席建築で床脇、棚竝に附書院、欄間、釘隱等の手法に、桃山時代の風を存して居る。



【荷田東滿舊宅】〔指定史跡〕稲荷神社境内の西側に接近せる府社東丸神社の社務所となつて遺つて居る。舊宅の一部は東滿の歿後燒失したが、門、書院及び北隅にある神事舎と名づけられた祭器庫一棟は、火災を免れて當時の構造を存し、庭、井戸等また舊態をとどめて居る。東滿はその家代代伏見稲荷の祠官で、寬文九

年との地に生れ、夙に皇道復古の學に志し、享保中江戸に遊び、德川吉宗の知遇を得、のち京都にかへり元文元年病みて歿す。歳六十八。國學四大人の一人で、門下に賀茂眞淵あり、維新後從三位を贈られた。東丸神社は明治十六年の創立で東滿を祀る。墓は東南三〇〇米の在山にあり、羽倉齋荷田東滿呂之墓と題する。

【石峰寺】〔黄檗宗〕稻荷驛の東南約半粁、京阪電車深草の東半粁、伏見區深草石峰寺町にある。寶永年間僧千呆が創立した寺である。との寺の後丘に散在する石佛群は洛西五智山の石佛群とともに、江戸時代のものであるが、表現するところ奇抜輕妙、一種の洒脱味を蓄へて居る。傳に畫家伊藤若冲が下繪を描いて彫らせたものと云ひ、釋迦を中心に五百羅漢、十大弟子、禽獸蟲魚の類まであり、五重石塔さへ交へて居る。

【寶塔寺】〔日蓮宗〕稻荷驛の東南半粁、京阪電車深草驛の東半粁、伏見區深草にある。寺傳によるともとは極樂寺と稱し、眞言宗の寺で、延暦年間に良桂律師が法華の道場として建立したものと云ふ。

多寶塔婆〔國寶〕三面二層の塔婆、屋根は本瓦葺で形狀よく整ひ、拳鼻、蟇股の刳形彫刻等頗る觀るべく、室町初期の代表的建築である。

四脚門〔國寶〕屋根切妻造、本瓦葺の建築で、室町時代四脚門の佳作である。

【瑞光寺】〔日蓮宗〕寶塔寺の南二〇〇米、伏見區深草町にある。明曆元年元政上人の創建にかゝり、元政庵とも呼ばれる。寺宇は茅葺、土階の極めて簡素な構造である。元政は京都の人で、博學强記、詞章を善くし、國學に通じ、こゝに草堂を營み寛文八年歿した。寺寶に遺墨艸山集等あり、國寶の大般若經は卷第二百四十六の零本で、これは滋賀縣太平寺、見性庵、常明寺、石川縣本誓寺に藏する諸本と同じく、奥書に長屋王の本願に基いて和銅五年文武天皇の冥福のために書寫した旨が書かれて居るもので、そのうちの一帖である。
尙寺の西鐵道線路の向ひ側に元政上人の墓がある。

【深草北御陵】稻荷驛の東南一粁、瑞光寺の南に接してある。安樂行院の門內にある法華堂がそれである。

後深草天皇、伏見天皇、後伏見天皇、後小松天皇、稱光天皇、後土御門天皇、後柏原天皇、後奈良天皇、正親町天皇、後陽成天皇及び武家方第四代後光嚴天皇、第五代後圓融天皇を合せ葬る御陵で、火化し奉つた御仙骨を納めた御納骨所である。古くは深草法華堂御陵と呼んだ。堂はもと安樂行院の一堂で、現時の堂は文久二年の修築にかゝり、二間四方で、土塀を廻らし、御正面に塀重門がある。

【雀のお宿】稻荷驛または京阪電車深草下車、伏見區深草の鍵本氏方にある。大小三百餘の瓢を室內、室外に吊し、雀の棲家として居る。雀は二百餘年前から飼養されて居ると傳へる。

【安樂壽院】〔眞言宗智山派〕市營、奈良電車城南宮下車、竹田內畑町にある。當院はもと鳥羽上皇の鳥羽離宮（城南離宮）の東殿の佛殿であつたが、保延三年改めて佛刹としたものである。その本堂はもと三重塔であつたから本御塔と呼ばれ、もと鳥羽天皇陵の上にあつたのを元治元年にこゝに移した。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は鳥羽上皇の御念持佛で高さ三尺、漆箔定印の坐像で、胸に卍があるので卍字阿彌陀と稱し、十二重の臺座に坐し、舟形寶相華透彫の光背を負ひ、藤原式の完備したものである。他に國寶の絹本著色孔雀明王、普賢菩薩、阿彌陀二十五菩薩來迎圖を有する。

寺に山城國分寺の元慶の額の模品を藏し、額面に「國分寺」とある。また國分寺の佛像と云ふものを藏する。なほ境內には鎌倉時代の五輪塔がある。

【鳥羽天皇安樂壽院御陵】もと三重の寶塔で鳥羽上皇御生前に造らせ給ふ所であつた。塔下に石槨を設けて山陵に擬し、崩御後御遺骨を納め奉つたが、塔は永仁、天文兩度の安樂壽院の火災に炎上し、慶長十七年塔基に假堂を建設し、更に元治元年北方に移され靈屋を營んだ。天皇は堀河天皇の皇子で嘉祥二年御踐祚、御在位十六年で保安四年御位を崇德天皇に讓られたが、白河法皇崩御の後はまた法皇に倣つて院政を執らせ給ひ、保元元年、御壽五十四を以て崩ぜられた。

【近衞天皇安樂壽院南御陵】安樂壽院境內の南にあ

る。周圍に屋根付の柵塀を廻らし正面に高麗門あり、うちに多寶塔がある。塔は慶長十一年豐臣秀頼の再建で、御歷代御陵中唯一の古い木造建築の遺構である。高さ二九米、方三間、四方扉造、外緣勾欄付で內陣に阿彌陀如來、外陣に大日如來の像を安置して居る。天皇は御在位十四年、久壽二年七月崩ぜられた。御壽十七。

【白河天皇成菩提院御陵】市營、奈良電車城南宮下車西半粁、竹田內畑町にある。約一五米四方の低い御塚墓で周圍に堀あり、陵前に松、櫻が多く植ゑられて居る。天皇は延久四年御卽位、皇綱の振張に勉められ、ために攝關の勢威漸く衰へ、大政はじめて宸衷に出づるに至つた。應德三年堀河天皇に御讓位の後も院中に政を聽き給ひ、崇德天皇に至る三代五十年間の院政の基を開かれた。大治四年御壽七十七にて崩御せられた。

【眞幡寸神社（城南宮）】〔府社〕市電城南宮道の西一粁、伏見區中島町にある。方位の神として方違ひ祈禱のため參詣者が多い。また傳へて白河上皇の鳥羽離宮址と云ひ承久の變の前に流鏑馬に事よせて官兵をこゝに集め給うた地である。

【藤森神社】〔府社〕京阪電車墨染の北半粁、伏見區深草にある。當社ははじめ稻荷山の麓にあつたが、後こゝに遷座したのである。六月五日の藤森祭には多數の行列が氏子地を巡行する。

大將軍社々殿〔國寶〕一間社流造、屋根は杮葺、永享十年足利義教が建立したもので、簡單な構造であるがよく室町中期の樣式を示して居る。

八幡社本殿〔國寶〕建立年代その構造等、何れも大將軍社々殿と同樣である。

【佛國寺黃檗高泉和尙碑】京阪電車墨染の東北一粁、深草町大龜谷佛國寺境內本堂の東側にある。花崗岩二重の基盤上に建てられ、碑身、龜趺共に銅製で高さ約二米半、幅正面約一米側面約四三糎、上部に諡賜大圓廣慧國師碑銘と題する篆額と、その下に二千餘字の行狀記を鑄出したもので、寶永三年十月近衞家熙豫樂院の撰並に書に成る。碑の正面篆額の上部に雙龍、また正面と側面の外緣に散雲を配して裝飾してある。碑は全鑄ではなく、部分ごとに別箇に鑄て組合はせたものである。

高泉は佛國寺の開祖で、支那福建の人、隱元和尙に請ぜられて寬文元年我が國に來り、上下の歸依を受け延寶六年本寺を開き、のち元祿五年黃檗山萬福寺に入りて第五世の法嗣となり、黃檗山中興の祖と稱せらる。元祿八年六十三を以て示寂した。書をよくし諸國にその墨蹟が遺つて居る。墓は開山堂の後方にあつたのが移されて今堂內に木像と共にある。また碑文の筆者豫樂院は近世入木道の大家で、この碑はその楷書の書風を示す代表的傑作として知られ、恩賜京都博物館に出陳中の碑銘草本二幅と共に國寶に指定されて居る。

【御香宮神社】〔府社〕奈良線桃山驛の西北約半粁、京阪電車伏見桃山の東北約半粁、御香宮前町にある。境內に奈良時代前期の瓦を出土するから、その頃この地に寺があつたことが考へられる。またこゝは黑田如水邸宅の址であると云ふ。創建の年代は詳かでないが、延喜式內の古社で神功皇后、仲哀天皇、應神天皇を祀る。天正年間には豐臣秀吉が太刀を獻納して征韓の戰勝を祈つたことがあり、當寺は御幸宮と稱して居た。その後江戶時代にも武家の崇敬厚く、現存の社殿は德川氏の造營に成つたものである。十月九日の當社の秋祭は古來伏見祭と稱せられ、洛南の大祭の一に數へられる。

表門〔國寶〕伏見城の遺構で三間一戶切妻造、本瓦葺、木割雄大にして蟇股以外はすべて素木のまゝである。蟇股には彩色を施した優秀な彫刻が嵌裝されて居る。意匠雄大にして豪壯の氣分を現し、桃山時代の特徵を示して居る。

本殿は慶長十年德川家康の再建にかゝり、五間社流造、檜皮葺で、棰、柱等は朱塗、正面には三間の向拜を附し、その蟇股には雲龍、獅子、竹に虎などの彩色の華麗な彫刻がある。

拜殿は寬永二年德川賴宣の寄進と傳へ、七間三面入母屋造、本瓦葺で割拜殿と稱し、中央の一間を開いて通路となし、本殿の正面に通じて居る。正面の唐破風

内と長押上の蟇股には、彩色を施した優秀な彫刻がある。

繪馬堂には當社の景を描き、猿廻の丸彫を嵌裝した大形の珍しい繪馬がある。正保三年に奉納したもので作者は前田六之丞と署名されて居る。

表門の傍に伏見義民碑がある。これは天明の頃酷吏の難から里人を救つた文珠九助翁のために建てたものである。

【桓武天皇柏原御陵】　桃山驛の北一粁半、桃山町にある。もとは宏大な御陵であつたが後世甚だしく毀たれて丘形を失ふに至つた。明治以後修理が加へられ、道路を開き周垣を築かれた。天皇は天應元年位に卽き給ひ、延暦十三年葛野郡宇太村の地を相して新都を經營して遷都し給ひ平安城と云ひ、爾來一千餘年の帝都の基を成し給うた。また東夷の叛服常なきを憂ひ給ひ、延暦十六年坂上田村麻呂を征夷大將軍となし、これを討平せられ、蝦夷地悉く王化に服するに至つた。天皇御在位二十五年、延暦二十五年三月聖壽七十を以て崩ぜられた。

【桃山城址】　桃山驛の東北一粁半、桃山御陵の北裏一帶の地で、文祿三年秀吉の築城にかゝり、もと伏見城と呼び、北は大龜谷、南は宇治川向島に及び、東は木幡山に至る大規模な城であつたが、元和六年城郭は取毀たれ、その舊材は諸處に移された。現に西本願寺の玄關、書院、唐門、豐國神社唐門その他の京洛の各所にその遺構を存し、雄大絢爛なりし當時を偲ぶことが出來る。城址は今山林、畑となり且つ桃山御陵その南緣に營まれたが、その餘の地には濠址及び諸曲輪の土壘を存し、畑中からは金箔を押した豪華な菊桐紋の瓦を發見する事がある。

【明治天皇伏見桃山御陵】　桃山驛の東北一粁一、京阪電車伏見桃山、同宇治線御陵前、奈良電車桃山御陵前下車。御陵は舊桃山城址の地に造營せられ、その制略々天智天皇山科御陵と同じく上圓下方で上圓、下方各々更に三段に築成されるが、後面は山に倚つて居るので段を形作らない。上圓の表面はすべて小豆島産の礫石を以て葺かれ、圓丘の高さ約六米、御拜所より の總高二〇米、下方の最下壇は長さ六〇米ある。御陵の周圍に內外二重の御玉垣あり內玉垣は前面石柵、正面に金色の菊花御紋章を附した靑銅製門扉があり、三面は外方石垣の土壘で東西九〇米ある。門の外方に御拜所あり、その左右に空隍を穿つて居る。外玉垣は總て石柵で前面に門がある。東西三七米、南北一五五米である。この前面幅約七米、二百三十級の石階があり、丘麓の御陵道に通じて居る。一般參拜者はこゝから上れば廣い方地があり、前面に木柵がある。この柵の外から前面遙に御外玉垣、御內玉垣の間から神々しき御陵の姿を拜する事が出來る。御陵の地は宇治川を脚下に見下し、頗る景趣に富んで居る。

【伏見桃山東御陵】　昭憲皇太后御陵で、伏見桃山御陵の東に接し、相隔つること約七三米、型式略々同形であるが規模やゝ小で、圓丘の高さ約四米半、御拜所よりの總高さ一六米半、下方の壇長さ約三九米で、內外兩御玉垣あり、外玉垣は一〇〇米に一二七米の大いさを有して居る。

【乃木神社】〔府社〕桃山驛の東約四〇〇米、桃山御陵參拜路の傍にある。大正五年に創建せられ、明治天皇に殉じた乃木希典大將を祀る。社殿は春日造で楠木正成を祀れる湊川神社を模したものである。境內には靜子夫人を祀る靜魂神社あり、また三十七八年戰役に旅順攻圍軍第三軍司令部に充てられ、大將が常に起居せられた南滿洲柳樹房の民家を移建した記念館があり、表門外には大將の幼時を偲ぶべき下關市長府町の乃木邸模造建物がある。寶物館には大將の遺品を陳列して居る。桃山御陵に參拜した人は歸途必ずこの宮に參拜する習はしとなつて居る。

【大光明寺御陵】　桃山驛の南半粁、桃山にある。陵域內に二陵相竝び、東なるは武家方第二代光明天皇御陵、西なるは同第三代崇光天皇御陵である。共に圓墳、陵上に竹を生じ老杉四方を圍んで居る。光明天皇は延元二年御卽位、御在位十二年で、天授六年崩じ給うた。崇光天皇は正平四年御卽位、御在位三年で伏見の仙洞

に遷御あらせられ、應永五年崩じ給うた。

【京橋】 市電伏見線京橋下車、伏見區にある。宇治川の支流に南北に架してある。橋畔は往時船舶輻輳し、大阪との間にも發著があつた。

【寺田屋騷動の碑】 市電伏見線京橋下車、宇治川支流の河畔にあるもと旅人宿寺田屋の敷地に建設され、文久壬戌四月二十三日薩摩藩有島新七外八烈士憤死の遺蹟を示したもので、篆額は有栖川熾仁親王の筆、撰文は川田剛、書は長炗である。

【觀月橋】 京阪電車宇治線觀月橋下車、宇治川に架してある。始は桂橋と云ひ、大友豐後守宗麟が架設したから豐後橋とも呼んだ。世に月見橋と稱する。附近には料亭が多い。

【三夜莊】 京阪電車宇治線觀月橋下車、伏見城山の南端月見が丘にある。西本願寺の別莊で、豐臣秀吉の月見臺の舊址である。三夜の名は秀吉が一輪は山、一輪は水、一輪は杯中にあり、一夜にして三夜の勝を兼ねたりと嘆賞したに基づくと云ふ。

【巨椋池】 奈良電車中書島下車、伏見區向島東定請地先にある。山城盆地の東南隅に偏在し、周圍一六粁、水深僅に二米内外の沼澤であるが、往時は廣漠たる大湖で桂川、宇治川、木津川、賀茂川等の水流は皆これに流入した。豐臣秀吉が北邊に放水路を掘鑿して宇治川と巨椋池とを分つてから水面は次第に縮少せられ、現在にあつては大規模なる干拓工事が進捗して最近に至り池は概ね陸地と化した。巨椋池は水生植物多く繁茂し、その種類四十七科九十六屬百五十三種三變種に達し、その屬種に於いて本邦所產水生植物屬數の八五%を占めて居るのみならず、就中食虫の習性ある「むじなも」の自生せるあるは學術上頗る珍重すべきである。「むじなも」の本邦に於ける分布はその範圍極めて狹く、巨椋池以外には僅に利根、信濃兩河の水系に存するのみである。干拓に際してその自然狀態を永久に保存せんため、池の一部に特に舊態を遺してその永續を計つた。

六、醍醐、山科方面

【花山天文臺】 京阪電車京津線蹴上の南二粁、山科北花山大峰町に屬し、海拔三二米の花山山の山頂約三六アールを占めて居る。西方からは淸水山に妨げられ望見することが出來ない。天文臺は京都帝國大學に屬し、ここに通ずる花山道路、即ち約六米幅の自動車道路は昭和二年工兵隊によつて開鑿され、その主要點八箇所にトレミー曲路、オーマー谷、ブルーノ點、コペルニク轉回、ケプラー點、ガリレオ道、ニウトン凹路、ハーシエル道の名を附けてある。天文臺建築の設計は昭和二年から三年にかけて行はれ、建物は本館、別館、子午線館、太陽館、宿舍より成る。主な天文機械はクク製口徑三〇糎屈折式赤道儀、ザートリウス製口徑一八糎屈折式望遠鏡、ハイデ製口徑一〇糎屈折式赤道儀、カルヴー作口徑四六糎反射式赤道儀望遠鏡、ブラシア製口徑二五糎反射式赤道儀望遠鏡、中村作極軸式反射望遠鏡、バルベルヒ製口徑九〇粍子午儀、ザートリウス製二〇糎環天文經緯儀、グラブ製口徑四二糎シーロスタト、グラブ製口徑三〇糎日蝕用シーロスタト、ザートリウス製シデロスタト、シタインハイル製口徑二〇糎長焦點反射鏡、アスカニア製分光太陽寫眞儀、リーフラー製天文用標準時計である。ザートリウス天文經緯儀を本館屋上の露臺にある南觀測臺上に載せて子午線觀測を試みた結果、天文臺の星學位置は東經一三五度四七分三三秒(九時三分一〇秒二)、北緯三四度五九分四〇秒である。天文臺は毎年二月、五月、六月、十月及び十一月の日曜夜は公開し、晝間は一般に公開しない。團體の參觀は豫め臺長へ書面にて申出で、許可を受けるがよい。

【日の岡】 京阪電車京津線日の岡下車、山科町にある。京都に通ずる坂路で、往時小徑に過ぎなかつたが、木食應其上人土工を起して車馬の便を圖り、明治八年から同十年に懸けて京都府で大改修を行つた。今は電車が往來する。

【天智天皇山科御陵】 京阪電車京津線御陵の東北一粁、

山科驛の西北一粁半、東山區山科御陵にある。一に山科鏡山御陵とも稱し、上圓下方の御塚で、表面に砂礫を葺き高さ一〇米、下方は三壇に築かれて約八四米四方あり、最下段の壇上に玉垣を繞らして居る。天皇御諱は中大兄、皇極天皇、孝德天皇、齊明天皇の三朝に皇太子として攝政たりし事二十餘年、白雉七年御位に即き給ひ、同十年十二月、御壽四十六を以て崩じ給うた。御在世中の御事蹟頗る多く、殊に蘇我氏の誅滅、大化の改新等はその主なるものである。

【安祥寺】〔古義眞言宗〕　山科驛の北半粁、山科安祥寺町にある。貞觀元年仁明天皇の妃藤原順子の創立で、唐の青龍寺を模して建てたと傳へられる。本堂には十一面觀音を、開山堂には開山惠運僧正竝に宗意僧正の像を、また地藏堂には惠運が唐の青龍寺から將來したと云ふ延命地藏を安置してある。寺寶に五智如來坐像〔國寶〕五軀がある。

　この寺の北に業平谷と云ふのがあり、在原業平別業の址と傳へらる。

【奴茶屋】　山科驛下車、山科安朱にあり、大津街道に沿ひ、著名の料亭である。旅客の護衞に任じ、武勇仁俠の聞え高つた祖先の遺物を保存し、高貴の御方の御立寄あらせられたことがあると云ふ。

【毘沙門堂】〔天台宗〕　山科驛の北一粁、山科安朱にある。延曆年中最澄出雲路に草庵を構へ、自刻毘沙門天を安置したのが本寺の濫觴である。寛文五年公海の中興以後代々親王入室して天台座主に補せられ、天台京都五門跡の一となつた。本堂以下諸堂備はり宏壯である。

　寶物には左記のものがある。

一鳳凰耳靑磁花瓶〔國寶〕　一箇
一洞院公定日記〔國寶〕　二卷

【山科御坊（舞樂寺）】〔眞宗本派別院〕　山科驛の南一粁、山科東野にある。本願寺の中興蓮如の建てた寺址に享保年間復興したものである。寺域高燥、前は十禪寺川に臨み、後に音羽川を控へ、亂松粉垣に映じ、石梁靑苔を載せ、眺望が頗る佳い。蓮如上人の墓は西一〇〇米餘、

山科西野大手先町にあり、石垣を繞らし拜堂を備へ、參詣人が多い。附近は鬱蒼たる林である。

【京都カンツリークラブゴルフ場】　山科驛の南一粁、自動車の便があり、全長一、五〇〇米に六ホールがある。

【坂上田村麻呂墓】　山科驛の南二粁半、山科栗栖華ノ木町にあり、自動車の便がある。高さ約一米半の封土で久しく荒廢したのを明治二十八年平安奠都一千百年祭の折大いに修理を加へた。田村麻呂は有名な武人で、桓武天皇の朝勅を奉じて屢々蝦夷征討に從つて功あり、延曆十六年征夷大將軍を拜して陸中膽澤の蝦夷を討滅してこゝに築き、皇威を陸奧の地に輝かしめ、蝦夷全く王化に伏するに至つた。弘仁二年壽五十四を以て粟田別業に薨じた。嵯峨天皇卽ち栗栖野の地三町を賜ひて墓域となし、屍を棺中に立て、甲を環し弓を帶せしめ、平安城に向ひて埋めしめ、永く王城の鎭護たらしめ給うたと云ふ。

【大石良雄隱宅址】　山科驛の西南三粁三、山科西野の岩屋寺境內にあり、自動車の便がある。元祿年間赤穗浪士大石良雄の潛居した址で、復讎後岩屋寺の境內となつた。寺は一時荒廢したが、嘉永年間京都町奉行淺野長祚等の盡力によりて再興した。本尊不動明王は良雄の念持佛と云ひ、寺內に淺野內匠頭と四十七士の位牌竝に木像があり、「大石良雄潛居碑」がある。

【大石神社】〔府社〕　岩屋寺に接す。祭神大石良雄。昭和八年十二月創立許可、同十二年四月鎭座と共に府社に列格。義士討入の日には記念大祭が行はれる。

【勸修寺】〔眞言宗山階派大本山〕　山科驛の南四粁、山科勸修寺にあり、自動車の便がある。昌泰三年の創建、醍醐天皇の勅願寺であつた。古來當寺は朝廷、藤原氏の崇敬厚く、住職は代々法親王入らせられ勸修寺門跡と稱し、堂塔伽藍悉く壯麗を極めたが、文明二年の兵燹に遭ひ、その上豐太閤の時に境內を縮小せしめられた。その後德川氏の時に漸く寺領を與へられ、回復再建されたのである。卽ち元祿十年には明正天皇の舊殿を下賜されて書院となし、また延寶年間には假內侍所を賜り本堂となした。兩方共現存して居るが書院は

國寶に指定されて居る。

書院〔國寶〕桁行前面六間後面九間、梁間東側五間西側四間、單層、屋根入母屋造棧瓦葺の建築にして、江戸時代初期に於ける書院造の好典型である。その襖と壁には悉く土佐風の華麗な彩色畫を以て裝飾し、奧の室には龍田の紅葉、次の室には近江八景などが描かれて居る。筆者は土佐光起、同光成と傳へて居る。

庭園　頗る廣く、幽邃靜寂の趣致に富む。池は延喜式所載の栗栖野氷室の池と傳へ、風光優麗である。

寶物には左記のものがある。

一釋迦如來說法圖〔國寶〕　一　鋪

刺繡、醍醐天皇の寄進と傳へ、華麗な彩色を有し、その手法を見ると支那大陸の製作たること明かにして、唐朝より宋朝の作と思はれるもので、我が國に現存せる繡佛中最も優秀な大作である。恩賜京都博物館出陳。

一蓮華蒔繪經筥〔國寶〕　恩賜京都博物館出陳　一　合

一仁王經良賁跡〔國寶〕　三　帖

【牛尾觀音法嚴寺】〔法相宗〕　山科驛の東南三粁、牛尾山の南嶺中腹にある。俗に清水寺奧院と呼ばれ、東山清水寺の舊地である。境內老杉森々櫻楓多く、春秋曳杖者が多い。本堂の後より近く山頂に登れば眺望最も佳く、琵琶湖が眼下に見下される。

【隨心院】〔眞言宗善通寺派大本山〕　山科驛の南四粁、山科小野町にあり、自動車の便がある。仁海の開基で、寬喜六年門跡號を賜はり、現時の堂宇は寬保、正保の間の再建である。

寶物には左記のものがある。

一愛染曼荼羅圖〔國寶〕　絹本著色　一　幅

★【醍醐寺】〔眞言宗醍醐派總本山〕　山科驛の南約四粁半、伏見區醍醐にあり、山科驛と京阪電車宇治線六地藏より自動車の便がある。

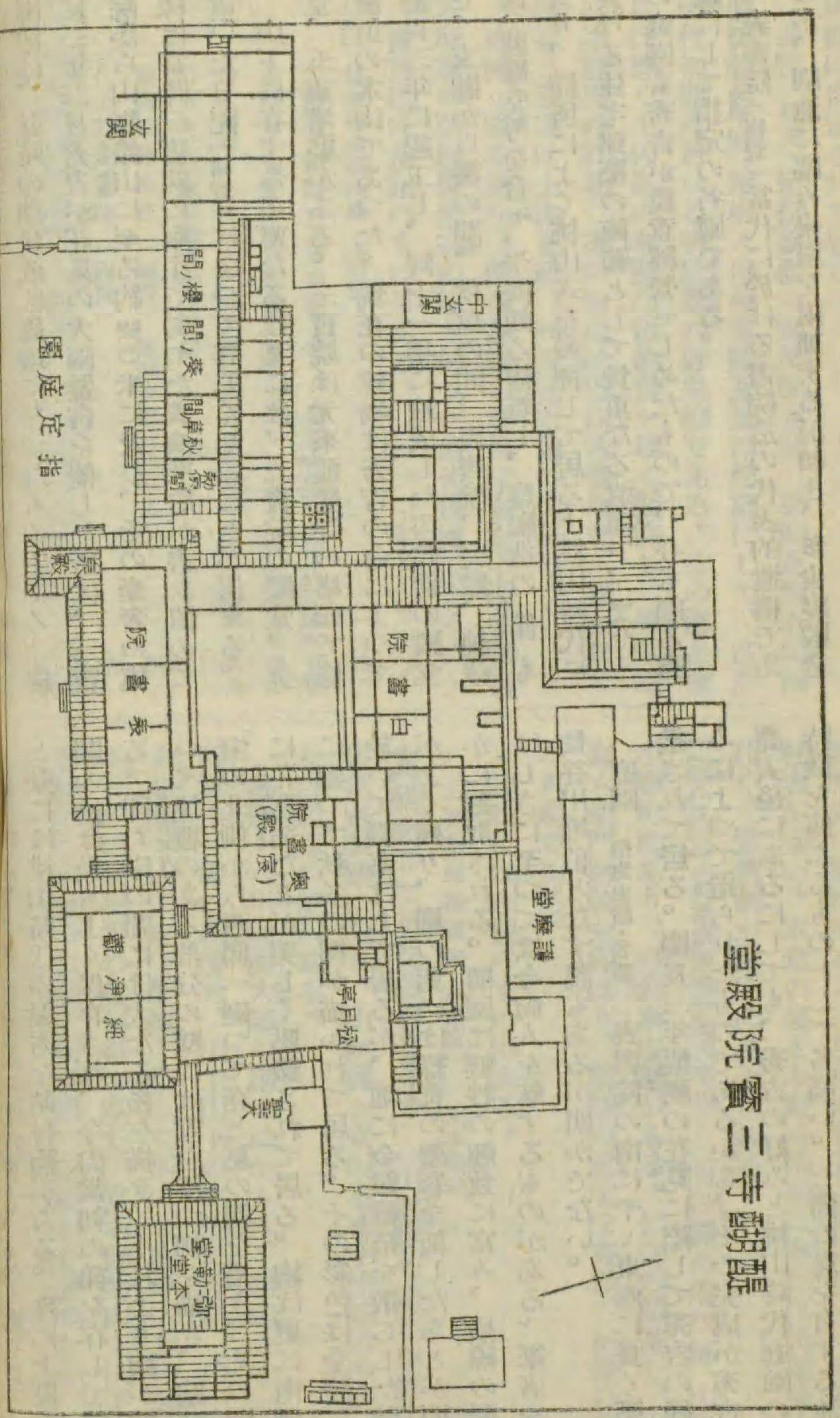
貞觀十六年理源大師の創立にかゝり、西國三十三ヶ所第十一番の札所で、山上山下の二院に分れ、山上を上醍醐、山下を下醍醐と稱して居る。醍醐天皇の臨幸ありて以來朝野の尊信益々厚く、堂塔伽藍山上山下に充滿するに至つた。文明年間一時衰運を極めたが、後義演准后の時豐臣秀吉の信仰を得、堂宇の再興を計り、略々舊觀に復することを得た。今山下三寶院の建物と園池は、當時の創建或は修理になつたものである。慶長三年三月秀吉が花見の大園遊會を催した所は、三寶院から山腹鎗山に至る約四〇〇米に及び、その豪奢の模樣は當時三寶院の座主であつた義演准后が書き留めて置いた日記〔國寶〕によつて詳しく知ることが出來る。

山下に存する主要なる建築には、三寶院の殿堂、金堂、五重塔婆がある。三寶院は元來醍醐寺の塔頭で修驗道の本山であつた。現在の建物は秀吉の命によつて慶長三年に起工し、同十一年に竣成した書院造の殿堂で、玄關から葵の間、秋草の間、表書院、宸殿、純淨觀、護摩堂等を合せ、平面頗る複雜し、寢殿造の俤もあり、隨所によく桃山式を發揮して居る。桃山時代に於ける住宅建築の模範として貴重なる遺構で、またその庭園も秀吉が銳意經營せしめたもので、今も頗る秀麗にして指定の名園である。

表書院〔國寶〕當代に於ける書院造の代表的遺構であるが、園池に臨み泉殿を附加するが如き、多少寢殿造の遺風も加味されて居る。內部は三室に別れ、その襖と壁には桃山時代の優秀な貼付繪がある。殊に上段の間の繪は最もよく保存され、今尙當初の俤を存して居る。卽ち床の間には大なる松を描き、それより繪が續いて違棚のある部分の壁には雪を持つ柳を描き、繪は室の北側から西側へ廻つて春と夏の柳を描き、その間に花菖蒲などが美しく點綴されて居る。繪は更に南側に廻つて秋冬の柳が描かれて居る。その彩色は全體に於いて剝落はして居るが、地に金銀截箔を散らした跡がよく殘り、柳の葉には綠靑の濃彩を施したあとが明かに觀取される。構圖は輕妙の趣致に富み、描線の麗はしさに至つては今尙人を魅するものがある。筆者を長谷川等伯となす說もあるが明かでない。

庭園〔指定史蹟・名勝〕　表書院の南にやゝ東西に長く築造されて居る。慶長三年醍醐の花見に際して秀吉の好みによつて造られたものであるから、その完成が秀吉薨去後にあるにしても、秀吉の好みと桃山時代庭園の特徴を傳ふるものとして名高い。三箇の島を有する池

醍醐寺三寶院殿堂



かこの庭園の大部分を占め、その西側に假山を築き、南側から東側にかけて丘陵となり、これに鬱蒼たる樹木を繁茂せしめ、東南隅に瀧を落して居る。主要なる橋は何れも瀧の方に向ひ東西に架せられて居るので、庭園全體の勢は東南に向ひ、自然との方面が重心を成して居る。尙この庭園に特に注意すべきことは岩石の豐富に使用されて居ることで、秀吉が特に聚樂第から引かせた名石藤戸石は今も庭の向ふの池畔森の下に屹立して居る。庭の様式は平安朝時代の寢殿式庭園に屬するものと云はれて居るが、全く觀賞本位のもので、專ら大書院よりの觀賞を目的として造られて居る。卽ち建築とよく調和を保ち、明るい豪奢な氣分を現した桃山時代の代表的庭園である。

唐門〔國寶〕庭園の西南隅にあり、伏見城の遺物と稱し、三間一戸、檜皮葺で全體の恰好もすぐれて居る。手法は纎細であるが、扉や兩脇の板壁いつぱいに大きな菊桐模樣の浮彫を嵌裝し、それに漆箔を貼つたあとがあり、桃山時代一流の豪華さが偲ばれる。

純淨觀〔國寶〕表書院の東に建ち、登り廊を以て相接續し、東はまた渡廊を以て彌勒堂に續いて居る。單層、屋根は入母屋造、軒廻を棧瓦葺にして居る。寺傳によるともと慶長三年三月秀吉が花見の際、鎗山に建てしめた假殿であつたと云ふ。

彌勒堂　純淨觀の東にあり、三間五面、入母屋棧瓦葺、慶長年間の建築で、向拜の蟇股手挾には牡丹、菊に波などの優秀な彫刻があり、また軒廻り頭貫上には花卉、鳥類、波などの彫刻がある。彩色は無いが頗る優美な彫刻がある。本尊木造彌勒菩薩の坐像〔國寶〕は鎌倉時代の優秀な作である。

寢殿〔國寶〕奧書院とも稱し、純淨觀、表書院の後方に建つて居る四間三面單層、屋根入母屋造棧瓦葺で入側と落緣があり、內部は四間に分かれ、襖障子壁貼等には狩野派の墨畫が描かれ、極めて瀟洒な氣分を現して居る。上段の間には本床、違棚、帳臺飾が設けられ殊にその違棚の意匠は甚だ立派で、その他隨所によく桃山式を發揮して居る。桃山時代住宅建築の模範と

して得難い遺構である。

三寶院を出で仁王門を入ると金堂、五重塔婆が建つて居る。

金堂〔國寶〕七間五面、單層入母屋造本瓦葺、鎌倉初期の建築であるが、慶長三年に豐臣秀吉が紀伊湯淺から移建したものである。正面に附加された向拜は桃山時代のものと思はれるが、內部に入ると折上小組格天井や桝組などには、よく鎌倉時代の特徵を表はして居る。本尊藥師如來、兩脇侍像、四天王像は鎌倉時代の木造彫刻で、何れも國寶に指定されて居る。

五重塔婆〔國寶〕金堂の前方にあり、村上天皇の勅願により承平六年に起工、天暦五年に竣工したもので、塔身の高さ約二二米、相輪の高さ約一二米、方三間、三層以上には腰に勾欄を廻らし、桝組は三手先を用ゐて居る。相輪は塔の全高に比して著しく長大であるが、それが少しも危な氣なく頗る强壯安定の感を呈して居る。初重の內部には極彩色を以て佛菩薩、僧侶、唐草等が一面に描かれて居る。この繪を普通壁畫と云つて居るが、板に胡粉を塗つてその上に繪を描いたものであるから板繪と稱すべきものである。中心柱と四方の羽目に描いたものは、金剛界、胎藏界兩部の曼荼羅と眞言八祖大師の像である。

四天柱は今は素木となつて居るが、これは中古木材を取替へたもので、もとは他部同樣彩畫のあつたことは勿論である。唯惜むらくは現存の彩繪剝落甚しく、八祖の如きは殆ど見る影も無くなつて居る。然し中心柱の一部に殘存して居る胎藏界大日の一區の如きは、尙よく當初の面影を留めて居る。その畫法に於いては一部分に暈法を用ゐ、他はすべて繧繝法を以てし、地には切金文樣を施して居る。今これ等の模樣をよく調べて見ると、前代に於ける藥師寺東塔或は唐招提寺金堂內等の裝飾文樣の後を承け、次に來るべき鳳凰堂裝飾の先驅を爲すもので、藤原期の趣致を定めんとして居る。

上醍醐は山下五重塔婆の後方から山を登ること四粁餘にして達する。山上には藥師堂、淸瀧堂拜殿、開山堂、如意輪堂、准胝堂等がある。

藥師堂〔國寶〕山上伽藍の中心をなす建物で保安二年の建立、五間四面、單層入母屋造、檜皮葺で小さい乍らよく纏まつて居る。內部は床漆喰塗で、その中三間二面を內陣とし組子にて仕切り、奧に佛壇を設けて居る。內陣の桝組間には本蟇股と稱して中空の蟇股を用ゐて居る。これは中尊寺金色堂や宇治上神社本殿のと共に當代に初めて現れ、蟇股變遷史上重要な位置を占めるものである。佛壇に安置された本尊藥師如來の坐像は、木造で藤原初期のものと見られ、會理僧都の作と傳へ、廣隆寺講堂の阿彌陀像と共に當代の傑作と稱され、國寶に指定されて居る。尙佛壇上には左記の諸像があり、何れも國寶で、藤原時代の優秀な作である。

一日光月光菩薩立像　木造　二軀
一帝　釋　天　像　寺傳智賢菩薩像　木造　一軀
一閻　魔　天　像　木造　一軀
一吉　祥　天　像　木造　一軀

淸瀧堂拜殿〔國寶〕下から登つて行くと第一に出會ふ建物である。三間七面、單層入母屋造妻入、檜皮葺で木割比較的細く、側柱は面取方柱で舟肘木を用ゐ、柱間は蔀戶或は引違格子を用ゐ、四方に緣を廻らして居る。內部は何の裝飾もなく、圓い內陣柱が二列に竝び、天井は竿緣天井ですつきりとして氣持がよい。元來は神社の拜殿でありながら佛寺的住宅建築であるのが特に珍らしい。

五大堂　藥師堂から更に上つた山頂にある。以前のは慶長年間の建築で國寶建造物であつたが、昭和七年燒失した。現在の堂は昭和十四年の再建で樣式は以前の儘である。

寶物には左記のものがある。

一五　秘　密　像〔國寶〕　一幅
　絹本著色　鎌倉時代　三寶院藏
一愛　染　明　王　像〔國寶〕　一幅
　絹本著色　鎌倉時代　三寶院藏
一扇面二曲屛風〔國寶〕　一雙
　紙本著色　俵屋宗達筆　醍醐寺藏

宗達は慶長より寛永にかけて盛にその技を揮ひ、大和繪に基き好んで沒骨法を使用して新機軸を出した江戸初期に於ける大家である。この屛風は歷史的人物風景動物等を描いたものを貼り附けたもので、落款はないが一見宗達の筆たることの明かなもので、構圖の妙、設色の豐麗潤澤、自由な筆致を揮つて、得意の裝飾的趣致を遺憾なく發揮して居る。帝室御物の扇面散屛風と共に彼の傑作として名高い。

一舞樂圖〔國寶〕 二曲屛風 一雙
　金地著色 俵屋宗達筆

一訶梨帝母像〔國寶〕 一幅
　絹本著色 藤原時代末

一密敎圖像〔國寶〕 三十九點
　紙本墨書 藤原時代乃至鎌倉時代 醍醐寺藏

一調馬圖〔國寶〕 六曲屛風 一雙
　紙本著色 傳山樂筆 醍醐寺藏 恩賜京都博物館出陳

一虛空藏菩薩像〔國寶〕 一幅
　絹本著色 三寶院藏 東京帝室博物館出陳

一醍醐花見短籍〔國寶〕 一帖
　紙本墨書 豐臣秀吉以下一座各筆百三十一葉 三寶院藏
　恩賜京都博物館出陳

【光臺院】〔醍醐寺塔頭〕 三寶院の東南にあり、左記の寶物を有して居る。

一不動明王像〔國寶〕 紙本墨書 五幅

一尊勝曼荼羅圖〔國寶〕 絹本著色 一幅

一文殊渡海圖〔國寶〕 一幀
　絹本著色 傳僧珍海筆 恩賜京都博物館出陳

一地藏菩薩像〔國寶〕 絹本著色 一面

【一言寺觀音(金剛王院)】〔醍醐寺塔頭〕 三寶院の南一粁、醍醐一言寺にあり、もと一言寺と稱し、阿波內侍眞阿の建立と傳へて居る。明治七年金剛王院を醍醐から移したので現名に改めた。本堂には千手觀音を安置し、その靈驗著しいと信ぜられて參詣者が多い。

【醍醐天皇後山科御陵】 山科驛の南四粁、伏見區醍醐にある。御陵は山陵を築かず、平地に御寶穴を掘り、御遺骸を斂め奉つた上に、卒塔婆三基をたて小堊を繞らしたが、今圓形の御塚があつて周圍に隍あり、土手を築き生垣を廻らして居る。天皇は宇多天皇第一皇子御歲十三にして卽位し給ひ、藤原時平、菅原道眞等補佐し奉つた。延喜元年時平等に命じて三代實錄を撰ばしめ、同五年紀友則、紀貫之等をして古今和歌集を撰せしめ給うた。同七年には延喜格、また延長五年には延喜式がそれぞれ成つた。御在位三十四年、延長八年、御壽四十六で崩じ給うた。

【朱雀天皇醍醐御陵】 後山科陵より東南約半粁。方形で周圍に石柵を繞らし、數株の杉の大木がある。天皇は醍醐天皇の皇子で延長八年卽位し御在位十六年、天曆六年御壽三十にして崩じ給うた。

【小栗栖明智藪】 山科驛の南五粁、京阪電車六地藏の東北一粁半、伏見區小栗栖にあり、途中まで自動車の便がある。明智光秀最後の地と傳へ、今俗に明智藪と稱して居る。光秀は美濃の人、永祿九年初めて織田信長に仕へ、屢々戰功をたてたるも、のち信長に疎んぜられ、天正十年叛して本能寺に信長を弑したが、尋で山崎に豐臣秀吉の軍と戰ひ、敗れてこの地に土人のために殺された、歲五十七。

【法界寺(日野藥師)】〔眞言宗〕 木幡驛の東北二粁半、京阪電車宇治線六地藏の東方約一粁半、醍醐日野にあり、途中まで自動車の便がある。寺傳によると當寺は弘仁十三年藤原家宗の創建、僧最澄の開基で、現存の阿彌陀堂は永承六年日野資業の建立である。阿彌陀堂の前にある藥師堂は明治三十七年に大和龍田傳燈寺の本堂を移建したもので、康正二年の建築である。

阿彌陀堂〔國寶〕五間四方、屋根は寶形造檜皮葺の大建築でその周圍に深さ一間の廂が付してあるから、七間七面重層建築の如き外觀を呈し、廂の屋根は鳳凰堂の如く正面だけ中央部を高くして單調を破り、屋根の勾配緩にして軒二重となり、軒先に輕い反轉を有し、頗る輕妙溫雅の姿態を現して居る。柱は本堂に圓柱を建て、廂には面取の角柱を使用し、枡組は何れも三斗を用ゐて居る。

內部は中央方一間を內陣となし、周圍に高欄をめぐらして佛壇を造り、國寶の本尊阿彌陀佛を安置して居る。相好圓滿、その形式はいはゆる定朝式で彌陀の定印を結び、西方淨土の主尊たる慈悲相に溢れて居る。內陣の柱には十二光佛を描き、寶相華文を配して居る。

天井は内陣のみ折上組入天井となし、外陣は化粧屋根裏になつて居る。長押天井等皆彩繪を施し、天井下小壁には有名な天人の壁畫がある。この阿彌陀堂を宇治の鳳凰堂と比べると餘程簡素ではあるが、藤原時代に於ける阿彌陀堂建築の代表的遺構である。

藥師堂〔國寶〕阿彌陀堂の前面に建つて居る。五間四面、單層屋根は四注造本瓦葺で、軒端に反轉あるも、棟低く勾配急にしてやゝ重厚の感がある。棟木の銘に「康正□□丙子七月二十日大行事英舜奉行」云々の墨書がある、桝組蟇股、天井等には室町時代の樣式を示して居るが、全體の形狀は却つて古調を帶びて居る。内部は中央三間二面を内陣となし、その天井は折上格天井である。奥壁に接して須彌壇を設け、中央の厨子に本尊藥師佛を安置し、また厨子の左右には十二神將の立像が安置されて居る。

藥師如來立像〔國寶〕高さ約二尺七寸、細く兩眼を開き、面貌崇高にして、全身素地のまゝで、衣には精巧な截金文樣で卍字つなぎの織文をあらはし、全體に於いてよく藤原時代の優美な特色を示して居る。左右の十二神將立像〔國寶〕は寺傳に運慶の作と傳へ、姿態表情頗る生氣に富める鎌倉時代の作である。

【日野誕生院】法界寺の後方、高臺にあり、親鸞上人の誕生地を記念するため新に建立された堂宇である。素木造、本瓦葺の古風を模した建築である。

七、宇治、南山城方面

奈良線　京都木津間　三四粁七

宇治、南山城方面を見るには多く奈良線による。この線は京都驛を出て南に向ひ稻荷二粁七、桃山四粁五を過ぎて市外に出で、暫く東に向ひてまた南し木幡三粁四を經て茶どころの宇治四粁三に着く。宇治からやゝ西に進みてまた南し、新田三粁二から柿の木多き邊を走りて長池三粁九、山城靑谷二粁を經、玉水三粁三、棚倉三粁上狛二粁八を過ぎ、木津川を渡つて木津一粁六に至つて關西本線と片町線とに會する。汽車は奈良、高田へ直通運轉して居る。

【能化院】〔曹洞宗〕奈良線木幡驛の西三〇〇米、宇治村にあり、燒けず地藏と呼ばれる。寺寶の地藏菩薩坐像〔國寶〕は木造で、鎌倉時代の作にかゝる。

【許波多神社】木幡驛の西南一粁、京阪電車宇治線黃檗の西一粁、宇治村五ケ庄にある。木幡神社または柳神社と稱し、本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根檜皮葺、室町時代の建築である。

【西導寺】〔淨土宗〕京阪電車宇治線黃檗驛の西約半粁、宇治村五ケ庄にある。本堂に藏する毘沙門天立像〔國寶〕藥師如來坐像〔國寶〕は、何れも藤原時代の作である。

★【黃檗山萬福寺】〔黃檗宗大本山〕木幡驛の南一粁半、京阪電車宇治線黃檗下車、黃檗山の麓、幽邃の地にあり、承應三年に來朝した支那の僧隱元によつて創建された。その建築は明の樣式を採用したものとして、長崎の崇福寺などと共に極めて珍らしい例である。堂塔の配置は左右相稱式に從ひ、細部に明式と和樣を折衷して居る。先づ支那の牌樓の樣な惣門を入ると右に放生池があり、池の東に三門、それより奧へ順次高く境内の中軸を一列に天王殿、本堂（佛殿）、法堂が竝び、本堂の前面左右に鐘樓と鼓樓、伽藍堂と祖師堂、齋堂と禪堂とを相對向せしめ、また法堂の左右即ち南北には、東方丈と西方丈とが建つて居る。以上列擧の諸堂は何れも黃檗宗の代表的伽藍建築である。

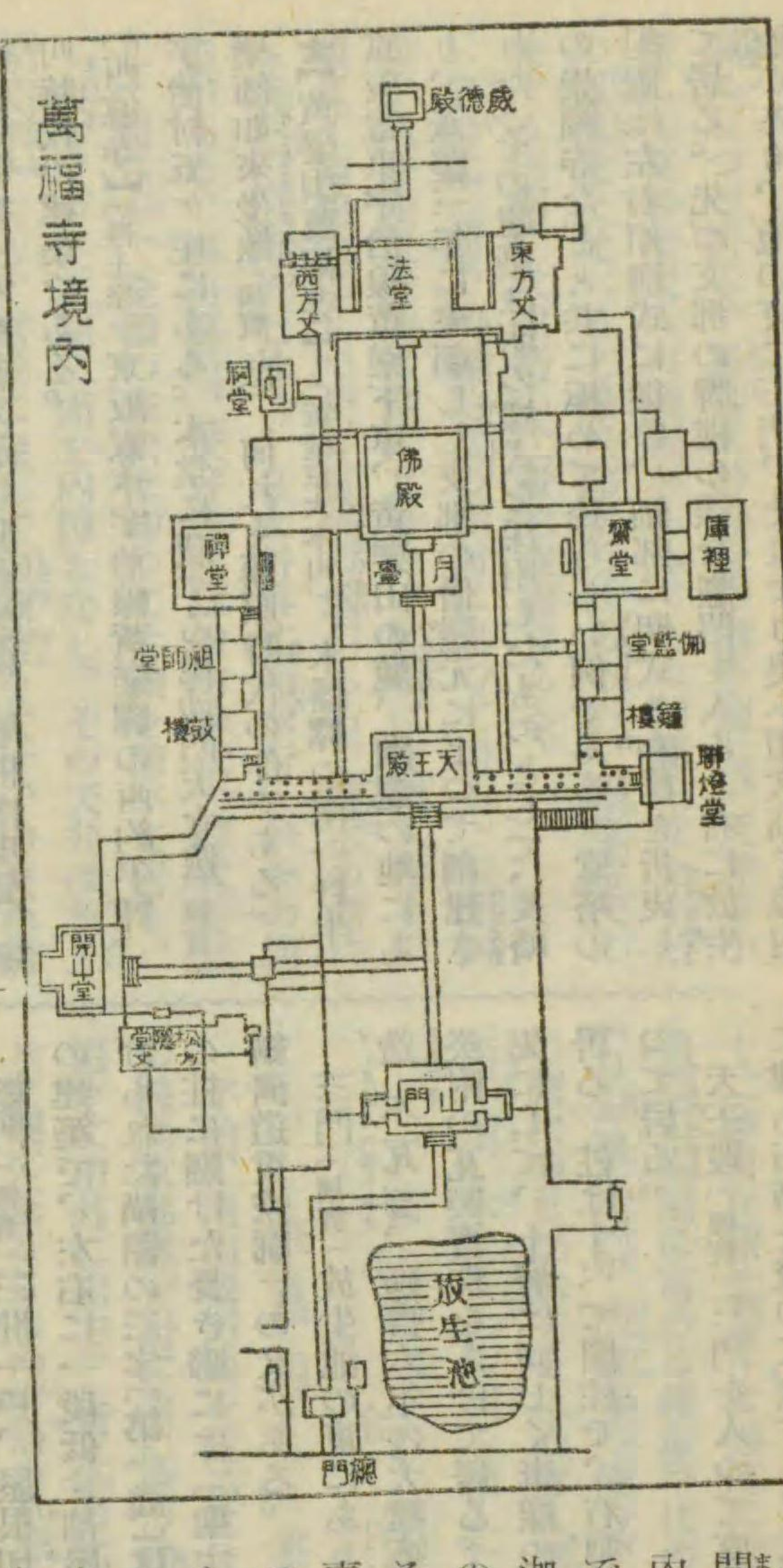
總門〔國寶〕三間一戸、屋根切妻造本瓦葺、元祿六年の建築で、左右に一段低き袖屋根がある。正面にかゝげられた横額の三字「第一義」は高泉の筆である。左右の柱に懸けた長き聯には「聖主賢臣悉仰尊」及び「宗綱濟道重恢廓」の文がある。

三門〔國寶〕放生池の東にあり、三間一戸重層入母屋造本瓦葺、延寶六年の大建築で、大棟の中央には火炎附の瓦製寶珠をあげて居る。下層の桝組は唐樣二手先にして、上層は同じく唐樣の三手先に尾棰を加へて居る。柱はすべて圓柱で、石製太鼓形の礎盤の上に建つて居る。

天王殿〔國寶〕三門を入つて直進すると、高い石壇上に建ち石階を登つて達する。五間三面、單層、屋根入

母屋造本瓦葺、前面一間通を吹き放つて外陣となす。內外兩陣とも瓦敷で、內陣には中央須彌壇上に布袋の坐像を祀り、左右兩側には四天王の像を安置して居る。

本堂（佛殿）〔國寶〕大雄寶殿とも稱し、天王殿の後方にあり、五間六面重層、屋根入母屋造本瓦葺、前面一間通を外陣となし柱間を吹き放つて居る。內陣は外陣と同樣瓦敷で、中央に釋迦、阿難、迦葉、左右に十六羅漢の木像を安置して居る。佛殿の前面には月臺と稱する廣い壇があつて建築に一種の威容を添へて居る。



法堂〔國寶〕本堂の後方に一段高く石壇上に建つて居る。寛文二年の建築、桁行五間梁間六間、單層、屋根入母屋造桟瓦葺である。正面一間通を外陣となし、前面に高欄を設け卍字崩の組子を入れ、一見支那趣味を現して居る。その軒裏に茨形棰をさし伸べて蛇腹を作つて居るのは、本堂、天王殿の場合と同樣で黃檗建築に見る一の特徵である。內部は瓦敷で中央に須彌壇がある。法堂は說法の道場で、須彌壇上には佛像が安置されて居ない。

寶物には左記のものがある。

一西湖圖〔國寶〕紙本淡彩　傳池大雅筆　四幅
一虎溪三笑圖〔國寶〕紙本淡彩　傳池大雅筆　八幅
一五百羅漢圖〔國寶〕紙本淡彩　傳池大雅筆　八幅
一瀑布圖〔國寶〕紙本淡彩　傳池大雅筆　一幅

【蜻蛉石】京阪電車宇治の西南四〇〇米、宇治村大字三室戶にあり、源氏物語宇治十帖の蜻蛉石として著名なものである。高さ四尺二寸、蓮座の上に結跏趺坐した定印の阿彌陀如來を線彫にして、左右に觀音、勢至を配した阿彌陀三尊石像である。

【三室戶寺】〔天台宗寺門派〕奈良線宇治驛の東北二粁、京阪電車宇治線三室戶の東約一粁、宇治村菟道三室戶にある。寶龜年間、光仁天皇の勅願によつて創建された古刹で、本堂には二臂の千手觀音像が安置され、西國三十三箇所第十番の札所である。阿彌陀堂には阿彌陀三尊〔國寶〕、釋迦如來立像〔國寶〕、毘沙門天立像〔國寶〕が安置されて居る。何れも木造で藤原時代の作である。

【十八神社】三室戶寺觀音堂の後方にあり、もと同寺の鎭守であつた。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根柿葺、規模は小さいが形態美しく、室町時代の建築にかゝる。

【宇治川】琵琶湖から流れ出づる瀨田川の下流で、山城に入つてから宇治川と云ふ、宇治では宇治橋、伏見に至つて觀月橋を架し、八幡に至つて桂川、木津川を合せて淀川となる。石山を過ぐる頃から兩岸次第に迫つて水流激し、岩壁聳立していはゆる宇治川ラインの勝をなして居る。宇治橋の上流邊から川幅開けて平流となり、朝日、喜撰の翠微と、千年の伽藍と相照映して洛南の勝況をなして居る。壽永の昔源義經が義仲討伐の兵を進めた時、この川で梶原景季、佐々木高綱が先陣を爭つたことは世間周知のことである。その地點橋小島崎は宇治橋の上流二〇〇米のところだと云ふ。

【宇治町】宇治驛所在地、京阪電車の便もある。宇治

川の左岸を主要部として右岸に跨り、洛南の勝況である。宇治の名は古來史上に著はれ、藤原時代の昔を偲ばしめる平等院その他の古建築を存し、北方宇治村にかけて綠茶いはゆる宇治茶の產地として名高く、納涼に螢狩に紅葉狩に茸狩に遊賞の人が絕えない。名產に茶、茶ノ木人形、茶羊羹、喜撰糖、朝日燒等がある。人口一萬二千。旅館　花屋敷（五圓）、菊屋、龜石樓、鮎宗。

【宇治橋】宇治驛の東六〇〇米、京阪電車宇治線宇治はその橋畔にあり、宇治川に架けられた木橋である。孝德天皇の大化二年僧道登が勅命によつて始めて造營したもので、その橋碑が今も附近の橋寺にあるが續日本後紀その他には僧道昭とあり、文獻區々にわたつて詳でない。この橋の特徵は三の間と稱して、南側の欄干を廣さ約二米張出した所にある。これは往古數度流失の際橋の鎭守神橋姬祠を鎭坐した址と傳へられ、後豐臣秀吉茶湯に用ゐる水をこゝから汲ませたこともある。現今の橋は昭和十一年九月改造竣工したもので、鐵筋コンクリート造り、幅四米長さ約一五〇米ある。

【橋寺（放生院常光寺）】宇治橋畔、川の右岸にあり、著名な宇治の斷碑は門を入つて左側に石玉垣に圍まれてある。その碑銘は

浼々横流　其疾如箭　修々征人　停騎成市　欲赴重深　人馬亡命
從古至今　莫知杭葦　世有釋子　名日道登　出自山尻　恵滿之家
大化二年　丙午之歳　構立此橋　濟度人畜　即因微善　爰發大願
結因此橋　成果彼岸　法界衆生　普同此願　夢裏空中　導其苦縁

【宇治神社】〔府社〕同じく宇治川の右岸にある。この地は菟道稚郎子の宮居し給うた遺跡と傳へ、菟道稚郎子を祀る。仁德天皇元年の創建と稱し、上下二社に別れ、本社はその下社である。

今の本殿〔國寶〕は鎌倉時代の建築にかゝり、三間社流造である。殿內には菟道稚郎子命坐像〔國寶〕が安置されて居る。藤原時代の作で極彩色が施されて居る。

【宇治上神社】宇治神社の上社で應神天皇、仁德天皇及び稚郎子皇子が祀られて居る。

本殿〔國寶〕五間三面切妻造、檜皮葺で、現存最古の

神社建築として特に注意を價する。構造は中央小さく左右大なる一間社流造を二箇連結し、三殿の屋蓋を一棟に葺き、鞘堂を作つて居る。堂內三殿とも一間社流造で小規模な建築であるが、藤原時代の構造であることが珍しい。然し鞘堂は鎌倉時代のもので同じく國寶に指定されて居る。

拜殿〔國寶〕舊宇治離宮を賜はつたものと傳へて居る。五間三面、單層、屋根は入母屋にして檜皮を以て葺いて居る。方柱を建て、舟肘木、疎棰を用ゐ、小組天井を張つた寢殿造風の建築で、鎌倉時代のものである。

尙境內に一間社流造の春日神社々殿〔國寶〕がある。同じく鎌倉時代の建築である。

【興聖寺】〔曹洞宗〕宇治驛の東一粁二、宇治川右岸朝日山の中腹にある。天福元年に道元を開祖として、弘誓院正覺禪尼の建立したもので、日本最初の曹洞宗禪刹である。道元はこれを詮惠に付し、去つて永平寺を開創した。この寺は建長年後數囘の兵火に遭うて廢絕したが、慶安二年淀城主永井尙政これを再興し、萬安和尙を請じて堂塔を再建したのが今の堂宇である。宇治川に臨んで建つて居る石門を入り琴坂を上ると、その左右には櫻、楓、山吹、姬躑躅等が多い。朝日山を庭中にとり入れて、結構雅致ある諸堂宇その間に配置され、一仙境をなして居る。

【朝日燒】宇治神社の南の小丘を茶碗山と云ひ、往昔朝日燒の遺跡である。正保年間小堀遠州雅致ある茶器を造らしめたが、後廢絕したのを近年再興した。

【朝日山】宇治川の東に聳え、興聖寺、宇治神社等の後山で、旭光を受ける景觀がよい。山上に千手觀音を祀る小堂があり、朝日觀音と稱へられて居る。

【宇治茶】京都建仁寺の開山榮西禪師が支那から茶子を將來して、栂尾の明惠上人に分與し、上人はこれを宇治に分植した。宇治は氣候、土質ともに茶樹の培養に適したので、足利氏以來の保護と相俟つて、遂に「宇治は茶所」と呼ばれる樣になつた。宇治茶は品質の優秀なので名高く、煎茶を主とし、玉露、碾茶もある。玉露用の茶樹は老樹を尊び、樹齡の若い間は煎茶園と

し、二十年以上に及んで始めて玉露園に仕立てる。玉露園は摘葉前覆架けを施して日光の直射を避け、これによつて、茶葉同化作用を妨げ、葉を鮮緑にし、甘味を増し、澁味を減じ、葉の硬化を防ぎ、特有の香味を生ぜしめる。覆架けをした覆下茶園は煎茶園よりも面積が狹い。

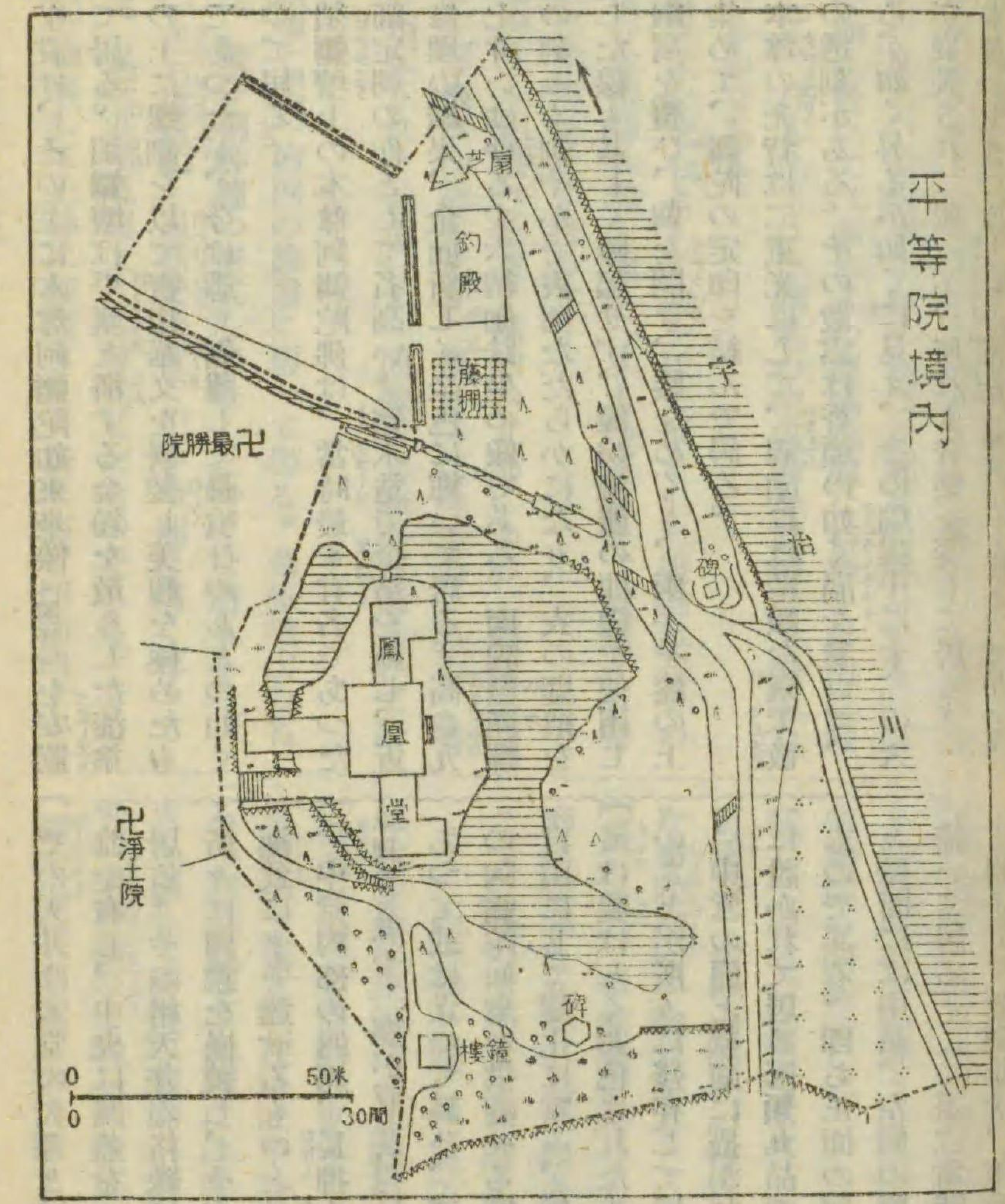
宇治に限らず、一般に山城地方では、製茶時期を二回に分ち、一番茶は五月初旬、二番茶は六月下旬から製造され、何れも二十日間を要する。茶師は多く河內、大和、丹波の諸地方及び近郷から傭入れる。玉露も煎茶も茶葉を採んで製造されるが、碾茶は揉まないで、原形の儘乾かすのである。

★【平等院鳳凰堂】「國寶」奈良線宇治驛の東八〇〇米、京阪電車宇治の東南約半粁、宇治川左岸の山水明媚の地にある。

この地はもと淸和天皇、陽成天皇の御世左大臣源融がその風水を愛し、別莊を建て丶屢々淸遊を試みた處である。その後には藤原道長の有に歸し、道長もまたいたくこの地を愛し、常に往來したと傳へられて居る。道長の子賴通これを父より受け、後永承七年三月改めて寺となし、平等院と稱した。その當時建築された平等院の諸堂は鳳凰堂の外に三重塔、五大堂、金堂、講堂、經藏、東西法華堂、大門等悉く具備して居たと傳へられて居るが、鳳凰堂以外の諸堂は今日その遺址も存して居ない。然し鳳凰堂は諸堂中最も大切なもので、藤原時代の善美な建築、繪畫、彫刻、工藝など各種藝術の粹を集めて當時の淨土思想を表象せる大切な遺構で、當時の美術を採り、藤原氏榮華のあとを偲ばんと欲する程の人は、必ず先づこの鳳凰堂を訪ふべき必要がある。

鳳凰堂を訪ぬる人はその周圍の風光を賞すると共に、必ずその建築、堂內の佛像、壁及び扉に描かれた佛畫を注意して見なければならぬ。

鳳凰堂は天喜六年に建てられ、藤原時代に流行した阿彌陀堂建築の一例で、その平面は寢殿造より來たものと思はれる。中堂は三間二面裳階を有し、屋根は入



母屋、本瓦葺で正面は蓮池に臨んで居る。その左右に翼廊を延べ後方に尾廊を出し、翼廊の折點には寶形造の樓を起して均整をとり、しかも全體としては極めて變化に富んで居る。輕快な屋根の反り、軒の變化、全く巧妙を極めたものである。

棟の兩端には靑銅製の鳳凰を上げて居る。この鳳凰はじめは鍍金を施して金色燦然たるものであつたが、今は古色蒼然として居る。

中殿の內部は後面裳階の部分と通じて居るため、三間三面の方形をなし、床は板張りで中央の一間に須彌

壇を設け、その上に本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕を安置して居る。須彌壇は平塵と稱する金粉を散らした漆塗地の上に螺鈿を以て寶相華文を嵌裝し美觀を極めたものであつたが、今は悉く剝離して蟲喰ひのあとの如くなつて居る。

須彌壇上の本尊阿彌陀佛は、當時最も有名であつた佛師定朝の作として名高い。寄木造で金箔を施し、近年修理の結果、全面新しく金色に輝いて居る。高さ九尺七寸いはゆる丈六結伽趺坐の像である。面貌豐滿螺髮の刻みも細やかで表面なだらかになり、衣の襞積を現した線も甚しく隆起せず、優婉流麗の曲線を使用して兩肩を覆ひ、胸を開き、膝をめぐり、兩手を膝の上に集めて、彌陀の定印を結んで居る。

本尊の光背は二重光にして、周圍には精緻な飛天散雲の透刻がある。その散雲は香煙の如く渦を巻いて、降るが如く昇るが如くに見え、その瑞雲中に十二の天人が嵌裝されて居るが、何れも音樂を奏して居る。

本尊の上部には方形の天蓋〔國寶〕がかゝつて居る。その天井は本堂の天井と同様折上格天井で、周圍に垂飾を有し、中央に圓蓋をつるして本尊の頭上を覆うて居る。その格天井の格緣には螺鈿を嵌入し、格間には所々に圓鏡を嵌裝し、その精緻な彫刻は木刻、透刻の極致にまで達せるものと云ひ得るであらう。

中堂內部の四周、長押上の小壁には、雲中供養佛〔國寶〕五十一軀が取り付けられて居る。何れも雲上にあつて或は立つて舞ひ、或は坐して音樂を奏し、中央の阿彌陀如來を供養せる樣を現して居る。その姿態の自由にして變化に富み、極めて繪畫的氣分に滿ち、嘗ては麗はしく彩色されたものと見え、金箔、胡粉彩色のあとが所々に殘存して居る。

中堂の扉と壁面に描かれた佛畫は、佛說觀無量壽經に說かれて居る三類九品の阿彌陀佛來迎圖を描寫したものである。卽ち正面の扉には上品、向つて右側の扉と壁面には中品、左側の扉と壁面には下品の來迎圖を描いて居る。この畫は當時詫磨派の大家詫磨爲成の作と稱され、構圖雄大、筆致優美にして、その色彩及び

一々の描線にも日本畫の趣致を發揮し、穩なる山水の景を取り入れ、自然の美を背景として彌陀の來迎が描かれて居る。當麻曼荼羅の圖は支那風を脫せざるが、この圖に於いては藤原式の豐滿婉麗な特徵を自由に發揮して、日本化された彌陀の來迎觀を遺憾なく表象して居るのである。

鳳凰堂を中心として池を以て取まいた境內は、その築造今尙當時の俤を偲ぶべきものがあり、史蹟・名勝として指定されて居る。

觀音堂（釣殿）〔國寶〕境內の北部にある。七間四面、單層、屋根四注造本瓦葺、鎌倉時代の建築である。國寶に指定された木造の十一面觀音立像が安置されて居る。

銅鐘〔國寶〕境內の鐘樓に懸つて居る。藤原時代の名鐘で、幾分朝鮮鐘の形式を加味したやうな所もある。

【十三重石塔婆】 鳳凰堂の東、川中の洲に高く建つて居る。弘安九年恩圓上人の建立したものである。その後再三倒落して土砂に埋沒されて居たが、明治四十一年發掘せられ、現在の姿に返つたのである。

【淨土院客殿】〔國寶〕平等院境內鳳凰堂の後にある。もと養林庵の書院で、寺傳によると養林庵は慶長六年加傳和尙の開基にして、この客殿は伏見城から移したと稱して居る。床棚廻り及び傳山樂筆と稱する金地襖繪、釘隱等、皆桃山時代の特色を示して居り、當時の簡素な書院造の一例である。

【扇の芝】 平等院境內の入口にあり、一連の芝生が扇形に仕切られてある。高倉天皇の治承四年源三位賴政こゝに戰つて利なく、「埋木の花さくこともなかりしに……」の一首を遺し、扇を布いて自盡した所である。賴政の墓は平等院の最勝院にある。

【縣神社】 宇治驛の東八〇〇米、宇治町にある。木花咲耶媛命を祀り、往時は平等院の鎭守であつたと云はれる。六月五日の例祭には參詣人雜沓し、夜に入ると燈火を滅して神輿の渡御がある。この夜は終夜喧噪し、世に宇治縣祭と稱して有名である。

【禪定寺】〔曹洞宗〕宇治驛または長池驛の東七粁、宇治

田原村禪定寺にあり、左の寶物を有する。

一禪定田畠注文　〔國寶〕　紙本墨書　一巻
　長保三年四月八日とあり
一流記帖追記　〔國寶〕　一巻
　寛弘二年利源の奧書あり

【地藏院】　宇治驛の東南二粁、宇治町白川にある。本堂は小さいが、優秀な佛像が數軀安置されて居る。

阿彌陀如來立像〔國寶〕藤原時代の木彫で、臺座に精巧な寶相華の浮彫がある。

兩界曼荼羅〔國寶〕二枚の板面に兩界曼荼羅を彫つたもので、技巧精緻を極めた藤原時代の作である。

觀世音菩薩坐像〔國寶〕藤原時代の木彫で、右膝を折つて跪坐する形を現して居る。

この他左の諸像を藏して居るが、目下恩賜京都博物館に出陳中である。

一阿閦如來立像　〔國寶〕　銅造　一軀
一釋迦如來坐像　〔國寶〕　銅造　一軀
一大威德明王像　〔國寶〕　銅造　一軀
一阿彌陀如來及脇侍像　〔國寶〕　銅造　一軀

【白山神社】　宇治驛の西南二粁、宇治町白川にある。この地はもと藤原頼通の女、四條皇太后の隱棲せられた金色院のあつた所と傳へ、白山神社はその鎭守社であつたと云ふ。

今の本殿〔國寶〕は一間社流造、屋根板葺で室町時代の建立にかゝり、拜殿〔國寶〕は方三間、單層、屋根四注造、茅葺で、もと宇治離宮の建物を移建したものと云ひ、久安二年の創建と傳へ、棟札に建治三年修補の銘がある。社寶に伊邪那美尊坐像〔國寶〕、十一面觀音立像〔國寶〕がある。何れも木造、藤原時代の作である。

【久津川車塚古墳】　奈良線新田驛の南一粁、久津川村平川にある。新田驛から長池驛に至る鐵道線路の西側に沿ひ横はつて居る頗る大規模な前方後圓墳で南面し長軸の長さ約一六〇米あり、葺石、埴輪がある。明治二十七年後圓部にあつた石棺を發掘して、棺の內外から鑑鏡七面、玉類、武器、石製盒等の極めて優秀なる遺品を出土した。石棺は組合式の精巧なるものに屬し、今

京都帝國大學文學部に保管し、遺物の一部は東京帝室博物館に收藏せられて居る。

【雙栗神社】　新田驛の西二粁、佐山村佐山にある。椏本八幡宮とも又佐山の大宮とも云ふ。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根檜皮葺、權衡よく整つた好建築で、細部に葡萄唐草に栗鼠等の精巧な彫刻がある。室町中期の建立にかゝる。

【稱名寺】〔淨土宗〕同佐山村佐山にある。本寺に藏する國寶の藥師如來坐像は木造で、藤原末期の作である。

【久世神社】　新田驛の南二粁、奈良電車久津川の東南半粁、久津川村久世にある。本殿〔國寶〕は一間社流造、屋根柿葺の小建築物であるが、木割比較的雄大で室町時代後期の作にかゝる。

【荒見神社】　長池驛の西半粁、富野莊村富野にある。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根は檜皮葺で、慶長九年の再建にかゝり、桃山時代の特色を有して居る。

【水度神社】〔府社〕長池驛の北二粁、奈良電車寺田の東八〇〇米、寺田村寺田にある。本殿〔國寶〕は一間社流造、屋根檜皮葺で、正面に千鳥破風を附け、また側面を二間にした變化に富む奇構で、文安五年の建築にかゝり、その後再々修理を經て居る。

【青谷梅林】　山城青谷驛の東七〇〇米、水の淺い青谷川が起伏する山谷を曲流する間に、柏か平、天の山、石神、一目千本、白坂、石原の勝景を有し、梅樹の配置、その數月瀨に劣らない。この梅林は明治三十一年青谷保勝會が養殖に努めた所で、近村にも梅林多く、梅樹の總數十萬を超えると云ふ。

【井手玉川】　玉水驛附近、井手町を流れて木津川に注ぐ。我が國六玉川の一で、古來和歌に多く詠ぜられた。昔左大臣橘諸兄がこの川の汀に隙なく山吹を植ゑた跡は御溝裏と云ふ。

【壽寶寺】〔眞言宗高野派〕玉水驛の西一粁半、三山木村山本にあり、自動車の便がある。本寺に藏する千手觀音立像〔國寶〕は木造で、藤原時代の作である。

【佐牙神社本殿】〔國寶〕玉水驛の西南二粁、三山木村宮津にある。本殿は左右兩殿より成り、共に一間社春日

造にして向拜、軒、勾欄等は後世の補修であるが、桝組、頭貫の端などの手法秀逸にして、特に蟇股の輪廓内部の透彫は最も優れて居る。その形式を見るに室町時代初期を下らざるものと思はれる。

【法泉寺石塔婆】〔國寶〕玉水驛の西北約二粁、奈良電車新田邊の東南約一粁、草内村大字草内にある。十三層の塔婆でその權衡美はしく、基壇の南面に弘安元年十一月廿六日建立の銘が刻してある。

【觀音寺(大御堂)】〔眞言宗智山派〕玉水驛の西南約六粁、奈良電車三山木の西南五粁、普賢寺村字上にある。

本寺は奈良時代に良辨僧正の弟子實忠が創立した有名な普賢寺の後身で、藤原時代末期に及び、攝政藤原基通、家基父子が大いに伽藍を起し、一大靈場を形成したのであるが、元亨元年に一山燒亡してより漸く荒廢に委し、觀音堂の一宇を遺すのみとなつた。それが今の觀音寺となつたのである。

十一面觀音立像〔國寶〕本堂安置の本尊で、高さ約五尺七寸、頗る雄大な乾漆佛で、本寺が奈良時代に創建された當時の作である。

【蟹滿寺(紙幡寺)】〔眞言宗智山派〕棚倉驛の北一粁半、棚倉村綺田にある。本尊の釋迦如來坐像〔國寶〕は、もと附近にあつた光明山寺のものを同寺廢頽の後こゝに移したものと傳へられて居る。銅造高さ八尺七寸、いはゆる丈六の坐像で、奈良時代に鑄造された巨像の面影を傳ふる珍らしい傑作である。佛身はその何れの部分もよく均衡が保たれ、儼然として坐せる風姿は、拜する者に力強い感を起さしめるものである。尙寺の緣起については今昔物語にも見られる蟹の命を救うた里の娘が觀音の利益で蛇難を免れたと云ふ傳説がある。

【神童寺】〔眞言宗智山派〕棚倉驛の東二粁、高麗村神童寺にある。聖德太子の草創と傳へ、その本堂〔國寶〕は單層屋根四注造本瓦葺、室町時代のものである。本堂内には白鳳四年役小角が寺後の鷹ヶ峯で感得したと云ふ金剛藏王權現を安置して居る。境内櫻樹多く風光勝れ、大和吉野に擬して北吉野と呼ばれる。

寶物には左記のものがある。

一愛染明王坐像 〔國寶〕 木造 一軀
一不動明王立像 〔國寶〕 木造 一軀
一阿彌陀如來坐像 〔國寶〕 木造 一軀
一毘沙門天立像 〔國寶〕 木造 一軀
一日光、月光菩薩立像 〔國寶〕 木造 二軀
一伎樂面 〔國寶〕 木造 一面

【松尾神社】上狛驛の北半粁、高麗村椿井松尾山腹にある。社殿は永祿十三年の再建で本殿〔國寶〕は春日造檜皮葺、拜所〔國寶〕は單層切妻造の簡單な建築である。

【若王寺】〔淨土宗西山派〕木津大阪を通ずる片町線祝園下車、相樂郡川西村下狛にある。寺寶の智證大師坐像〔國寶〕は高さ二尺八寸六分、寄木造で著色があり、藤原末期の作と思はれる。

【酬恩庵(薪一休寺)】〔臨濟宗大德寺派〕片町線田邊驛の西約一粁、奈良電車新田邊驛の西方一粁半、田邊町薪にある。文永年間の創建で後一時衰頽したのを、康正年中一休和尙が中興してから有名となつた。

本堂〔國寶〕三間三面、單層、屋根は入母屋造檜皮葺、桝組、棰、圓柱、火燈窓、虹梁、佛壇に至るまで、純然たる唐樣で頗る變化に富み、周圍入口唐戸の花狹間には一々異なつた意匠を施して居る。内外の手法構造よく鎌倉圓覺寺の舍利殿に似て居るが、彼は鎌倉時代に屬し、これは室町時代の禪宗建築の標本である。

一休和尙坐像〔國寶〕方丈に安置されて居る。玉眼入盛上げ極彩色で、竹篦を執り椅子に坐する像である。寺傳に一休高足墨濟禪師の作と云ふ。尙この外に一休禪師の畫像があり、これも國寶に指定されて居る。境内に一休和尙の墓がある。

一休和尙創始と傳ふる薪納豆はまた一休寺納豆とも云ひ、名產である。

【大住の車塚】〔指定史蹟〕田邊驛または奈良電車新田邊下車、綴喜郡大住村大住にある。その名の示す如く前方後圓墳のいはゆる車塚で西面し、墳上松樹繁茂して隆然たる墳形をなし周圍に繞らされた湟は悉く今水田になつて居る。この古墳の南方に略々同一形式の前方後圓墳が存し、竪穴式石室のあつた名殘を示して居る。

八、桂、向日町、山崎、八幡方面

この方面を見るには東海道本線と京阪電車によるがよい。東海道本線は京都驛を出て西南に向ひ西大路二粁五を過ぎ桂川を渡りて市外に出で、向日町三粁九、神足三粁七を經て右に天王山、左に男山を見つゝ山崎四粁に至り、やがて大阪府管内に入る。

【桂離宮】京阪電車桂の東北約一粁、右京區桂にあり、桂橋際まで自動車の便がある。桂離宮はもと豐臣秀吉が正親町天皇の皇孫桂の宮のために造營したものである。殿舍林泉は悉く小堀遠州の意匠になり、御殿は廣大な書院造で簡素ではあるが、仔細に見ると一々周到な注意が加へられて居る。襖の金具に、鴨居上の欄間に、桃山一流の手法がよく現れ、御幸の間の床棚は複雜巧緻を極め、桂棚と稱して茶人の間に聞えて居る。壁と襖の繪は多く狩野一派の筆に成りて水墨畫を用ゐ、淸楚淡雅の趣致を出して居る。建築はその平面頗る變化に富み、屋根の高低また頗る要を得て居る。南面東寄りに月見臺があり、前方の庭池に臨んで居る。池中には島があり、橋を架し、舟を浮べ、御舟着を設けて居る。樹石蒼然と苔蒸し、配列變化の妙を極めて居る。その眞行草の石疊など桂獨特のもので世に典型とされて居る。

庭中に月波樓、松琴亭、笑意軒などの茶亭がある。桃山から江戶初期にかけてのもので、三者三樣の特色を傳へ、一木の節、一刀の痕にもそれぞれの意が用ゐられてある。更に林泉に對する茶亭の位置は如何にも適當に置かれて居る。林泉は中央に廣い池を抱いて八方表、卽ち裏がないと云はれ、池畔よりの眺めは比較的漠然として居るが、一度茶亭に入つて內部からこれを望むと、深い軒蔭の彼方に林泉美の極致が展開されるのである。

【天皇の杜古墳】〔指定史蹟〕京阪電車桂の西一粁半、向日町驛からは四粁、右京區松尾御陵塚ノ越町、御陵部落の東半粁、城北街道の傍にあつて一叢の森をなし、長徑九〇米の前方後圓墳で南面し、墳上葺石を有して居る。俚俗文德天皇御陵と云ふ。尙これより西北約一粁の同町下山田にも前方後圓墳あり、葉室塚と呼び、曾て齋瓮、鏡、直刀、刀子、槍身等と共に、精巧なる製作にかゝる帶金具、杏葉等を出土し、今東京帝室博物館及び京都帝國大學文學部に保管陳列して居る。

【寶菩提院(願德寺)】〔天台宗〕向日町驛の西一粁、京阪電車東向日町下車、向日町寺戶にある。寺寶中に木造の菩薩半跏像〔國寶〕、同じく木造の藥師如來立像〔國寶〕がある。

【大原野神社】〔官幣中社〕向日町驛、京阪電車東向日町の西五粁三、大原野村小鹽山の麓に、山を負うて蓊鬱たる古林の中にある。祭神は武甕槌命、齋主命、天兒屋根命等で、平安奠都の後、奈良春日神を勸請したのが始めである。正曆四年一條天皇の行幸以來歷朝、行幸、奉幣、祈願等の事があつたが、中世兵亂のため衰へた。今の社殿は慶安年中後水尾天皇の再建で、龍尾壇、神殿及び本殿四宇がある。神紋下藤丸、例祭は四月八日。境內の南には鯉澤池があり四園櫻、楓が多く、老樹繁つて閑寂幽邃の趣がある。

【勝持寺(花の寺)】〔天台宗〕向日町驛の西六粁、大原野村大原野にあり、境內櫻樹が多いので花の寺と呼ばれる。白鳳八年天武天皇役小角に勅して創立せしめられたものと傳へ、本堂の西の不動堂には役小角像を安置し、またその西南山上約半粁の所には役小角岩窟がある。不動堂の東の西行庵には西行の像を安置し、その傍の西行櫻は西行の手植と傳へられる。

寶物には左記のものがある。

一藥師如來坐像　〔國寶〕　一軀

木堂の本尊で鎌倉時代の作である。

一藥師如來坐像　〔國寶〕　一軀

高さ臺座共五寸二分、檀像風の小彫刻で、光背は瓢形の扁平な板に、浮彫で一面に寶相華を地として七佛、十二神將を半肉彫とし、また臺座にも浮彫の裝飾がある。

【長岡宮址】向日町驛の西南一粁七、京阪電車西向日町の北半粁、向日町雞冠木にある。桓武天皇延曆三年

始めて都を山城國に奠め給うた宮城の遺址で、延暦十三年平安の新都に遷らせられるや、漸次荒廢に歸したが、地字を大極殿と呼び、地中より古瓦を出土する。また附近に御垣本、御屋敷、宮の前、鞠場、射場、垣內、猪隈院、島阪等宮址に關係ある字名が今に存して居る。小學校の東北の藪林中に大極殿の碑が立つて居る。碑は明治二十八年有志者の建つる所で「長岡宮城大極殿遺址」と題し、山階宮晃親王の御染筆である。

【向神社】〔府社〕向日町驛の西南二粁、京阪電車西向日町の西北一粁、向日町向日にある。俗に明神さんと呼ばれ、向日町の西、長丘の上にあり、延喜式內の古社である。棟札によれば本殿〔國寶〕は應永廿五年の造營、同廿九年の竣工で三間社流造、今覆堂に入り、外部から見られないが、屋根檜皮葺、本殿と向拜の蟇股の彫刻には雲龍、牡丹等の透彫があり、その手法優雅である。垂木、桝組、虹梁等の木割手法等も、よく室町時代初期の特徴を示せるものである。また藏する所の日本書紀神代記下巻一册〔國寶〕は、延喜四年勅月書日從五位上右少辨藤原朝臣淸貫云々の奧書ある古寫本である。尙社殿の北に前方後圓墳があるが、古墳はここから更に北西方に續いた長岡丘陵に數十基あり、物集女には石室あるものあり、陶棺、石棺等も發見せられた。

【善峰寺】〔天台宗〕向日町驛の西六粁六、大原野村小鹽釋迦岳の東麓にあり、山麓まで自動車の便がある。西國三十三箇所第二十番の札所で、境內廣く、諸堂備り、什寶もまた少くない。境內に覺快、道覺、慈道、尊圓、尊道の五法親王墓がある。

【遊龍松】〔指定天然記念物〕善峰寺境內にある。この寺を再興した德川綱吉生母桂昌院が始めて植ゑたところと傳へられる。樹種は五葉松で、主幹は高さ僅かに三尺內外に過ぎないが、横枝の延長北方約七十一尺、西方約七十七尺に及び、人工によつて異常の發生を遂げた樹木として有數のものである。

【乙訓寺】〔眞言宗東寺派〕神足驛の西北一粁半、乙訓村今里にある。推古天皇の勅願、聖德太子の開基と云ひ、延暦四年太子早良親王の幽閉せられ給うた所である。宇多法皇がこゝに行宮を置かれたので法皇寺とも云はれる。

寶物には左記のものがある。

一　毘沙門天立像　〔國寶〕　木造　藤原時代　一軀

【光明寺】〔淨土宗西山光明寺派總本山〕神足驛の西北三粁、乙訓村粟生にある。淨土宗祖法然上人の塔所である。始め法然の廟は京都大谷にあつたが、嘉祿三年山門の徒に破られて太秦來迎院に移し、安貞二年再び西山幸阿彌陀佛の庵で荼毘に附し、遺骨をこゝに埋めて廟堂を造つたのが當寺の濫觴である。境內景勝の地を占め諸堂巍然として聳え、常行念佛の聲が常に絶えない。宗祖廟は本堂背後の山上にあり、內に五輪塔を建ててある。本堂の南にある釋迦堂には釋迦如來立像を安置し、頰焼釋迦または御鉢の釋迦と稱して世に名高い。

寶物には左記のものがある。

一　二河白道圖　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一　四十九化佛彌陀來迎圖　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一　千手觀音立像　〔國寶〕　木造　一軀

【長法寺】〔天台宗〕粟生光明寺の南半粁にある。開祖は千觀內供と云ひ、今衰微して僅かに草堂のみを存し、こゝに本尊聖觀音を安置して居る。寺寶の釋迦金棺出現圖掛軸一幅〔國寶〕は絹本著色、釋迦涅槃に入りて後再び金棺より出でてその母摩耶夫人に見ゆる所の圖である。これを拜する諸菩薩、衆鳥群獸等を配し稀代の名畫と云はれ、恩賜京都博物館に出陳中である。

【長岡天滿宮】神足驛の西一粁一、新神足村にある。境內池塘廣大で畔に楓樹多く、紅葉季は美觀を現ずる。

【楊谷寺】〔淨土宗西山光明寺派〕神足驛の西六粁、山崎驛からは北五粁、海印寺村山寺にあり、自動車の便がある。大同九年僧圓鎭の開創と傳へ、俗に柳谷觀音と云ひ、千手觀音立像を安置して居る。境內に柳獨鈷水あり、古來眼病に靈驗著しいものと信ぜられ、遠近からの祈願參詣者多く、殊に毎月十七日は緣日として賽客が雜沓する。

【妙喜庵】山崎驛の東隣、大山崎村、天王山の東南麓にある。當庵は文明年間山崎宗鑑の庵室であつたが、後禪宗の寺院となつた。その書院は文明年間の建築で、書院に接續して數寄屋がある。書院及び數寄屋は何れも國寶に指定されて居る。

書院は桁行二間梁間三間、單層、屋根は切妻、棧瓦葺で、垂木、舟肘木、方柱、長押など、何れもその木割纖細にして、書院造の特徴を示して居る。庭に面して廣緣、落緣を附し、廣濶な感を現して居る。内外の仕切には腰高明障子を用ゐ、室内を二室に別ち、第一室は入口の間で六疊敷、第二室は主室で十二疊を敷き、奧壁に接して佛間を造つて居る。この書院の東側に接して別箇の書院がある。

數寄屋は書院の左、前方に低く突き出て居る、二間二面（實尺約方二米）、いはゆる二帖代目の小茶室で、構造簡朴、材料も極めて質素である。卽ち柱は丸太杉を使用し、椺も自然木を用ゐて居る。室内四壁は錆壁となし、潜り上に引窓、その他に大小二箇の窓あるも薄暗く、閑寂の境地を作り、茶道を貴ぶ所の幽致玄妙の趣致を出して居る。この茶室は千利休の造營に成り、豐臣秀吉屢々こゝに遊んだと傳へられ、桃山時代の豪華な反面に於ける茶道の澁味を現し、利休好茶室の規範として茶人に尊重されて居る。

【天王山】山崎驛の東に聳え、頂上まで九〇〇米、海拔二七〇米に過ぎないが、淀川を挾んで男山と相對し、京都盆地西方の咽喉を扼するから、古來屢々戰場となり、天正十年羽柴秀吉がこゝで明智光秀を破つたことは最も名高い。元治甲子の變に殉難した眞木保臣等の招魂碑は山上にある。山上からの眺望は廣濶である。山の名は山上に祇園祠があるから起つたので、山下には聖天堂がある。

【寶積寺三重塔婆】〔國寶〕天王山の中腹にある。當寺は寺傳に聖武天皇の勅願で、僧行基の開基と稱して居るが、塔婆の建立年代は明かでない。方三間三重の塔婆で鐵製の相輪を戴き、形態莊重にして權衡美はしく、その手法は桃山時代の特色を示して居る。塔の前に天正十二年在銘の石燈籠が一對立つて居るが、この塔婆も恐らくその頃に出來たものと思はれる。

寶積寺には板繪神像四枚〔國寶〕を藏して居る。各表面に神像を彩繪し、裏に神號、願主の名及び弘安九年四月の年月を墨書して居る。その作は繪畫として優秀なると、且つその製作年代の確な點に於いて注意に値する。尙左記の像は恩賜京都博物館に出陳中である。

一俱生神坐像　〔國寶〕　木造　一軀
一闇黑童子坐像　〔國寶〕　木造　一軀

【酒解神社神輿庫】〔國寶〕天王山上にある。當社の創立年代は明かでないが、延喜式内の神社で、この神輿庫は鎌倉時代末期の建築にかゝり、方一間簡單な校倉式寶庫である。この形式のものは頗る稀で、現存この種最古の遺物たる點に於いて最も價値があり、内部には同じく鎌倉時代の作と思はれる神輿が二基置いてある。

【淀町】京阪電車淀驛所在地、淀川の北岸に位す。この邊の河道は古今變遷がある。豐臣秀吉がその愛妾淺井氏をこの地に置いたので淀君と稱したことは、よく人の知る所である。享保年間からは稻葉氏の城下として維新に及んだ。城址は町の西北にあり、石壁濠池等を存し、稻葉氏の祖先を祀れる稻葉神社がある。

【淀川】近江の琵琶湖に發し、上流を瀨田川と云ひ、次に宇治川と呼ばれ、淀附近から淀川と稱せられ、大阪市を過ぎて海に注ぐ、長さは僅々七九粁であるが、流域の面積は八、四〇〇方粁を超え、幹川の可航部は七一粁で、效用が多い。沿岸には近年改修工事が行はれた。この川の鯉は頗る美味である。

★【石淸水八幡宮】〔官幣大社〕山崎驛の南四粁八幡町男山の山上にあり、京阪電車八幡驛よりケーブルの便がある。男山はまた八幡山とも稱し、南は洞ケ峠を經て生駒山に連り、北方は斷絕して木津、淀の二大川に臨み、展望頗る廣く天王山は水を隔てゝ西に望まれる。

宮は一名男山八幡宮と稱し、主神應神天皇の外に比咩大神、神功皇后を祀る。淸和天皇の貞觀元年、僧行敎の奏請によつて同二年に豐前國宇佐八幡神を移座したもので、式外社中に於いて最も名高い。古來朝廷の

崇敬厚く、天元二年三月圓融天皇の行幸以來、明治十五年五月明治天皇の行幸に至るまで、前後七十餘度に及び、中にも弘安四年には龜山上皇御參籠ありて神樂を奏し蒙古の寇を祈攘せられた。源氏もこの神を氏神として厚く崇敬し、源頼信は願文を奉り、その子頼義、孫義家もよく尊信して武勳を立て、源頼朝天下の權を握るに及んで、更に深くこの神を崇敬し、別宮を諸國に建立した。これがため諸國の源氏皆八幡神を氏神と仰ぎ、到る所に八幡神社を見るに至つた。足利氏も源氏の末流であるため、特に社殿を壯にしてその武勳を祈り、徳川氏もまた大いに尊崇を怠らず、家光の時には社殿を造營し神威彌々盛であつた。神紋二頭右巴。

例祭は古來行はれた放生會の名殘りで九月十五日擧行され、今も參詣者が遠近から集り、土産には破魔弓、紙製の鯉、鳩の簪などを購ふ習はしがある。

現存の社殿は寛永十八年の建立で、本殿、外殿、舞殿、幣殿、樓門、廻廊等を具備せるいはゆる八幡造で、何れも國寶に指定されて居る。樓門は高さ約九米、入母屋造檜皮葺の高閣で、腰組下左右に廻廊を、前方に唐破風の向拜を出したまことに珍らしい意匠であると共に、また實に堂々たる建築である。門を入ると本殿、外殿、舞殿、幣殿が建ち、何れも丹塗に金色の錺金具麗はしく、頭貫、長押上及び欄間は一體に花鳥の彫刻透彫を充塡し、手挾、木鼻、蟇股などの裝飾はすべて華麗を極め、江戸初期に於ける桃山式の手法を遺憾なく現して居る。

寶物には左記のものがある。

一男神坐像〔國寶〕　一軀
木造著色、截金模樣を施した藤原時代の作である。

一女神坐像〔國寶〕　一軀
木造著色、彩色手法男神像に同じ。

一八幡宮緣起〔國寶〕　二巻
絹本著色、繪は土佐光信と傳へ、巻末に永享五年孟夏廿一日將軍足利義教の跋文がある

一太刀　銘助守作　拵絲巻太刀　一口
東京遊就館出陳。

【藥薗寺】〔淨土宗〕京阪電車八幡下車、東南へ半粁、八幡町八幡庄森の町にあり、自動車の便がある。本尊藥師如來立像〔國寶〕は平安末期の木彫である。

【神應寺】〔曹洞宗〕京阪電車八幡下車、男山の北中腹、八幡町高坊にある。開山堂に木造の行教律師坐像〔國寶〕が安置してある。行教は大安寺の僧で、貞觀元年に石清水八幡宮を創祀した。この像はもと同八幡宮の開山堂に安置されて居たが、明治初年こゝに移坐したものである。

【神應寺の大樟】〔指定天然記念物〕神應寺境內本堂裏山腹の崖際に立ち、地上約一米餘で幹圍約九米、樹高約三〇米に及び、近畿地方に於ける樟の代表的巨樹である。この樹は八幡山上の一角に立ち、よく遠隔の地から認められる。

【圓福寺】〔臨濟宗妙心寺派〕京阪電車八幡下車、八幡町にある。寺寶の大般若經〔國寶〕は紙本墨書五百七十七帖に版本二十三帖があり、巻子本を改裝して折本としたもので、その內奈良時代の寫經が主で、これに平安時代、鎌倉時代等の寫本幷に版本を補塡して一部を成して居る。

また寺の達磨堂には木造達磨大師坐像〔國寶〕を安置して居る。この像は奈良縣王寺町の達磨王寺から移したもので、我が國最古の達磨像である。自然に具つた偉容を整へ、面貌の表現、衣紋の取扱方の寫實的なことから見て、鎌倉後期を下らぬものと考へられる。

【八角院】〔淨土宗〕京阪電車八幡驛の南二粁、八幡町八幡庄志水にある。寺寶中の阿彌陀如來坐像、慈惠大師坐像は何れも木造で國寶となつて居る。

【橋本】京阪電車橋本驛所在地、八幡町の西にあつて、淀川を隔てゝ山崎と相對する。豐臣秀吉が明國に出兵するため輜重運輸の便を圖つて、長さ約三〇〇米、幅約九米の長橋を架設した所であるが、今は橋本の名に昔を偲ぶのみで橋はなく、狐河渡と云つて渡舟がある。

京都　米原間

京都驛から東海道線の列車で東に向へば、やがて左窓に五條大橋を見て賀茂川を渡り、山科の小盆地に出で山科 五粁五 を過ぎて左に如意ヶ岳を仰ぎつゝ京都市外に出で滋賀縣に入りて大津 四粁五 に著く。

大津驛　大津市東浦

東京から　五〇三粁六　急行　約八時間　普通　約十五時間
京都から　一〇粁七　十分
大阪から　五二粁八　急行　一時間　普通　一時間三十分

▽江若鐵道　濱大津、近江今津間　五一粁
▽京阪電車　濱大津、坂木間
　濱大津、石山間
　濱大津、京都、大阪間
▽乘合自動車　濱大津行、柳ヶ崎行
▽太湖汽船　南郷、濱大津、坂木間
　濱大津、山田間
　濱大津、海津間

【大津市】琵琶湖の南岸に位し、東北には湖上遠く比良、比叡、三上の諸山を望み、西南は山を隔てゝ京都市に接す。滋賀縣々治の中心をなし、北村落に接する所は蔬菜殊に蕪を産出する。往時は寂莫な一漁村に過ぎなかつたが、後年羽柴秀吉が坂本城をこゝに移してから、漸次人家が稠密となつた。最近膳所町、石山町を合併して現在人口七萬一千を數ふ。

　この地は古、古津と稱せられ、天智天皇近江宮即ち滋賀大津宮を今の南滋賀の地に營まれたが、僅に五年にして荒廢に歸した。後延暦十三年大津と改稱された。東海北陸兩道の要衝で、水陸要害をなし、中古大津關と呼ばれ、天正中秀吉坂本の城塞をこゝに移して大津城を築き部將を置いたが、慶長五年關ヶ原役には京極高次この城によりて東軍に應じた。翌六年家康城を膳所に移し、こゝには代官を置いた。

▽旅館　琵琶湖ホテル（十圓）（錦織町）、紅葉館本館別館（六圓）（白玉町）、萩の家（大津驛前）、魚善樓（肥前町）、元祿（石場）、廣梅樓別館（濱大津驛前）、八景館（三圓）（濱大津驛前）、中村家（三圓）（御藏町）、竹清樓（北保町）、植木屋（三井寺下）、えびや（同）、長等館（同）、柳屋（四圓）（石山寺附近）、三日月樓（四圓）（石山寺附近）

▽娯樂場　帝國館（甚七町）新興映畫劇場（丸屋町）大津キネマ（上京町）大黑座（石橋町）梅の家（上馬場町）

▽土產物　大津繪及び應用品　鮒壽し　小鮎その他湖魚飴煮　近江蕪漬　走井餅　辨慶の力餅

【乘念寺】〔淨土宗〕大津驛の北約三〇〇米、市內下百石町にある。本尊聖觀音立像〔國寶〕は、木造高さ約五尺、もと彩色を施したあとがある。平安時代の作であるが、江戸時代貞享三年の修理銘が殘つて居る。

【平野神社】大津驛の東約二粁、京阪電車石山線石場の南約半粁、市內松本町にある。猿田彥神を祀り、古來同神を崇めて蹴鞠の神とし、蹴鞠神社とも稱する。御神體の猿田彥命像〔國寶〕は木造彩色拱手把笏の坐像で、藤原時代末期の作である。

【義仲寺】〔天台宗寺門派〕京阪電車石山線石場の東南半粁、同馬場からは西北半粁、石場からすると途中打出濱の湖岸に靑翼を張つた名木呼次の松が見られる。寺は三井寺末で木曾義仲の墓がある。昔は一堆の土と二本の信濃柿が目印にされて居たさうだが、江戸時代の中頃に今の寶篋印塔が建てられた。その木曾塚の南に俳聖芭蕉の墓碑がある。元祿三年九月、松尾芭蕉堅田本福寺千那の許を辭して當寺無名庵に滯住、翌年八月門弟一同とこゝに觀月の宴を催した。翁は元祿七年十月大阪の旅舍で歿したが、遺言によつて門人等がこゝに埋葬したものである。墓の前に翁の木像を安置した瀟洒な翁堂があり、楣間に蕉門三十六人の俳句を掲げてある。境內には大小の句碑多く、中には伊勢の俳人、又玄の詠んだ「木曾殿と背中合せの寒さかな」と云ふのもある。

【逢坂山と逢坂關址】大津市西方の山で、昔武內宿禰が忍熊王と交戰の時、圖らずもこゝで出逢つたからこの名が起つたと傳へられて居る。古來山城、近江兩國の境をなし、孝德天皇大化二年畿內の四至を定め給うた時、この山を以てその北限とせられた。逢坂關は設

置の年月を詳かにしないが、延暦十四年に至り一旦廢せられ、その後文德天皇天安元年再び關所を置かれ、國司、健兒等をしてこれを守らしめた。伊勢の鈴鹿、美濃の不破と共に三關と呼ばれたが、その廢絶の年月は詳かでなく、また關の在つた場所も今明かでない。逢坂の關は京都東北の門戸を扼し、交通の要路に當りその名は、枕草子や東關紀行をはじめ、平安、鎌倉から室町頃の文學に屢々散見し、名所としても有名である。

【安養寺（立聞觀音）】〔眞宗木願寺派〕大津驛の西南約半粁、京阪電車京津線上關寺下車、市内上關寺町にあり、智證大師の開基と傳へる。寺は荒廢して江戸時代に及び明暦年中壽澄法師これを再興した。觀音堂安置の木造阿彌陀如來坐像〔國寶〕はもと關寺の本尊と傳へ、蟬丸の琵琶彈奏を立聞したと云ふので立聞觀音の名がある。相好圓滿、藤原時代の優秀な作である。

【長等山】市の西方に聳え、南は逢坂山、北は比叡山に接し、一に志賀山と云ふ。山は高くはないが、古來有名である。古歌に詠んだ志賀の山越は不明であるが、普通には山中越を云つて居る。

【尾藏寺】〔天台宗寺門派〕大津驛の西北一粁、大津市神出にあり、笠脱觀音と稱する。本尊十一面觀音像〔國寶〕は木造高さ約三尺五寸、いはゆる檀像風で像身蓮肉一木彫出頗る精細な木彫佛で、衣に截金文樣を有する平安時代の作である。

【近松寺】〔天台宗寺門派〕大津驛の西北一粁、大津市北尾にある。長等山の中腹に位し、眺望の勝あり、俗に高觀音と稱せらる。文明年間本願寺蓮如上人この寺内に道場を建立して近松山顯勝寺と號した、今の近松別院がそれである。

【長等公園】園城寺跡地境内、微妙寺境内地と高觀音一帶の地との間にある狹地を云ふ。大津市の經營に屬し、規模は小さいが櫻樹の植栽あり、風光がよい。

【大練寺】〔曹洞宗〕大津驛の西北約一粁半　市内神出町にある。寺寶に十六羅漢像〔國寶〕十二幅がある。絹本著色で和樣風の描法を用ゐた鎌倉時代の作である。

★【園城寺（三井寺）】〔天台宗寺門派總本山〕大津驛の西北約一粁半、市内別所長等山の山腹景勝の地にあり、緑樹欝蒼幽雅の境である。山麓まで自動車の便がある。

當寺は弘文天皇の皇子、大友與多王の創建に始まり、大友村主の氏寺であつた。後智證大師(圓珍)唐より歸つて再興を企て、貞觀元年に工成り、延暦寺の別院として、圓珍はその別當となつた。後延暦寺との間に紛爭を生じ　延暦寺より分離して獨立するに至つたが抗爭止まず、園城寺の堂塔は屢々山徒の爲に燒かれた。現在の寺塔は豐臣德川兩氏の造營にかゝるもので、その主要な寺塔は觀音堂、勸學院、灌頂堂、三重塔婆、一切經藏、金堂、光淨院、釋迦堂、仁王門、圓滿院及び新羅善神堂等である。圓滿院は園城寺の塔頭であるが古來園城寺長吏の住房で寺務を總轄して居る。

今長等山の南端にある觀音堂よりはじめ、北方の新羅善神堂に至る諸堂を參拜の順路に隨つて說明する。

觀音堂　長等山の南端、山腹景勝の地にあり、約百數十階の石段を登ると、眼下に琵琶湖と大津市街とを見下し、遠く湖東及び湖北の連山が望まれる。觀音堂はこゝに東面して建ち、正しくは正法寺と稱し、如意輪觀音像を安置して居る。西國三十三所順禮第十四番の札所として名高い。現存の堂宇は九間五面單層本瓦葺、三間の向拜を有する建築で元祿二年の再建である。觀音堂の傍には觀月舞臺、鐘樓堂がある。尙觀音堂より一段高き所に明治十一年明治天皇北陸御巡幸の際登臨あらせられた御幸山があり「御幸山紀念碑」が建つて居る。

勸學院客殿〔國寶〕觀音堂左脇から坂を下り金堂に至る參道の傍にある。勸學院は園城寺の學寮で、その創建は詳かでないが、その客殿は慶長五年豐臣秀賴が毛利輝元を奉行として建立せしめたもので、方七間、單層入母屋造、檜皮葺、書院造の形式を有する桃山時代の建築である。一の間と二の間とには金地に華麗なる彩色畫を施した桃山時代の貼付繪があり、建築とは別に繪畫として國寶に指定されて居る。この圖の筆者は狩野光信と傳へて居るが明かでない。一の間の床には雄大な瀑布、岩石、流水、緑樹を描いて居る。襖には

金地に梅、杉、檜、櫻その他、花卉類を描いて居るが、奥の四枚は金箔彩色最もよく保存され、滿開の梅樹、杉、檜等極めて豪華な色調を現して居る。二の間は十二面の襖に藤花のからんだ巨松を中心として、山鳥、鴨その他の水鳥を配した花鳥畫が描いてあり、狩野派の筆致を傳へたものである。一の間と二の間の圖は、何れも桃山時代の裝飾的障壁畫として代表的遺作である。

灌頂堂　勸學院の北隣にあり、智證大師廟の前に建ち、五間五面入母屋造、檜皮葺、慶長年間の再建と傳へ、傳法灌頂の道場である。

三重塔婆〔國寶〕方三間三層の塔婆で、屋根本瓦葺、室町初期の建築である。もと大和吉野比蘇寺にあつたのを、慶長二年秀吉が伏見に移し、更に同六年家康が當寺に移建したものと云ふ。毎層軒に二重繁棰を分布し、桝組には和樣三手先を用ゐ、尾棰を加へ、中備には斗束を立て、桝組には所々朱色が殘つて居る。構造雄大である。塔内には釋迦、文殊、普賢の像が安置されて居る。

一切經藏〔國寶〕金堂の前方左側の丘下にある。慶長七年毛利輝元の寄進にかゝる。三間四面、重層、屋根寶形造、檜皮葺で軒四隅に反りがあり、唐樣の特徴を示して居る。柱は粽を有する圓柱を建て、上部に臺輪を置く。正面は中央に唐戸を建て、左右に火燈窓を設けて居る。桝組は下層に出三斗を組み、上層は唐樣三斗出組を用ゐて居る。本經藏の樣式は唐樣によつて居るが、内外の繪樣彫刻は、桃山時代の風調を帶びて居る。

堂内には八角形の輪藏を設け、文祿役に將來した高麗版の一切經を納めて居る。

古鐘堂　一切經藏の北隣にあり、俗に辨慶の引摺鐘と稱する大鐘がかゝつて居る。

金堂〔國寶〕園城寺の本堂で、彌勒菩薩の像を安置して居る。現存の建物は慶長五年豐臣秀吉の後室北政所によつて再建されたものである。方七間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺の大建築で、流れ急にして左右の千鳥破風が高く聳えて居る。正面には三間の向拜を附し、腰には廻緣をめぐらして居る。正面五間に形狀雄大な蟇股を置き、樹下の宴飮、波に兎、桐に鳳凰などの彫刻が嵌裝されて居る。また向拜の蟇股には牡丹に唐獅子、竹に虎などの彫刻があり、豪華雄麗桃山時代の特色を示して居る。柱はすべて圓柱を建て、正面の柱間は兩脇に連子窓を開き、中央の五間に板唐戸を建てゝ居る。内部はすべて、板敷で周圍一間通は通路となり、後方の通路には寶物が陳列されて居る。

閼伽井屋〔國寶〕金堂の西側にある。その井水は三井水と稱し、天智天皇、天武天皇、持統天皇御降誕の時、この井水を汲んで玉體を祝浴し奉つた因緣によつて、御井と稱したと傳へられて居る。現存の閼伽井屋は慶長五年金堂建立の際出來たのである。三間二面、單層、向唐破風造屋根檜皮葺である。桝組は唐樣を用ゐ、内部は床を設けず、岩間から常に淸水が湧出して居る。頭貫の下部には今尚極彩色が殘つて居る。本宇は小建築であるがよく桃山時代の特徴を存し、且つ閼伽井屋として稀なる遺構である。

鐘樓　金堂の前の東側にあり、近江八景の一に數へられて居る三井の晩鐘は、卽ちこの鐘樓にかゝつて居る鐘の響きである。

食堂（釋迦堂）〔國寶〕金堂の東側にある。桁行七間、梁間四間、單層、屋根は入母屋造、檜皮葺である。舊御所淸凉殿の一部を賜はつて建設したもので、元和元年修理をなしたと云ふ。組物は舟肘木を用ゐ、内部は拭板敷、竿緣天井である。その構造室町時代の書院を改作したものと思はれ、前面に附した一間の唐破風は元和の修理の折に附加したものであらう。

大門（仁王門）〔國寶〕釋迦堂の前方にある。三間一戸の樓門にして屋根は入母屋造、檜皮葺である。もと豐臣秀吉が甲賀郡石部町の常樂寺から伏見城に移したものを、更に德川家康がこの地に移建した。寺傳に享德四年の建立と云ひ、その手法樣式も室町時代の特徴を示して居る。全體の釣合よく屋蓋の曲線輕快で蟇股の形狀も優美である。

圓滿院宸殿〔國寶〕圓滿院は金堂の東北にあり園城寺の本坊である。宸殿は、慶長年間御所の建物であつたのを、寛永十八年明正天皇より賜はり、正保四年に京都からこゝに移建したものである。桁行十間梁間七間單層屋根入母屋造棧瓦葺の大殿宇で、外觀形狀は移建以來數次の改修によりて舊形を損じて居るが、疎棰の制、細き方柱或は四方の簀子緣に施した高欄等に昔ながらの面目を存し、宮室建築殊に寢殿造の餘影を傳ふるものである。內部は數室に別ち緣座敷あり、上段の間には床、違棚、書院構、帳臺飾がある。襖、壁には金地に山水風俗畫を描き、天井は小組格天井を用ゐて居る。玄關は大唐破風屋根を冠し、構造樣式桃山時代の特徵を存し、當代に於ける宮室建築を窺ふべき貴重なる遺構である。

一の間の床、違棚の壁には、住吉神社々頭を遠景として、中景に松並木を寫し、近くに參詣に集へる人々の遊戲の樣を、金地に彩色で描いた貼付繪がある。この繪は正に建築當時のもので、慶長時代の風俗畫として優れたもので、國寶に指定せられて居る。

五の間の襖貼付には、金地に兩側に並んだ街衢を寫して、室內には料理や饗宴や双六遊戲の場面を寫し、町の外には旅行く人を寫して居る。剝落は甚だしいが、床の繪と同筆で、慶長年間の風俗畫として面白く國寶に指定せられて居る。

圓滿院庭園〔指定名勝・史蹟〕宸殿に面せる庭園にして正保四年宸殿移建の時に作庭せられたものと推定され、築山泉水の寺庭として著名なものである。

光淨院客殿〔國寶〕光淨院は金堂の裏手圓滿院と並んであり、園城寺の塔頭である。慶長六年山岡道阿彌の再建にかゝり、その客殿もその際建てられたもので、桁行七間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、柿葺の建築である。この建物は寢殿造と書院造とを融合した一種の樣式で、入母屋の妻の方を正面となし、軒に唐破風を附け、沓脫の階を設けて居る。外部は蔀戸や板唐戸或は舞良戸を用ゐ、內部を疊敷とし、奥の間に床を設け、附書院を造るなど、全く寢殿造と書院造の兩特色を表し、建築史上重要な參考資料である。

光淨院庭園〔指定名勝・史蹟〕築造の年代は客殿が建築された慶長六年頃と推定されるが、客殿の緣下直に池となり、池の西南方は急傾斜をなせる自然の地形を巧に利用してあり、江戶時代より著名な庭園である。

善法院庭園〔指定名勝・史蹟〕中央の池の西北の傾斜地に巨大な庭石を縱橫に用ゐて巧妙な石組をなし、庭園に關連せる建築物は現存しないが、庭園はよく舊態を保つて居り、その築造の年代は江戶中期を下らないものと思はれる。

三井寺寶物には左記のものがある。

左記寶物は金堂內に陳列

一千手觀音立像〔國寶〕　一軀
木造、高さ四尺五寸、彩色悉く剝落佛身蓮肉共一木彫成である。もと京都如意嶽にあつた別院如意寺の本尊で、平安時代の優秀な作である。

一吉祥天立像〔國寶〕　一軀
木造、彩色剝落、玉眼嵌入、手法精緻にして作風婉麗、鎌倉時代の優秀な作である。

左記寶物は園城寺または圓滿院所藏のもので、圓滿院に保管されて居る。

一銅　鐘〔國寶〕　一口
朝鮮鐘の形式で「太平十二年壬申十二月　日」云々の鑄出し銘があり、二ケ所に優美な天人を現して居る。この年號は干支から推して北遼と思はれるから、我が後一條天皇長元五年の時のものである。

一古　經　一卷
足利尊氏の署名がある。

一黃不動尊像〔國寶〕　一幅
絹本著色、古來高野山明王院の赤不動と共に有名なものである。寺傳に依れば智證大師が石龕中に感見した姿を畫師空光をして寫さしめたと云ふ。全身黃色、劍と索を兩手に執り輪光を負うて直立する姿で、寶髮も辮髮とせず理髮で釧に鈴を附するなど特異點が多い。古來祕佛として容易に開帳されない。

一黃金剛童子像〔國寶〕　一幅
絹本著色、中央に黃色の金剛童子が左手に三鈷を持つて立ち上方には圓相中に小佛を、左右に天人を畫き、下段には左右に種々人天獸形など雲上に立つ圖で、寺傳に智證大師筆と云ふ如く圖樣は平安初期の古樣を示すものである。

一多聞天像〔國寶〕　一幅

絹本著色、禪膩師童子と吉祥天を從へた圖で、筆緻謹嚴彩色敦厚、鎌倉時代の優秀なる作である。

一涅槃像　〔國寶〕　一幅

絹本著色、未完成と覺しきもので、背景の下畫の線を幾重にも引くなど、製作の過程の見られる好資料で、室町時代の作である。

一新羅明神像　〔國寶〕　一幅

絹本著色、鎌倉時代の精緻な作である。

一兩界曼荼羅圖　〔國寶〕　二幅

絹本著色、智證大師將來と傳ふるも室町時代の作である。

一智證大師入唐牒狀　〔國寶〕　紙本墨書　一幅

一同　上　〔國寶〕　同　上　一卷

共に智證大師が歸朝に際し、所得の經論等を將來するにつき、印信を彼地の官吏に請求した文書で、當時の交通研究の資料である。

一福州溫州台州求得經律論疏記等目錄　〔國寶〕　一卷

紙本墨書

一天台山國清寺求法錄　〔國寶〕　一卷

紙本墨書、兩卷共圓珍が入唐した際の經論法具等の目錄で記年奧書は大師の自筆である。文化史上有用な資料である。

一紙本墨書求法目錄　圓珍將來　〔國寶〕　一卷

一最澄台州明州公驗寫（貞元廿一年二月、五月）

一圓珍台州公驗請狀案（大中十二年閏二月　日）

〔國寶〕　一卷

一越州都督府過所（大中九年三月十九日）

一尙書省司門過所（大中九年十一月十五日）

〔國寶〕　一卷

なほこれ等の外圓珍（智證大師）位記、眞言學頭補任狀等をはじめ、國寶の古文書が頗る多い。

一孔雀牡丹畫　〔國寶〕　一幅

絹本著色、應擧筆、寺傳に圓滿院宮祐常法親王が命じて畫かしめたもので、圖に辛卯夏應擧と落欵がある。辛卯は明和八年で應擧が三十九歲の壯年作である。大湖石の上に雌雄の孔雀を畫き、紅白の牡丹を添へた寫生風の彩色畫で、彼獨特の代表作として有名である。

一難福畫　〔國寶〕　三卷

紙本著色、應擧筆、これも祐常法親王の命に依つて畫いたもので普通に七難七福圖と稱するものである。上中二卷は天災地變刑罰等の厄難七種を下卷には人間一生の慶事賀筵等の吉慶七種を畫いたもので、卷尾に明和五年秋畫いたと識してある。

一虛空藏菩薩像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一淨土曼荼羅圖　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一園城寺境內古圖　〔國寶〕　紙本著色　十二幅

往時園城寺の盛觀を徵するに足る境內圖で、室町時代の作。

一護法善神立像　〔國寶〕　（護法善神堂安置）　一軀

木造、玉眼嵌入、極彩色、天部の服裝をなし手に石榴を持つた訶梨帝母の像で、その面貌のやさしみ、抱かれた童子の初々しき體軀に寫生風の表れた鎌倉時代の作である。

一智證大師坐像　〔國寶〕　（唐院安置）　二軀

木造、一軀は法界定印を結び風貌魁偉、誠に生氣橫逸の像で藤原時代中期の作と思はれ、他の一軀は前者同樣の形相、手法に成つたもので、俗に御骨大師と傳へ、胎內に大師の御骨が納めてあると云ふ。兩者共に肖像彫刻の傑作である。

一黃不動尊立像　〔國寶〕　（唐院安置）　一軀

木造、玉眼嵌入、極彩色、肉身金泥塗、衣には寶相華文を描く。全く黃不動畫像を彫刻にしたもので、鎌倉時代末期の作であらう。

一尊星王像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一釋迦十六善神像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一不動明王八大童子像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一八大佛頂曼荼羅圖　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一天台大師像　〔國寶〕　絹本著色　二幅

一閻魔天像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一水　天　像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一尊勝曼荼羅　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一不動明王像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

傳安然和尙將來

一不動明王二童子像　〔國寶〕　絹本著色　一幅

一開元寺求得經疏目錄　〔國寶〕　紙本墨書　一卷

一大唐國日本國附法血脈圖記　〔國寶〕　紙本墨書　一卷

一彌勒經疏　〔國寶〕　紙本墨書　智證大師將來　三卷

一感　夢　記　〔國寶〕　紙本墨書　智證大師筆　一帖

一緣　生　論　〔國寶〕　紙本墨書　智證大師筆　一帖

一圓珍俗姓系圖　〔國寶〕　紙本墨書　一帖

新羅善神堂〔國寶〕園城寺の北約一粁半、園城寺五社鎭守の一にして新羅明神が祀られて居る。貞觀十七年智證大師これを勸請し、曆應三年足利尊氏によつて再建された。堂は三間社流造、正面一間の向拜を附し、屋根檜皮葺の神社建築で、欄間の鳳凰唐草の透彫など優秀である。全體の權衡輕快にして各部の木割、手法等比較的雄大、よく鎌倉時代末期竝に室町時代初期の精神を發揮して居る。

寳物には左記のものがある。

一新羅明神坐像〔國寳〕　一軀

極彩色、冠を被り、褐色の袍を着し、長い白髯を蓄へた老體の姿である。寺傳に天安二年智證大師歸朝の際、一老翁が船頭に出現し、大師の教法擁護の爲に日本に垂迹すべしと誓つたから、大師歸朝後その像を造つてこゝに祀つたと云ひ、爾後園城寺の鎭守として尊崇されて來た。本像は大師當時のもので、彫法は一般神像と同様簡略であるが、端嚴なる形相を具へて居る。

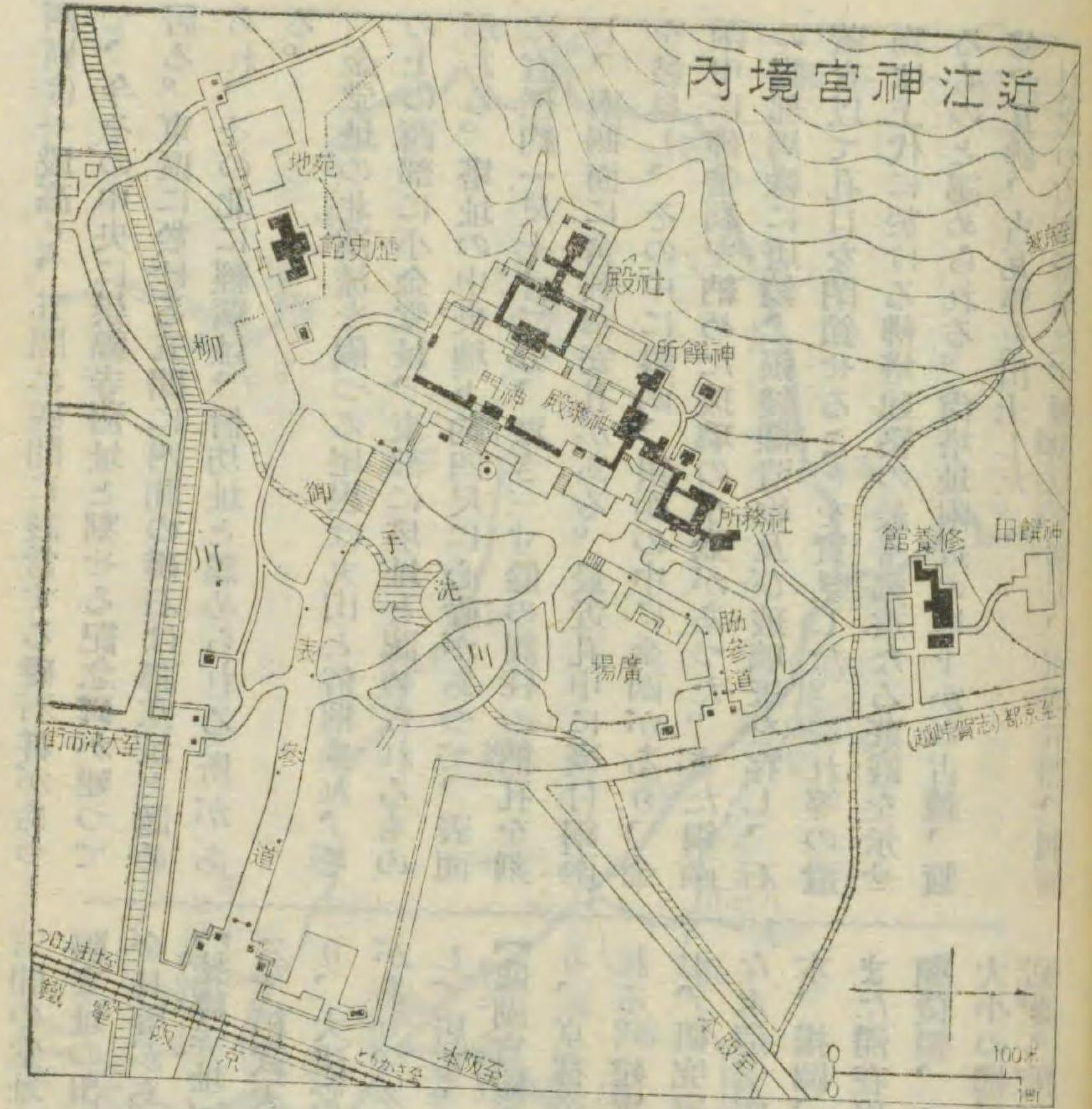
一獅子（文殊菩薩臺座）〔國寳〕木造　一頭

【フエノロサ墓】新羅善神堂の西一〇〇米、法明院墓地にあり、開山義瑞墓の側に立つ五輪塔がそれである。フエノロサは米國人でボストンに生れ、明治十二年東京帝國大學の招聘によりて來朝し、日本古美術を研究し、その眞價を内外人士に紹介し、我が國美術界の振興に貢獻した人で、一九〇八年（明治四十一年）に歿し、遺骨は遺言によりこゝに葬られた。

【弘文天皇長等山前御陵】大津驛の西北約二粁半、京阪電車坂本線山上下車、大津市別所南滓慶にある。古來龜岡と呼ばれた小圓墳で、明治十年弘文天皇長等山前御陵と治定せられた。天皇は天智天皇の皇子であらせられるが、即位の年壬申の變起りて俄に崩じ給うた。御壽二十五。

【近江神宮】〔官幣大社〕京阪電車坂本線近江神宮前下車、大津市錦織町にあり、我が國中興の祖神と仰ぎ奉る天智天皇を祀る。天皇は英明勇武、皇太子におはしゝ頃より國政に參與して大化改新の洪業を輔け給ひ、御位に即き給ふや都を近江に奠め給ひて庶政の革正に著手し、戸籍を編成して班田收授法の名實を整へ、近江令を制定して國力の伸暢を圖り、武威を朝鮮に顯揚して大陸文化の攝取に努むる等、内治外交に曠世の神謨を垂れ給うた。

昭和十三年五月、天皇を祭神とする近江神宮を創立、官幣大社に列せられる旨仰出され、宮地を古の大津宮址にトして社殿造營の工を興し、本殿、祝詞殿、透塀、中門、翼廊、内拜殿、外拜殿、廻廊、手水舍、鳥居、社務所などの主要建物の竣工を見たので、昭和十五年



十一月七日勅使參向、鎭座の祭典あり、神靈は御由緣淺からぬ琵琶湖畔宇佐山の靜宮に神鎭りましたのである。南神門竝に同左右廻廊、神樂殿、歴史館、修養道場等は工事中で、昭和十八年完成の豫定である。

【崇福寺址】〔指定史蹟〕京阪電車坂本線南滋賀下車、大津市滋賀里町の西部にあり、字長尾、エンマ堂、觀音堂、大形及び彌勒堂に亙つて、面積二二町歩に近い。崇福寺は天智天皇七年大津奠都の翌年建立されたもので、一に志賀山寺と稱し、奈良時代には十大寺の一であつた。寺址は山麓に竝存せる三條の尾根の上に位し、南北に連なつて一直線をなし、略々その高さが等しい。中間に小溪流があり、その南の尾根の上は最も廣くて東西の二區に分たれ、

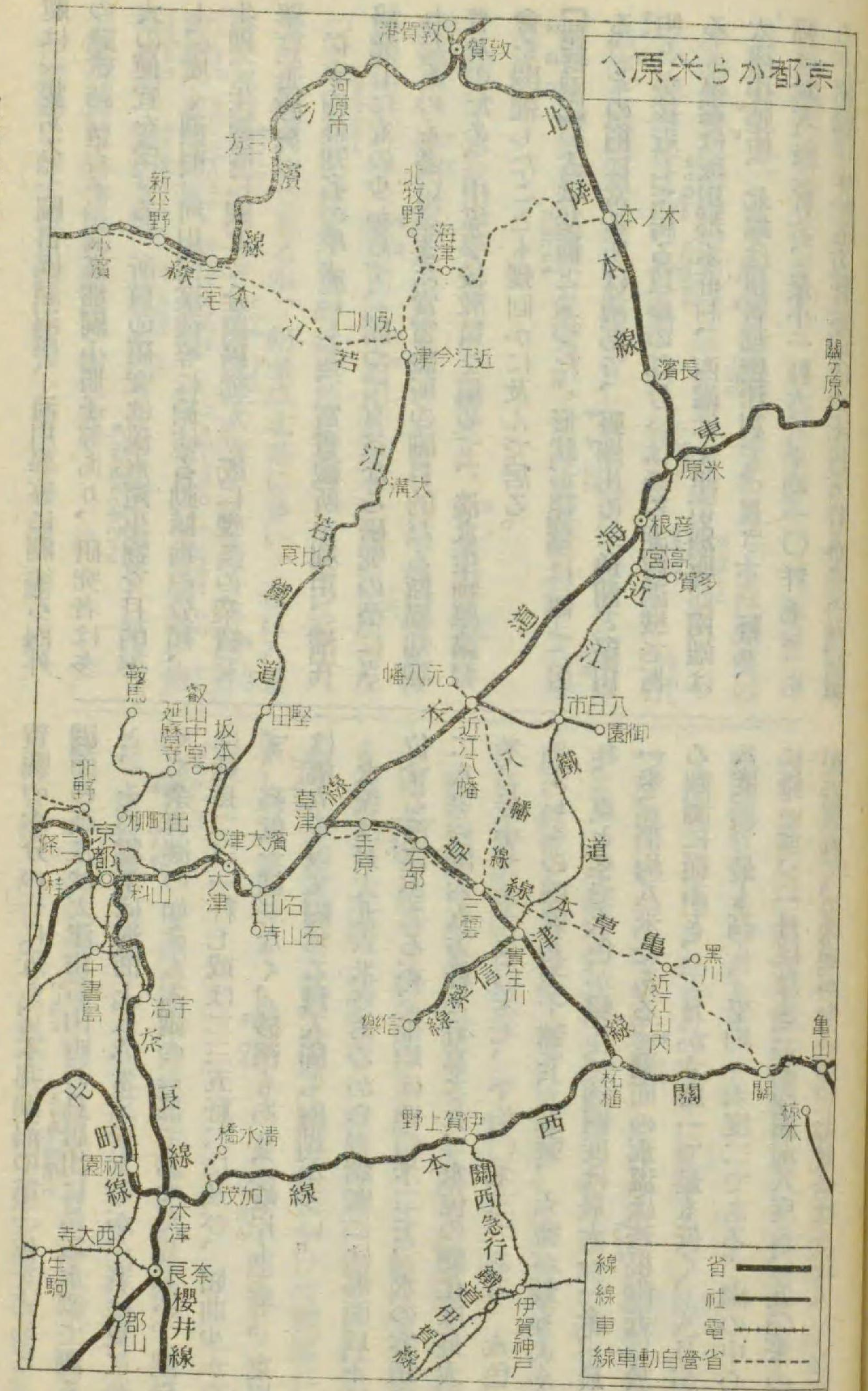
西區は一段高く、五間に四間に該當する礎石群があつて、今その中央に崇福寺舊址と刻せる記念碑が建つて居る。東區に於ける五間に四間の礎石は講堂址と認められ、その北に經藏址、僧坊址と認められる所がある。

金堂址の北溪流を隔つる尾根は丸山と俗稱され、その上の西部に小金堂址、東部に塔址と認められるものがある。塔址の中央地下約四尺に心礎があつて、表面に直徑約一尺七寸二分、深さ三寸餘の圓柱の枘(ほぞ)孔を刻し、南側面に舍利奉安孔がある。最近孔中に臺付銅函を發見し、その中に銀函、銀函の中に金函があり、金函中に佛舍利を納めた玻璃の小壺があつた。また銅函の脚部周緣に唐鏡、銀錢樣遺物及び玻璃玉を存し、石蓋を以て孔口を閉鎖せることを實見した。これ等の遺物は上代に於ける佛塔建築の最も鄭重なる莊嚴を示せるものと認められる。尙塔址附近の地下から古鏡、甎佛、瓦佛、古瓦等を出土した。

最北の山腹臺地は字彌勒堂と稱し、正面五間、側面三間の堂址があり、附近に尙礎石群、基壇がある。崇福寺址の出土品は既記の外、和銅開珎、泥塔、陶製壺、金具等がある。

【梵釋寺址(ぼんしやくじし)】　京阪電車坂本線南滋賀下車南滋賀町にある。桓武天皇が延曆五年、天智天皇追慕の聖旨に依り、大津宮の舊址に莊嚴な梵釋寺を創建し給うたとがあり、その址だと傳へられる。今大いなる礎石を存して居る。

【臨湖實驗所(りんこじつけん)】　大津驛の北二粁、市內觀音寺町(くわんのんじまち)にあり、京都帝國大學理學部附屬大津臨湖實驗所と公稱される。建物は鐵筋コンクリート二階建で、地下室を有し、研究室、圖書室、動物飼育室等あり、研究に必要な水道、電氣等の設備がある。附屬の木造平屋は標本、揭圖、圖表等の陳列、學生の實習等に充てられ、また滯在研究者のため、寢室の設備もある。所內には顯微鏡、ミクロトーム、天秤等、その他研究に必要な大小の機械類、硝子器具等完備し、大小の採集網(さいしふまう)、採泥器(さいでいき)、採水器(さいすゐき)等の野外作業に必要な諸設備を有し、短



艇は一隻ある。圖書は湖沼學、河川學等に關する內外の諸雜誌、單行書、論文別刷小册子等あり、研究者は多大の便宜を受ける。所員の研究は淡水產生物を目的とし、廣く湖沼、河川、溪流等に於ける動植物の分類、生理、生態等に關して分擔研究し、既に幾多の業績を擧げて居る。

從來內外知名の學者にして、當實驗所を利用、滯在研究したもの少からず、隨つて有益なる研究の公にされたものも多い。また當實驗所の副目的たる斯學知識普及のため、中等學校教員を集めて、淡水生物學講習會を開催したことも幾回かに及んで居る。

【琵琶湖】古は鳰海と云つた。形狀が琵琶に似て居る。その柄に當る所は南部で、野洲川の三角洲と堅田町とが接近して居る以南の部分いはゆる湖南湖域である。東端は坂田郡六莊村、西端は大津市別所、南端は大津市膳所、北端は伊香郡鹽津村で、長さ六三粁九、幅は最大二二粁六、最小一粁六、平均一〇粁七である。面積は七一五方粁六或は六七四方粁八と云ひ、滋賀縣の六分の一に近く、本邦湖沼の第一位を占める。湖面の高さは大津市石山町の鳥居川にある水標で測ると、その零米は海面上八六米三であるが、昔は更に高くて余吾湖の如きも本湖の一部であつたらしい。湖岸は延長二三一粁七或は二三五粁二に及び、屈曲少からず、高低一樣でなく、砂濱もあり、嶮岸もあり、東岸は橋立を以て隔てる灣入卽ち內湖が多い。

水深は最大九六米であるから、湖底には海面以下に位する潛窪があるが、平均は四〇米二で、水の容積は二八、一四六立方粁と計算され、水位の變化は最大三米、最小マイナス〇米七、平均〇米三である。水色はフォレルの四號乃至十號で、五號、六號が最もよく顯れ、夏と冬で水色が變る、透明度は最大一一米、最小一米、平均八米である。湖面の水溫は彥根附近に於ける觀測に從ふと、二月が六度一で最も低く、八月が二八度二で最も高く、平均一六度二である。湖の中心部に於いて、一月は深さ三米の處が八度八、九〇米の處が七度八で、大差がないが、七月にはそれぞれ二五度一、八度一で、その差が大きい。同じく彥根の湖岸での觀測に據るとセイシュは最小九分二、二五分二、三〇分五で、最大振幅は三糎三である。また湖流の平均速度は每秒〇米二二である。本湖は斷層湖の一つで、湖中には沖の島を始とし、竹生島、多景島、白石島等土地陷落の時に取殘された島がある。底質は瀕岸部では礫質或は砂質であるが、その他は概ね泥土である。

注入する河川は八百八水と稱され、安曇川、姉川、愛知川、野洲川等が主なものである。自然的の排水は瀨田川が行ひ、瀨田川は宇治川となり、遂に淀川となつて大阪灣に注ぐ。湖畔は風色に富み、南部の近江八景は世間周知であるが、絕景は北部に多い。近江八景は支那の瀟湘に倣つて近衞政家が選んだもので、三井晩鐘、粟津晴嵐、瀨田夕照、石山秋月、矢橋歸帆、唐崎夜雨、堅田落雁、比良暮雪等皆南部に偏在し、粟津、矢橋、唐崎は今概ね舊觀の趣を缺く。

琵琶湖に產する魚類は約六十種に及び鯉、鮒、鮎、鰣の外鰻、ひがひ、ひうを、いさざ、もろこ、はす、等があつて、縣立水產試驗場に於いて養殖放流する魚類は夥しいものである。

漁獲に使用されるもの丶中に魞がある。魞に二種あつて浪の靜かな所には簀魞、荒波の所には網魞を裝置する。近年湖畔に人絹工業が興るのは湖流の淨化、硬度の低位である爲め、水質良好にして、水蒸氣の多量に負ふ所が多いと云ふ。

琵琶湖は古來交通の便多く、大津市の發達もこれを一因として居る。現今湖上で使用される船には日本型もあるが、太湖、湖東の二汽船會社に屬する汽船があり、太湖汽船會社の航路は瀨田川にかけて頻繁に往來し、八景めぐり、島めぐり、東廻り、西廻りがある。

【八景巡り】太湖の狹小な部分に於ける航路であるから、就航船は島巡りのよりも小さい。季節は三月十五日から十一月十五日まで每日、十六日以後二十三日までの日曜、祭日にも出帆する。濱大津を發して南に向